



令和 6 年度

第 68 回

県政に関する世論調査

報 告 書

令和 7 年 5 月

千 葉 県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識、県政に対してどのような関心や期待などを持っているかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

令和6年度は年2回実施することとし、今回は2回目の調査で、県内在住の満18歳以上の3,000名を対象に、11月から12月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的な内容としては、県民の意識等の経年変化を調査する「県民意識調査」と、主要計画の策定や見直し等の基礎資料とする「県政の主要課題」について調査を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や各事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査にご協力いただきました県民の皆さまをはじめ、関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和7年5月

千葉県総合企画部長 三神 彰

目 次

調査の概要	1
調査の結果 調査結果の解説	10
1 県民意識調査	10
(1) 県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと	10
(2) お土産や贈答品として選ぶ県産品	13
(3) 障害を理由とする差別や偏見の有無	16
(3-1) 障害を理由とする差別や偏見がある場面	18
2 災害ボランティア等について	21
(1) 市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度	21
(2) 令和5年、令和6年に発生した災害での災害支援活動の参加経験	23
(2-1) 参加した災害支援活動の内容	25
(3) 今後の災害支援活動への参加意向	28
3 消費生活について	31
(1) 消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無	31
(2) 消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無	33
(3) 悪質商法に対する考え	35
(4) 本人または身の周りでの悪質商法被害の発生有無	37
(4-1) 被害にあった方の年代	39
(4-2) 被害の内容	41
(5) 消費者教育の機会に対する考え	43
(6) 生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無	45
(7) 買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無	47
4 有機農業について	50
(1) 有機農産物に対するイメージ	50
(2) 有機農業により生産される農産物の購入頻度	53
(2-1) 有機農産物購入理由	55
(3) 有機農産物の今後の購入意向	58
(4) 有機農産物に今後期待すること	60
5 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて	64
(1) お住まいの地域の犯罪発生状況	64
(2) 自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪	66
(3) 警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪	70
(4) 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと	74

6	働きやすい職場環境づくりについて-----	79
	(1) 職場での働きやすさ -----	79
	(1-1) 働きにくいと感じる理由 -----	81
	(2) 事業者の取組で重要だと思うこと -----	84
	(3) ハラスメントの認知度 -----	87
	(4) ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うこと -----	92
7	困難な問題を抱える女性への支援について-----	96
	(1) 「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度 -----	96
	(2) 困難な問題を抱えた際の相談先 -----	98
	(2-1) 困難な問題について相談しない理由 -----	101
	(3) DV被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無 -----	104
	(4) シェルターに入所することをためらう理由 -----	106
	(5) 困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なこと -----	109
8	地域リハビリテーションについて-----	112
	(1) 「リハビリテーション」の言葉のイメージ -----	112
	(2) 「社会的な障害（バリア）」の増減 -----	115
	(3) ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度 -----	119
	(4) 障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無 -----	121
	(4-1) 災害時の不安や困りごとの相談先 -----	123
9	自由回答 -----	127
	(付) 調査票および単純集計結果 -----	132

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

（1）県民意識調査

- ・観光について
- ・障害者差別について

（2）県政の主要課題

- ・災害ボランティア等について
- ・消費生活について
- ・有機農業について
- ・県民の治安に対する意識と警察に求めることについて
- ・働きやすい職場環境づくりについて
- ・困難な問題を抱える女性への支援について
- ・地域リハビリテーションについて

3. 調査の設計

（1）調査地域 千葉県全域

（2）調査対象 満18歳以上の個人

（3）標本数 3,000人

（4）抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

（5）調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
（郵送配付－郵送・オンライン回収）

（6）調査時期 令和6年11月19日～令和6年12月13日

4. 調査機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

5. 回収結果

標本数	（A）	3,000件
総回収数	（B）	1,506件
有効回収数	（C）	1,504件
うちネット回収数		531件
無効回収数		2件
うちネット回収数		1件
回収率	（B／A）	50.20%
有効回収率	（C／A）	50.13%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の個人
標本数：3,000人
地点数：市部 194地点
 郡部 6地点
 計 200地点
抽出法：層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

県内を、次の11地域に分類した。

地域名	該 当 市 郡 名
① 千葉地域	千葉市、市原市
② 葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③ 東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④ 印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤ 香取地域	香取市、香取郡
⑥ 海匝地域	銚子市、旭市、匝瑺市
⑦ 山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧ 長生地域	茂原市、長生郡
⑨ 夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩ 安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪ 君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

（注）ここでいう市とは、
令和6年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



〔標本数の配分〕

各地域別の層における満18歳以上の人口（令和6年4月1日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

〔抽 出〕

- 令和2年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
 - 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 - 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和2年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 - 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 \ 市郡	計
①千葉地域	1,079,739 600 40
②葛南地域	1,451,604 810 54
③東葛飾地域	1,315,573 720 48
④印旛地域	622,830 345 23
⑤香取地域	91,235 45 3
⑥海匝地域	133,587 75 5
⑦山武地域	173,190 90 6
⑧長生地域	126,130 75 5
⑨夷隅地域	59,293 30 2
⑩安房地域	103,595 60 4
⑪君津地域	278,240 150 10
計	5,435,016 3,000 200

（注）上段は満18歳以上の人口（令和6年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
① 千葉地域	千葉市中央区生実町	15	① 千葉地域	市原市山小川	15
	千葉市中央区新千葉 2 丁目	15		市原市南国分寺台 2 丁目	15
	千葉市中央区千葉寺町	15		市原市ちはら台東 3 丁目	15
	千葉市中央区長洲 1 丁目	15		市原市姉崎西 3 丁目	15
	千葉市中央区富士見 1 丁目	15	② 葛南地域	市川市市川南 3 丁目	15
	千葉市中央区南町 2 丁目	15		市川市平田 4 丁目	15
	千葉市中央区矢作町	15		市川市八幡 4 丁目	15
	千葉市花見川区柏井 4 丁目	15		市川市東菅野 2 丁目	15
	千葉市花見川区作新台 5 丁目	15		市川市鬼高 4 丁目	15
	千葉市花見川区畑町	15		市川市本北方 2 丁目	15
	千葉市花見川区幕張町 5 丁目	15		市川市堀之内 4 丁目	15
	千葉市花見川区横戸台	15		市川市曾谷 5 丁目	15
	千葉市稲毛区柏台	15		市川市高谷 1 丁目	15
	千葉市稲毛区小深町	15		市川市柏井町 1 丁目	15
	千葉市稲毛区轟町 1 丁目	15		市川市押切	15
	千葉市若葉区愛生町	15		市川市新井 3 丁目	15
	千葉市若葉区御成台 2 丁目	15		市川市福栄 4 丁目	15
	千葉市若葉区桜木 7 丁目	15		市川市塩焼 2 丁目	15
	千葉市若葉区千城台東 2 丁目	15		船橋市東船橋 1 丁目	15
	千葉市若葉区西都賀 2 丁目	15		船橋市若松 1 丁目	15
	千葉市若葉区若松台 3 丁目	15		船橋市本町 5 丁目	15
	千葉市緑区土気町	15		船橋市海神町 2 丁目	15
	千葉市緑区あすみが丘 5 丁目	15		船橋市東中山 1 丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野 5 丁目	15		船橋市山手 1 丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野南 3 丁目	15		船橋市藤原 2 丁目	15
	千葉市美浜区磯辺 5 丁目	15		船橋市丸山 1 丁目	15
	千葉市美浜区幸町 2 丁目	15		船橋市夏見 7 丁目	15
	千葉市美浜区浜田 1 丁目	15		船橋市金杉 7 丁目	15
	市原市青柳 2 丁目	15		船橋市三咲 1 丁目	15
	市原市惣社 1 丁目	15		船橋市八木が谷 1 丁目	15
	市原市五井東 3 丁目	15		船橋市前原東 2 丁目	15
	市原市東五所	15		船橋市中野木 1 丁目	15
	市原市若宮 1 丁目	15		船橋市薬円台 1 丁目	15
	市原市有秋台東 3 丁目	15		船橋市三山 7 丁目	15
	市原市泉台 3 丁目	15		船橋市習志野 4 丁目	15
	市原市古都辺	15		船橋市芝山 5 丁目	15

地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
② 葛南地域	船橋市松が丘 4 丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市桜台	15
	船橋市大穴北 3 丁目	15		野田市岩名 2 丁目	15
	船橋市習志野台 2 丁目	15		野田市薊打	15
	船橋市小室町	15		野田市柏寺	15
	習志野市谷津 3 丁目	15		柏市あけぼの 5 丁目	15
	習志野市袖ヶ浦 3 丁目	15		柏市加賀 2 丁目	15
	習志野市大久保 1 丁目	15		柏市小青田 1 丁目	15
	習志野市東習志野 2 丁目	15		柏市桜台	15
	習志野市実籾 2 丁目	15		柏市千代田 2 丁目	15
	八千代市萱田町	15		柏市豊四季台 2 丁目	15
	八千代市大和田新田	15		柏市西原 4 丁目	15
	八千代市勝田台 1 丁目	15		柏市東中新宿 2 丁目	15
	八千代市八千代台東 1 丁目	15		柏市松ヶ崎	15
	八千代市八千代台東 6 丁目	15		柏市青葉台 2 丁目	15
	八千代市八千代台北 1 2 丁目	15		柏市増尾 3 丁目	15
	八千代市緑が丘 2 丁目	15		柏市布瀬	15
	八千代市勝田台北 1 丁目	15		柏市藤ヶ谷	15
	浦安市猫実 1 丁目	15		流山市三輪野山 2 丁目	15
	浦安市富士見 3 丁目	15		流山市南流山 4 丁目	15
③ 東葛飾地域	浦安市入船 1 丁目	15		流山市大字小屋	15
	浦安市弁天 2 丁目	15		流山市野々下 3 丁目	15
	浦安市高洲 3 丁目	15		流山市東初石 2 丁目	15
	松戸市金ヶ作	15		流山市おおたかの森北 3 丁目	15
	松戸市北松戸 2 丁目	15		我孫子市つくし野 2 丁目	15
	松戸市小金	15		我孫子市若松	15
	松戸市小根本	15		我孫子市柴崎台 3 丁目	15
	松戸市新松戸 1 丁目	15		我孫子市湖北台 1 0 丁目	15
	松戸市高塚新田	15		我孫子市布佐 1 丁目	15
	松戸市常盤平 7 丁目	15		鎌ヶ谷市丸山 1 丁目	15
	松戸市二十世紀が丘萩町	15		鎌ヶ谷市中沢	15
	松戸市日暮 1 丁目	15		鎌ヶ谷市東初富 3 丁目	15
	松戸市松戸	15		鎌ヶ谷市道野辺本町 2 丁目	15
	松戸市馬橋	15	④ 印旛地域	成田市南平台	15
	松戸市稔台 8 丁目	15		成田市中台 2 丁目	15
	松戸市西馬橋 2 丁目	15		成田市西三里塚	15
	松戸市五香 7 丁目	15		佐倉市鎚木町	15
	野田市野田	15		佐倉市臼井台	15
	野田市つつみ野 1 丁目	15		佐倉市稲荷台 1 丁目	15

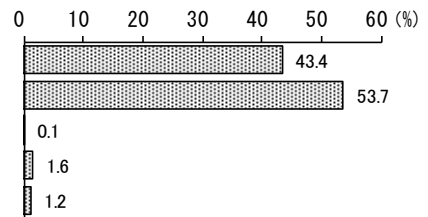
第68回県政に関する世論調査（R 6 年度）

地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
④ 印旛地域	佐倉市上志津原	15	⑦ 山武地域	東金市東金	15
	佐倉市宮ノ台 6 丁目	15		東金市丹尾	15
	佐倉市城	15		山武市上横地	15
	佐倉市染井野 3 丁目	15		大網白里市みやこ野 2 丁目	15
	四街道市四街道 2 丁目	15		大網白里市北吉田	15
	四街道市千代田 2 丁目	15		九十九里町片貝	15
	四街道市さつきヶ丘	15	⑧ 長生地域	茂原市高師町 3 丁目	15
	四街道市もねの里 3 丁目	15		茂原市小轡	15
	八街市八街い	15		茂原市緑ヶ丘 4 丁目	15
	印西市小林浅間 3 丁目	15		茂原市西野	15
	印西市内野 2 丁目	15	⑨ 夷隅地域	長生村岩沼	15
	印西市瀬戸雁又一本松	15		勝浦市守谷	15
	白井市根	15	⑩ 安房地域	いすみ市井沢	15
	白井市池の上 1 丁目	15		館山市湊	15
	富里市中沢	15		鴨川市広場	15
	酒々井町馬橋	15		南房総市高崎	15
	栄町安食台 4 丁目	15		鋸南町保田	15
⑤ 香取地域	香取市佐原口	15	⑪ 君津地域	木更津市文京 6 丁目	15
	香取市小見	15		木更津市請西南 1 丁目	15
	東庄町笹川い	15		木更津市大久保 6 丁目	15
⑥ 海匝地域	銚子市君ヶ浜	15		木更津市祇園 3 丁目	15
	銚子市若宮町	15		木更津市金田東 4 丁目	15
	銚子市小船木町 1 丁目	15		君津市南子安 8 丁目	15
	旭市鎌数	15		君津市中野 6 丁目	15
	匝瑳市若潮町	15		富津市富津	15
				袖ヶ浦市坂戸市場	15
				袖ヶ浦市長浦駅前 1 丁目	15

回答者の属性

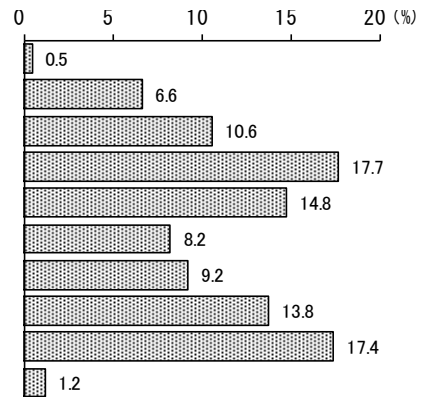
1. 性

	基数	構成比
1 男性	653	43.4
2 女性	808	53.7
3 その他	1	0.1
4 回答しない (無回答)	24 18	1.6 1.2
全 体	1,504	100.0



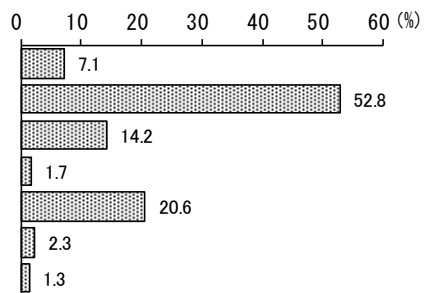
2. 年 代

	基数	構成比
1 18～19歳	7	0.5
2 20代	100	6.6
3 30代	159	10.6
4 40代	266	17.7
5 50代	222	14.8
6 60～64歳	124	8.2
7 65～69歳	139	9.2
8 70～74歳	207	13.8
9 75歳以上	262	17.4
(無回答)	18	1.2
全 体	1,504	100.0



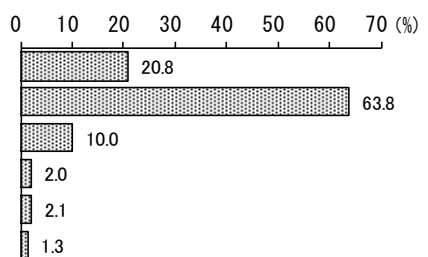
3. 職 業

	基数	構成比
1 自営業者	107	7.1
2 勤め人	794	52.8
3 主婦・主夫	213	14.2
4 学生	25	1.7
5 無職	310	20.6
6 その他	35	2.3
(無回答)	20	1.3
全 体	1,504	100.0



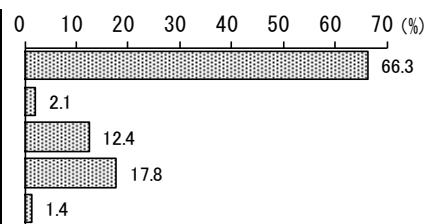
4. 婚 姻

	基数	構成比
1 未婚	313	20.8
2 既婚（配偶者あり）	959	63.8
3 既婚（配偶者離死別）	151	10.0
4 その他	30	2.0
5 回答しない	31	2.1
(無回答)	20	1.3
全 体	1,504	100.0



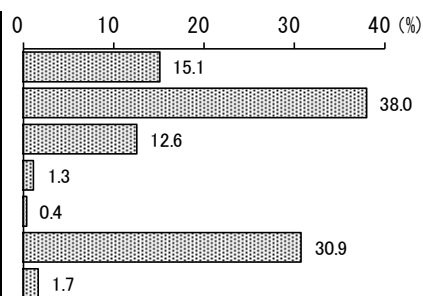
5. 住居形態

	基数	構成比
1 一戸建住宅（持ち家）	997	66.3
2 一戸建住宅（借家）	32	2.1
3 集合住宅（持ち家）	187	12.4
4 集合住宅（賃貸など）	267	17.8
（無回答）	21	1.4
全 体	1,504	100.0



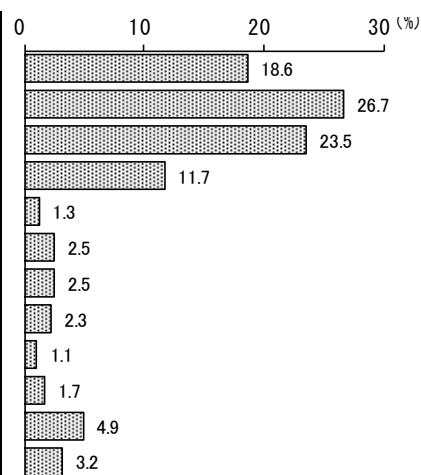
6. 子ども人数

	基数	構成比
1 1人	227	15.1
2 2人	572	38.0
3 3人	190	12.6
4 4人	19	1.3
5 5人以上	6	0.4
6 子どもはいない	464	30.9
（無回答）	26	1.7
全 体	1,504	100.0



7. 地 域

	基数	構成比
1 千葉地域	280	18.6
2 葛南地域	401	26.7
3 東葛飾地域	354	23.5
4 印旛地域	176	11.7
5 香取地域	19	1.3
6 海匝地域	38	2.5
7 山武地域	38	2.5
8 長生地域	34	2.3
9 夷隅地域	16	1.1
10 安房地域	26	1.7
11 君津地域	74	4.9
（無回答）	48	3.2
全 体	1,504	100.0



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （１）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （２）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率はnの件数を100%として算出した。
- （３）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （４）複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （５）回答の基数（サンプル数）が少ない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合がある。また、派生的設問において、基数が少ない属性が多い場合は、解説を行わない場合がある。
- （６）地域別、性・年代別の解説において、全体の数値との差が認められる確率が一定の基準を超えない属性の数値については、触れていない場合がある。
- （７）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

【全体・地域別・性別】

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総 数	1,504人	± 2.19	± 2.92	± 3.34	± 3.57	± 3.65
千葉地域	280	± 5.07	± 6.76	± 7.74	± 8.28	± 8.45
葛南地域	401	± 4.24	± 5.65	± 6.47	± 6.92	± 7.06
東葛飾地域	354	± 4.51	± 6.01	± 6.89	± 7.36	± 7.52
印旛地域	176	± 6.40	± 8.53	± 9.77	± 10.44	± 10.66
香取地域	19	± 19.46	± 25.95	± 29.73	± 31.79	± 32.44
海匝地域	38	± 13.76	± 18.35	± 21.02	± 22.47	± 22.94
山武地域	38	± 13.76	± 18.35	± 21.02	± 22.48	± 22.94
長生地域	34	± 14.55	± 19.40	± 22.23	± 23.76	± 24.25
夷隅地域	16	± 21.21	± 28.28	± 32.40	± 34.64	± 35.35
安房地域	26	± 16.64	± 22.19	± 25.42	± 27.17	± 27.73
君津地域	74	± 9.86	± 13.15	± 15.07	± 16.11	± 16.44
男 性	653	± 3.32	± 4.43	± 5.07	± 5.42	± 5.53
女 性	808	± 2.98	± 3.98	± 4.56	± 4.87	± 4.97

調査の結果 調査結果の解説

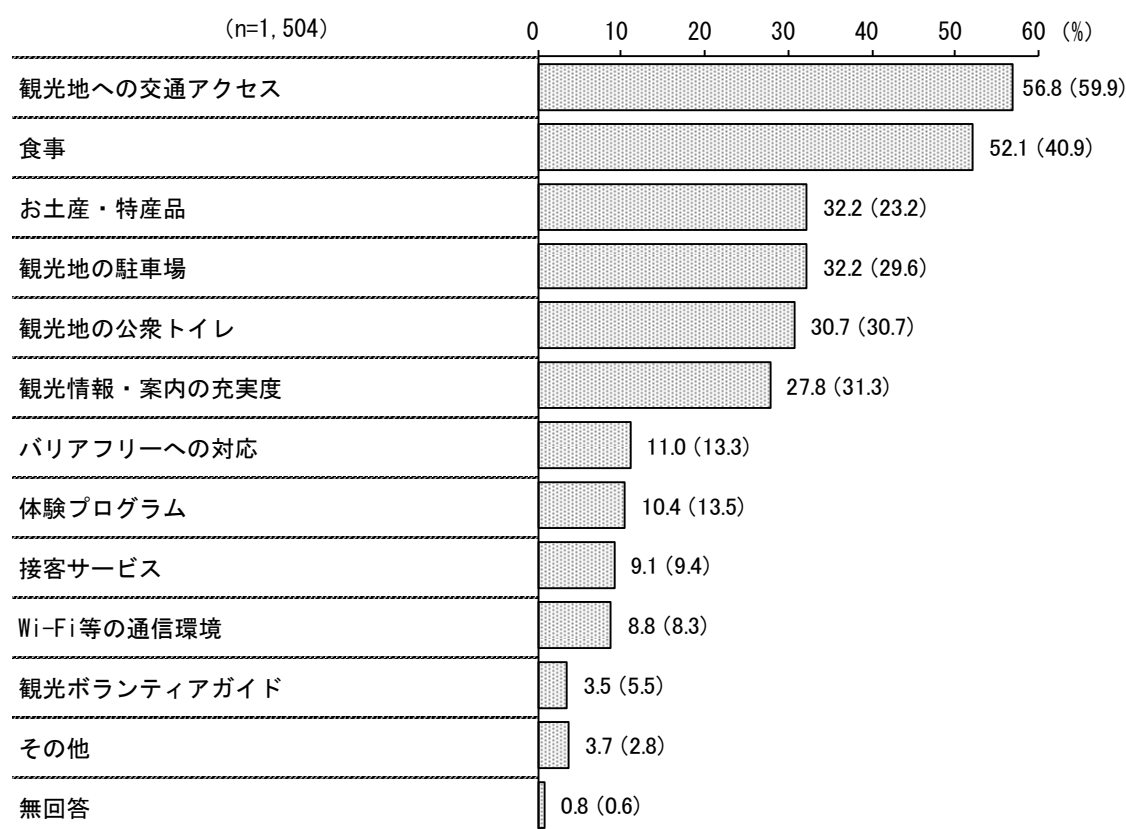
1 県民意識調査

（1）県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと

◇「観光地への交通アクセス」が5割台半ば

問1 千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいですか。（○は3つまで）

＜図表1－1＞県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと（3つまでの複数回答）



注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,561

千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいか聞いたところ、「観光地への交通アクセス」(56.8%) が5割台半ばで最も高く、以下、「食事」(52.1%)、「お土産・特産品」(32.2%)、「観光地の駐車場」(32.2%)が続く。(図表1－1)

【地域別】

地域別にみると、「観光地への交通アクセス」は“東葛飾地域”(61.3%)が6割を超え、「食事」は“葛南地域”(56.9%)が5割台半ば、「観光地の駐車場」は“印旛地域”(40.3%)が4割で高くなっている。(図表1－2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「食事」は、男性30代(69.5%)が約7割、女性30代(64.6%)が6割台半

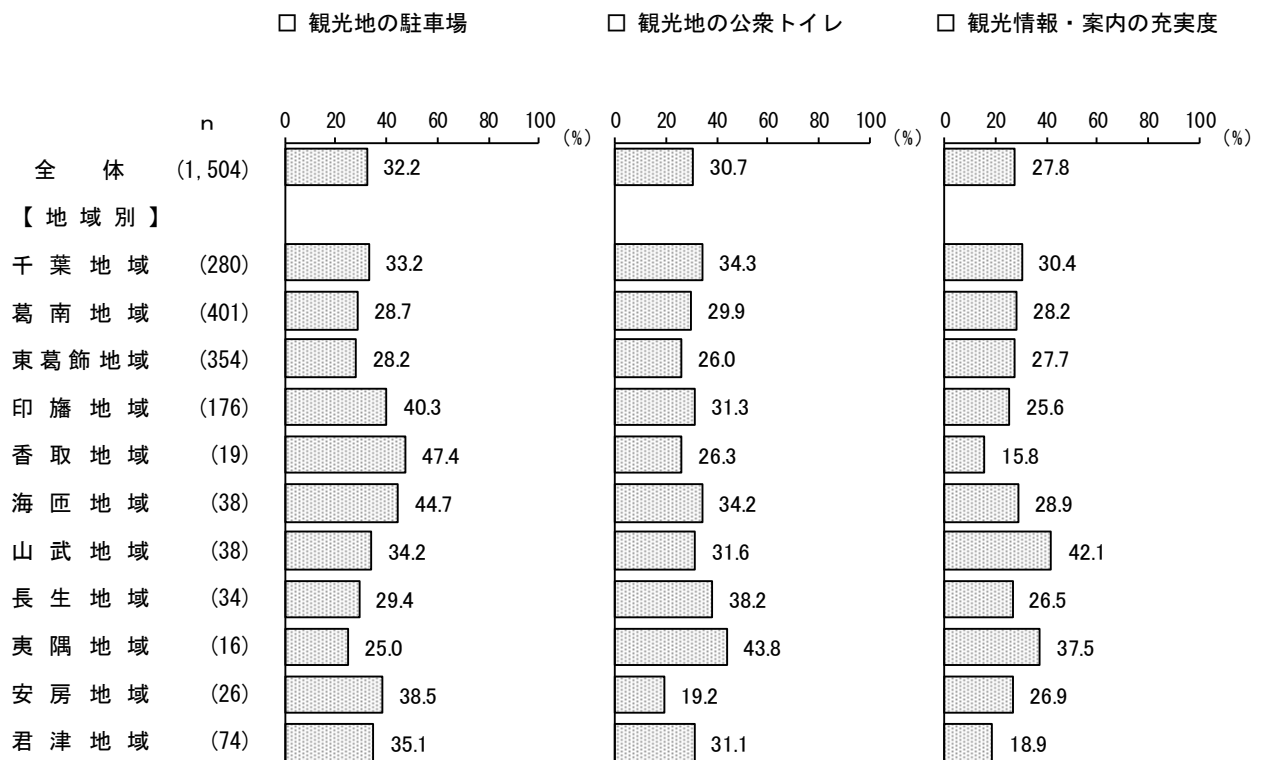
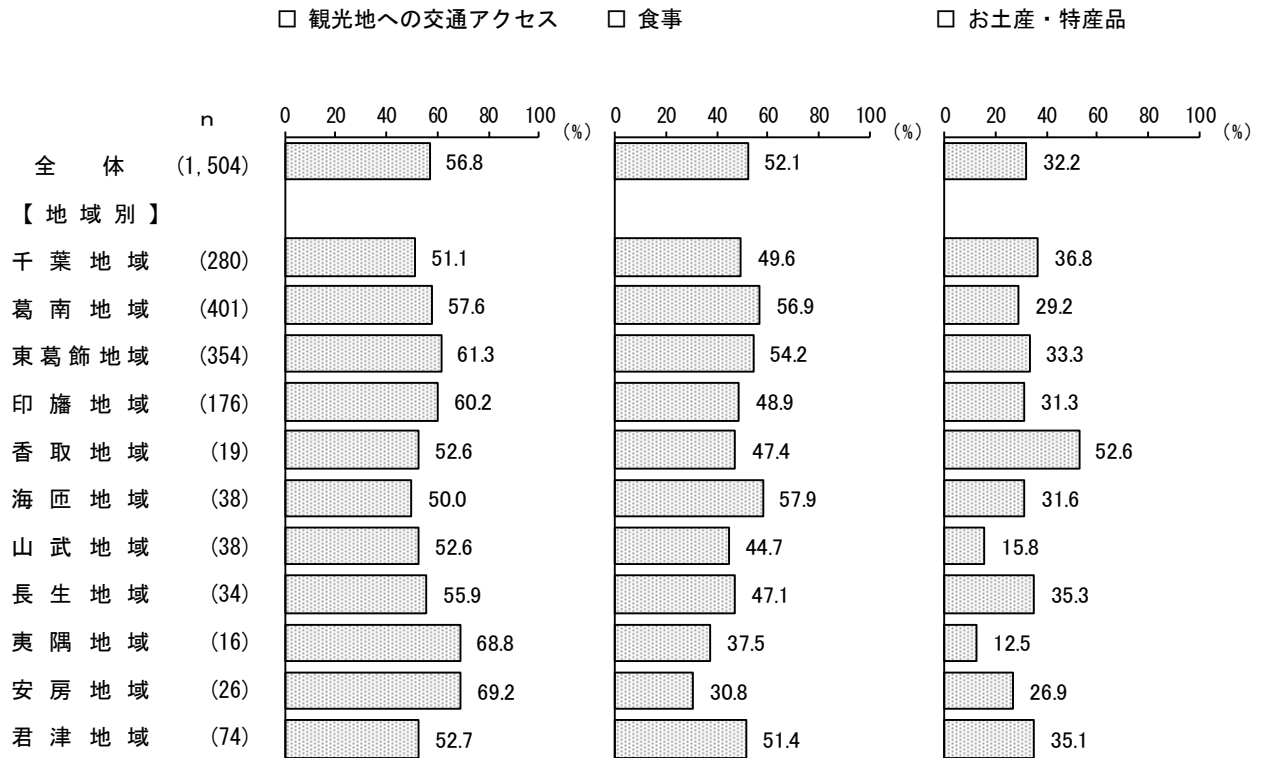
ば、男性50代（63.4%）が6割を超えて高くなっている。

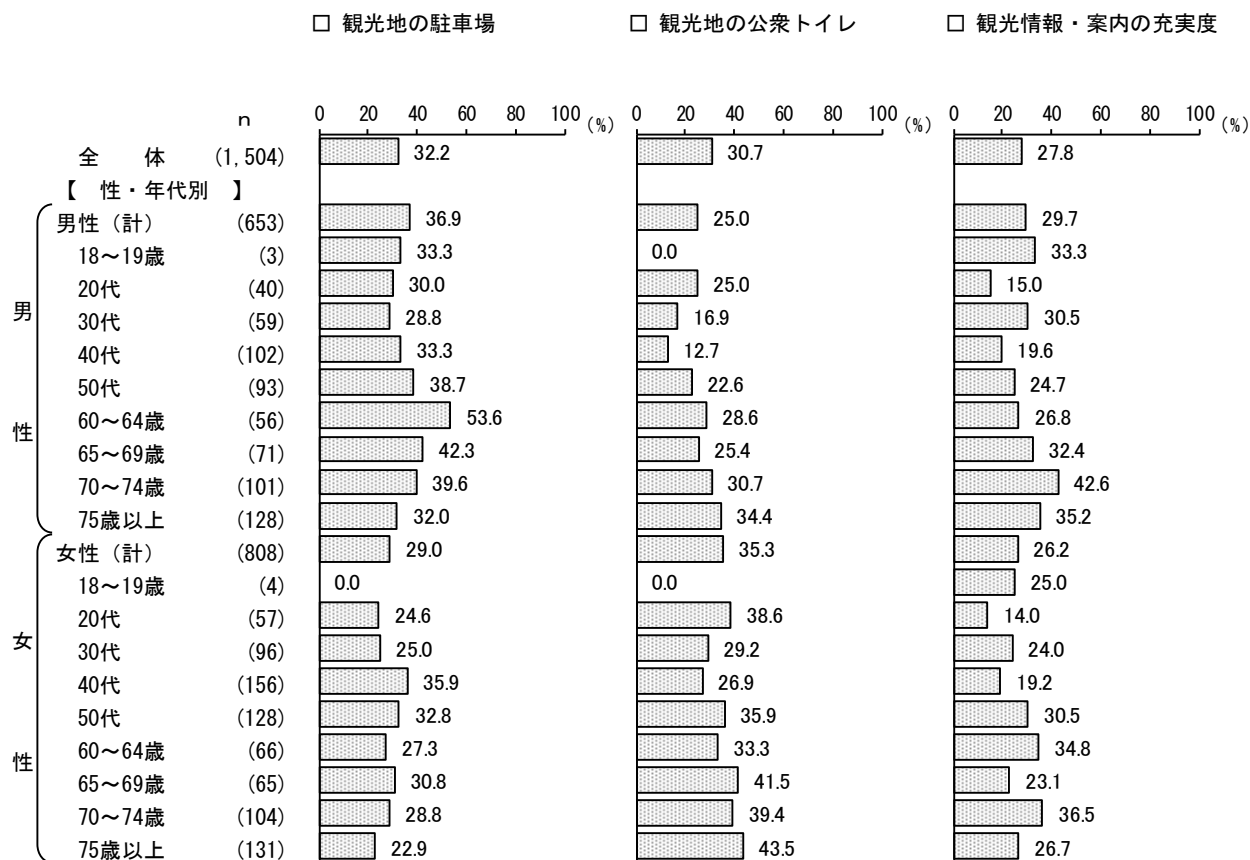
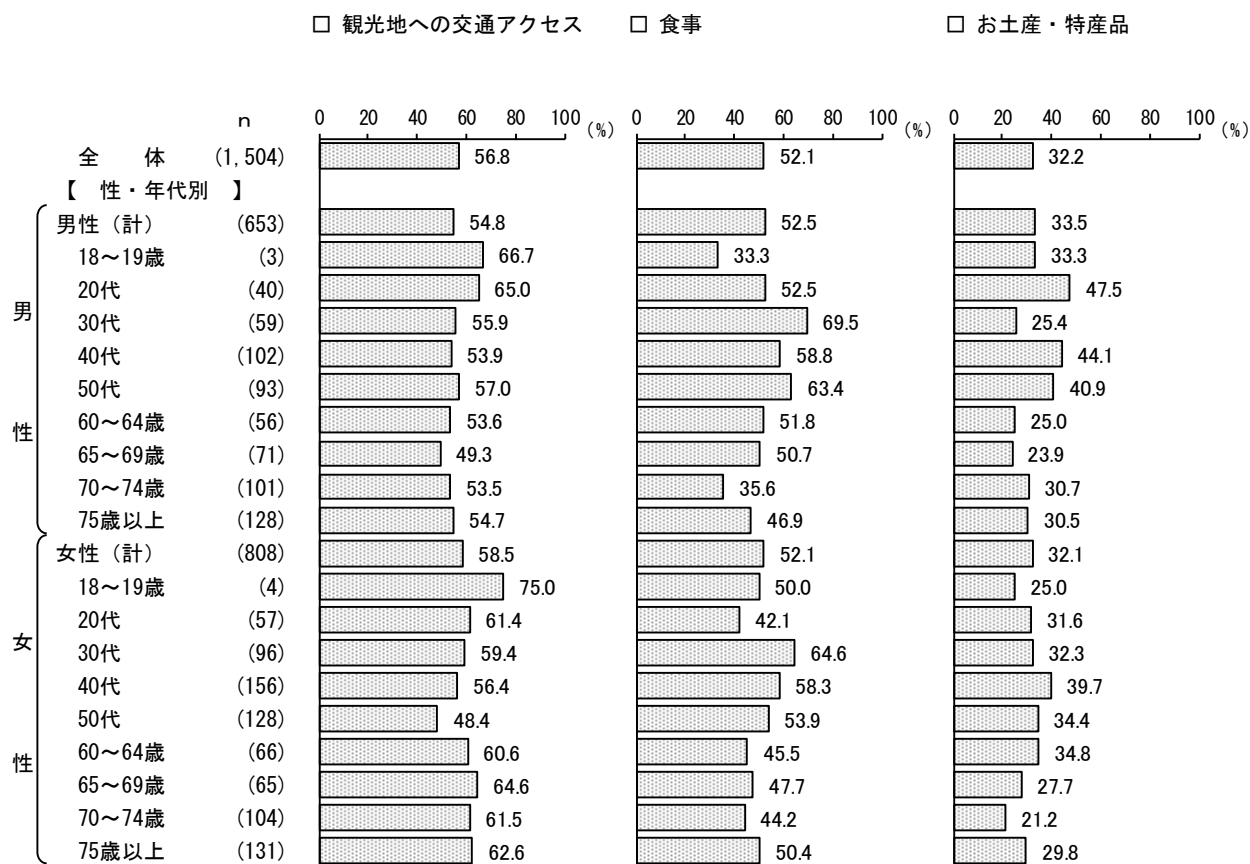
「お土産・特産品」は、男性20代（47.5%）が約5割、男性40代（44.1%）が4割台半ば、女性40代（39.7%）が約4割で高くなっている。

「観光地の駐車場」は、男性60～64歳（53.6%）が5割台半ばで高くなっている。（図表1－2）

<図表1－2>県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと（3つまでの複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



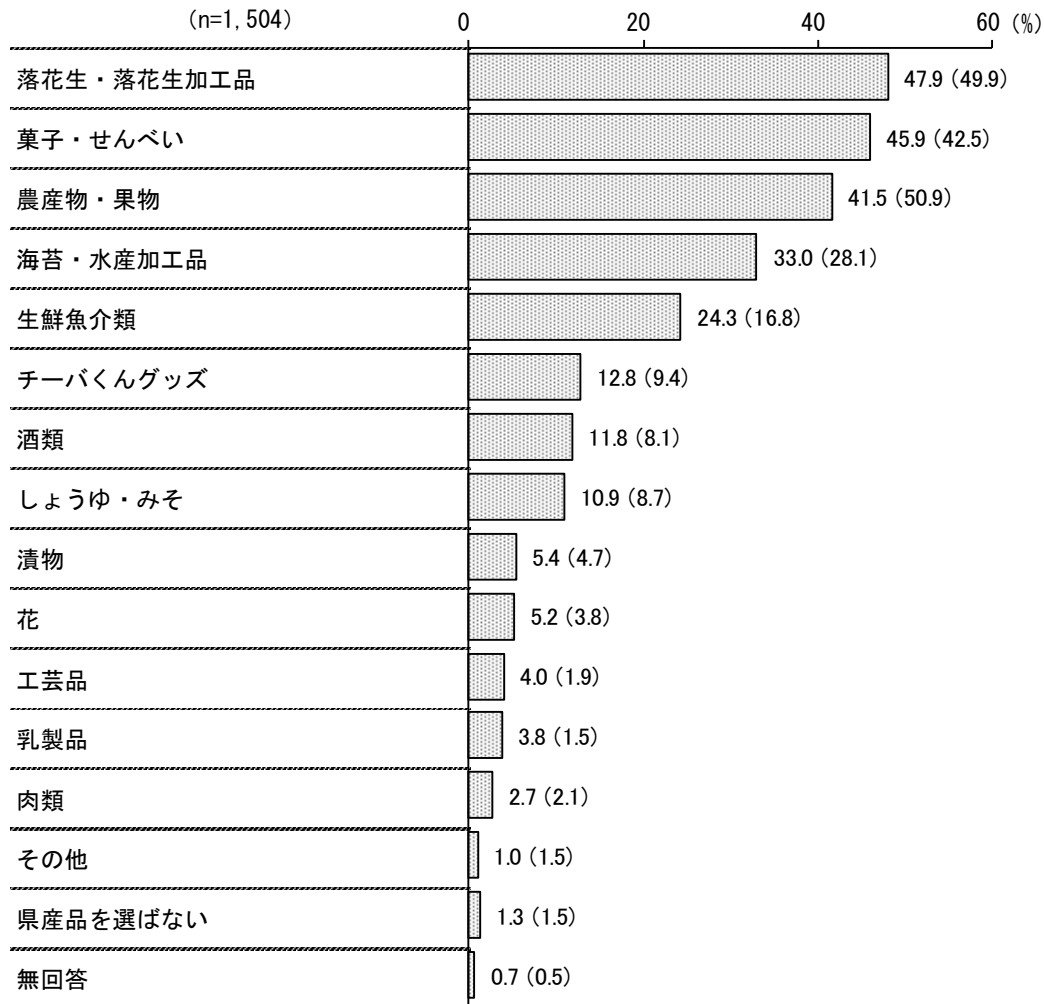


（２）お土産や贈答品として選ぶ県産品

◇「落花生・落花生加工品」が約５割

問２ 県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選びますか。（○は３つまで）

＜図表１－３＞お土産や贈答品として選ぶ県産品（３つまでの複数回答）



注) () の数字は令和５年度の同様の項目による調査結果 n=1,561

県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選ぶか３つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」（47.9％）が約５割で最も高く、以下、「菓子・せんべい」（45.9％）、「農産物・果物」（41.5％）が続く。（図表１－３）

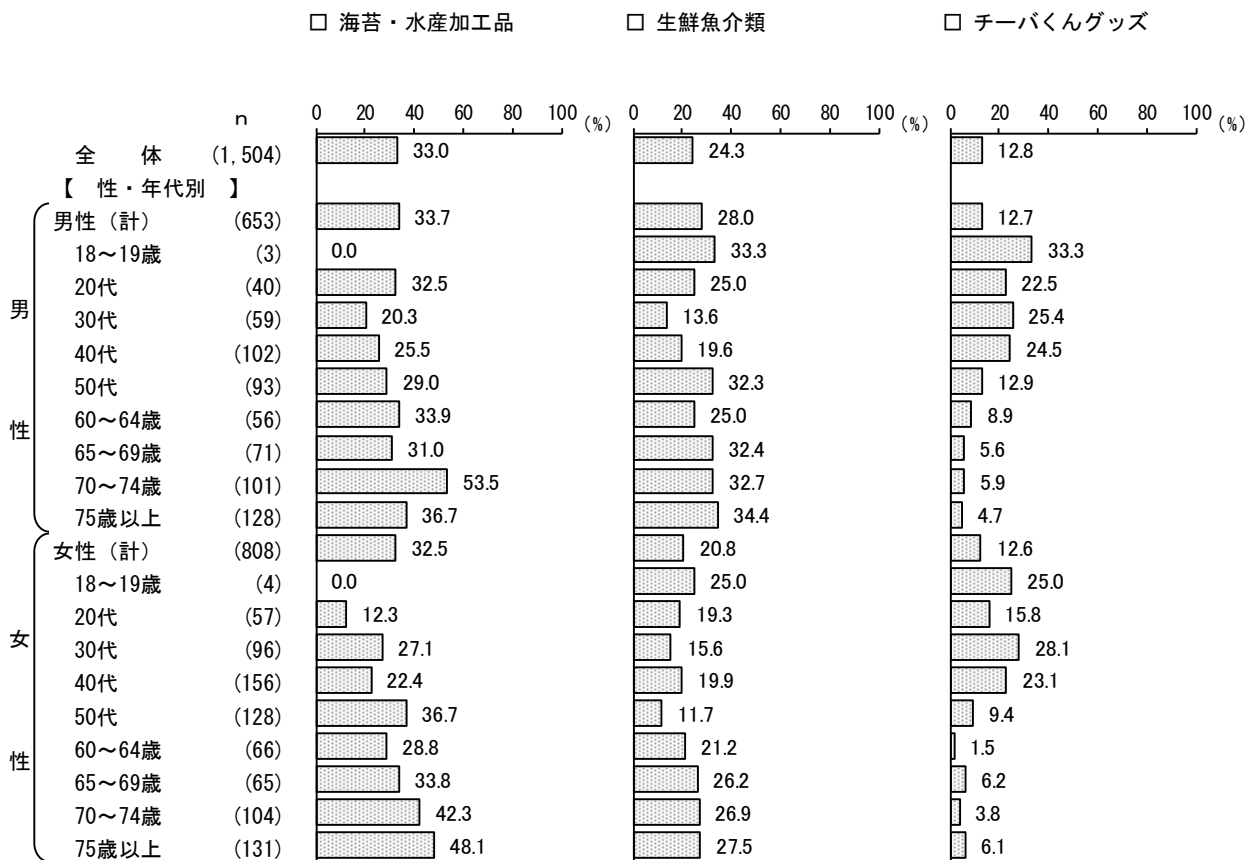
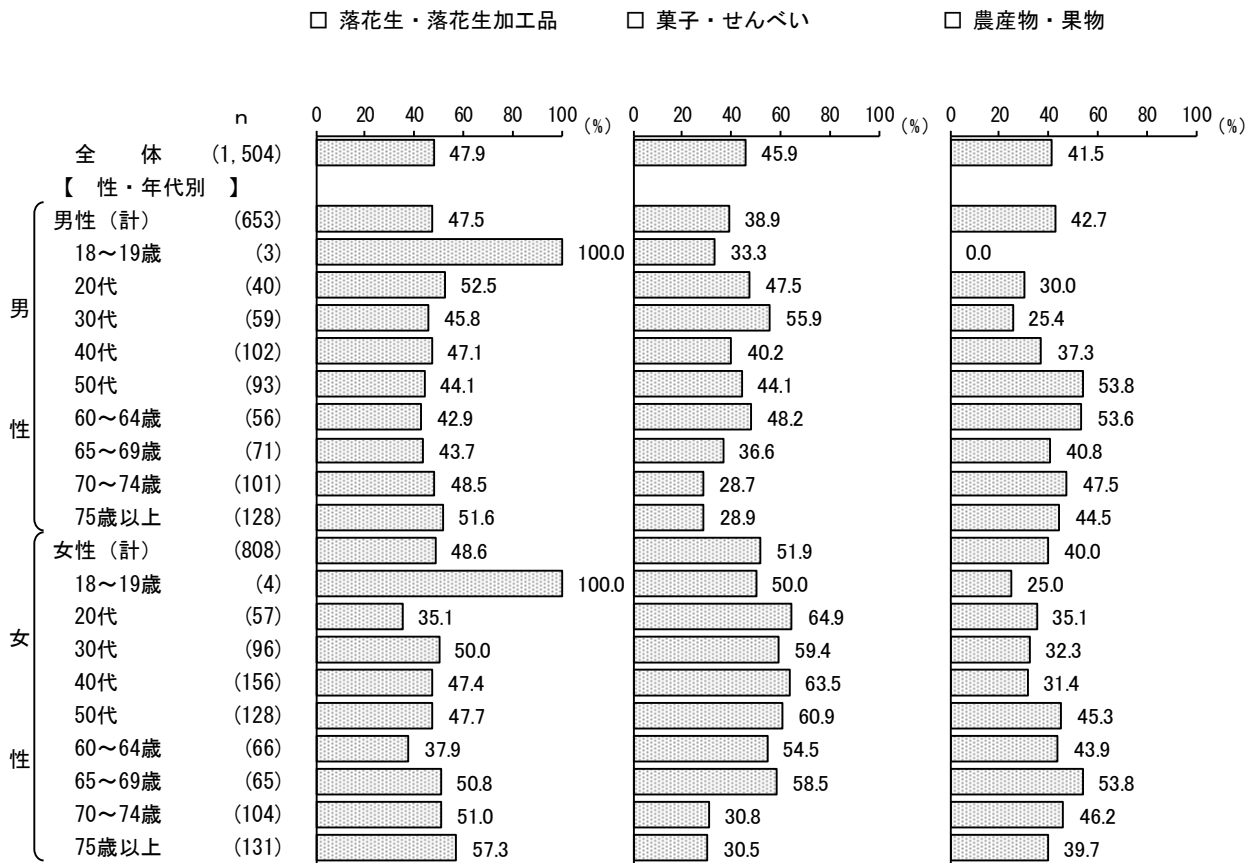
【地域別】

地域別にみると、「菓子・せんべい」は“千葉地域”（54.6％）が５割台半ばで高くなっている。

「海苔・水産加工品」は“長生地域”（55.9％）が５割台半ば、“君津地域”（48.6％）が約５割で高くなっている。（図表１－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「落花生・落花生加工品」は、女性75歳以上（57.3％）が約６割で高くなっている。

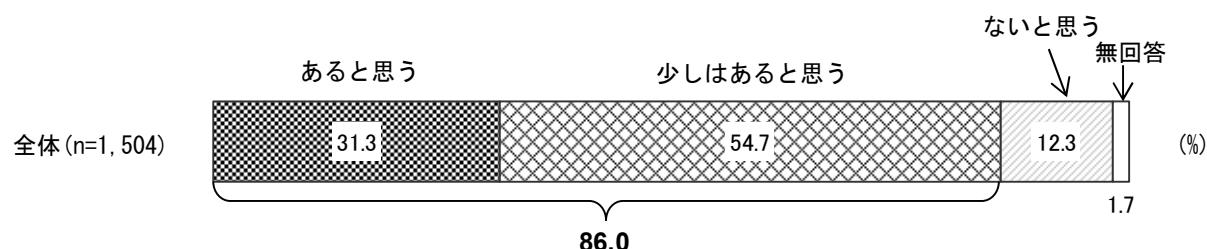


（３）障害を理由とする差別や偏見の有無

◇『あると思う（計）』は８割台半ば

問３ あなたは、現在の社会の中には、障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。（○は１つ）

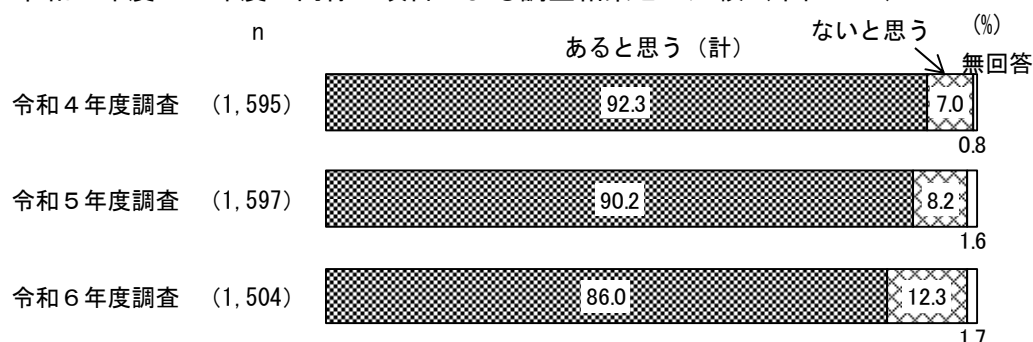
<図表１－５>障害を理由とする差別や偏見の有無



障害を理由とする差別や偏見の有無を聞いたところ、「あると思う」（31.3%）と「少しはあると思う」（54.7%）を合わせた『あると思う（計）』（86.0%）は８割台半ばとなっている。

一方、「ないと思う」（12.3%）は１割を超えている。（図表１－５）

〔参考〕令和４年度・５年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別でみると、「あると思う」は“葛南地域”（35.9%）が３割台半ばで高くなっている。

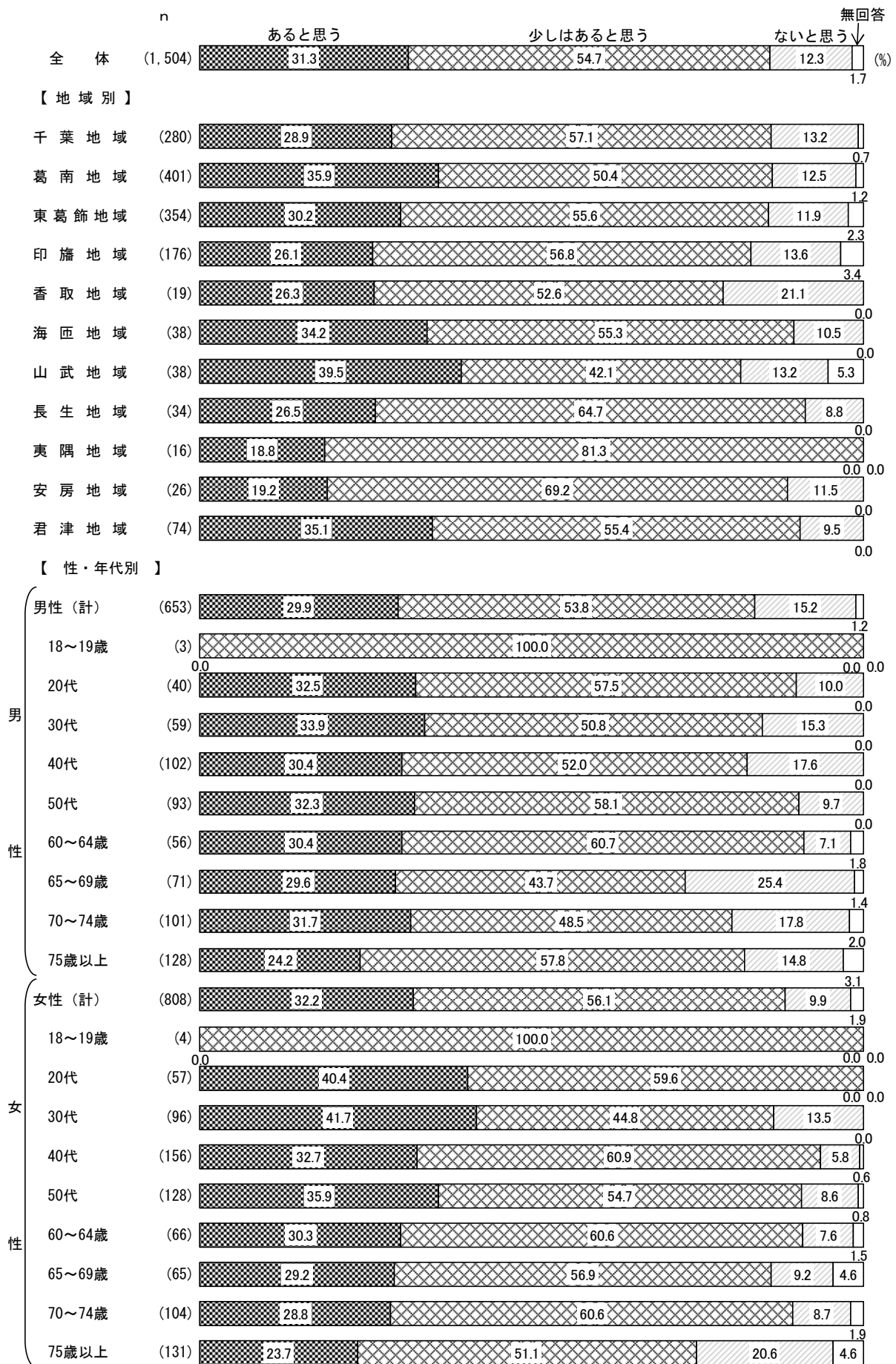
（図表１－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う（計）』は女性20代（100.0%）が10割、女性40代（93.6%）が9割台半ばで高くなっている。

一方、「ないと思う」は、男性65～69歳（25.4%）が２割台半ば、女性75歳以上（20.6%）が２割で高くなっている。（図表１－６）

<図表 1－6>障害を理由とする差別や偏見の有無／地域別、性・年代別



（３－１）障害を理由とする差別や偏見がある場面

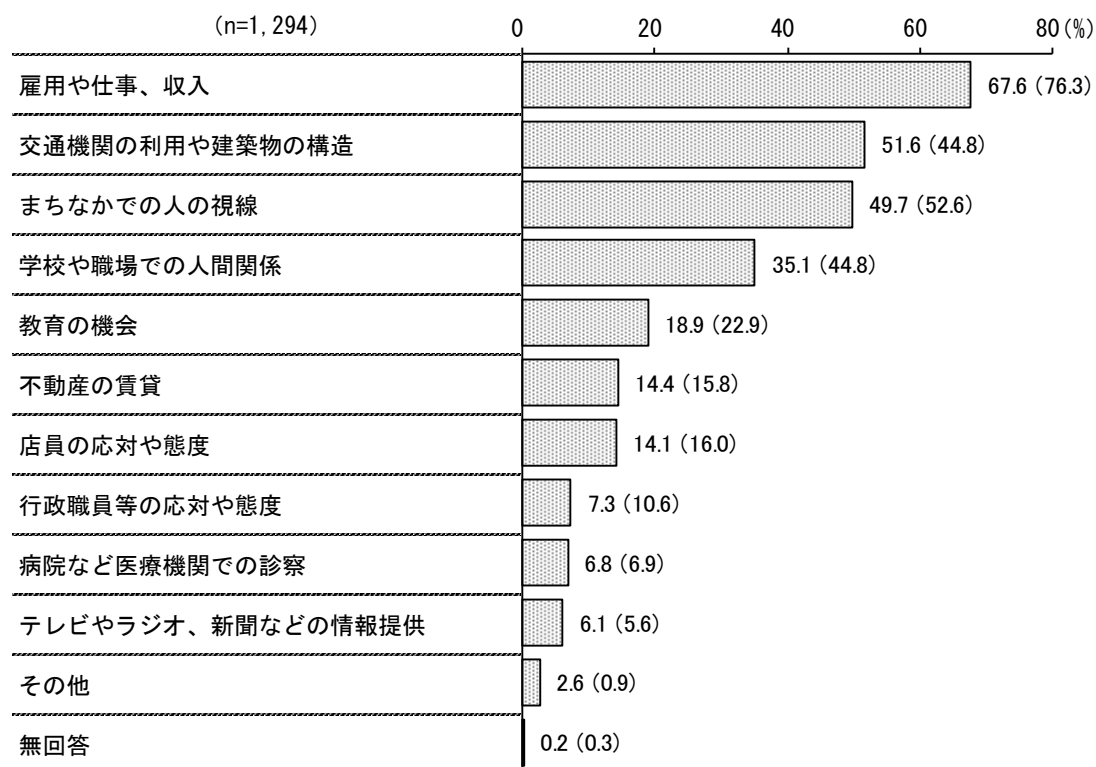
◇「雇用や仕事、収入」が約７割

（問３で「あると思う」、「少しはあると思う」のいずれかをお答えの方に）

問３－１ あなたは、どのような場面で障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。

（○はいくつでも）

＜図表１－７＞障害を理由とする差別や偏見がある場面（複数回答）



注）（ ）の数字は令和５年度の同様の項目による調査結果 n=1,441

障害を理由とする差別や偏見がある場面を聞いたところ、「雇用や仕事、収入」（67.6％）が約７割で最も高く、以下「交通機関の利用や建築物の構造」（51.6％）、「まちなかでの人の視線」（49.7％）、「学校や職場での人間関係」（35.1％）が続く。（図表１－７）

【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表１－８）

【性・年代別】

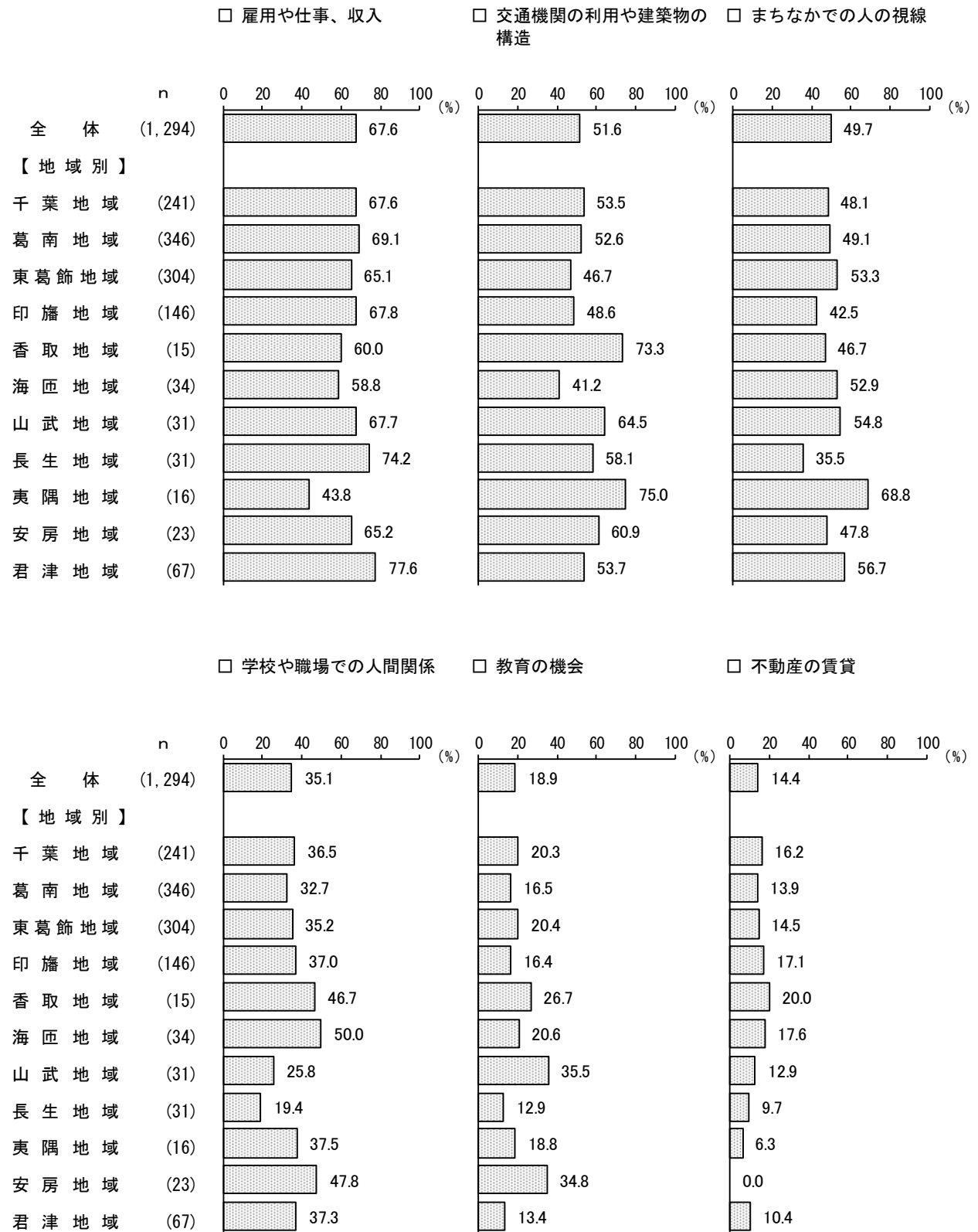
性・年代別にみると、「雇用や仕事、収入」は、女性65～69歳（80.4％）が８割、男性70～74歳（79.0％）が約８割で高くなっている。

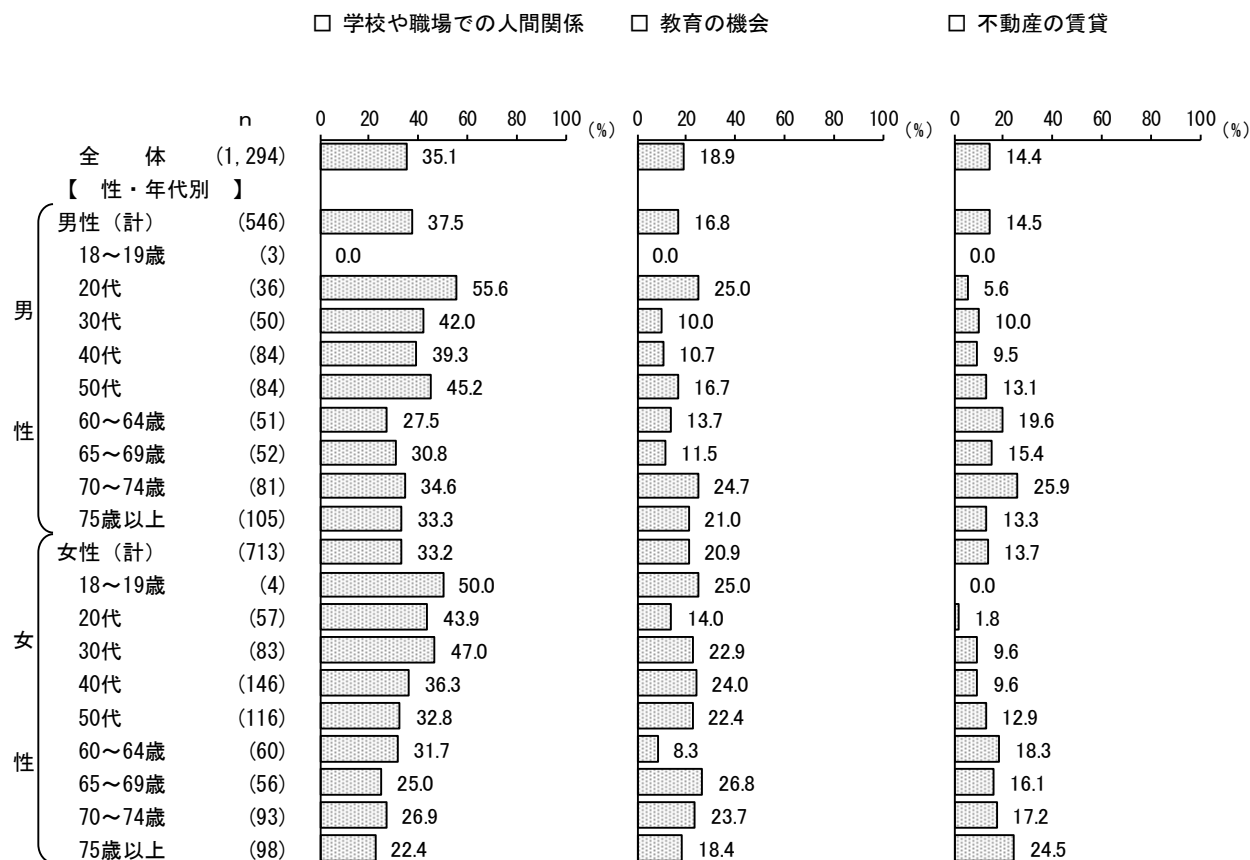
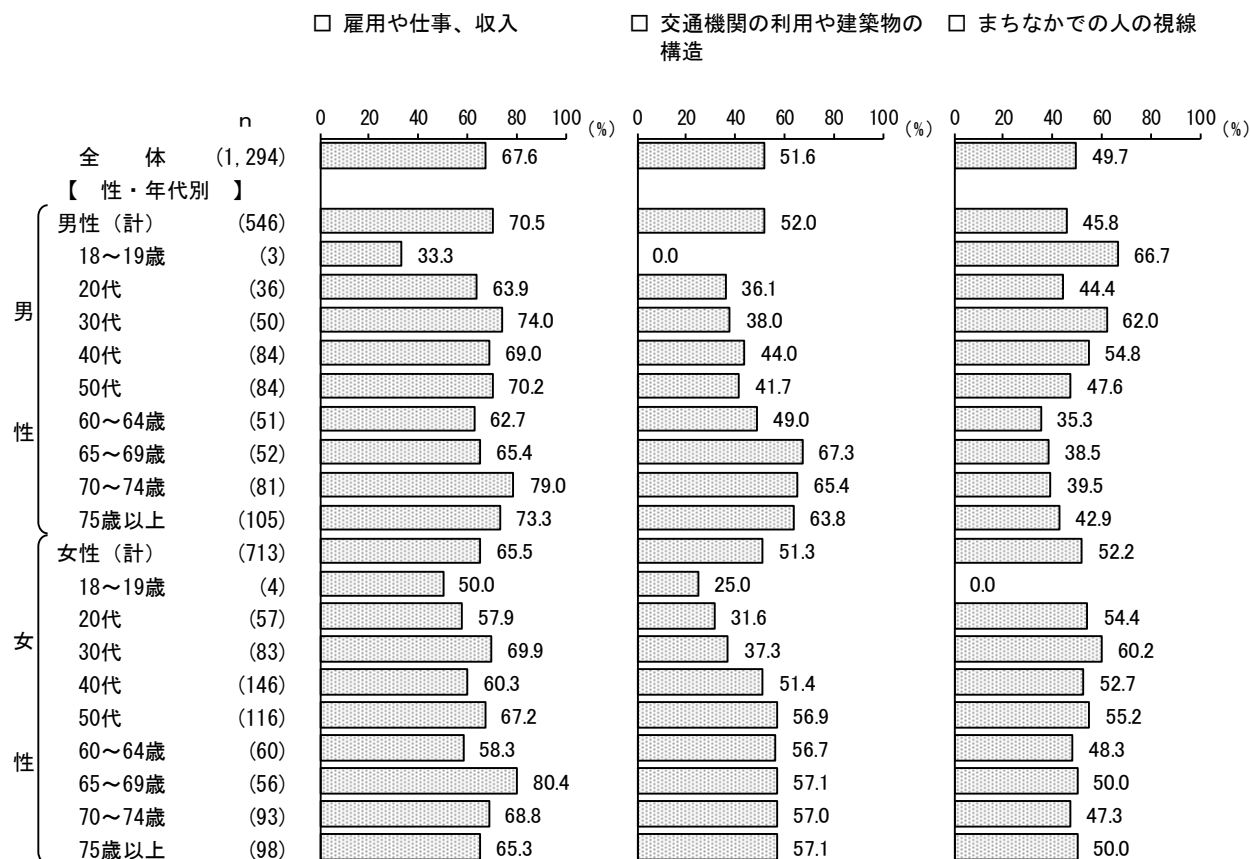
「交通機関の利用や建築物の構造」は、男性65～69歳（67.3％）が約７割、男性70～74歳（65.4％）、男性75歳以上（63.8％）が６割台半ばで高くなっている。

「まちなかでの人の視線」は、女性30代（60.2％）が６割で高くなっている。（図表１－８）

＜図表 1－8＞障害を理由とする差別や偏見がある場面（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





2 災害ボランティア等について

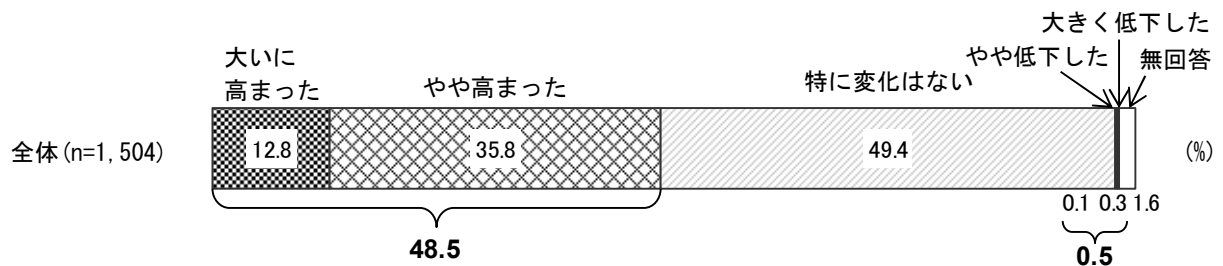
（１）市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度

◇『高まった（計）』が約５割

問４ あなたは、令和５年台風第１３号や令和６年能登半島地震を通じて、市民活動団体※の活動やボランティア活動への関心が高まりましたか。（○は１つ）

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したＮＰＯ法人やボランティア団体等任意団体）です。

<図表２－１>市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度

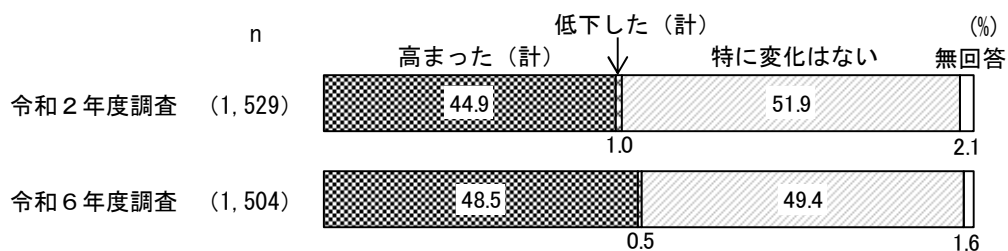


市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度について、「大いに高まった」（12.8%）と「やや高まった」（35.8%）を合わせた『高まった（計）』（48.5%）が約５割となっている。

一方、「やや低下した」（0.1%）と「大きく低下した」（0.3%）を合わせた『低下した（計）』（0.5%）は１割未満となっている。

また、「特に変化はない」（49.4%）は約５割となっている。（図表２－１）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

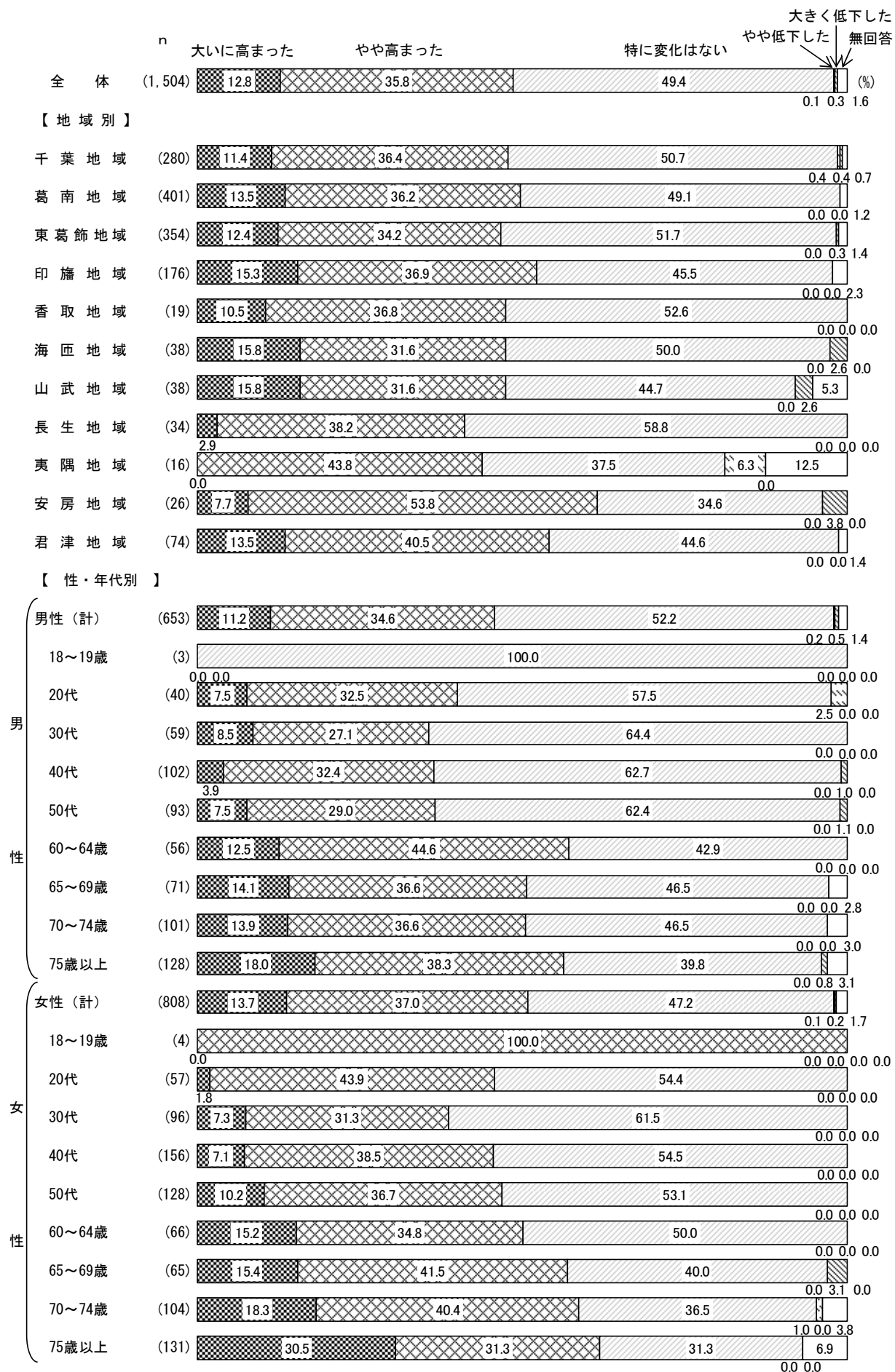
地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表２－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『高まった（計）』は、女性75歳以上（61.8%）で６割を超え、女性70～74歳（58.7%）で約６割となっている。

また、「特に変化はない」は、男性30代（64.4%）で６割台半ば、男性40代（62.7%）、男性50代（62.4%）、女性30代（61.5%）で６割を超えて高くなっている。（図表２－２）

＜図表２－２＞市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度／地域別、性・年代別



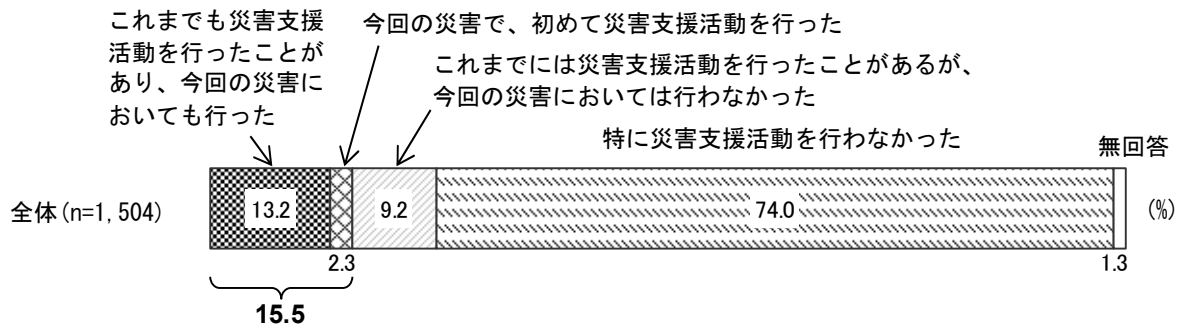
（２）令和５年、令和６年に発生した災害での災害支援活動の参加経験

◇『今回の災害で行った（計）』が１割台半ば

問５ あなたは、令和５年台風第１３号や令和６年能登半島地震において災害支援活動※を行いましたか。（○は１つ）

※ ここでいう「災害支援活動」とは、ボランティア活動への参加、被災した親戚・知人に対する支援、近隣被災住宅の片付け、自治体や市民活動団体への寄附、物資の提供など、広く被災者・被災地への支援を指します（以下の設問でも同様）。

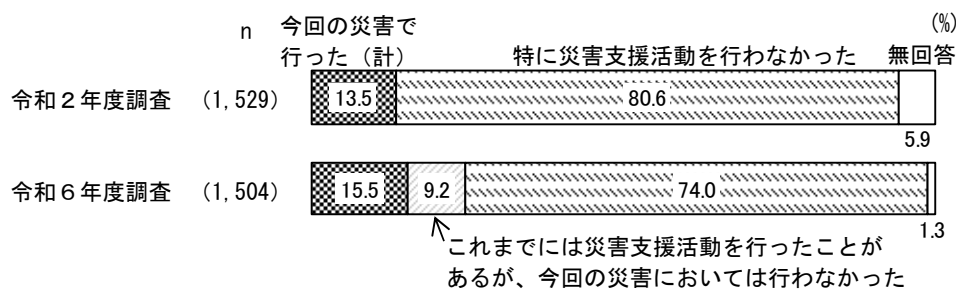
＜図表２－３＞令和５年、令和６年に発生した災害での災害支援活動の参加経験



令和５年、令和６年に発生した災害での災害支援活動の参加経験を聞いたところ、「これまで災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」（13.2%）と「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」（2.3%）を合わせた『今回の災害で行った（計）』（15.5%）が１割台半ばとなっている。

一方、「特に災害支援活動を行わなかった」（74.0%）は７割台半ばとなっている。（図表２－３）

【参考】令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



※令和２年度調査は、設問文「あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害において災害支援活動を行いましたか。」で実施

※「これまでには災害支援活動を行ったことがあるが、今回の災害においては行わなかった」は今回調査から追加

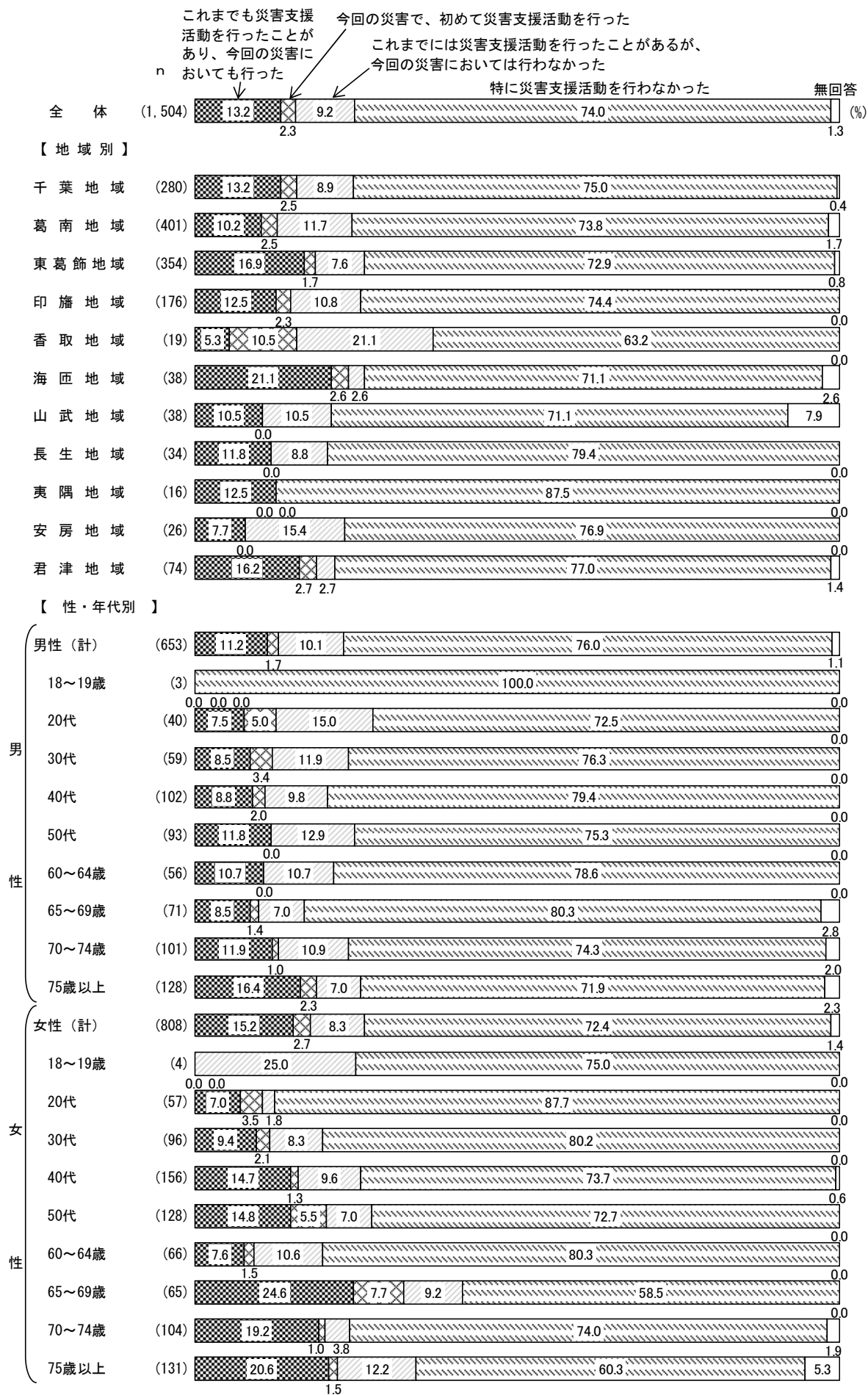
【地域別】

地域別にみると、「これまで災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」は“東葛飾地域”（16.9%）が１割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『今回の災害で行った（計）』は、女性65～69歳（32.3%）が３割を超え、女性75歳以上（22.1%）が２割を超えて高くなっている。（図表２－４）

＜図表 2－4＞令和 5 年、令和 6 年に発生した災害での災害支援活動の参加経験／地域別、性・年代別

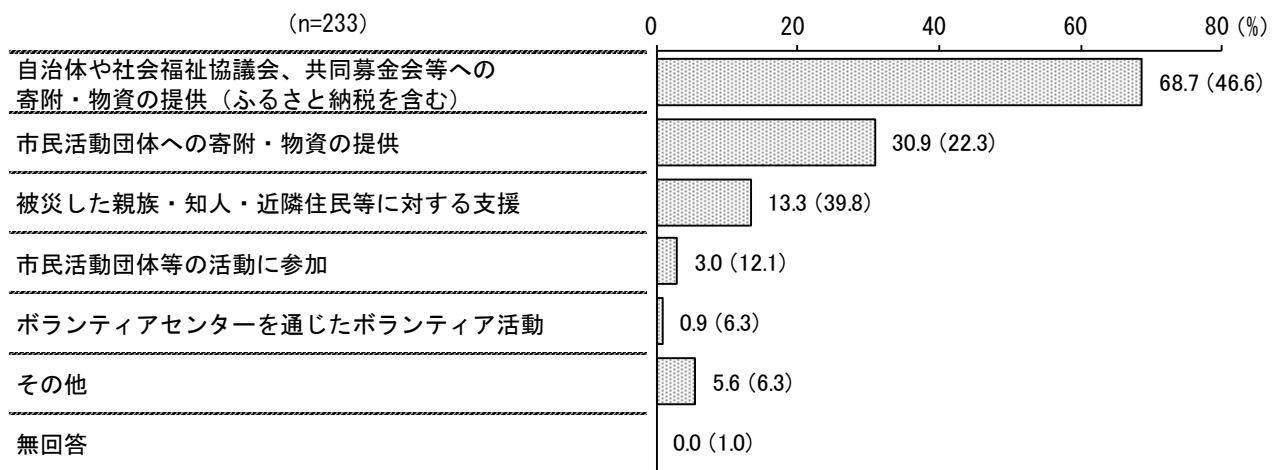


（２－１）参加した災害支援活動の内容

◇「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」が約 7 割

（問 5 で「これまでも災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」、「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」のいずれかをお答えの方に）
問 5－1 災害支援活動の内容はどのようなものでしたか。（〇はいくつでも）

<図表 2－5>参加した災害支援活動の内容（複数回答）



注）（ ）の数字は令和 2 年度の同様の項目による調査結果 n=206

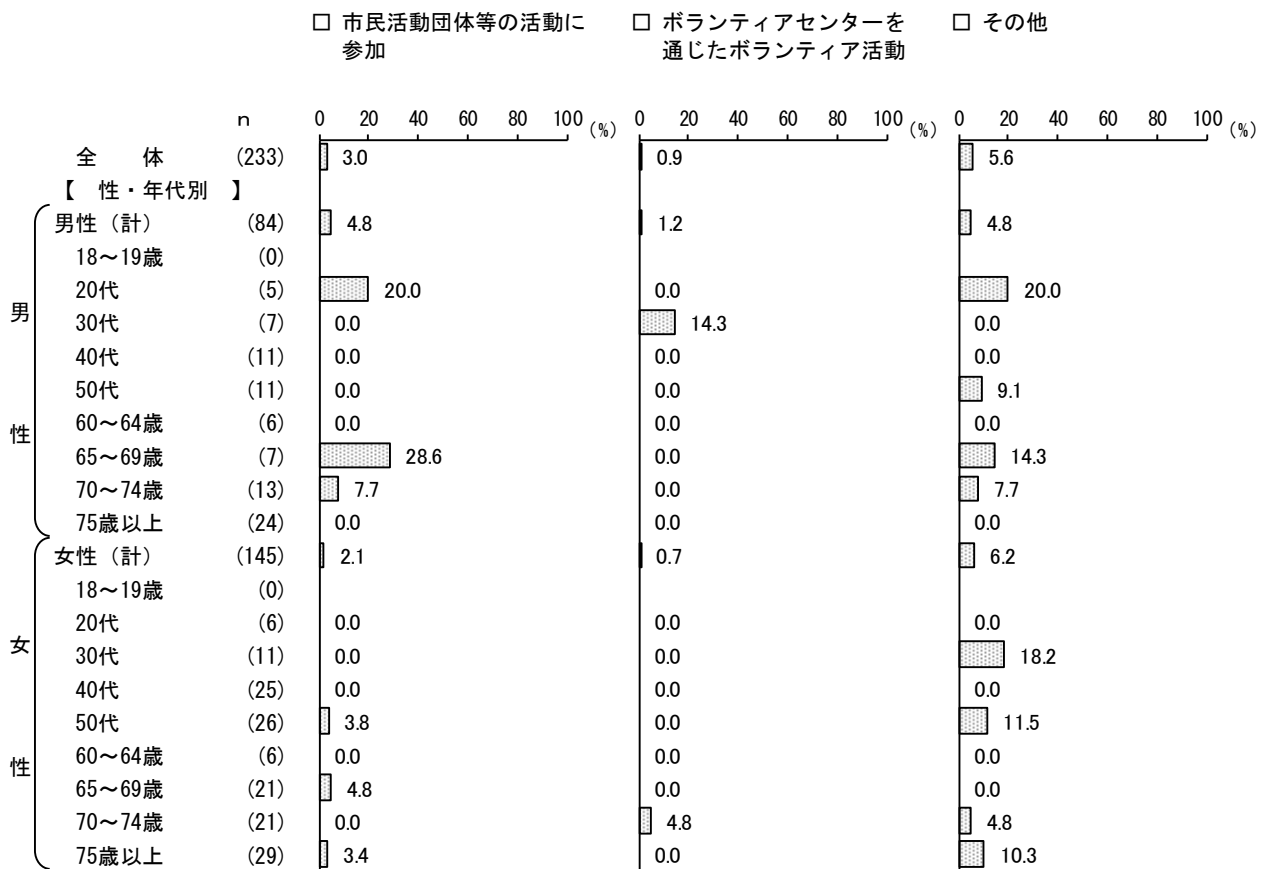
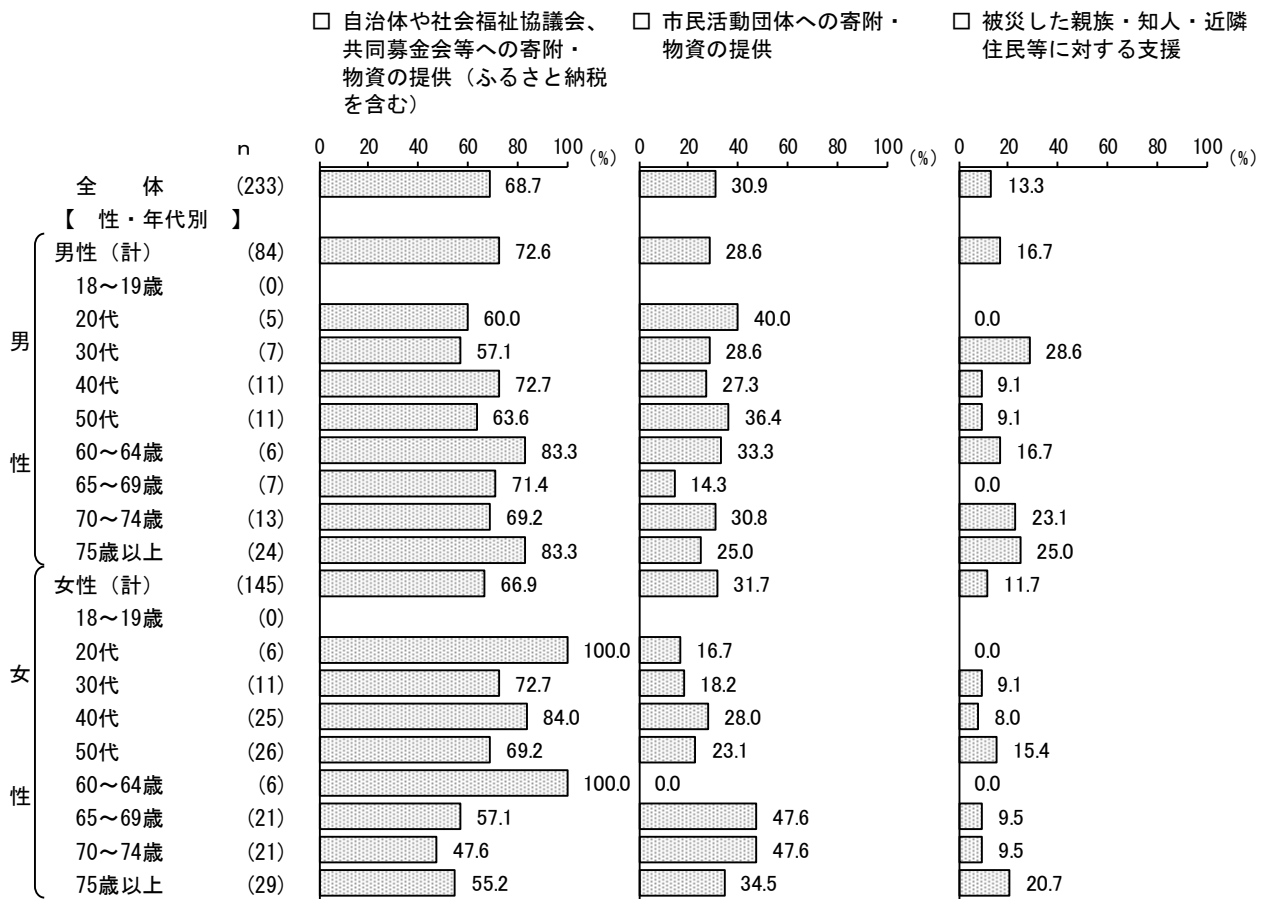
参加した災害支援活動の内容について聞いたところ、「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」（68.7%）が約 7 割で最も高く、以下、「市民活動団体への寄附・物資の提供」（30.9%）、「被災した親族・知人・近隣住民等に対する支援」（13.3%）が続く。（図表 2－5）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（9ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表 2－6）

	n	0	20	40	60	80	100	(%)	0	20	40	60	80	100	(%)	0	20	40	60	80	100	(%)
全 体	(233)																					
【 地 域 別 】																						
千 葉 地 域	(44)																					
葛 南 地 域	(51)																					
東 葛 飾 地 域	(66)																					
印 旛 地 域	(26)																					
香 取 地 域	(3)																					
海 匠 地 域	(9)																					
山 武 地 域	(4)																					
長 生 地 域	(4)																					
夷 隅 地 域	(2)																					
安 房 地 域	(2)																					
君 津 地 域	(14)																					

地域別	人数 (n)	「いいえ」 (%)	「どちらか」 (%)	「はい」 (%)
全 体	(233)	3.0	0.9	5.6
【 地 域 別 】				
千 葉 地 域	(44)	2.3	0.0	9.1
葛 南 地 域	(51)	2.0	2.0	7.8
東 葛 飾 地 域	(66)	4.5	0.0	3.0
印 旛 地 域	(26)	3.8	0.0	7.7
香 取 地 域	(3)	0.0	0.0	0.0
海 匝 地 域	(9)	11.1	0.0	0.0
山 武 地 域	(4)	0.0	0.0	0.0
長 生 地 域	(4)	0.0	0.0	0.0
夷 隅 地 域	(2)	0.0	50.0	0.0
安 房 地 域	(2)	0.0	0.0	0.0
君 津 地 域	(14)	0.0	0.0	7.1

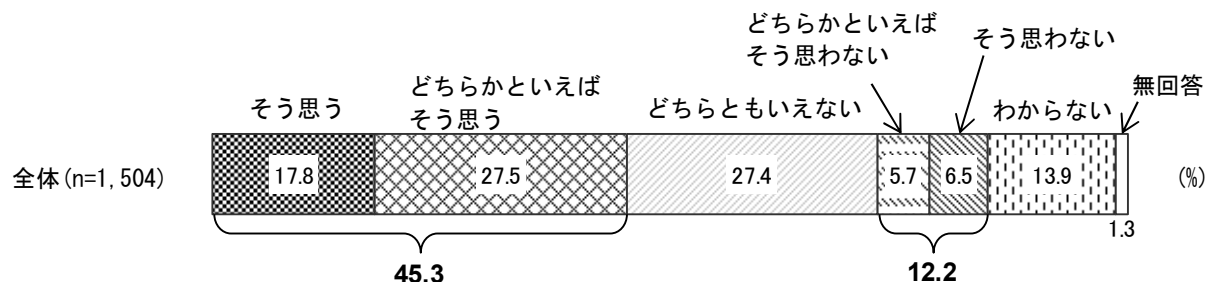


（３）今後の災害支援活動への参加意向

◇『そう思う（計）』が４割台半ば

問６ 今後、災害が発生した際（県外での発災も含む）に災害支援活動を行いたいと思いますか。
（○は１つ）

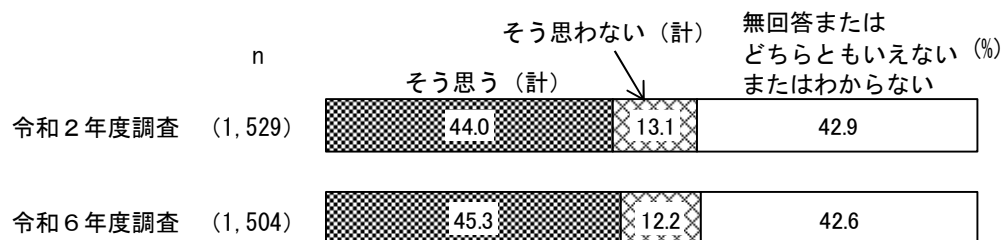
<図表２－７> 今後の災害支援活動への参加意向



今後の災害支援活動への参加意向について、「そう思う」（17.8%）と「どちらかといえばそう思う」（27.5%）を合わせた『そう思う（計）』（45.3%）が４割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.7%）と「そう思わない」（6.5%）を合わせた『そう思わない（計）』（12.2%）が１割を超えている。（図表２－７）

【参考】 令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



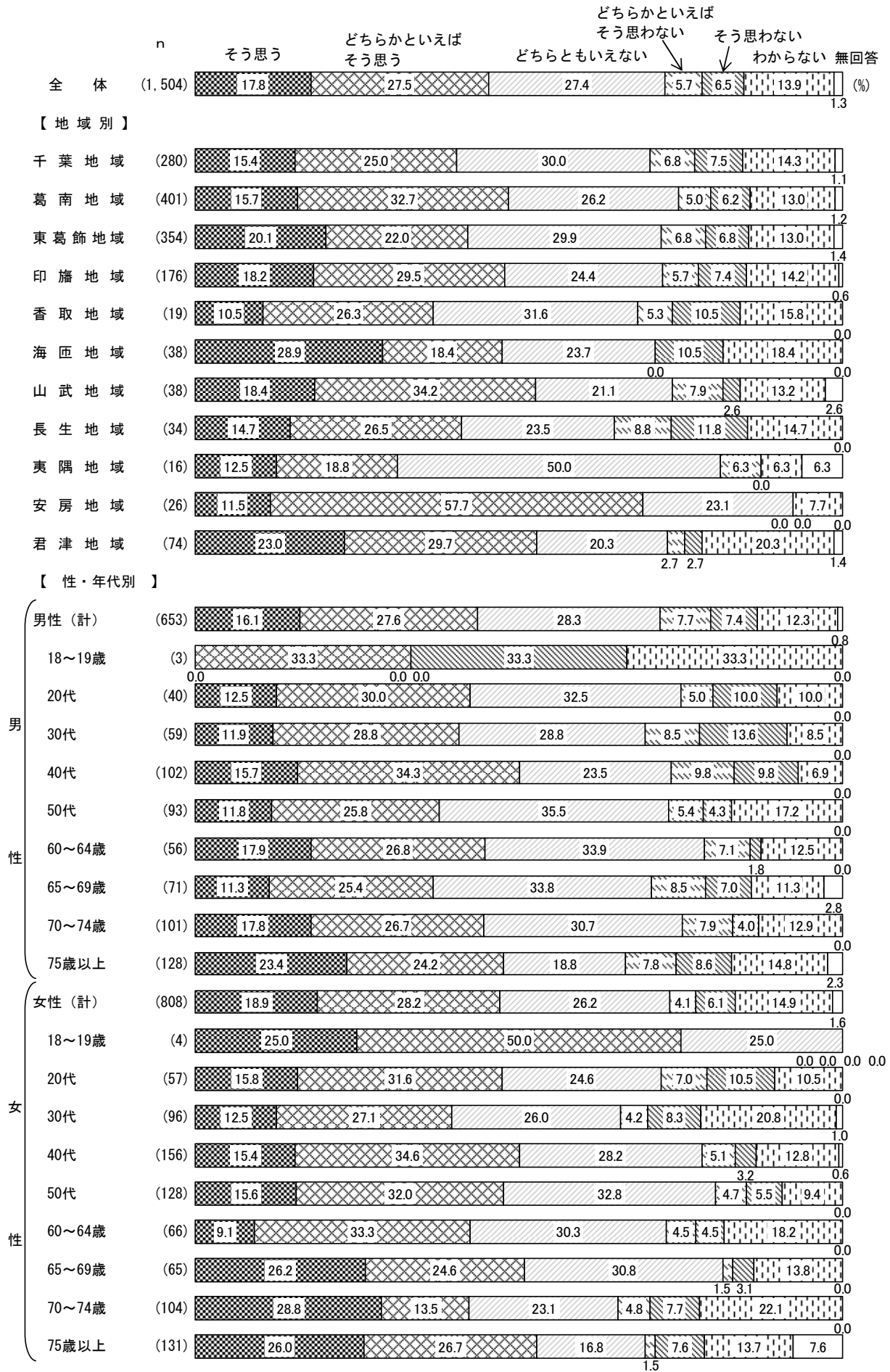
【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表２－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は、男性30代（22.0%）が２割を超え、男性40代（19.6%）が約２割で高くなっている。（図表２－８）

<図表 2-8> 今後の災害支援活動への参加意向／地域別、性・年代別



このほかにも、「災害ボランティア等について」や問4～問6について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、270人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「災害ボランティア等について」の自由回答（抜粋）

- 被災地では野菜や果物がとても貴重になると聞きます。すでにそのような活動はされているかもしれませんが、県内で廃棄されるものをお送りしてあげたら喜ばれると思いました。日持ちしないものなので、輸送の問題、保存の問題はあると思いますが。（女性、40代、葛南地域）

- ちばボランティアナビのようなアプリがあるとやりやすいと思いました。それと、ちばボラは良い取り組みだと思いましたが、多くの人に知られていないと思うので、チラシや宣伝でPRするともっと良いと思います。（男性、20代、東葛飾地域）

- 支援活動にかかる交通費等を負担してほしい。（男性、20代、千葉地域）

- 災害ボランティアも大勢が行くと迷惑とか、物資も不必要な迷惑な品もあると聞きました。どんな物が必要でどこに持って行けばいいか、子育てで現地に行けない場合、どのような支援のやり方があるのかわかりやすく、大々的にお知らせしてほしい。ちばボランティアナビのようなサイトがあることも知らなかったのです。（女性、40代、東葛飾地域）

- 災害ボランティアに参加しているかたは本当に立派だと思います。自分が災害地でボランティアをしても体力が無いので足を引っ張ってしまうのではないかと考えてしまいます。できることとすれば少額の寄附や、観光地の復興のタイミングにもよりますが、観光の協力をしたいと思います。（女性、50代、東葛飾地域）

- 近年の震災の記事では、災害支援活動への注目が逆に渋滞になるので来ないでくださいなどの記事を、特に能登地震では多く見かけたので、なるべく大人しくしたほうがいいのではないかなと思うようになりました。（女性、20代、君津地域）

- ボランティア活動を行いたいと思うが、会社員では無理があります。会社にはボランティア休暇はあるが取得者はほぼゼロである。会社が悪いでもなく休まれたら業務が滞るので理解する。結局、育児、介護等全てで休暇制度はあっても現実的に休暇を取れば残った社員に負担がかかり取ることはできない。（男性、40代、千葉地域）

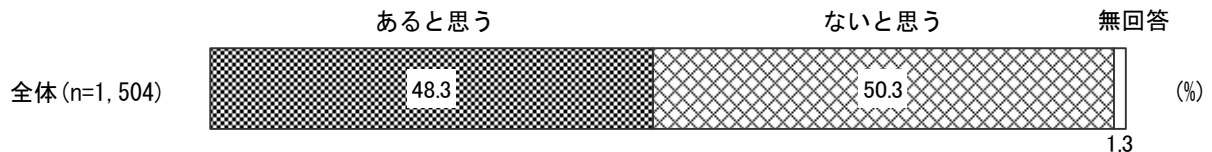
3 消費生活について

（１）消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無

◇「あると思う」が約５割

問７ あなたは、消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思いますか。（○は１つ）

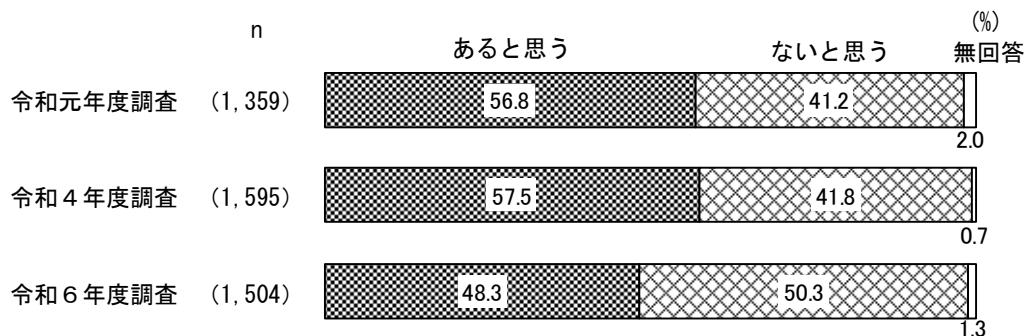
＜図表３－１＞消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無



消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思うか聞いたところ、「あると思う」（48.3％）が約５割となっている。

一方、「ないと思う」（50.3％）は５割となっている。（図表３－１）

〔参考〕令和元年度・４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表３－２）

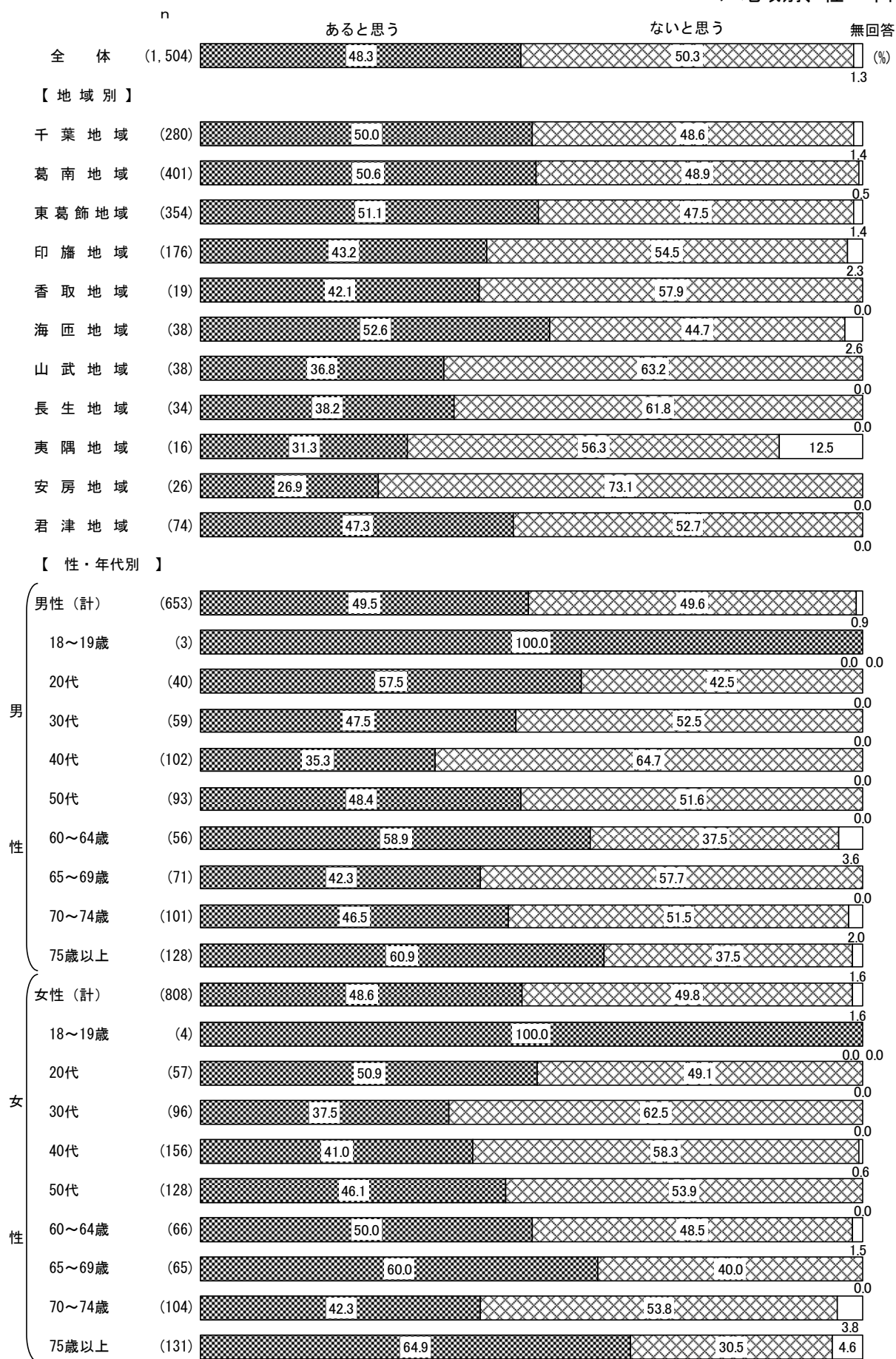
【性・年代別】

性・年代別にみると、「あると思う」は、女性75歳以上（64.9％）が６割台半ば、男性75歳以上（60.9％）が６割で高くなっている。

一方、「ないと思う」は、男性40代（64.7％）が６割台半ば、女性30代（62.5％）が６割を超え、女性40代（58.3％）が約６割で高くなっている。（図表３－２）

＜図表３－２＞消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無

／地域別、性・年代別

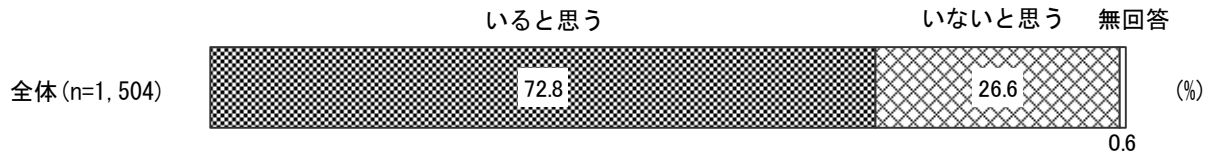


（２）消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無

◇「いると思う」が7割を超える

問 8 あなたは、消費者トラブルにあった時、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいますか。（○は1つ）

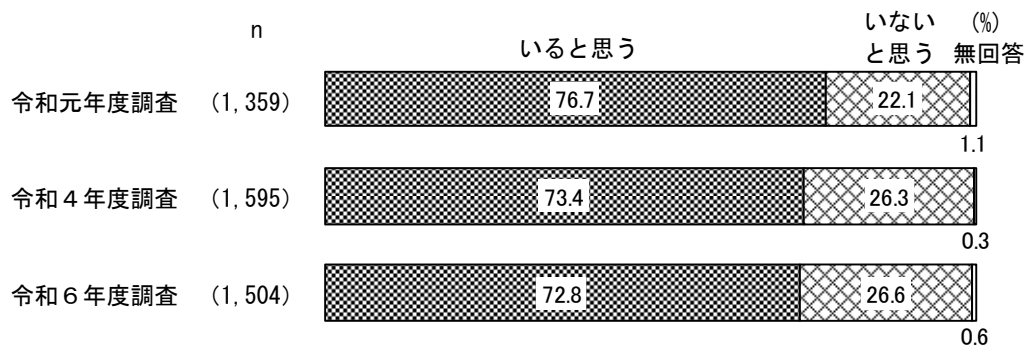
＜図表 3－3＞消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無



消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいますか聞いたところ、「いると思う」（72.8%）が7割を超える。

一方、「いないと思う」（26.6%）は2割台半ばとなっている。（図表 3－3）

〔参考〕令和元年度・4年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

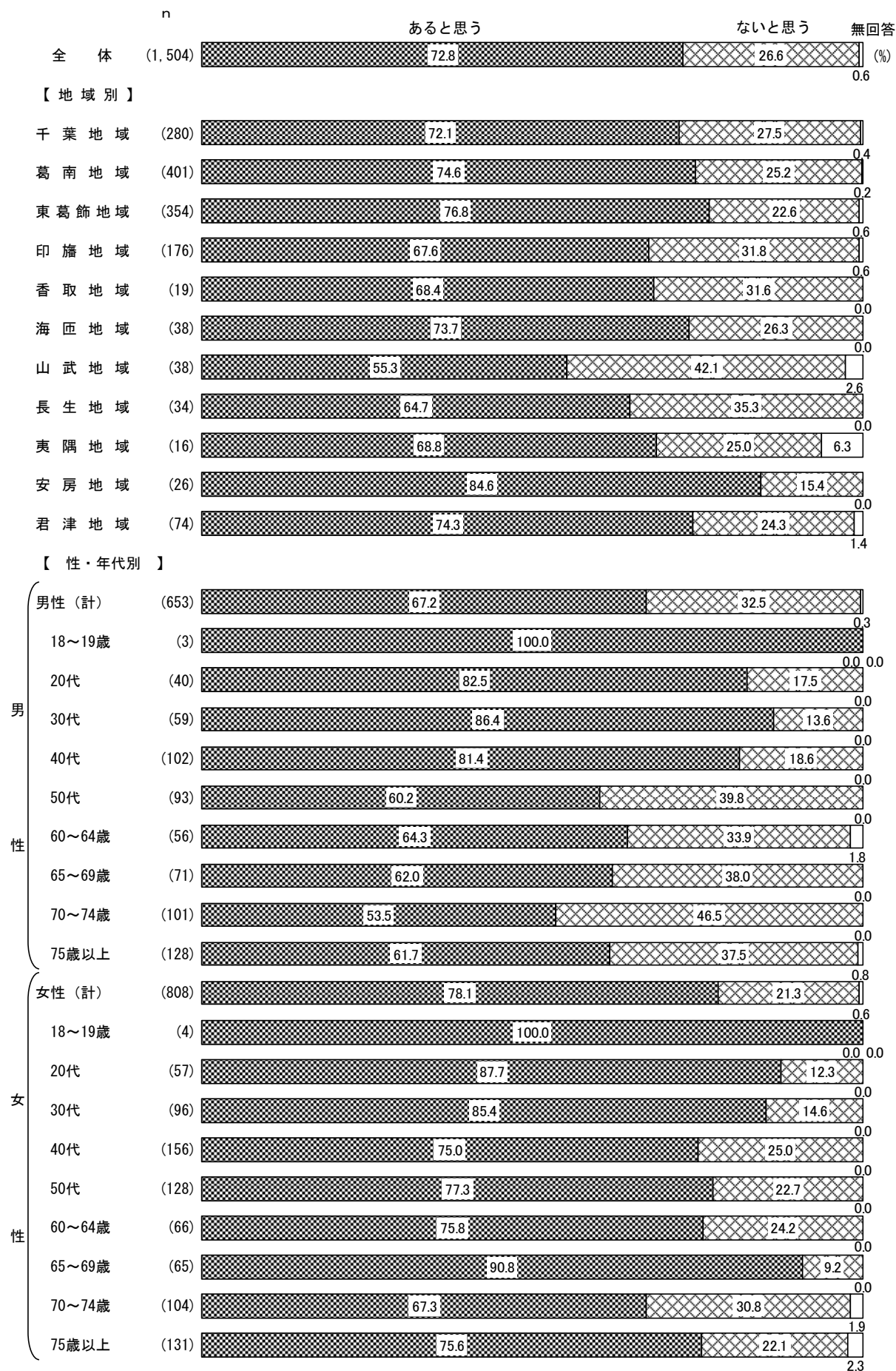
地域別にみると、「いないと思う」は、“山武地域”（42.1%）が4割を超えて高くなっている。

（図表 3－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「いると思う」は、女性65～69歳（90.8%）が9割、女性20代（87.7%）が約9割、男性30代（86.4%）、女性30代（85.4%）が8割台半ば、男性40代（81.4%）が8割を超えて高くなっている。（図表 3－4）

<図表3-4>消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無／地域別、性・年代別



（３）悪質商法に対する考え

◇『増えてきた（計）』が約８割

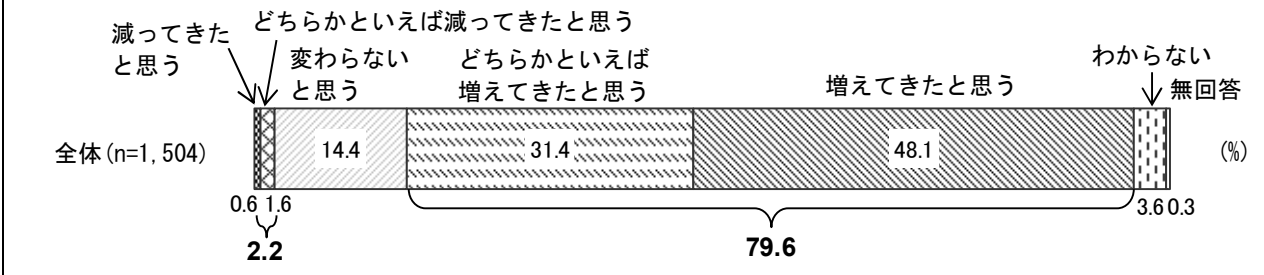
以下のような違法又は不当な手段・方法により行われる販売方法を「悪質商法」といいます。

（「悪質商法」の例）

- ・インターネット通販トラブル
 - ・・・健康食品や化粧品などの定期購入や身に覚えのない購入代金の請求 など
- ・点検商法・・・屋根や給湯器の無料点検を装い高額な工事の契約をさせられる など
- ・架空請求・・・大手通信事業者などを騙った未納料金の請求 など
- ・副業や投資に関するトラブル
 - ・・・インターネット広告やSNSなどで、簡単に収入が得られると誘いを受け、会員登録や商材を購入するが、実際は少しも儲からない など

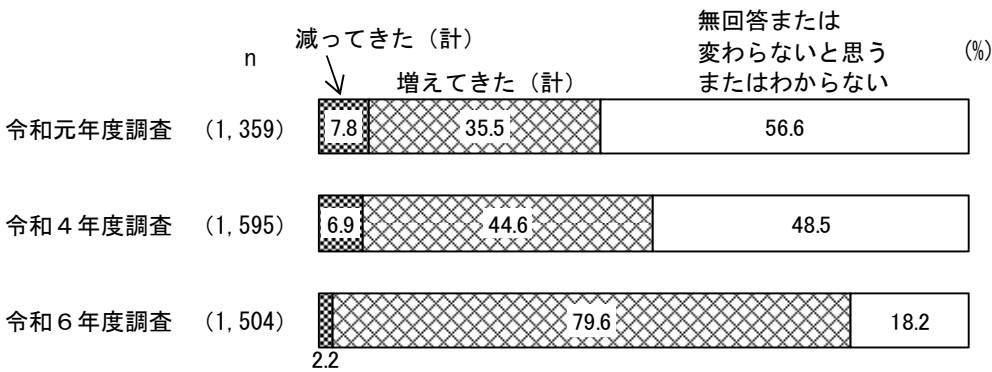
問 9 あなたは、上記のような悪質商法が減ってきたと思いますか。（○は１つ）

＜図表 3－5＞悪質商法に対する考え



点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思うか聞いたところ、「どちらかといえば増えてきたと思う」(31.4%)と「増えてきたと思う」(48.1%)を合わせた『増えてきた（計）』(79.6%)が約８割となっている。（図表 3－5）

〔参考〕令和元年度・４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

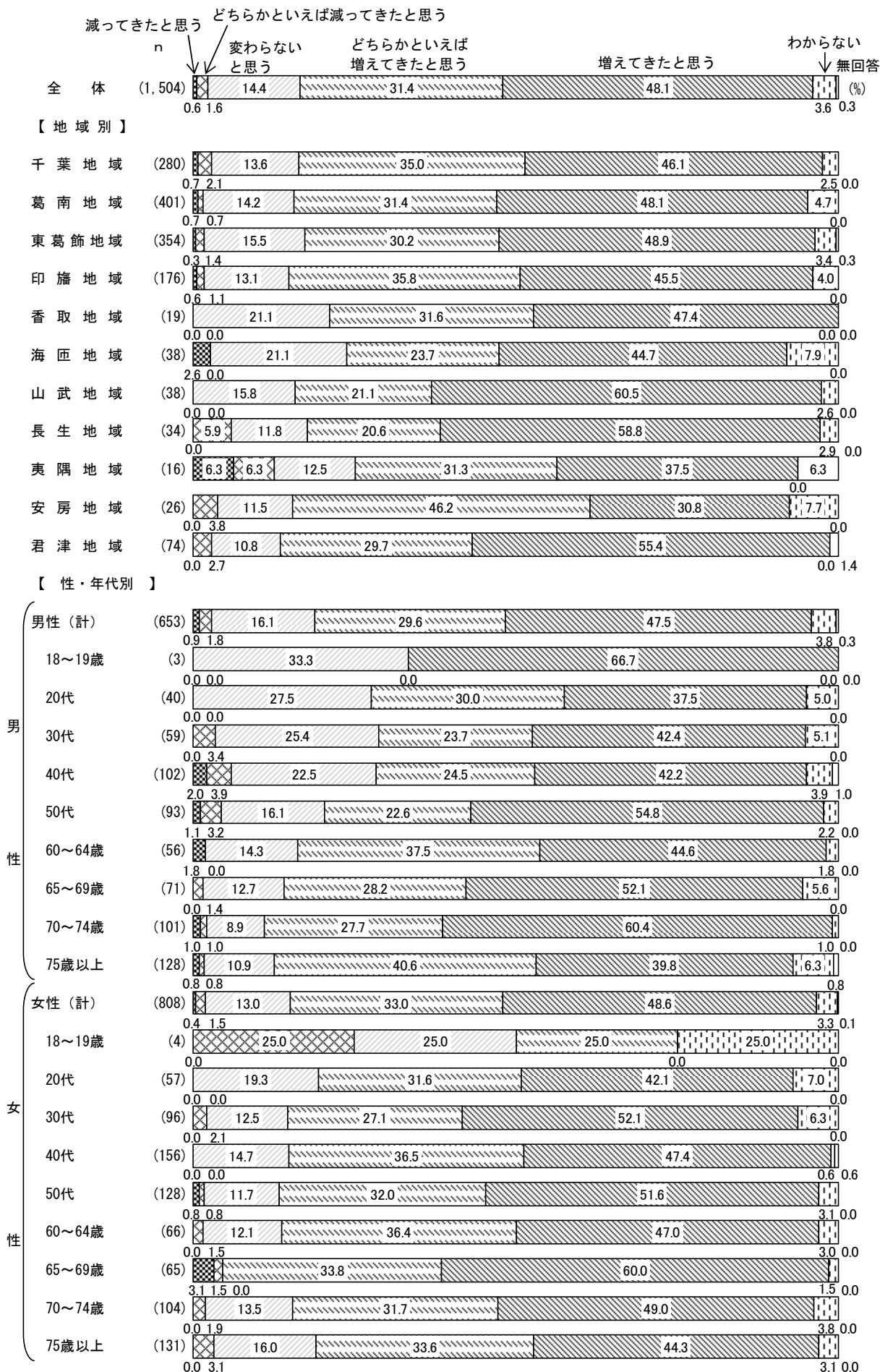
地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表 3－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『増えてきた（計）』は、女性65～69歳（93.8%）が９割台半ば、男性70～74歳（88.1%）が約９割で高くなっている。

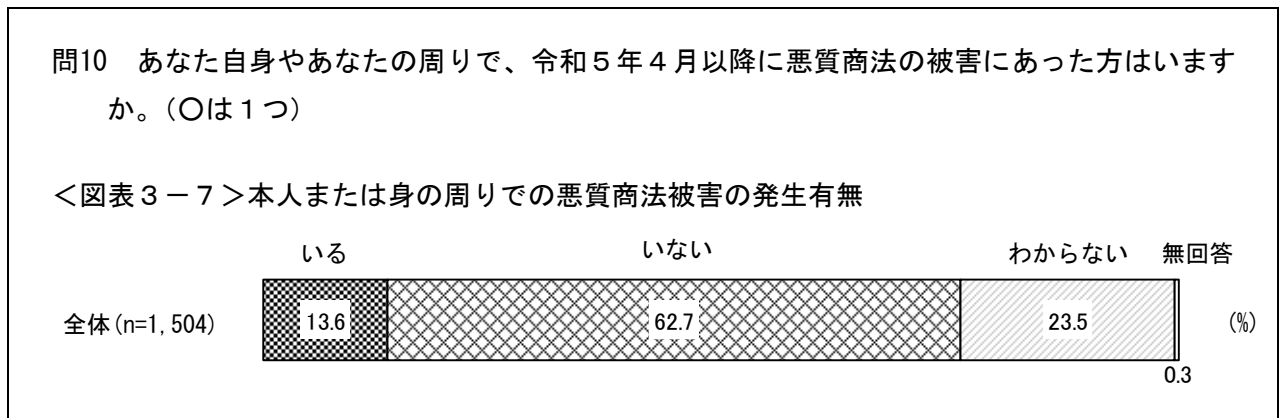
「変わらないと思う」は、男性20代（27.5%）が約３割、男性30代（25.4%）が２割台半ば、男性40代（22.5%）が２割を超えて高くなっている。（図表 3－6）

＜図表 3－6＞悪質商法に対する考え／地域別、性・年代別



（４）本人または身の周りでの悪質商法被害の発生有無

◇「いる」は１割台半ば



本人または身の周りでの悪質商法被害の発生の有無を聞いたところ、「いる」（13.6％）は１割台半ばとなっている。

一方、「いない」（62.7％）は６割を超えている。（図表３－７）

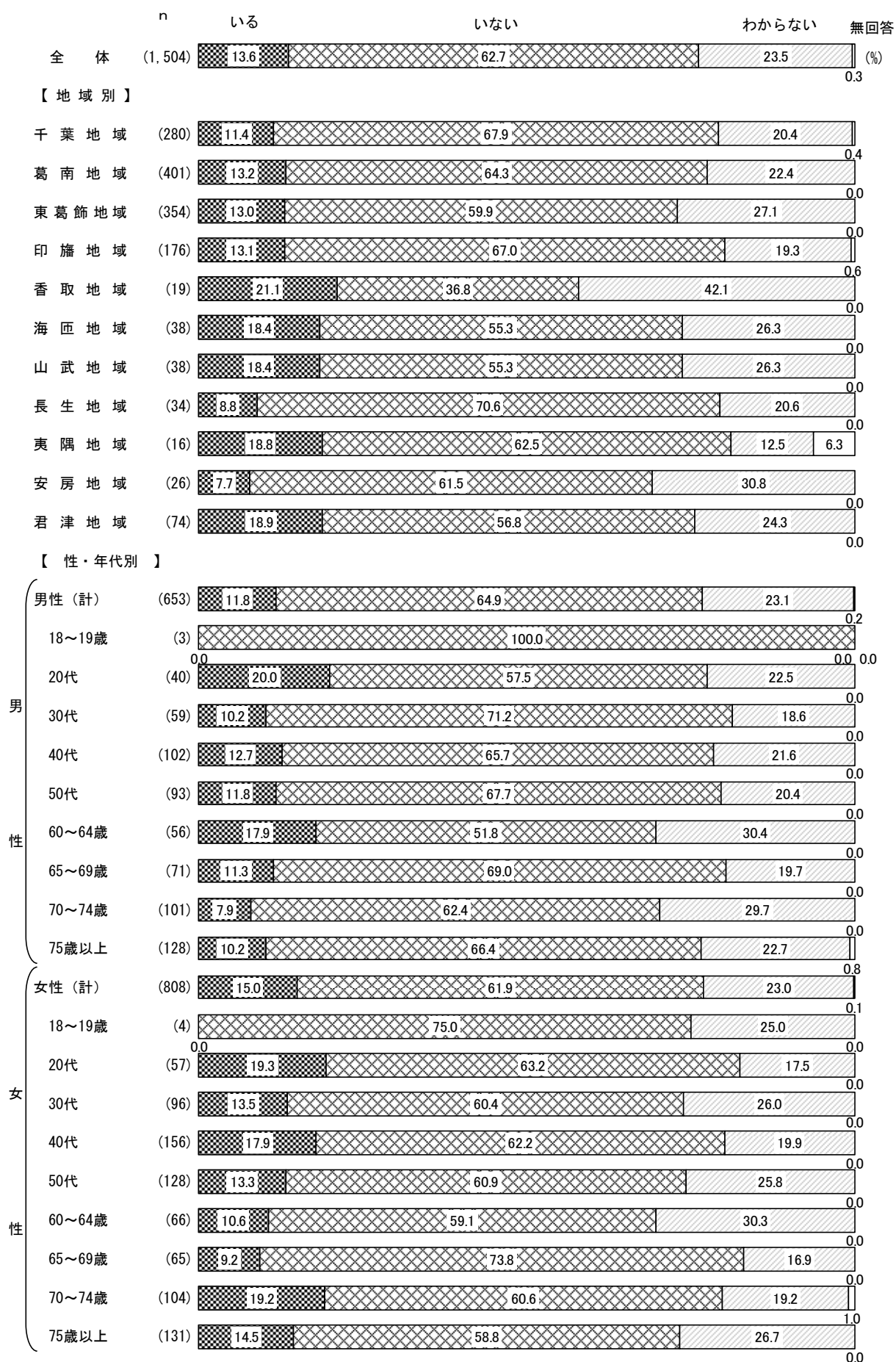
【地域別】

地域別にみると、「いない」は“千葉地域”（67.9％）が約７割で高くなっている。（図表３－８）

【性・年代別】

性・年代別で大きな傾向の違いはみられない。（図表３－８）

＜図表３－８＞本人または身の周りでの悪質商法被害の発生有無／地域別、性・年代別



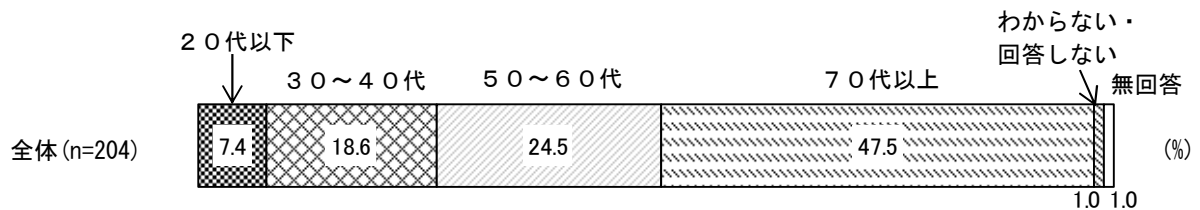
（４－１）被害にあった方の年代

◇「70代以上」が約5割

（問10で「いる」とお答えの方に）

問10－1 被害にあった方の年代を次の中から選んでください。被害にあった方が複数いる場合は、直近の被害状況についてお答えください。（○は1つ）

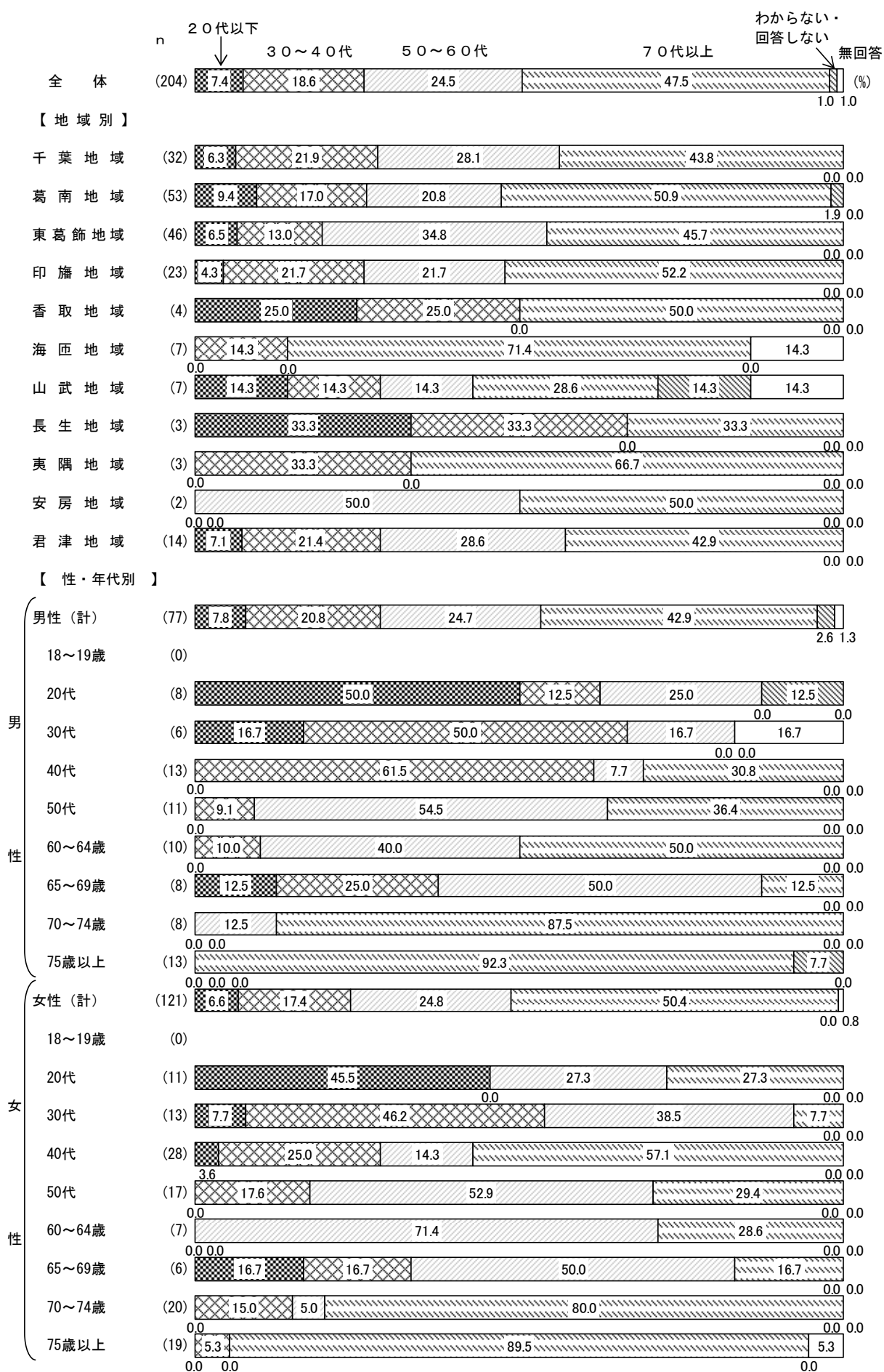
＜図表 3－9＞被害にあった方の年代



被害にあった方の年代について聞いたところ、「70代以上」（47.5%）が約5割で最も高く、以下、「50～60代」（24.5%）、「30～40代」（18.6%）と続く。（図表 3－9）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。
（9 ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表 3－10）

[参考] <図表3-10>被害にあった方の年代／地域別、性・年代別



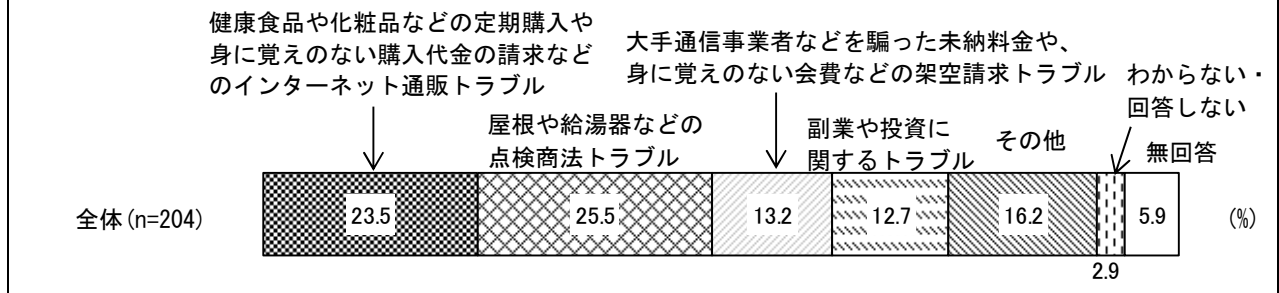
（４－２）被害の内容

◇「屋根や給湯器などの点検商法トラブル」が２割台半ば

（引き続き、問10で「いる」とお答えの方に）

問10－２ どのような被害にあわれましたか。（○は１つ）

＜図表３－11＞被害の内容



被害の内容を聞いたところ、「屋根や給湯器などの点検商法トラブル」（25.5%）が２割台半ばで最も高く、以下、「健康食品や化粧品などの定期購入や身に覚えのない購入代金の請求などのインターネット通販トラブル」（23.5%）、「大手通信事業者などを騙った未納料金や、身に覚えのない会費などの架空請求トラブル」（13.2%）、「副業や投資に関するトラブル」（12.7%）が続く。

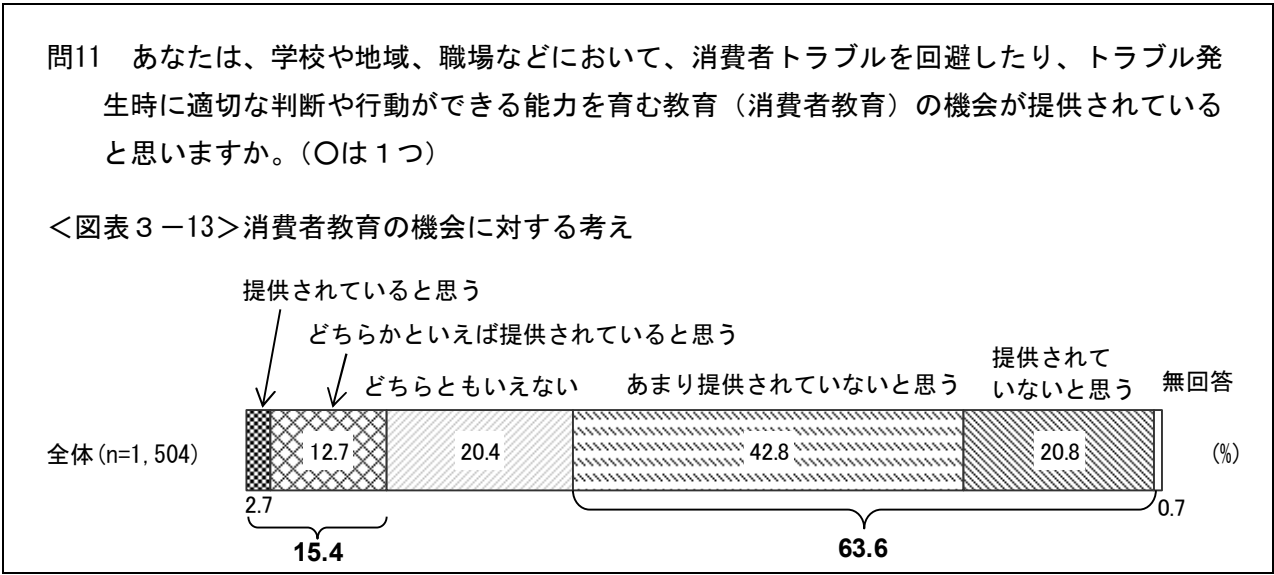
（図表３－11）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（9 ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表３－12）

（５）消費者教育の機会に対する考え

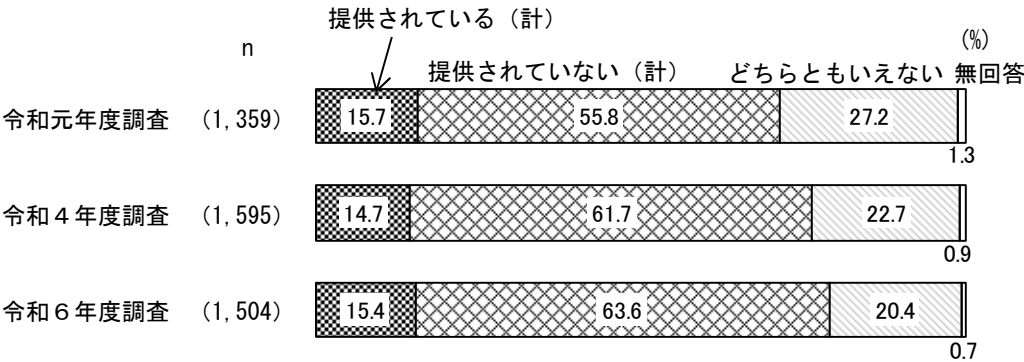
◇『提供されている（計）』が１割台半ば



学校や地域、職場などで消費者教育の機会が提供されていると思うか聞いたところ、「提供されていると思う」（2.7％）と「どちらかといえば提供されていると思う」（12.7％）を合わせた『提供されている（計）』（15.4％）が１割台半ばとなっている。

一方、「あまり提供されていないと思う」（42.8％）と「提供されていないと思う」（20.8％）を合わせた『提供されていない（計）』（63.6％）が６割台半ばとなっている。（図表 3－13）

〔参考〕令和元年度・４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『提供されている（計）』は“海匠地域”（31.6％）が３割を超えて高くなっている。（図表 3－14）

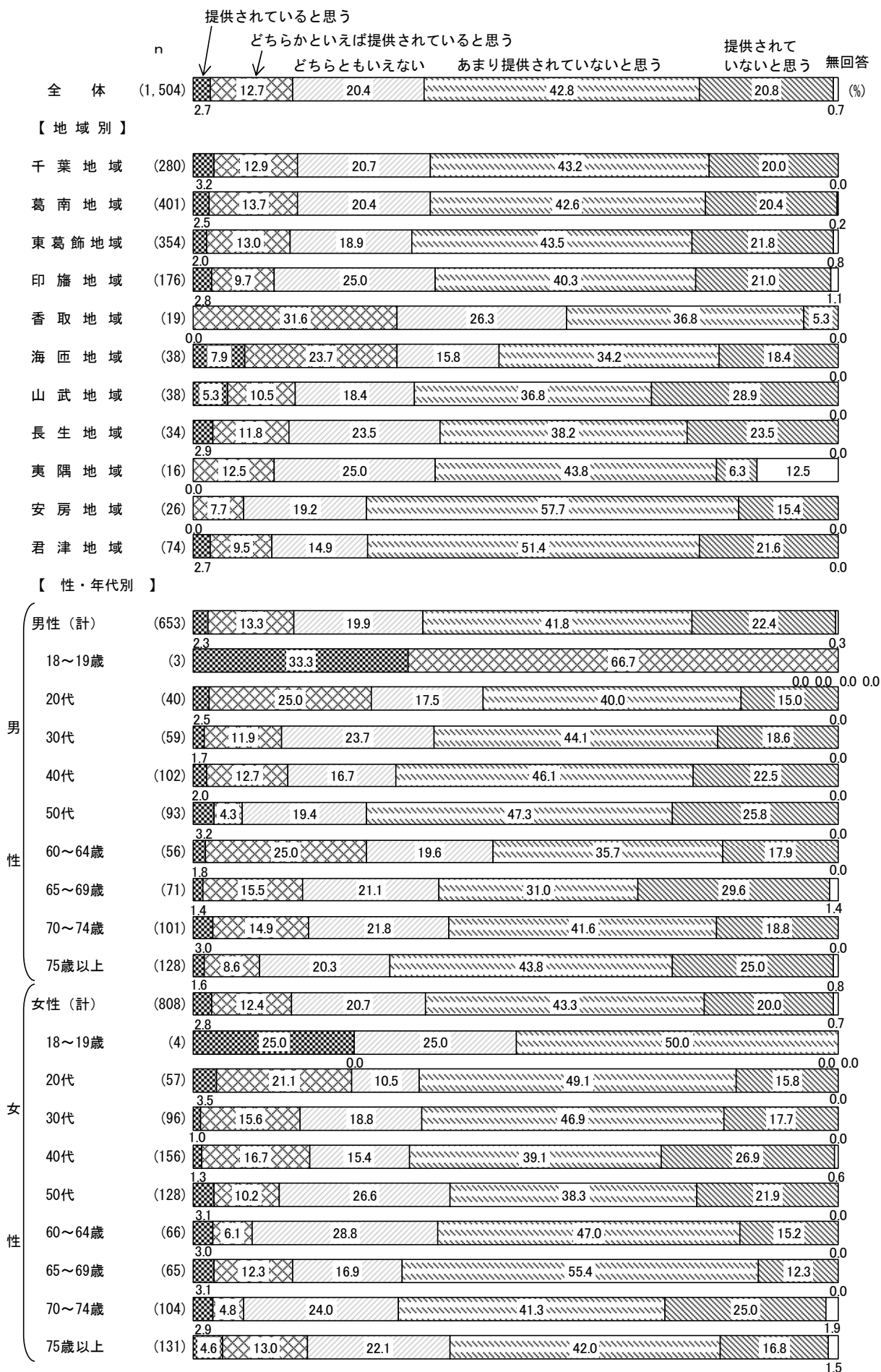
【性・年代別】

性・年代別にみると、『提供されている（計）』は、男性20代（27.5％）が約３割、男性60～64歳（26.8％）、女性20代（24.6％）が２割台半ばで高くなっている。

一方、『提供されていない（計）』は、男性50代（73.1％）が７割を超えて高くなっている。

（図表 3－14）

＜図表 3－14＞消費者教育の機会に対する考え／地域別、性・年代別

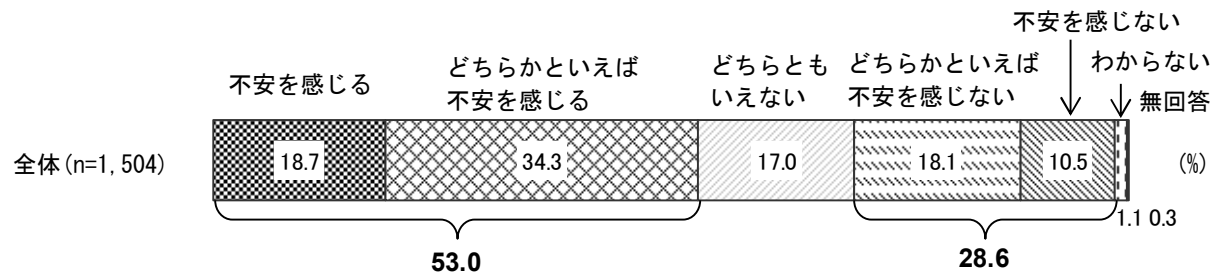


（６）生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無

◇『不安を感じる（計）』が５割を超える

問12 あなたは、普段の生活の中で、生活必需品（米などの食品や生活雑貨など）の安定的な供給体制（消費者がいつでも購入できること）や安全性に不安を感じることがありますか。（○は１つ）

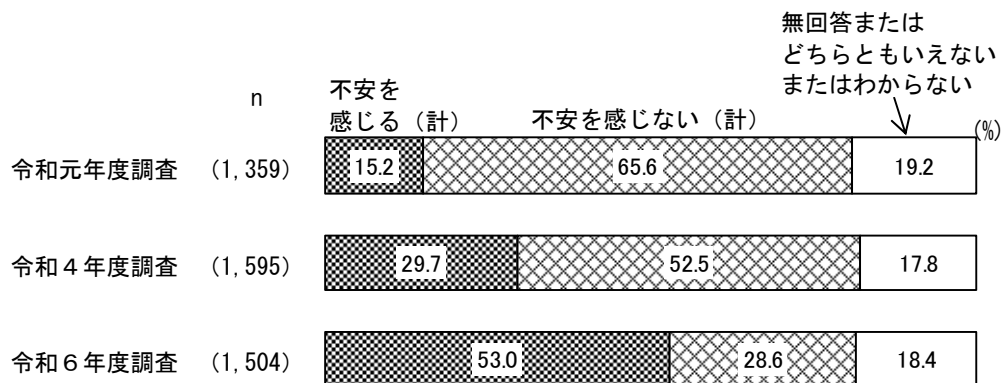
＜図表３－15＞生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無



普段の生活の中で、生活必需品の安定的な供給体制や安全性に不安を感じることがあるか聞いたところ、「不安を感じる」（18.7%）と「どちらかといえば不安を感じる」（34.3%）を合わせた『不安を感じる（計）』（53.0%）は５割を超えている。

一方、「どちらかといえば不安を感じない」（18.1%）と「不安を感じない」（10.5%）を合わせた『不安を感じない（計）』（28.6%）が約３割となっている。（図表３－15）

〔参考〕令和元年度・４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



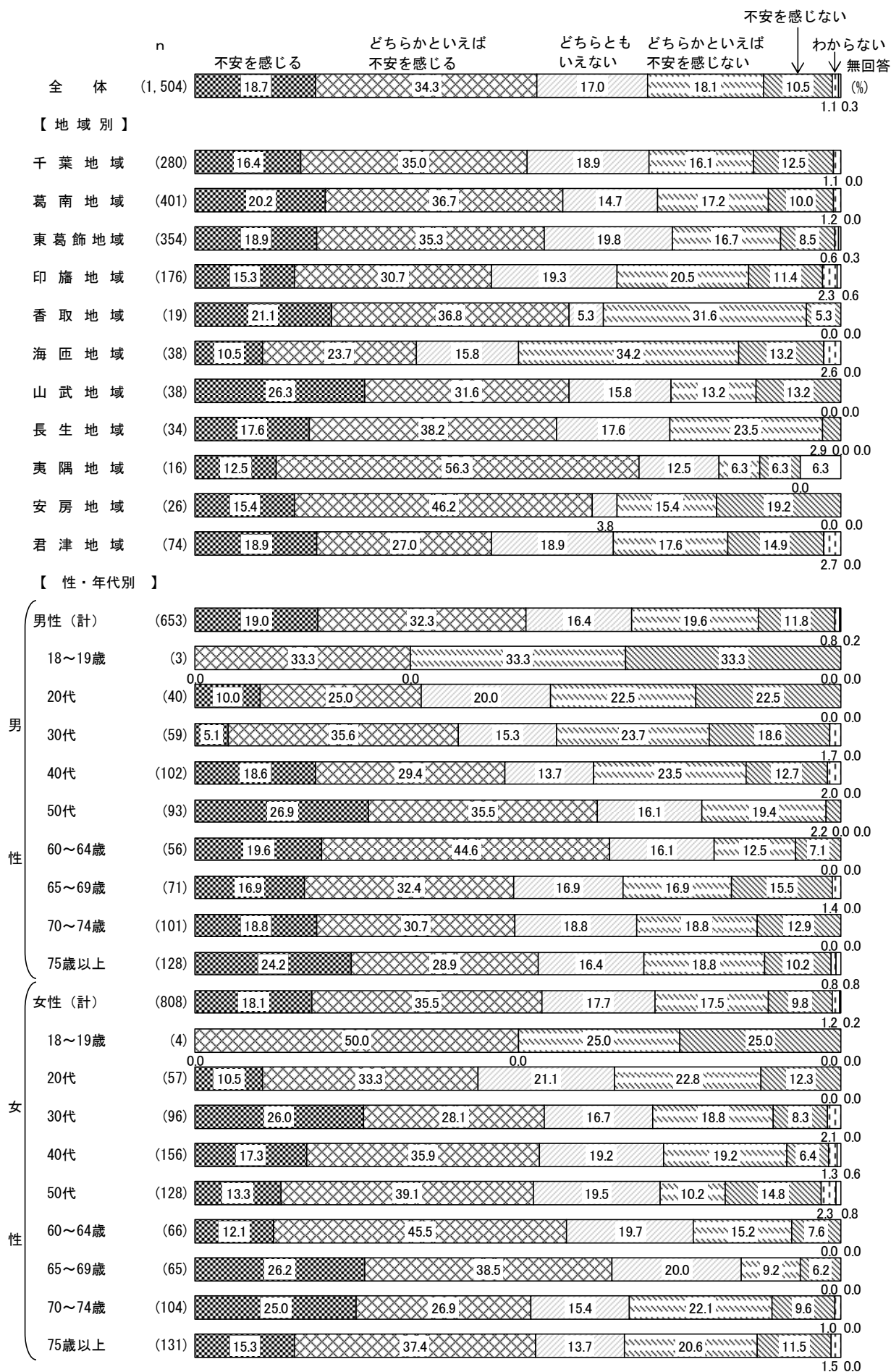
【地域別】

地域別にみると、『不安を感じない（計）』は“海匠地域”（47.4%）が約５割で高くなっている。（図表３－16）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『不安を感じない（計）』は、男性20代（45.0%）が４割台半ば、男性30代（42.4%）が４割を超えて高くなっている。（図表３－16）

＜図表 3－16＞生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無／地域別、性・年代別



（７）買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無

◇『意識している（計）』が４割台半ば

人や社会、環境、地域に配慮した商品を選んで消費をすることを「エシカル消費」といいます。

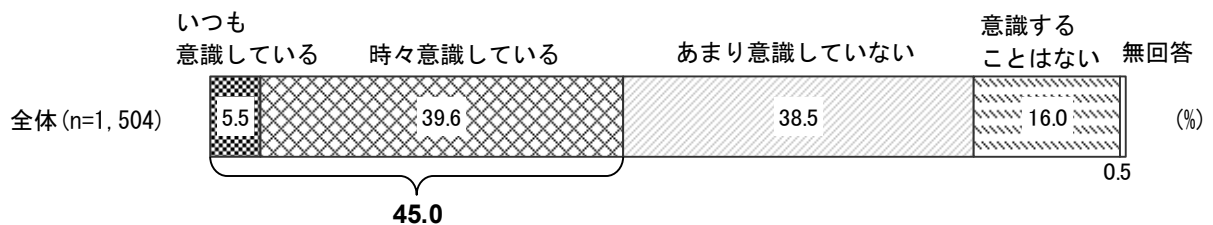
（「エシカル消費」の具体例）

- ・ 障害のある人の支援につながる商品を選んで買い物をする
- ・ フェアトレード商品（開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指し、適正な価格で取引された商品）を選んで買い物をする
- ・ エコ商品（一般的に環境に配慮した商品）を選んで買い物をする
- ・ 被災地産品を選んで買い物をする

問13 あなたは、買い物をする際に、上記の説明にある「エシカル消費」を意識していますか。

（○は１つ）

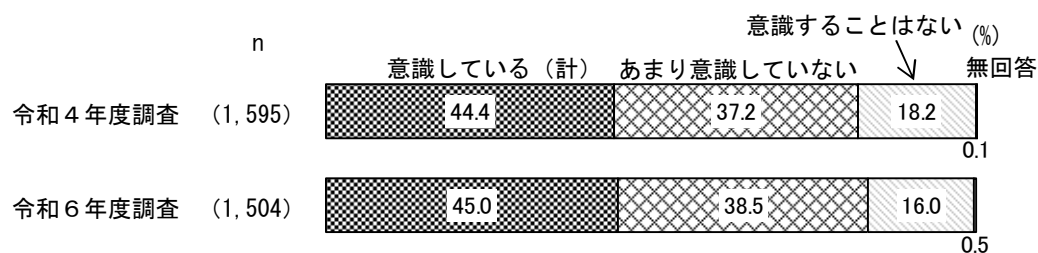
＜図表３－17＞買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無



買い物をする際に、「エシカル消費」を意識するかを聞いたところ、「いつも意識している」（5.5％）と「時々意識している」（39.6％）を合わせた『意識している（計）』（45.0％）が４割台半ばとなっている。

一方、「あまり意識していない」（38.5％）は約４割、「意識することはない」（16.0％）は１割台半ばとなっている。（図表３－17）

〔参考〕令和４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

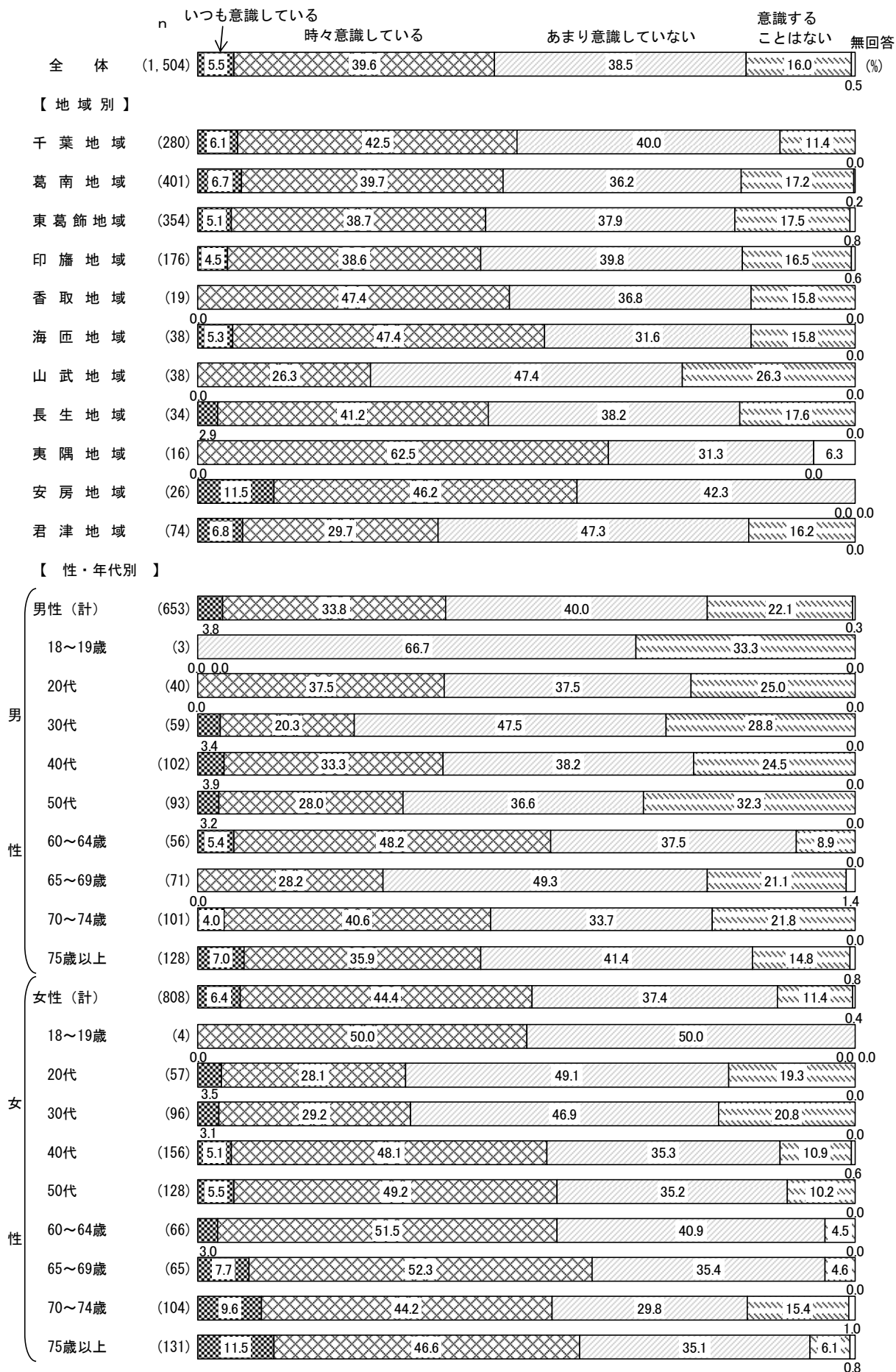
地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表３－18）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意識している（計）』は女性65～69歳（60.0％）が６割、女性75歳以上（58.0％）が約６割、女性50代（54.7％）が５割台半ば、女性40代（53.2％）が５割を超えて高くなっている。

（図表３－18）

＜図表 3－18＞買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無／地域別、性・年代別



このほかにも、「消費生活について」や問 7～問13について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、174人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「消費生活について」の自由回答（抜粋）

- 中学や高等学校で、消費者トラブルの教育も必要だと思います。闇バイトと知らずに普通のバイトと思い参加してしまうことがメディアで取り上げられているので。また、高齢者の特殊詐欺は地域で取り組む必要があるのと、金融機関の方や宅配業者の方の声かけで防ぐことができると思いますのでその方々の協力も不可欠だと思います。（女性、50代、東葛飾地域）

- 消費者トラブルは、巧妙な手口も多くなっているようで、常に最新情報を提供し、住民に共有・周知できる仕組みづくりが大切だと思います。いざ、自分の身近で何か起きないと、他人事と思い、意識が低いかと思うので、繰り返し根気強く周知が必要だと思います。（女性、30代、東葛飾地域）

- 消費者トラブルにあうと、泣き寝入りするしかないというイメージがある。被害回復にもう一歩踏み込んだ施策が必要だと思います。（女性、40代、千葉地域）

- トラブル回避についての勉強会を地元自治体が複数回開催して欲しい（参加しやすく）。点検商法について、発生もしくは出会った際の通報先を明らかにし、住民に速やかに周知の徹底を図って欲しい。（男性、70～74歳、安房地域）

- トラブルがあった際にもっと気軽に警察に相談できる環境であって欲しい。（女性、30代、葛南地域）

- 悪質事業者を排除する法や条例の整備や違反した場合の罰則の強化が必要だと思います。（女性、70～74歳、香取地域）

- インターネットでのトラブルが激増していると思う。巧妙でわかりにくくなっており、自分自身も通販トラブルにあった。トラブルを防ぐ教育や情報が追いついていない中、学校での教育を強化してほしい。（男性、30代、海匝地域）

- エシカル消費については、もっと売場や商品に、消費者にわかるような工夫があれば選ぶことができる機会が増えると考えます（女性、65～69歳、千葉地域）

- エコ商品、被災地産品は、一般スーパーにおいて表記があるため分かりやすいと思うが、障害者支援に繋がる商品やフェアトレード商品は、一般スーパーで買い物をする上で、置いてあるかどうか、分かりにくい。（女性、30代、葛南地域）

- フェアトレード商品やエコ商品等をいつも選びたいと思うが、経済的にきびしい。（男性、75歳以上、東葛飾地域）

4 有機農業について

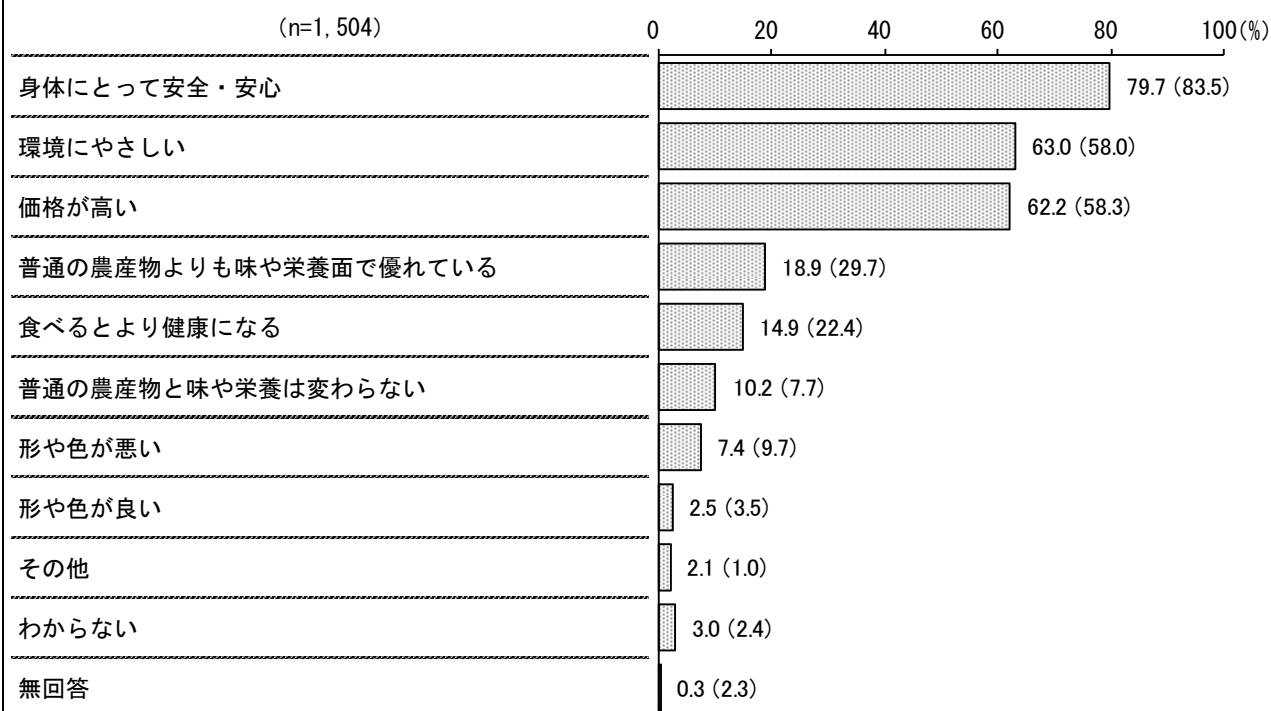
（１）有機農産物に対するイメージ

◇「身体にとって安全・安心」が約８割

問14 あなたは、有機農業により生産される農産物に対して、どのようなイメージを持っていますか。（〇はいくつでも）

※ 有機農業とは、化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと、遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、環境への負担をできるだけ小さくした生産方法で行われる農業を指します。

＜図表４－１＞有機農産物に対するイメージ（複数回答）



注) () の数字は平成 30 年度の同様の項目による調査結果 n = 1,212

有機農産物に対するイメージを聞いたところ、「身体にとって安全・安心」（79.7%）が約８割で最も高く、以下、「環境にやさしい」（63.0%）、「価格が高い」（62.2%）、「普通の農産物よりも味や栄養面で優れている」（18.9%）が続く。（図表４－１）

【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表４－２）

【性・年代別】

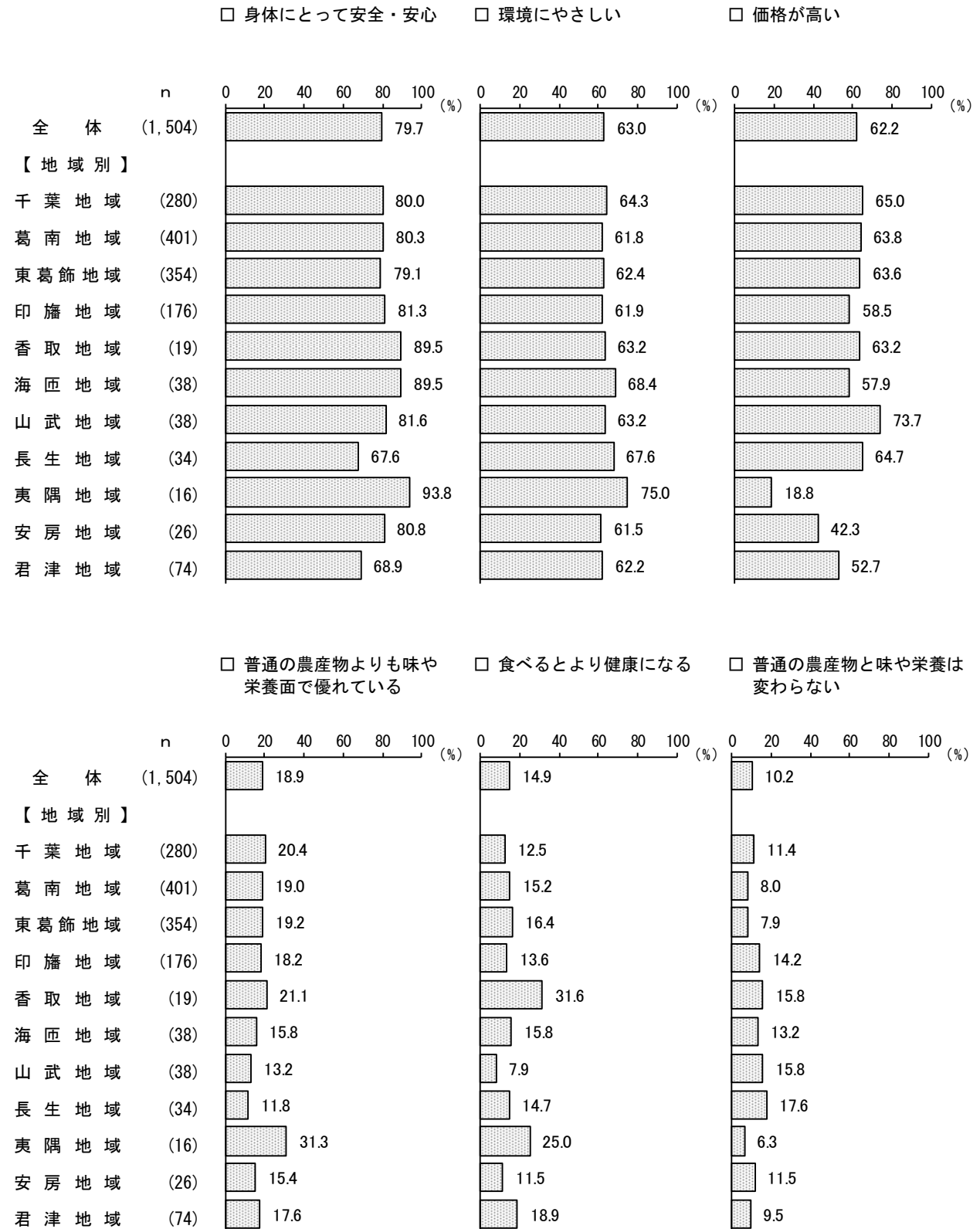
性・年代別にみると、「身体にとって安全・安心」は、女性75歳以上（90.8%）が９割、女性50代（89.1%）が約９割で高くなっている。

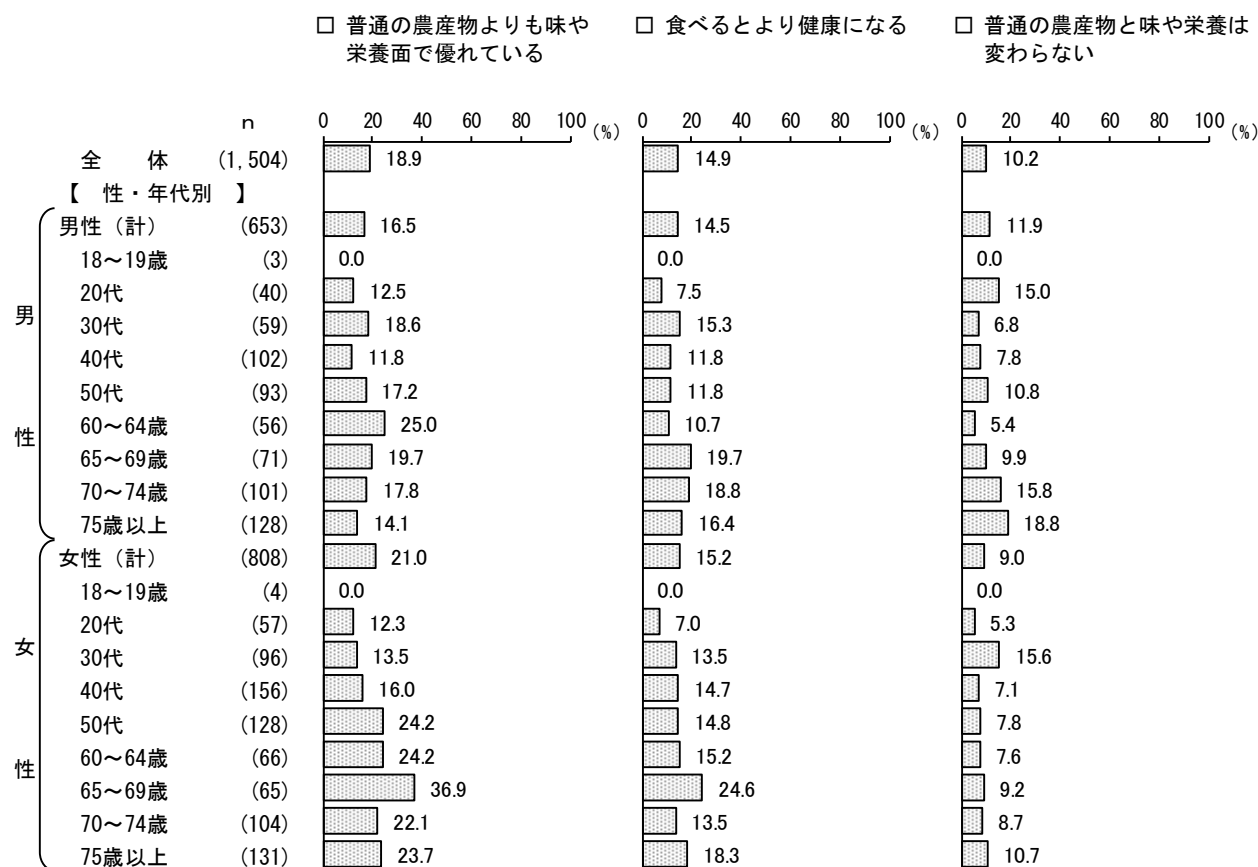
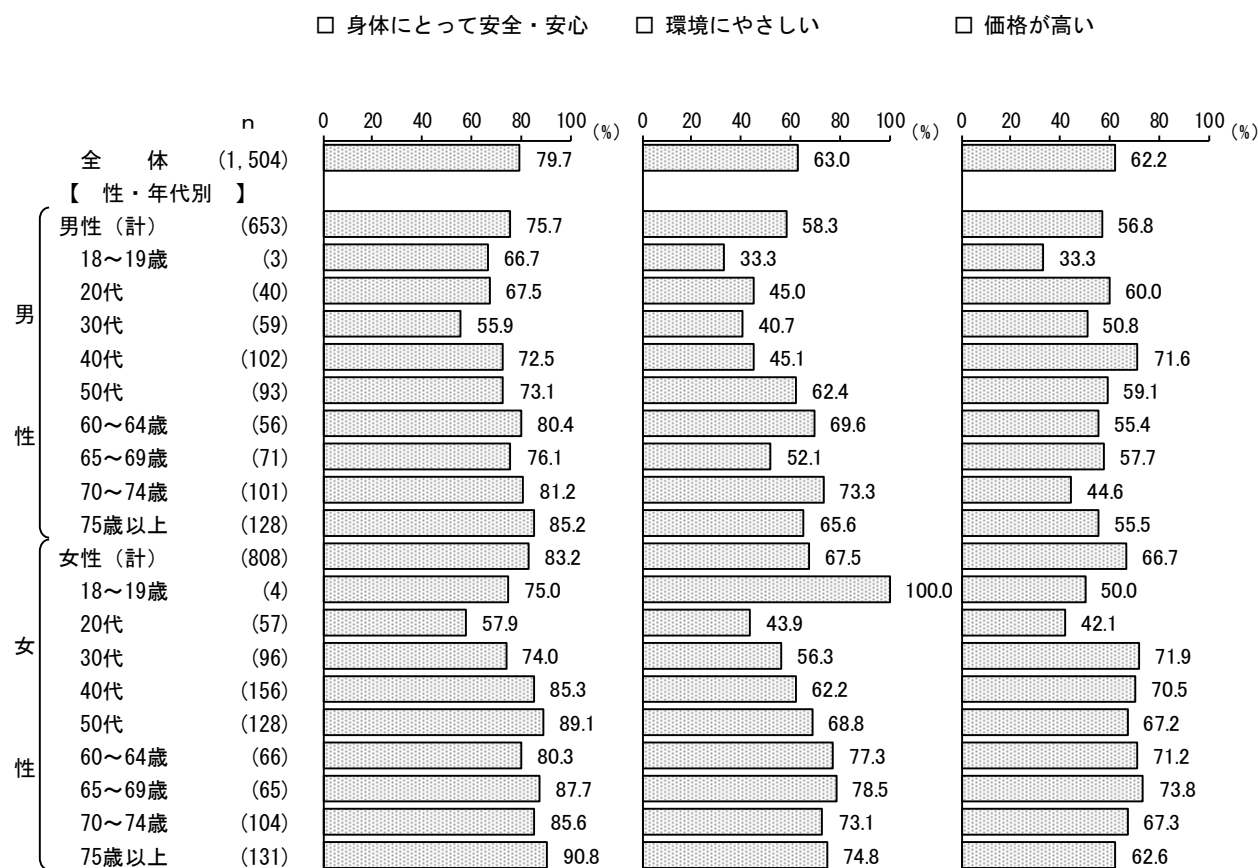
「環境にやさしい」は、女性65～69歳（78.5%）、女性60～64歳（77.3%）が約８割、女性75歳以上（74.8%）が７割台半ば、男性70～74歳（73.3%）、女性70～74歳（73.1%）が７割を超えて高く

なっている。

「価格が高い」は、女性65～69歳（73.8%）が7割台半ば、女性30代（71.9%）、男性40代（71.6%）が7割を超え、女性40代（70.5%）が7割で高くなっている。（図表4－2）

＜図表4－2＞有機農産物に対するイメージ（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



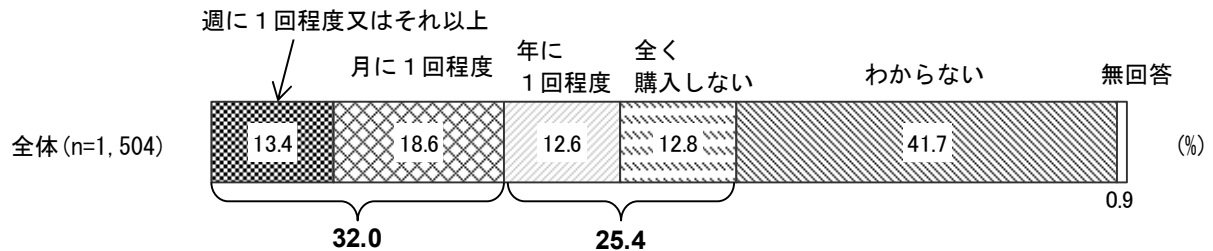


（２）有機農業により生産される農産物の購入頻度

◇『購入する（計）』は３割を超える

問15 あなたは、どのくらいの頻度で、有機農業により生産される農産物を購入していますか。（○は１つ）

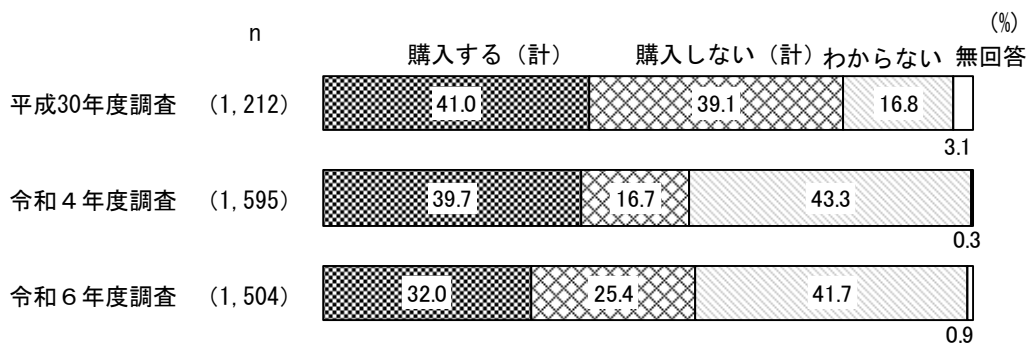
＜図表４－３＞有機農業により生産される農産物の購入頻度



有機農業により生産される農産物の購入頻度を聞いたところ、「週に１回程度又はそれ以上」（13.4％）と「月に１回程度」（18.6％）を合わせた『購入する（計）』（32.0％）は３割を超えている。

一方、「年に１回程度」（12.6％）と「全く購入しない」（12.8％）を合わせた『購入しない（計）』（25.4％）は２割台半ばとなっている。（図表４－３）

〔参考〕平成30年度・令和４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

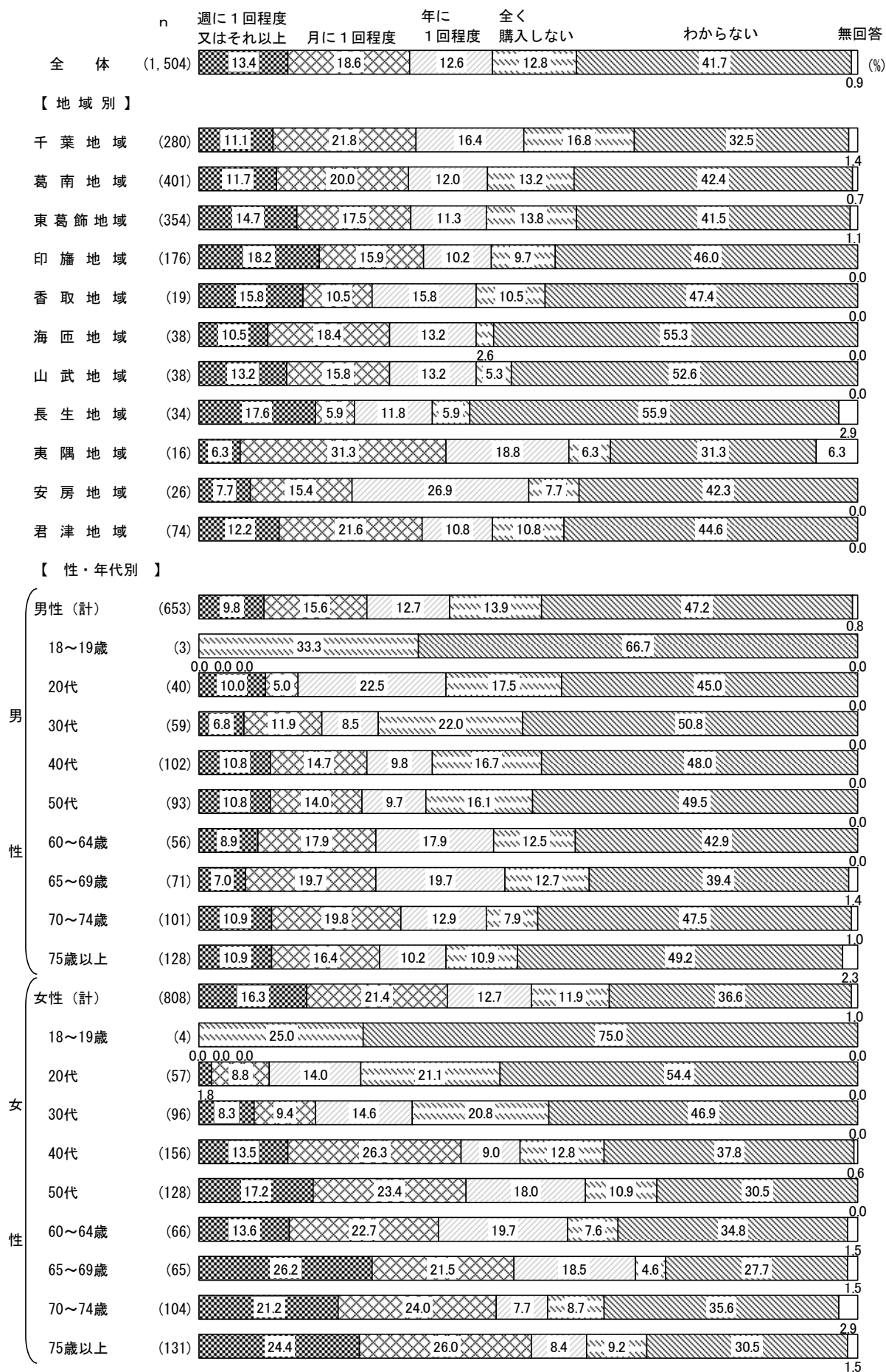
地域別にみると、『購入しない（計）』は“千葉地域”（33.2％）が３割を超えて高くなっている。（図表４－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『購入する（計）』は、女性75歳以上（50.4％）が５割、女性65～69歳（47.7％）が約５割、女性70～74歳（45.2％）が４割台半ば、女性50代（40.6％）が４割、女性40代（39.7％）が約４割で高くなっている。

一方、『購入しない（計）』は、男性20代（40.0％）が４割、女性30代（35.4％）が３割台半ばで高くなっている。（図表４－４）

<図表 4-4>有機農業により生産される農産物の購入頻度／地域別、性・年代別



（２－１）有機農産物購入理由

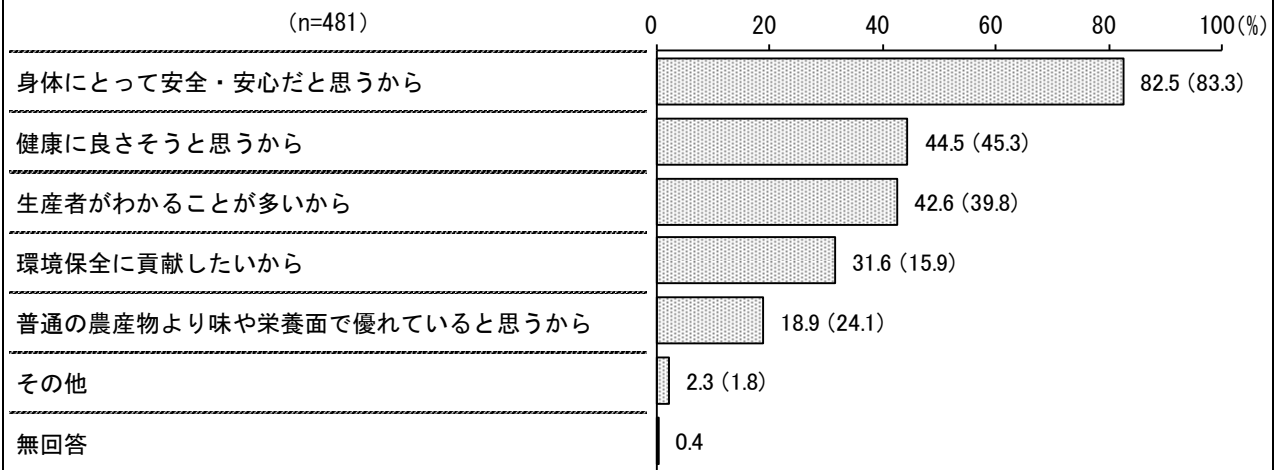
◇「身体にとって安全・安心だと思うから」が８割を超える

（問15で「週に１回程度又はそれ以上」、「月に１回程度」のいずれかをお答えの方に）

問15－１ あなたが、有機農業により生産される農産物を購入する理由は何ですか。

（○はいくつでも）

<図表４－５>有機農産物購入理由（複数回答）



注）（ ）の数字は平成 30 年度の同様の項目による調査結果 n = 497

有機農産物の購入理由を聞いたところ、「身体にとって安全・安心だと思うから」（82.5％）が８割を超えて最も高く、以下、「健康に良さそうと思うから」（44.5％）、「生産者がわかることが多いから」（42.6％）、「環境保全に貢献したいから」（31.6％）が続く。（図表４－５）

【地域別】

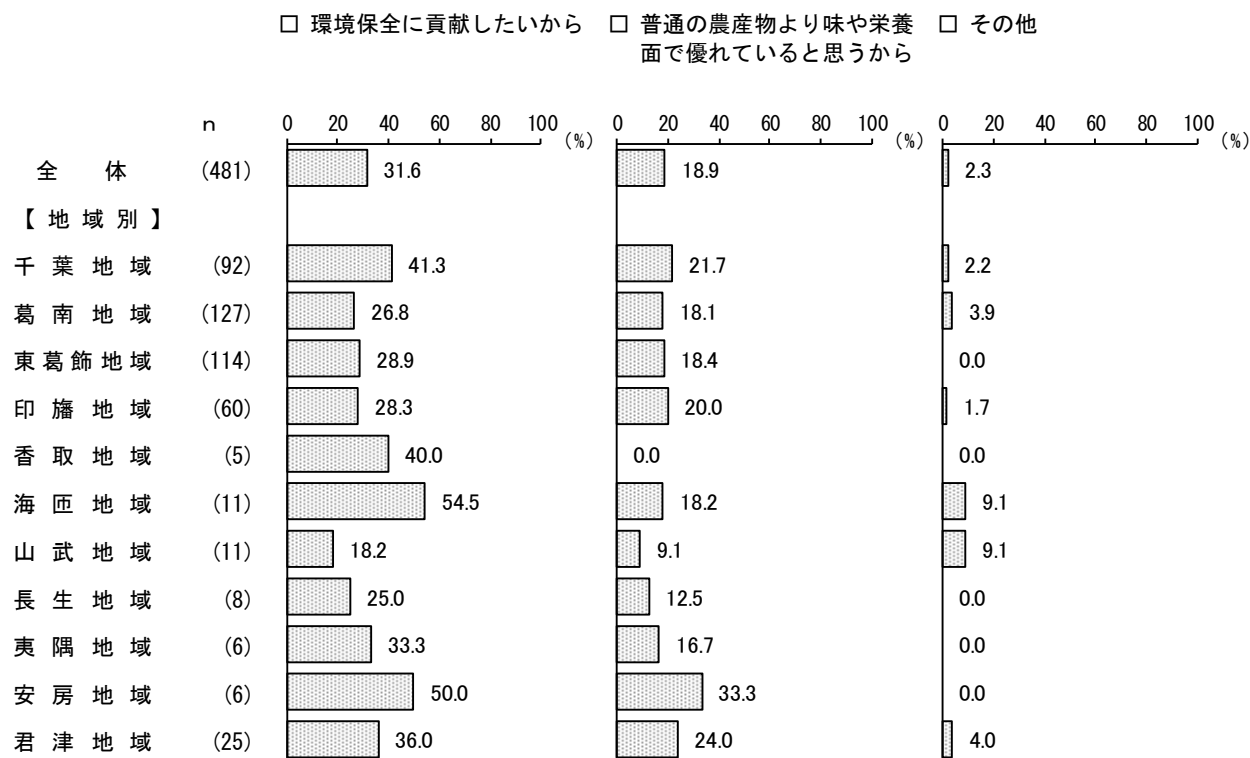
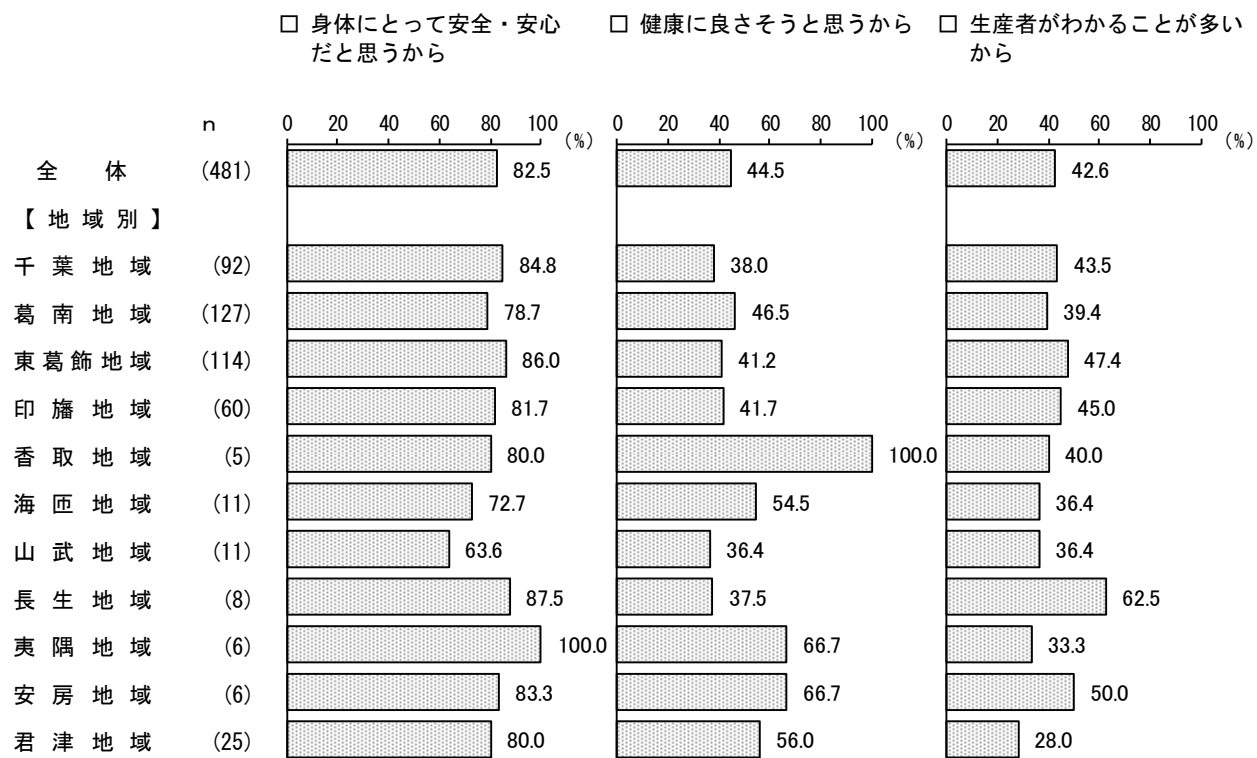
地域別にみると、「環境保全に貢献したいから」は“千葉地域”（41.3％）が４割を超えて高くなっている。（図表４－６）

【性・年代別】

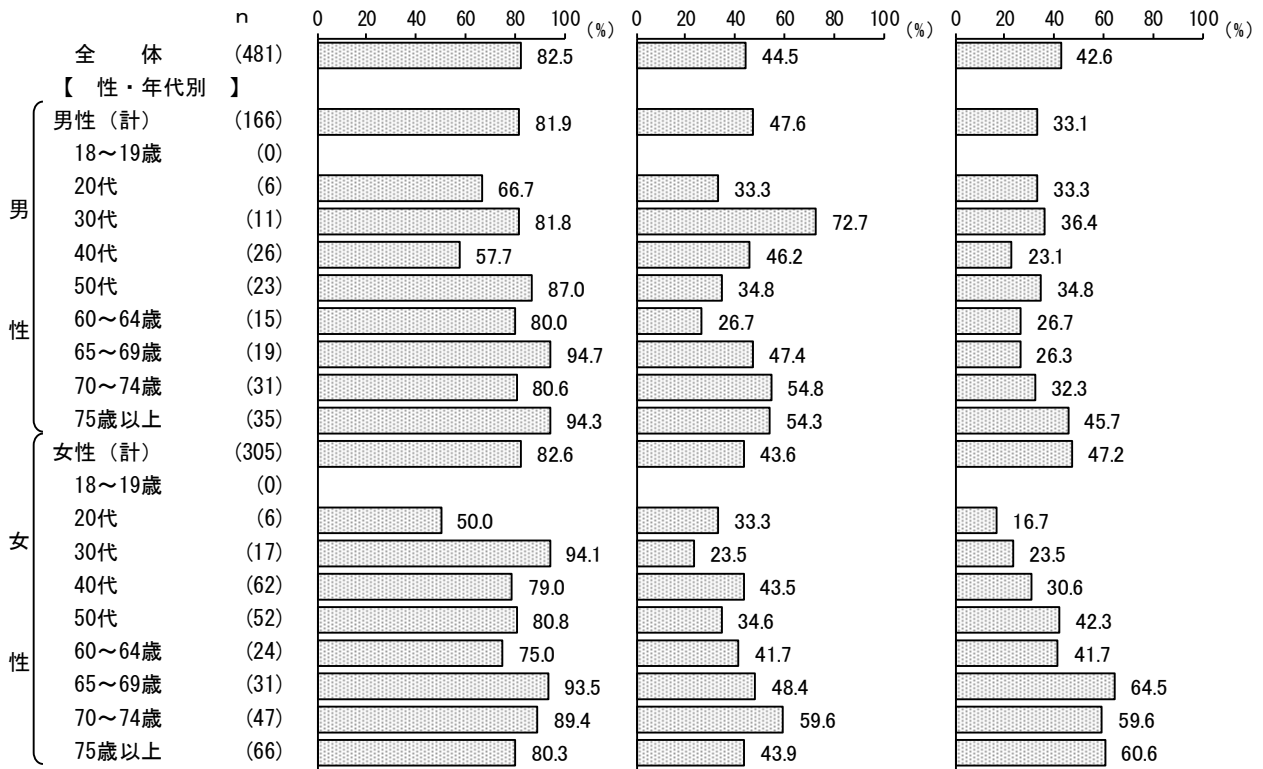
性・年代別にみると、「健康に良さそうと思うから」は、女性70～74歳（59.6％）が約６割で高くなっている。

「生産者がわかることが多いから」は、女性65～69歳（64.5％）が６割台半ば、女性75歳以上（60.6％）が６割、女性70～74歳（59.6％）が約６割で高くなっている。（図表４－６）

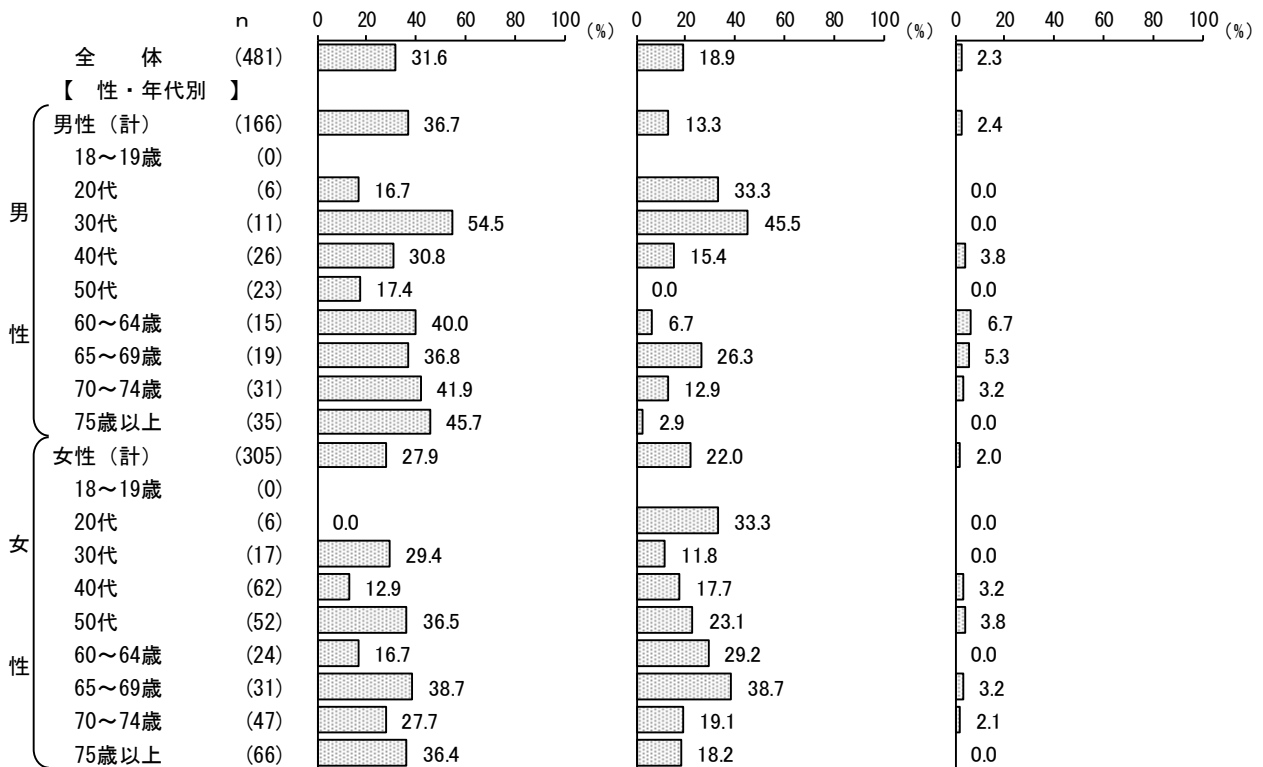
＜図表 4－6＞有機農産物購入理由（複数回答）／地域別、性・年代別



□ 身体にとって安全・安心
と思うから □ 健康に良さそうと思うから □ 生産者がわかることが多い
から

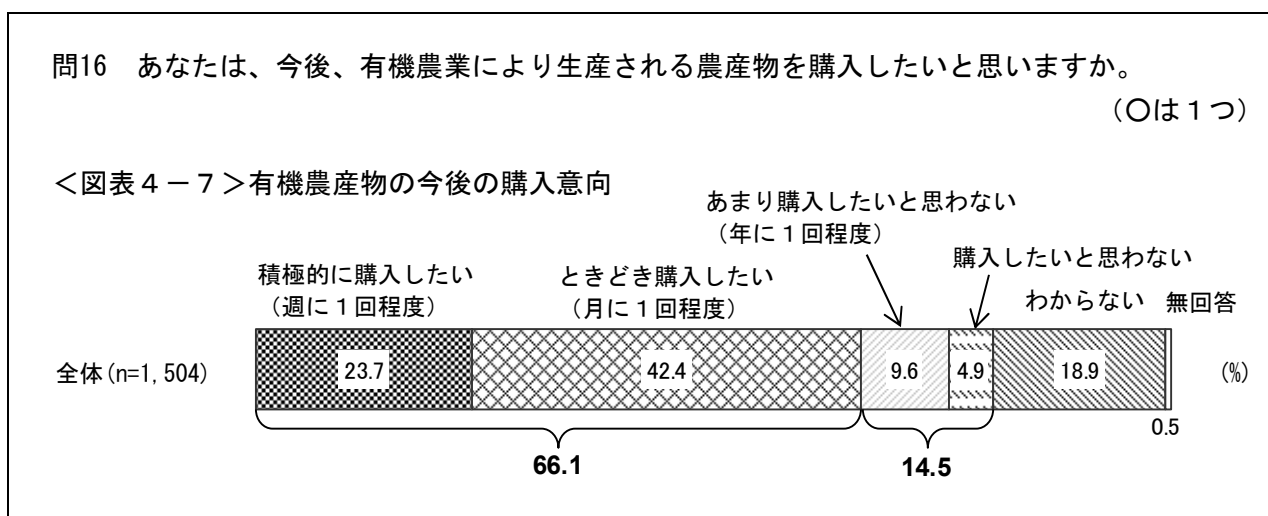


□ 環境保全に貢献したいから □ 普通の農産物より味や栄養
面で優れていると思うから □ その他



（３）有機農産物の今後の購入意向

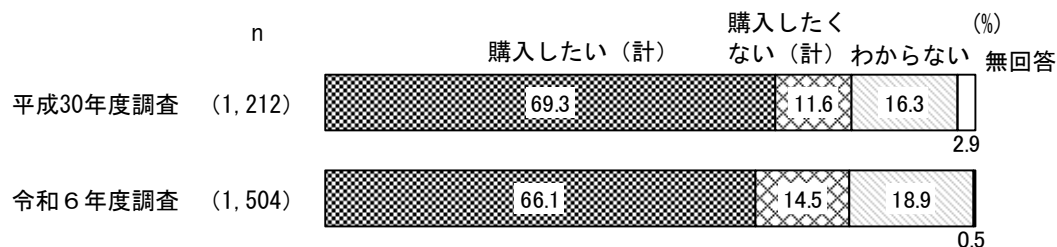
◇『購入したい（計）』は６割台半ば



有機農産物の今後の購入意向を聞いたところ、「積極的に購入したい（週に1回程度）」（23.7%）と「ときどき購入したい（月に1回程度）」（42.4%）を合わせた『購入したい（計）』（66.1%）は6割台半ばとなっている。

一方、「あまり購入したいと思わない（年に1回程度）」（9.6%）と「購入したいと思わない」（4.9%）を合わせた『購入したくない（計）』（14.5%）は1割台半ばとなっている。（図表４－７）

〔参考〕平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

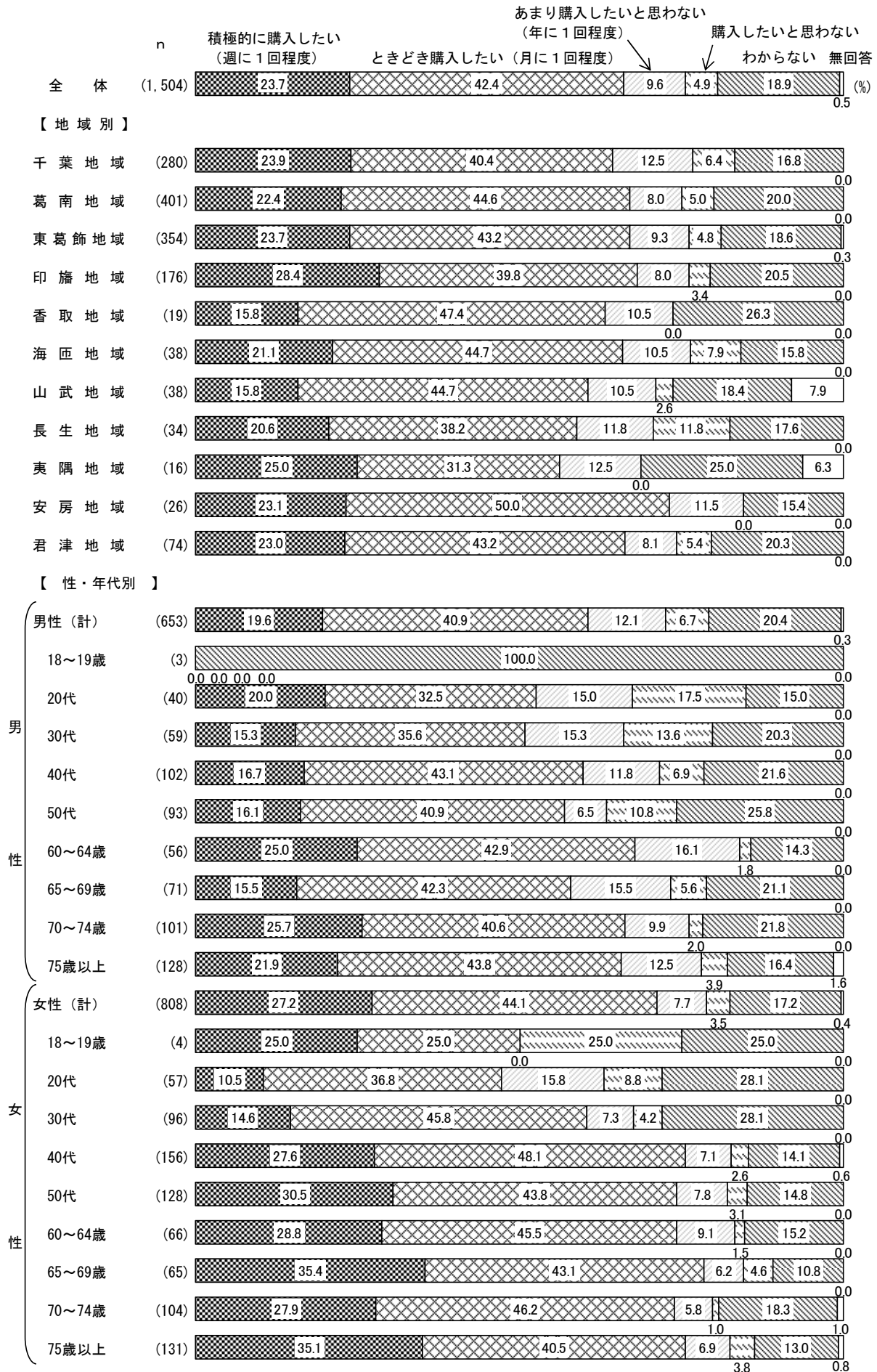
地域別にみると、『購入したくない（計）』は“千葉地域”（18.9%）が約2割で高くなっている。
(図表４－８)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『購入したい（計）』は、女性65～69歳（78.5%）が約8割、女性40代（75.6%）、女性75歳以上（75.6%）、女性50代（74.2%）が7割台半ばで高くなっている。

一方、『購入したくない（計）』は、男性20代（32.5%）が3割を超え、男性30代（28.8%）が約3割、女性20代（24.6%）が2割台半ばで高くなっている。（図表４－８）

＜図表４－８＞有機農産物の今後の購入意向／地域別、性・年代別



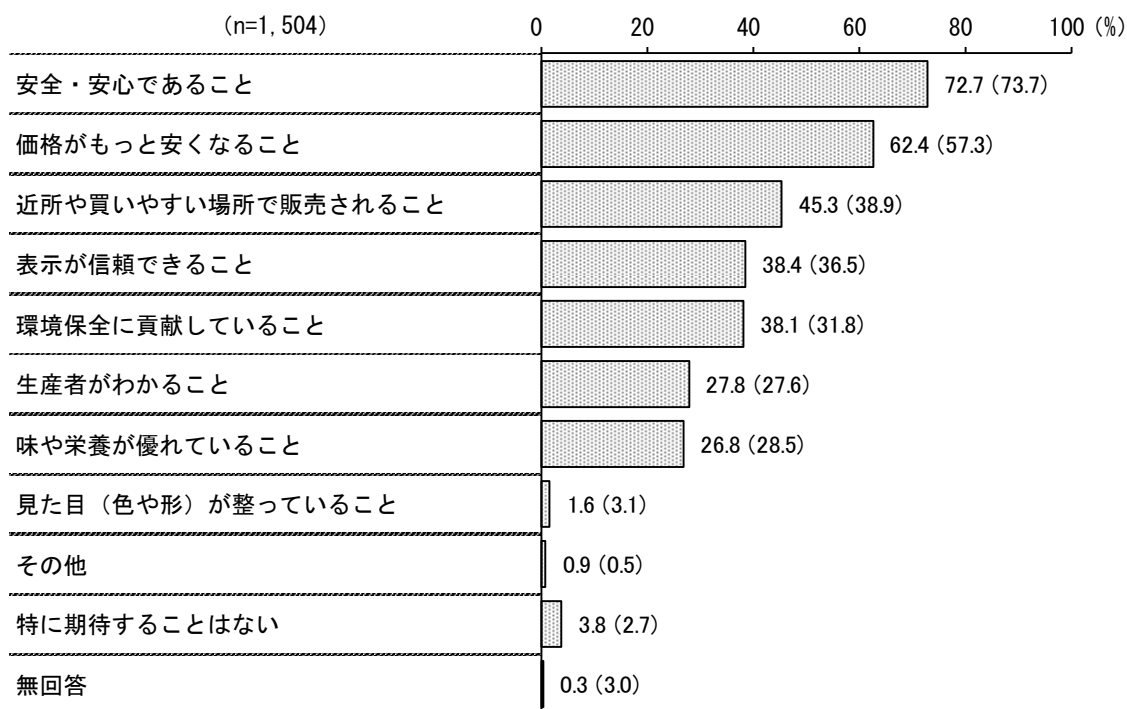
（４）有機農産物に今後期待すること

◇「安全・安心であること」が７割を超える

問17 あなたは、今後、有機農業により生産される農産物について、何を期待しますか。

（○はいくつでも）

＜図表４－９＞有機農産物に今後期待すること（複数回答）



注）（ ）の数字は平成 30 年度の同様の項目による調査結果 n = 1,212

有機農産物に今後期待することを聞いたところ、「安全・安心であること」（72.7%）が７割を超えて最も高く、以下、「価格がもっと安くなること」（62.4%）、「近所や買いやすい場所で販売されること」（45.3%）、「表示が信頼できること」（38.4%）が続く。（図表４－９）

【地域別】

地域別にみると、「安全・安心であること」は“印旛地域”（80.1%）が８割で高くなっている。

「価格がもっと安くなること」は“千葉地域”（67.5%）が約７割で高くなっている。

（図表４－10）

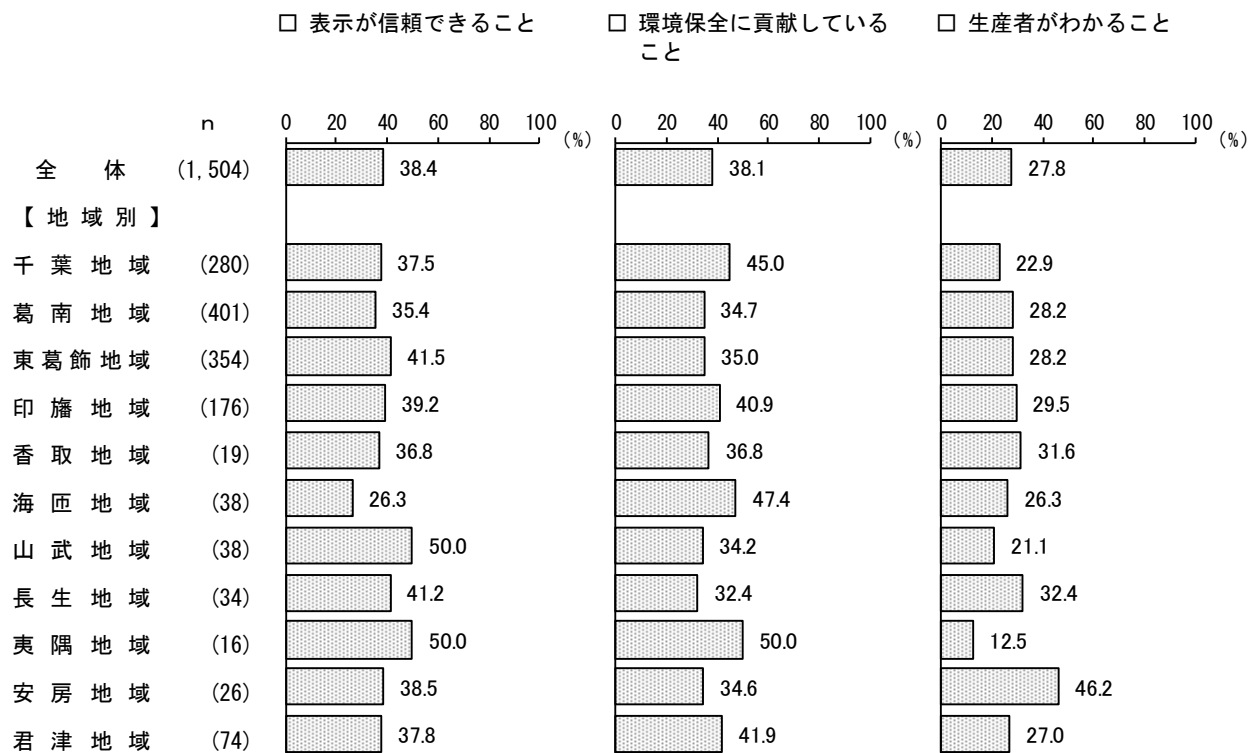
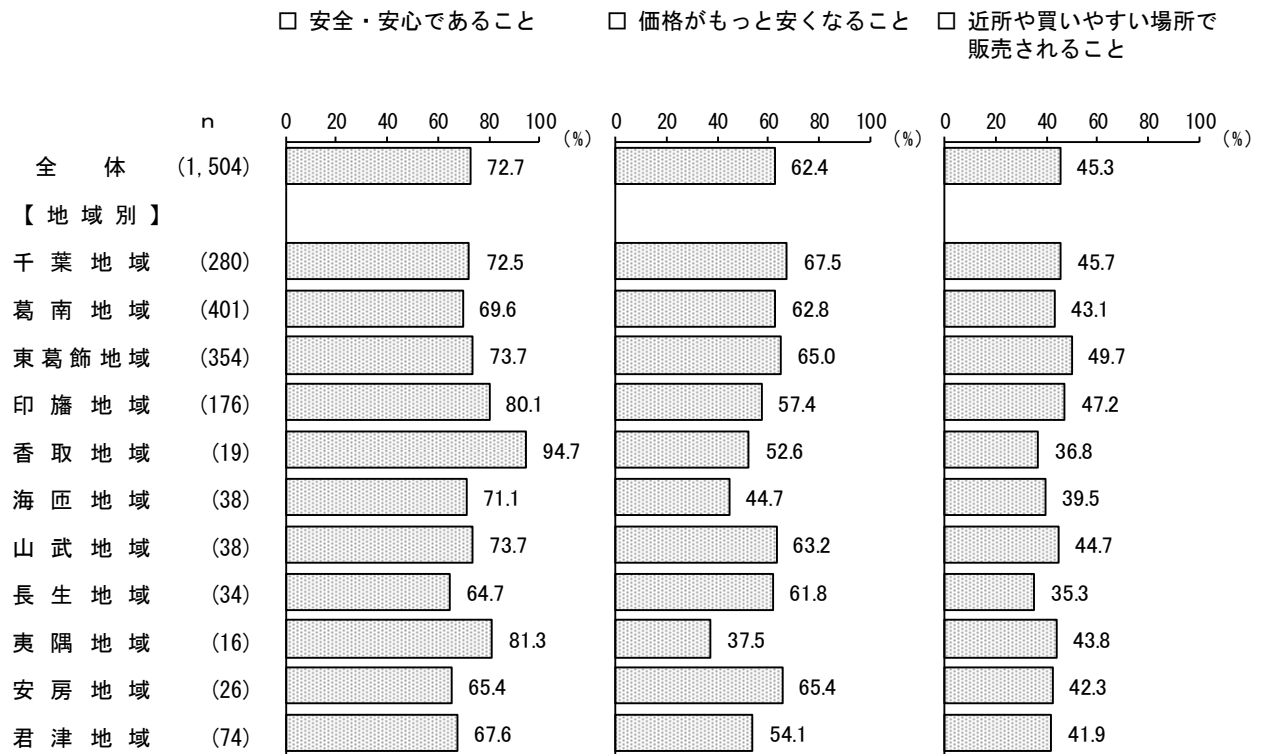
【性・年代別】

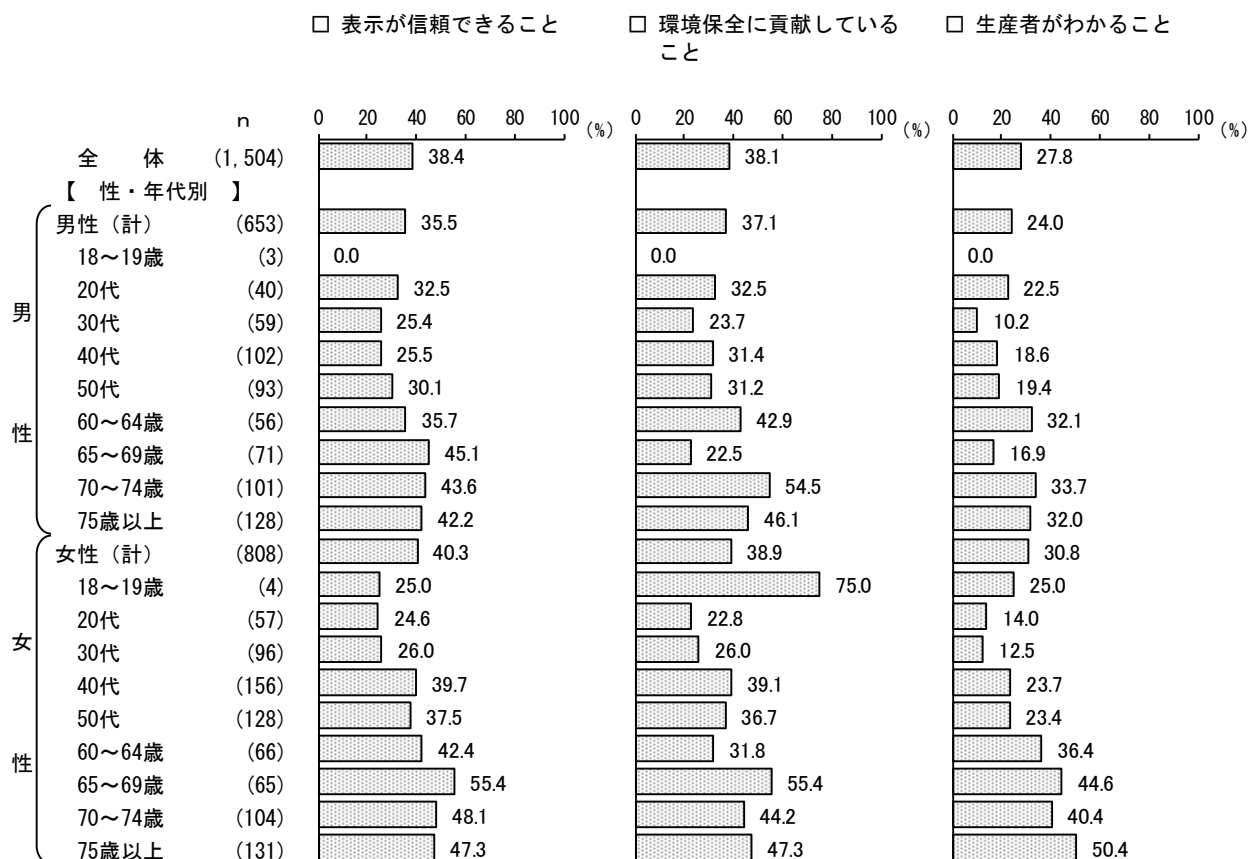
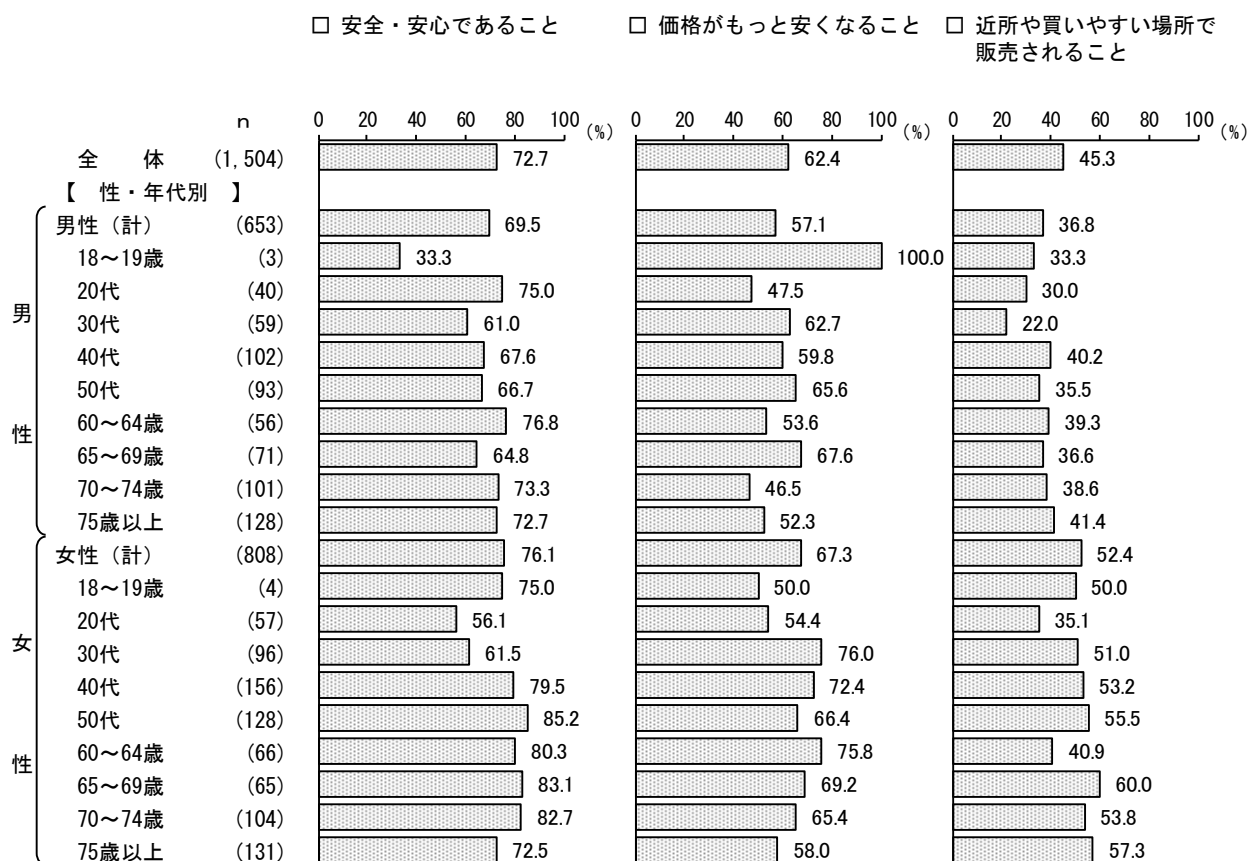
性・年代別にみると、「安全・安心であること」は、女性50代（85.2%）が８割台半ば、女性70～74歳（82.7%）が８割を超え、女性40代（79.5%）が約８割で高くなっている。

「価格がもっと安くなること」は、女性30代（76.0%）、女性60～64歳（75.8%）が７割台半ば、女性40代（72.4%）が７割を超えて高くなっている。

「近所や買いやすい場所で販売されること」は、女性65～69歳（60.0%）が６割、女性75歳以上（57.3%）が約６割、女性50代（55.5%）が５割台半ば、女性40代（53.2%）が５割を超えて高くなっている。（図表４－10）

＜図表４－10＞有機農産物に今後期待すること（複数回答）／地域別、性・年代別（上位６項目）





このほかにも、「有機農業について」や問14～問17について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、170人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「有機農業について」の自由回答（抜粋）

○有機農業商品は、高価なイメージがあり、手を出しにくい。県内で生産されているものについては、可能な範囲で安価に提供していただきたい。

（男性、40代、葛南地域）

○有機農業は環境には良いと思いますが、実際手間がかかり農業に携わる人の高齢化や人材不足によって難しい面もあるのでは。

（男性、70～74歳、千葉地域）

○有機農業について、ほとんど知識が無く、必要性がどこにあるのかわからない。有機農業で生産された野菜のどこがすばらしいのかももう少しアピールすべきです。

（男性、65～69歳、葛南地域）

○有機作物は高い印象がある人が多いと思います。でも高いのではなく、普通の作物の値段が安すぎるだけです。だから後継者がいなくなり、耕作放棄地が増えるのです。いざとなれば輸入すればいいやと考えているのでしょうか？ 農家を大切にするような政策など、国民の意識もそうですが、考えていかないと本当にまずいと思います。宜しくお願いします。

（男性、30代、安房地域）

○身体に良いし美味しいことは分かっていて、以前はよく購入していましたが、高値になり家計も苦しくなってからは、残念ながら買っていません。

（男性、60～64歳、印旛地域）

○近所のスーパーで販売されることが少なく、遠くの道の駅等で購入している。観光PRも含めて各道の駅で販売されている情報提供をして欲しい。

（男性、70～74歳、千葉地域）

○学校給食に積極的にとり入れてほしい。

（性別無回答、年齢無回答、千葉地域）

○化成肥料を有機肥料に変更した場合の差額を補助金で交付するのはどうでしょうか。

（性別回答しない、30代、印旛地域）

○料理が苦手なので、農産物をそのまま販売されるより、美味しい惣菜や加工品にされていると購入したいと思う。

（女性、30代、葛南地域）

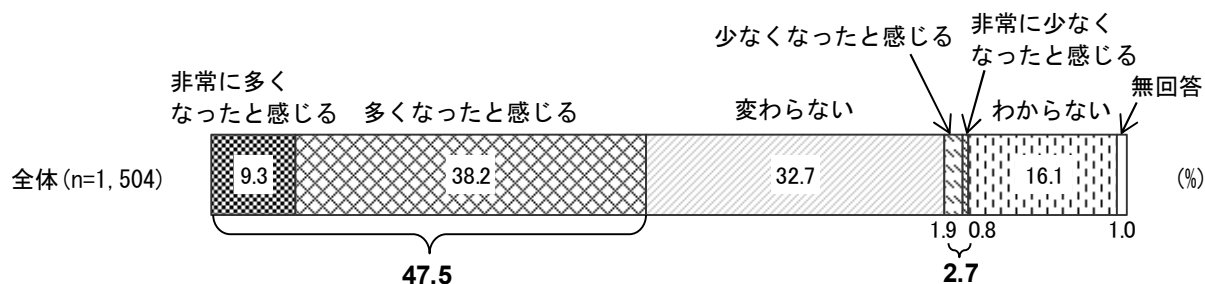
5 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

（１）お住まいの地域の犯罪発生状況

◇『多くなったと感じる（計）』が約５割

問18 あなたは、現在お住まいの地域における最近の犯罪の発生状況について、どう感じますか。（○は１つ）

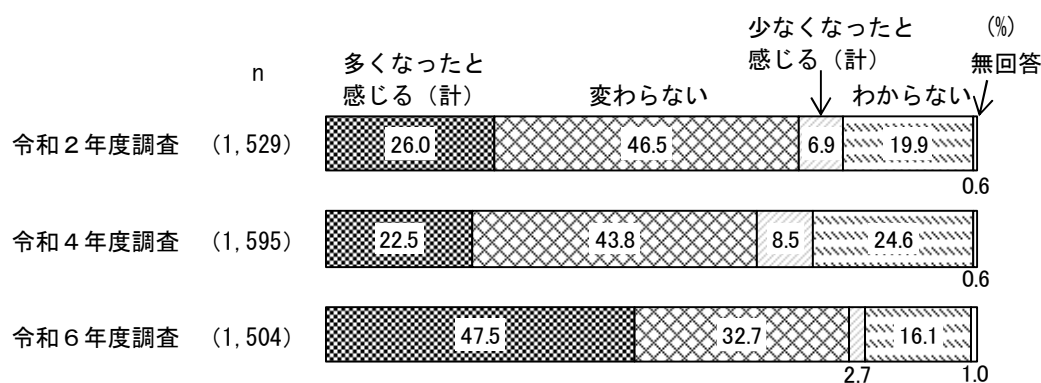
＜図表５－１＞ お住まいの地域の犯罪発生状況



お住まいの地域の犯罪発生状況について、「非常に多くなったと感じる」（9.3%）と「多くなったと感じる」（38.2%）を合わせた『多くなったと感じる（計）』（47.5%）が約５割となっている。

一方、「少なくなったと感じる」（1.9%）と「非常に少なくなったと感じる」（0.8%）を合わせた『少なくなったと感じる（計）』（2.7%）が１割未満となっている。（図表５－１）

〔参考〕令和２年度・４年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『多くなったと感じる（計）』は“葛南地域”（54.4%）が５割台半ばで高くなっている。

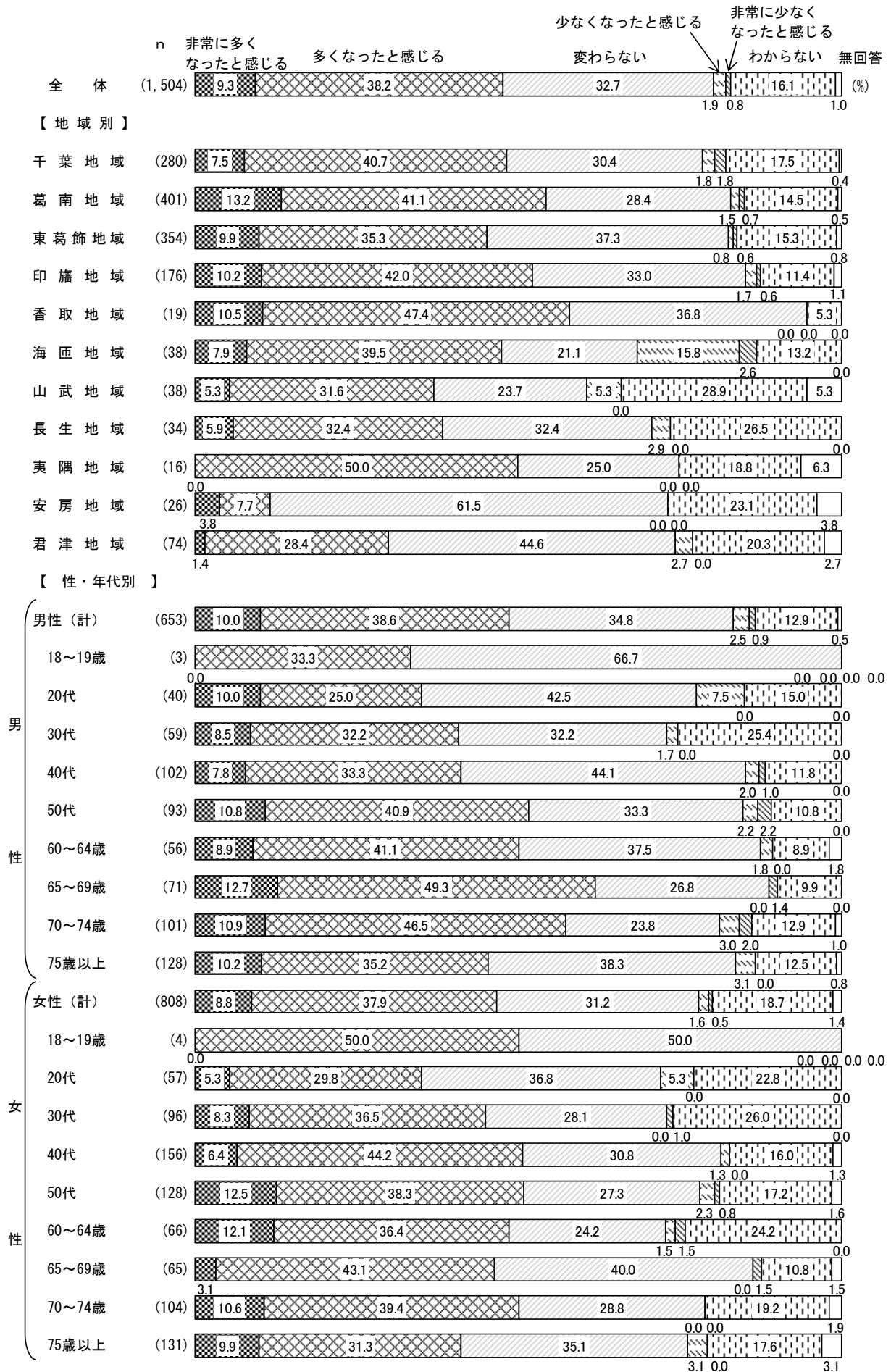
一方、『少なくなったと感じる（計）』は“海匠地域”（18.4%）が約２割で高くなっている。

（図表５－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『多くなったと感じる（計）』は、男性65～69歳（62.0%）が６割を超え、男性70～74歳（57.4%）が約６割で高くなっている。（図表５－２）

＜図表５－２＞お住まいの地域の犯罪発生状況／地域別、性・年代別

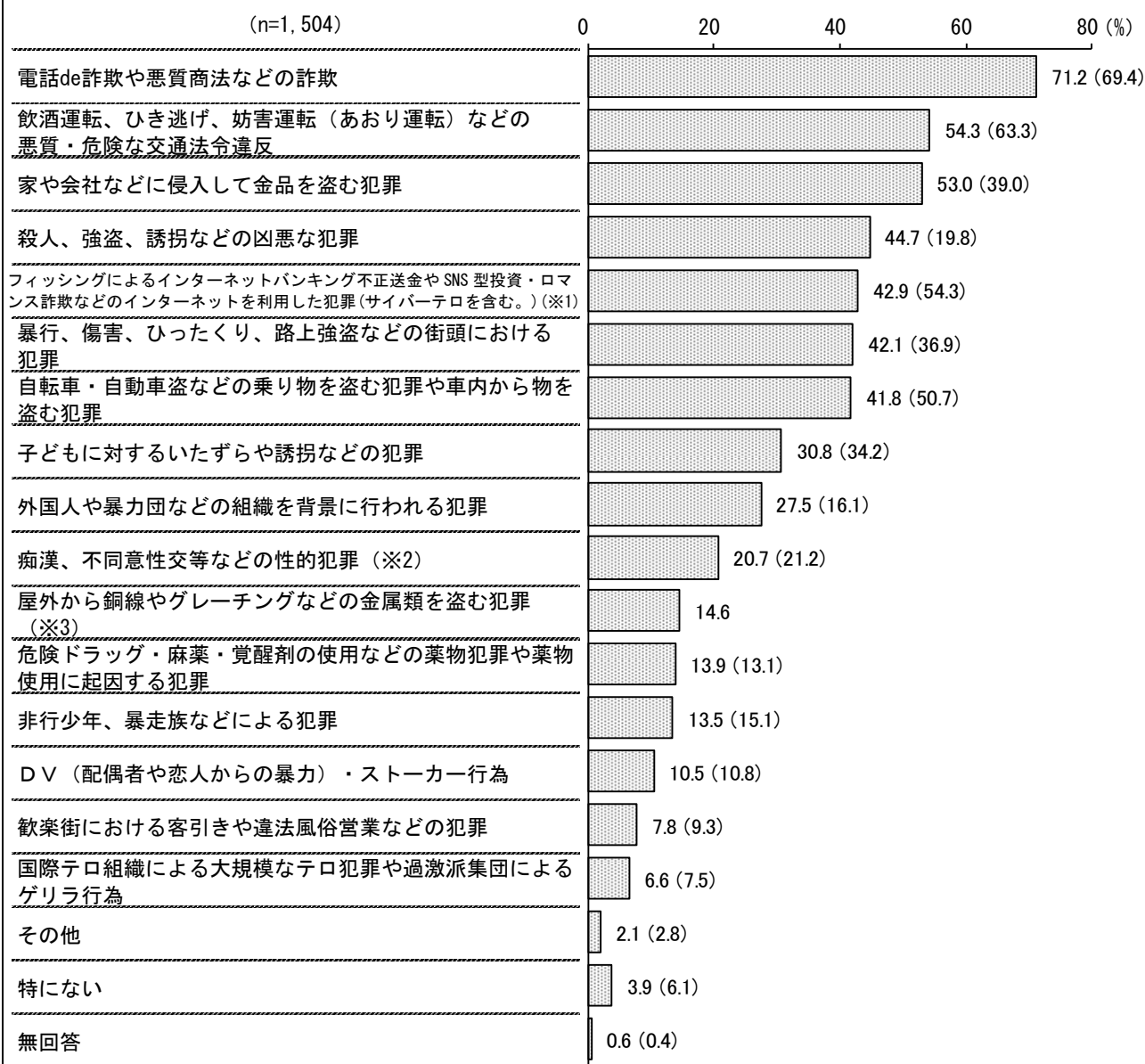


（２）自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪

◇「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」が7割を超える

問19 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じている犯罪はありますか。（○はいくつでも）

<図表５－３>自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪（複数回答）



注）（ ）の数字は令和4年度の同様の項目による調査結果 n=1,595

（※1）令和4年度調査では「インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）」

（※2）令和4年度調査では「痴漢、強制性交等などの性的犯罪」

（※3）「屋外から銅線やグレーチングなどの金属類を盗む犯罪」は今回調査から追加

自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪について聞いたところ、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」（71.2%）が7割を超えて最も高く、以下、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」（54.3%）、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」（53.0%）、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」（44.7%）が続く。（図表５－３）

【地域別】

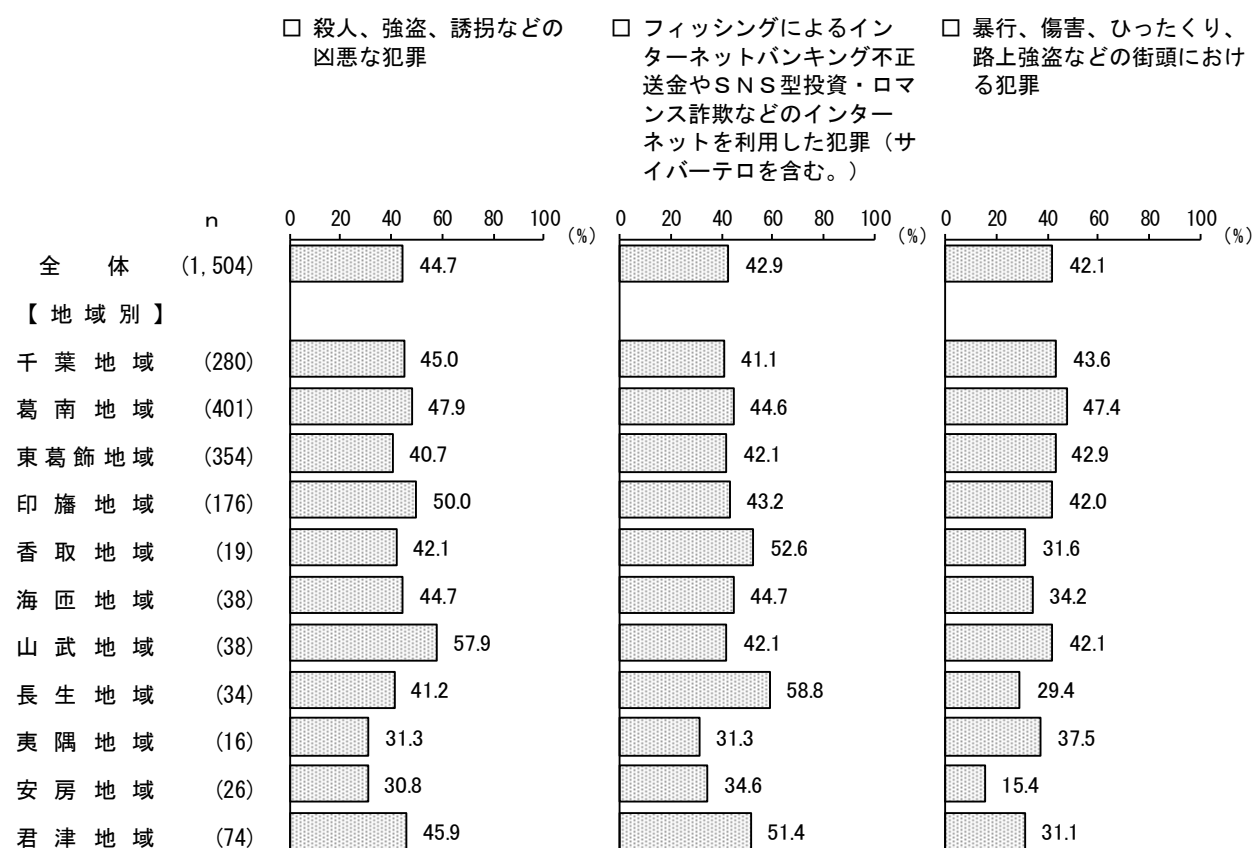
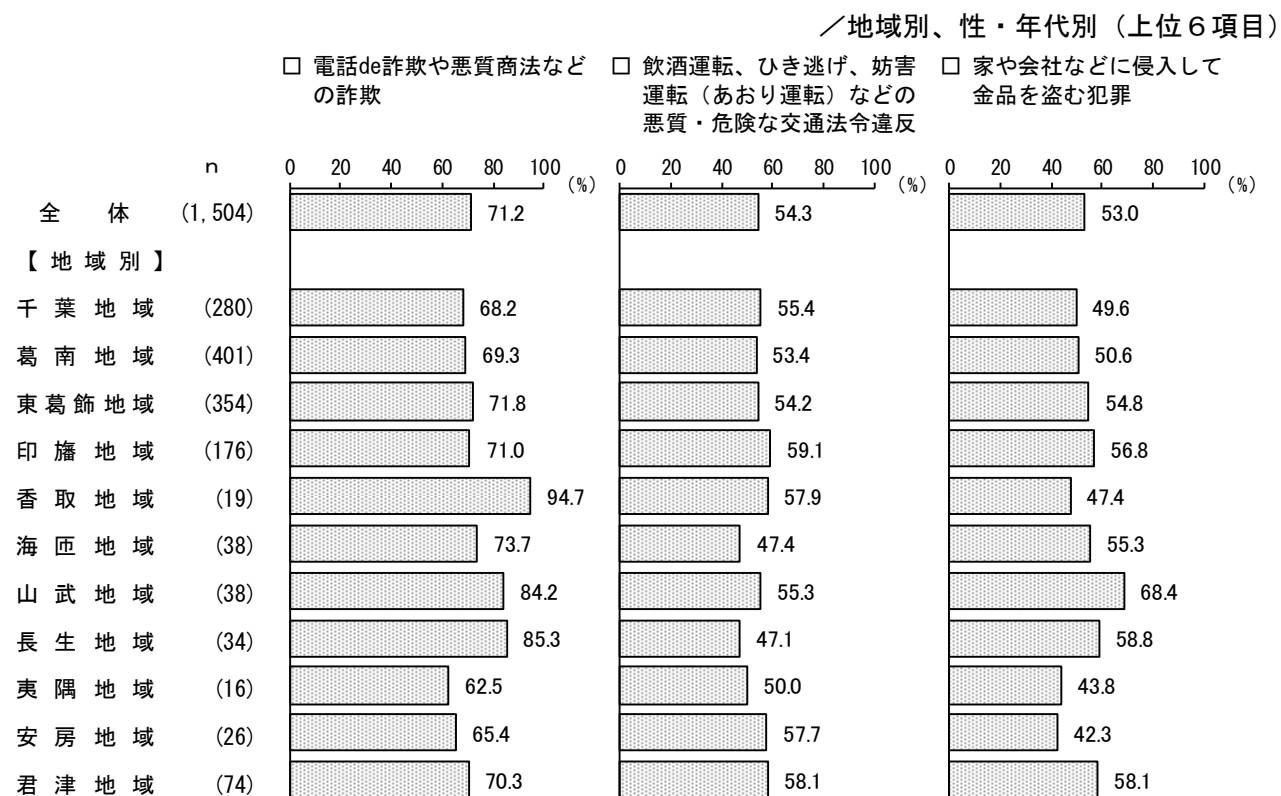
地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表 5－4）

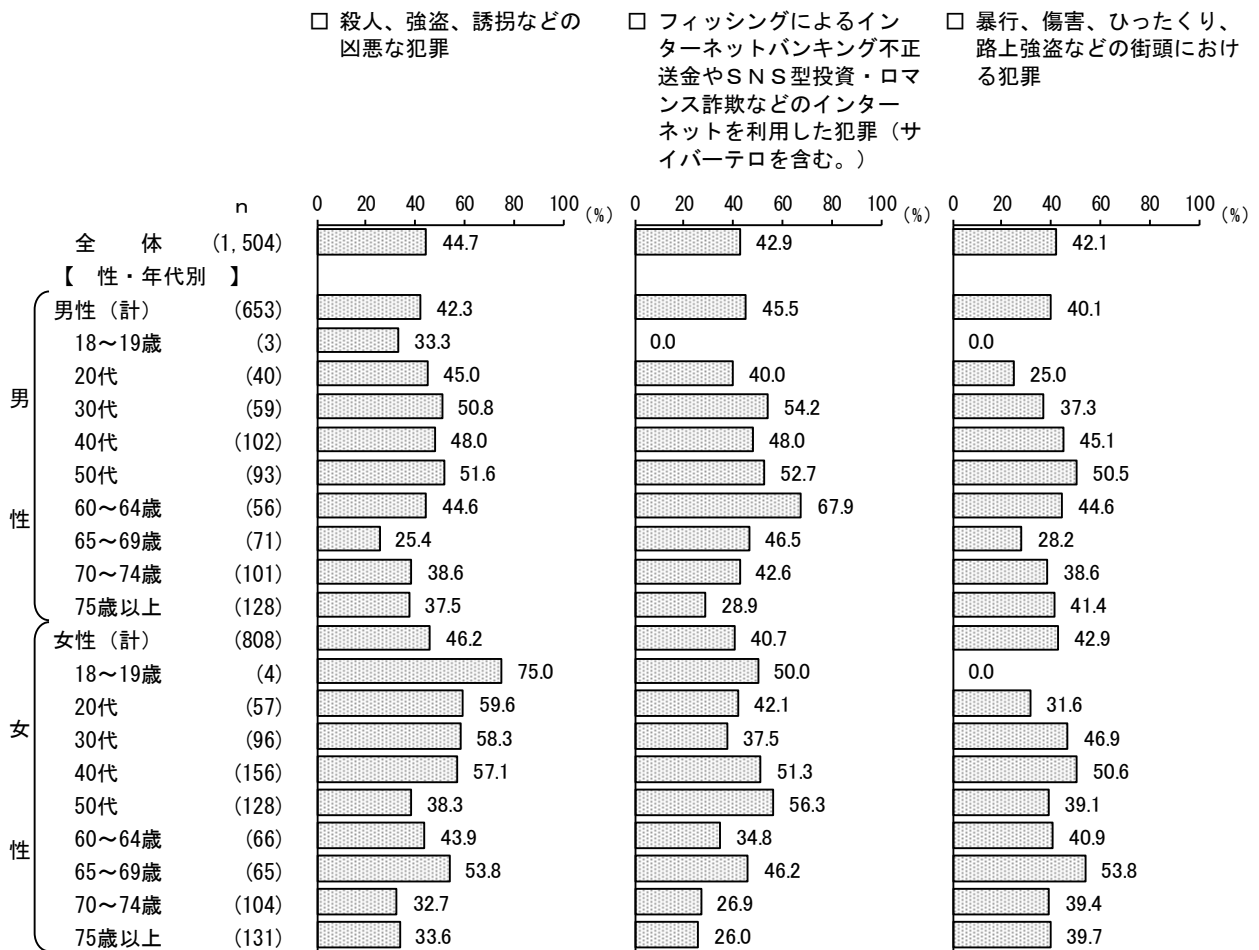
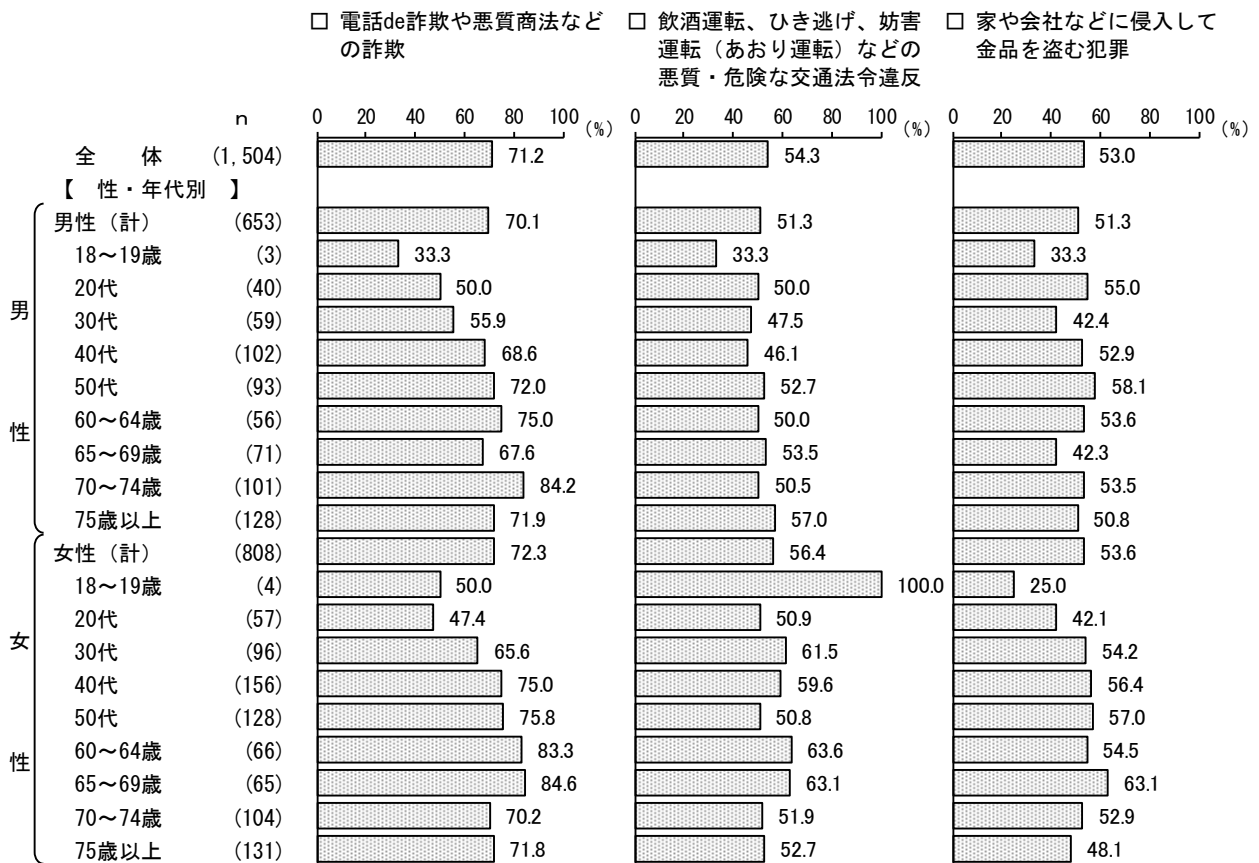
【性・年代別】

性・年代別にみると、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」は、女性65～69歳（84.6%）、男性70～74歳（84.2%）が8割台半ば、女性60～64歳（83.3%）が8割を超えて高くなっている。

「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」は、女性20代（59.6%）、女性30代（58.3%）、女性40代（57.1%）が約6割で高くなっている。（図表 5－4）

＜図表５－４＞自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪（複数回答）



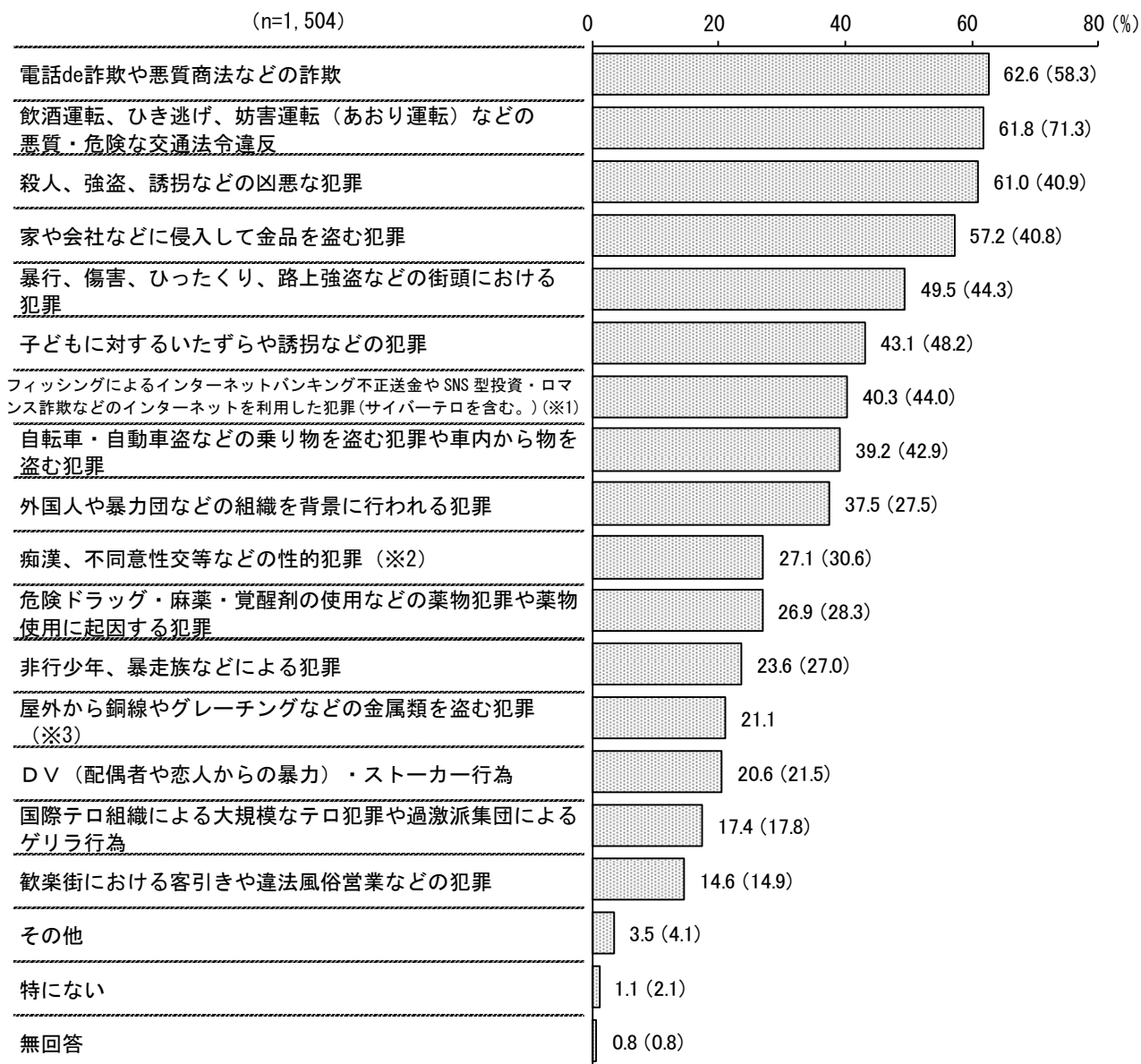


（３）警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪

◇「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」が６割を超える

問20 あなたが、警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表５－５＞警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪（複数回答）



注）（ ）の数字は令和4年度の同様の項目による調査結果 n=1,595

（※1）令和4年度調査では「インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）」

（※2）令和4年度調査では「痴漢、強制性交等などの性的犯罪」

（※3）「屋外から銅線やグレーティングなどの金属類を盗む犯罪」は今回調査から追加

警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪について聞いたところ、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」（62.6%）が６割を超えて最も高く、以下、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」（61.8%）、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」（61.0%）、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」（57.2%）が続く。（図表５－５）

【地域別】

地域別にみると、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」は“葛南地域”（65.3%）が6割台半ばで高くなっている。（図表5－6）

【性・年代別】

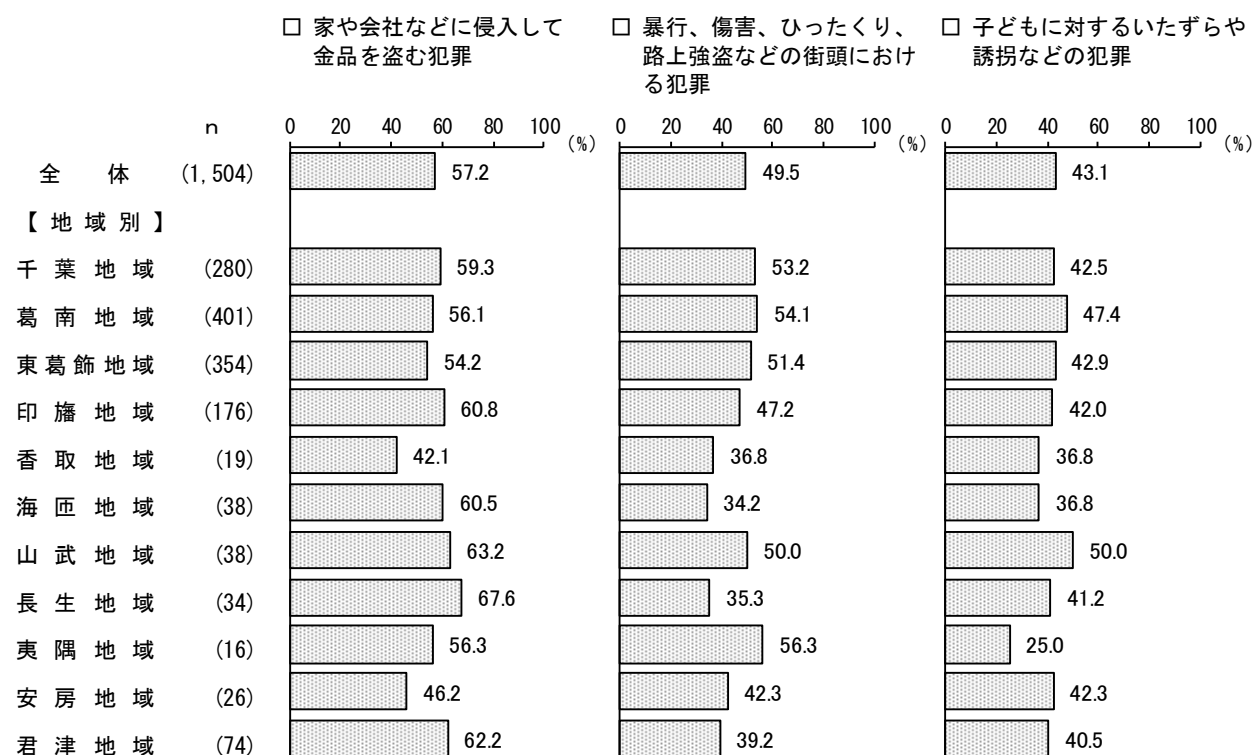
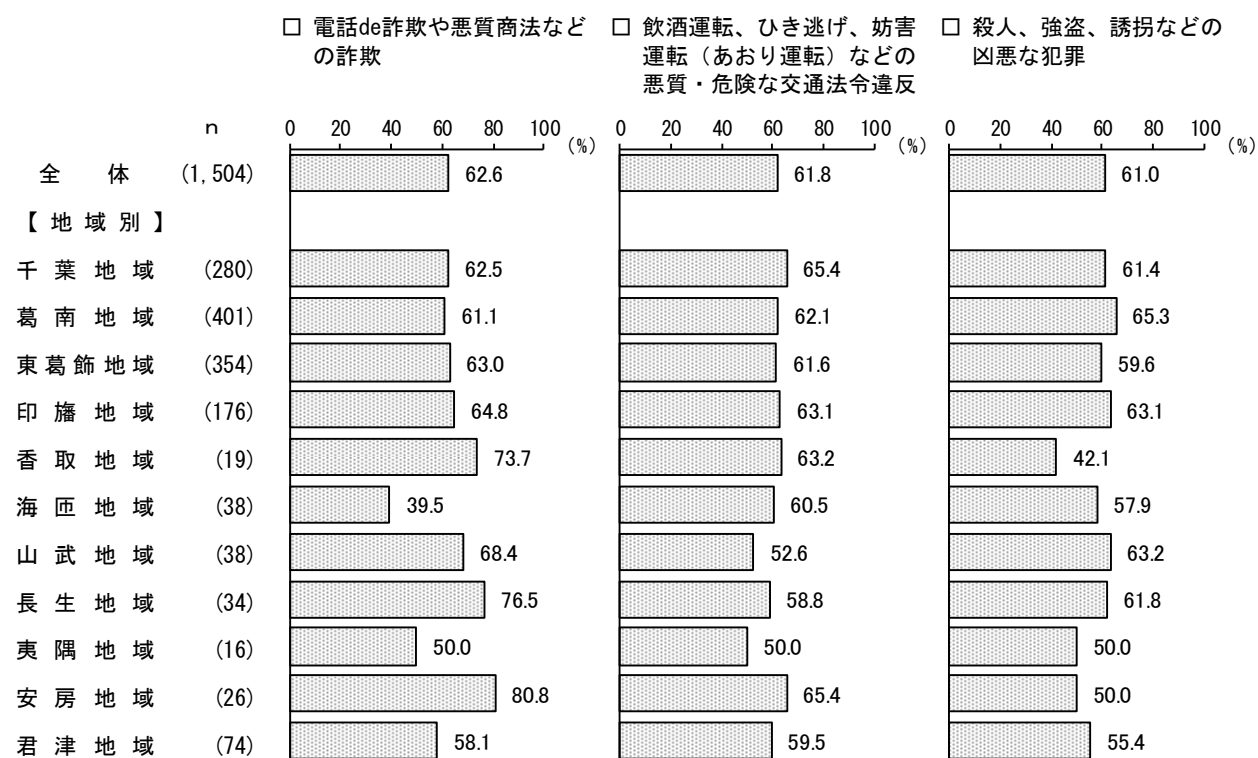
性・年代別にみると、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」は男性70～74歳（76.2%）が7割台半ばで高くなっている。

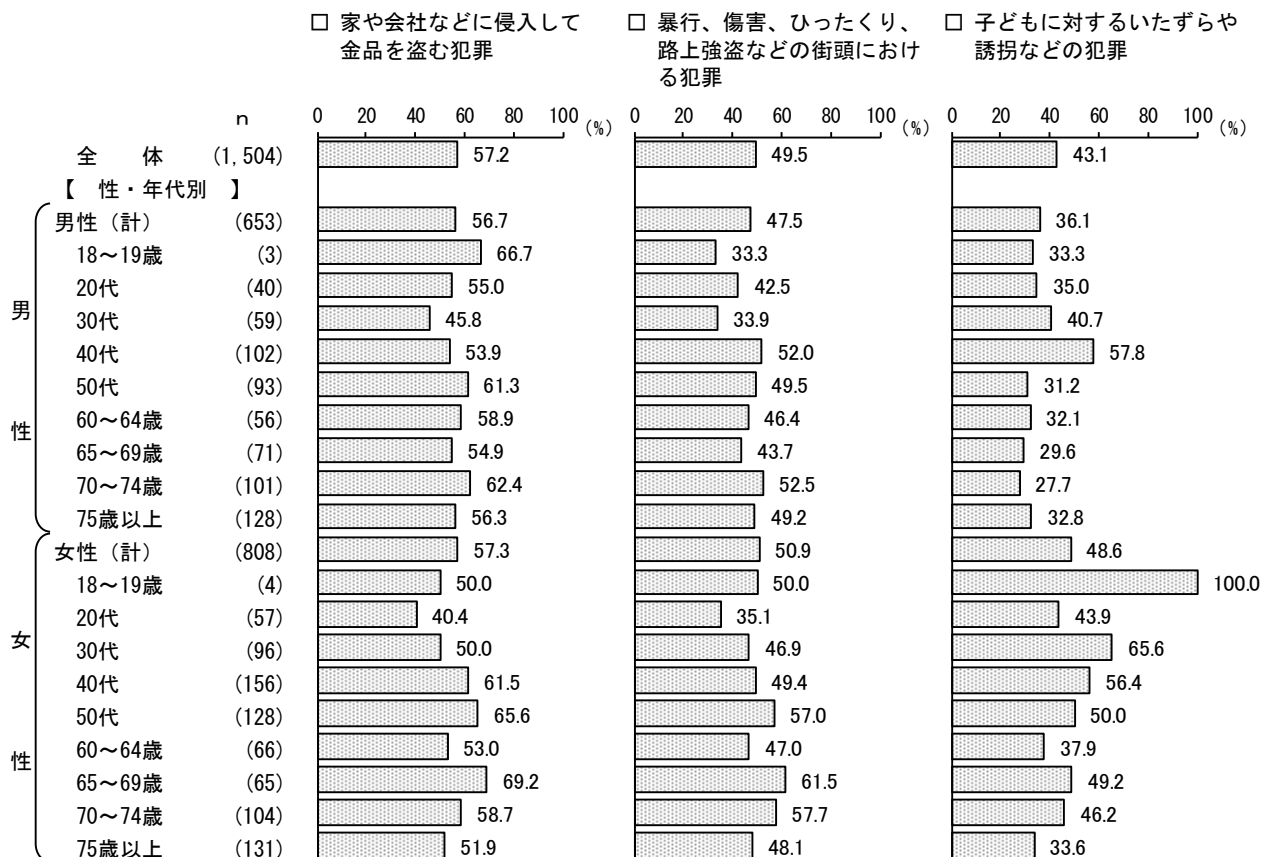
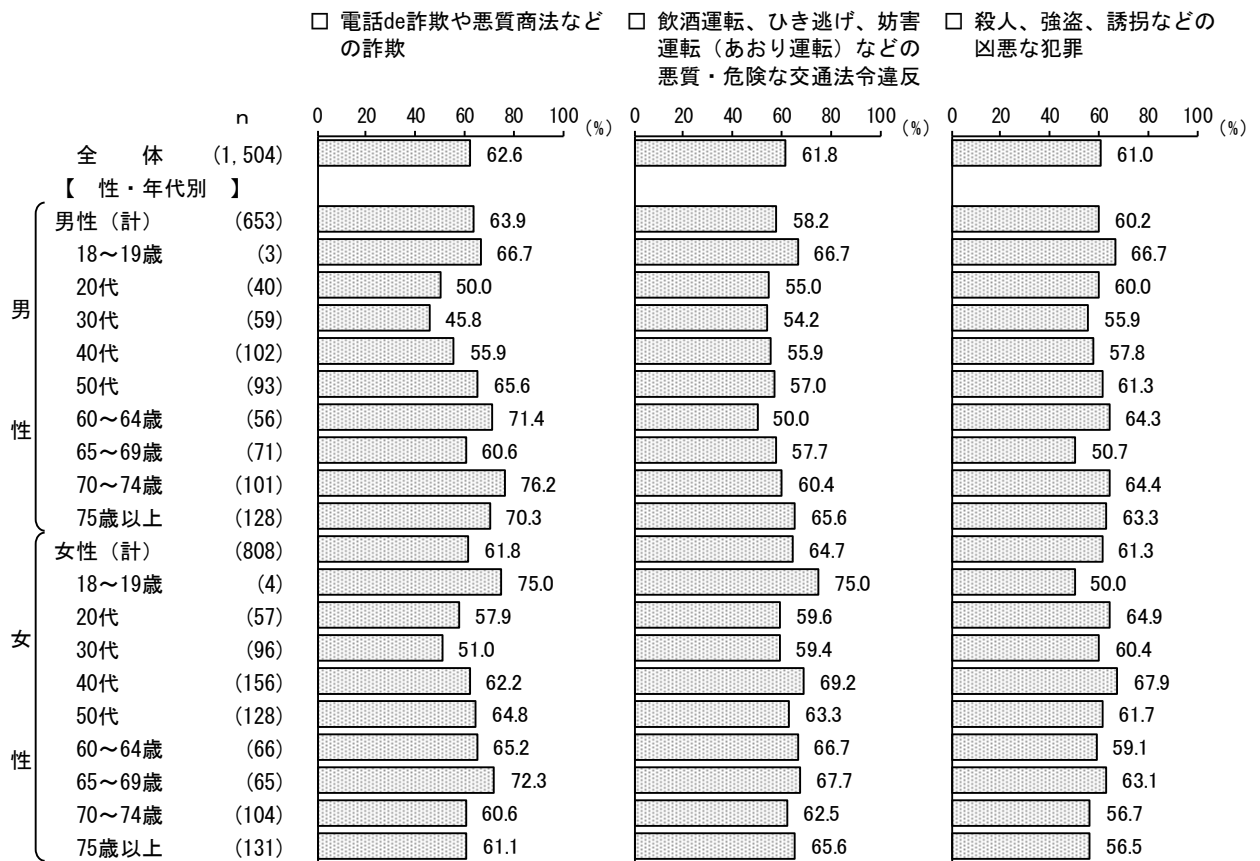
「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」は、女性40代（69.2%）が約7割で高くなっている。

「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」は、女性65～69歳（69.2%）が約7割、女性50代（65.6%）が6割台半ばで高くなっている。（図表5－6）

＜図表５－６＞警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位６項目）



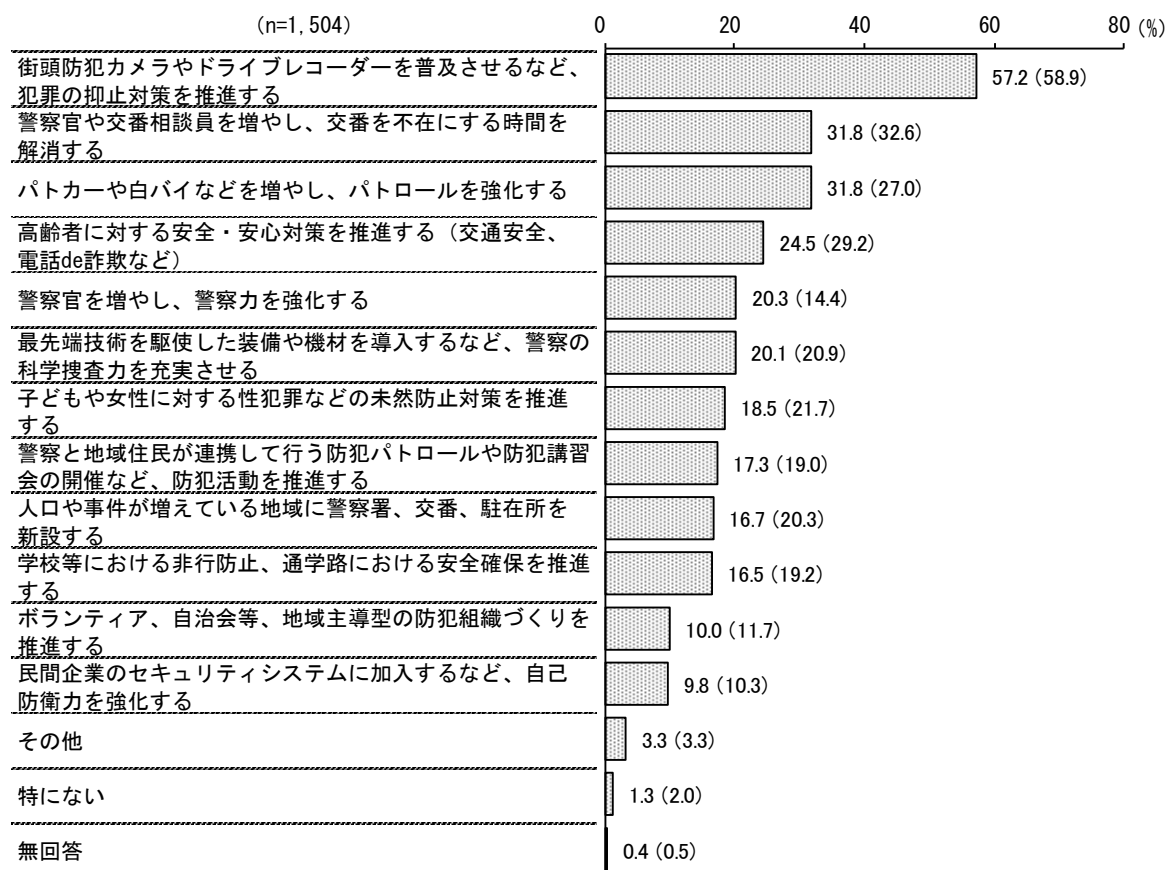


（４）安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

◇「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」が約６割

問21 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が
必要だと思いますか。（○は３つまで）

<図表５－７>安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと（３つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和４年度の同様の項目による調査結果 n=1,595

安全で安心できる生活を守っていくために必要なことについて聞いたところ、「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」(57.2%) が約６割で最も高く、以下、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」(31.8%)、「パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する」(31.8%)、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話de詐欺など）」(24.5%) が続く。（図表５－７）

【地域別】

地域別にみると、「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」は“葛南地域” (62.6%) が６割を超えて高くなっている。（図表５－８）

【性・年代別】

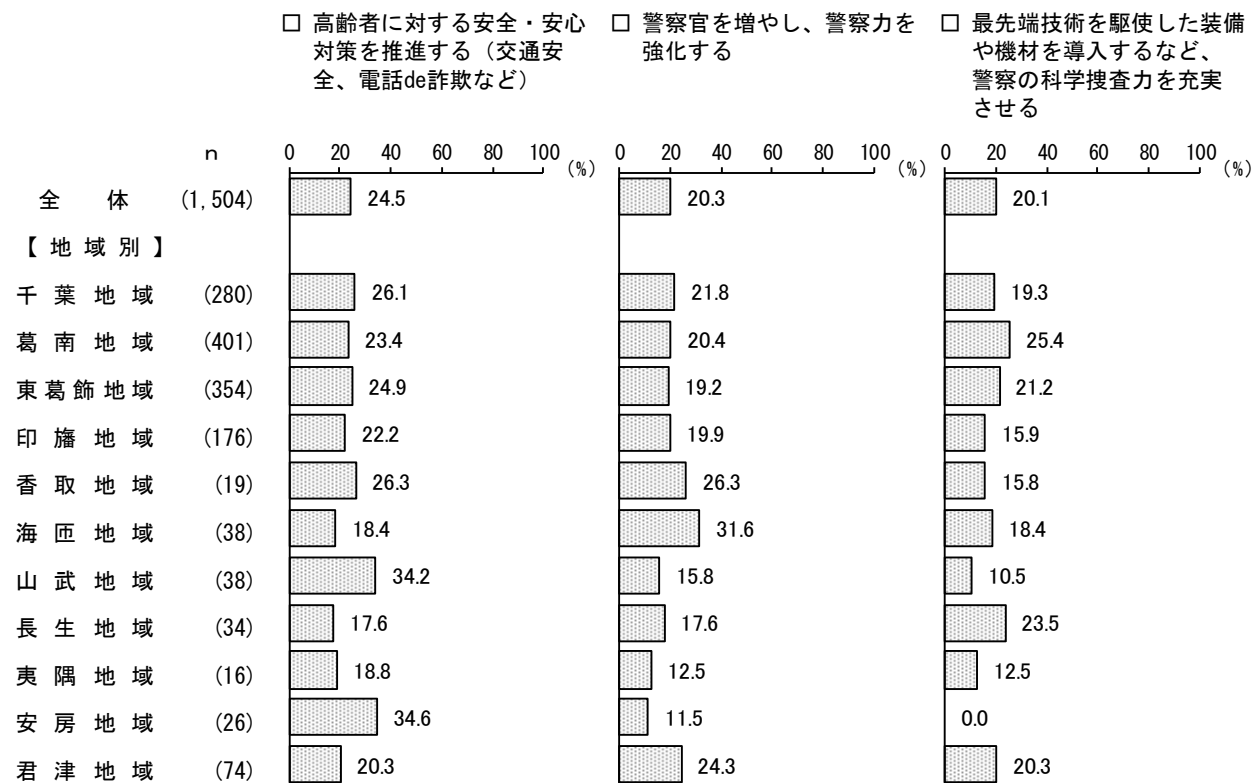
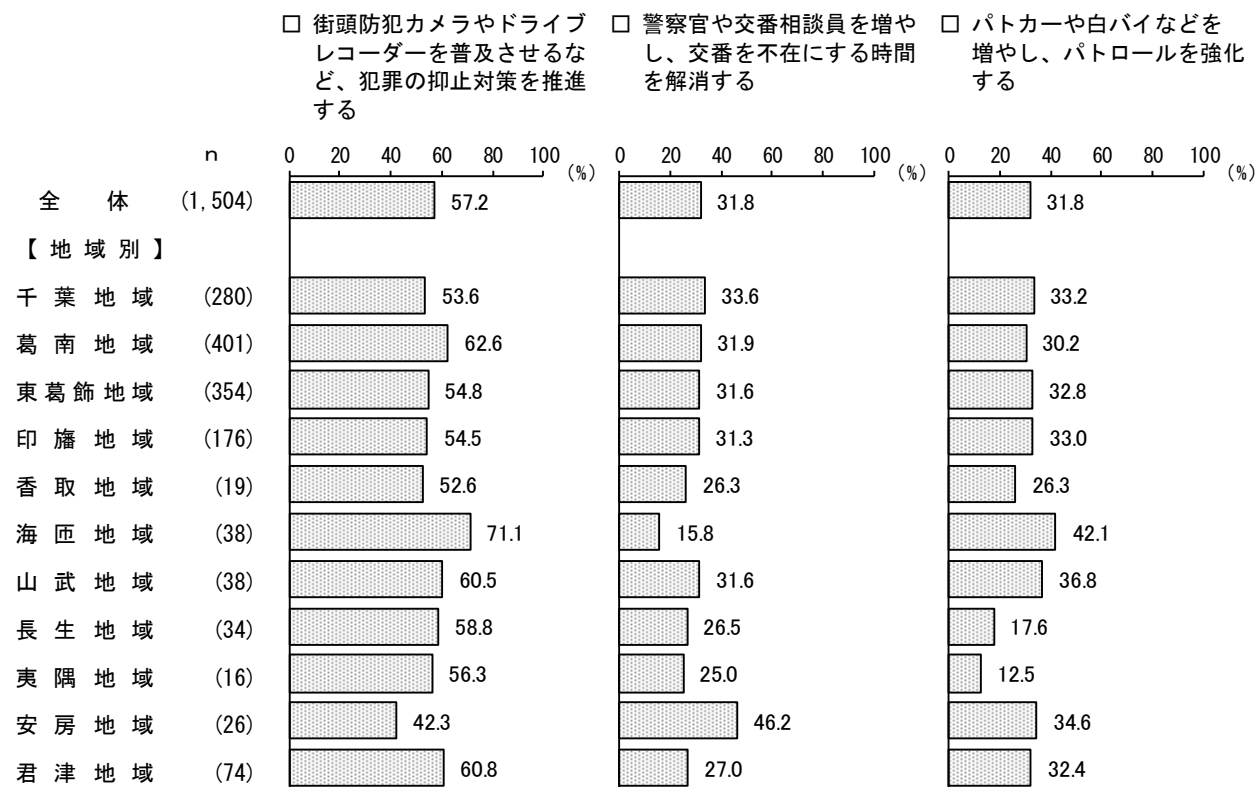
性・年代別にみると、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」は、女

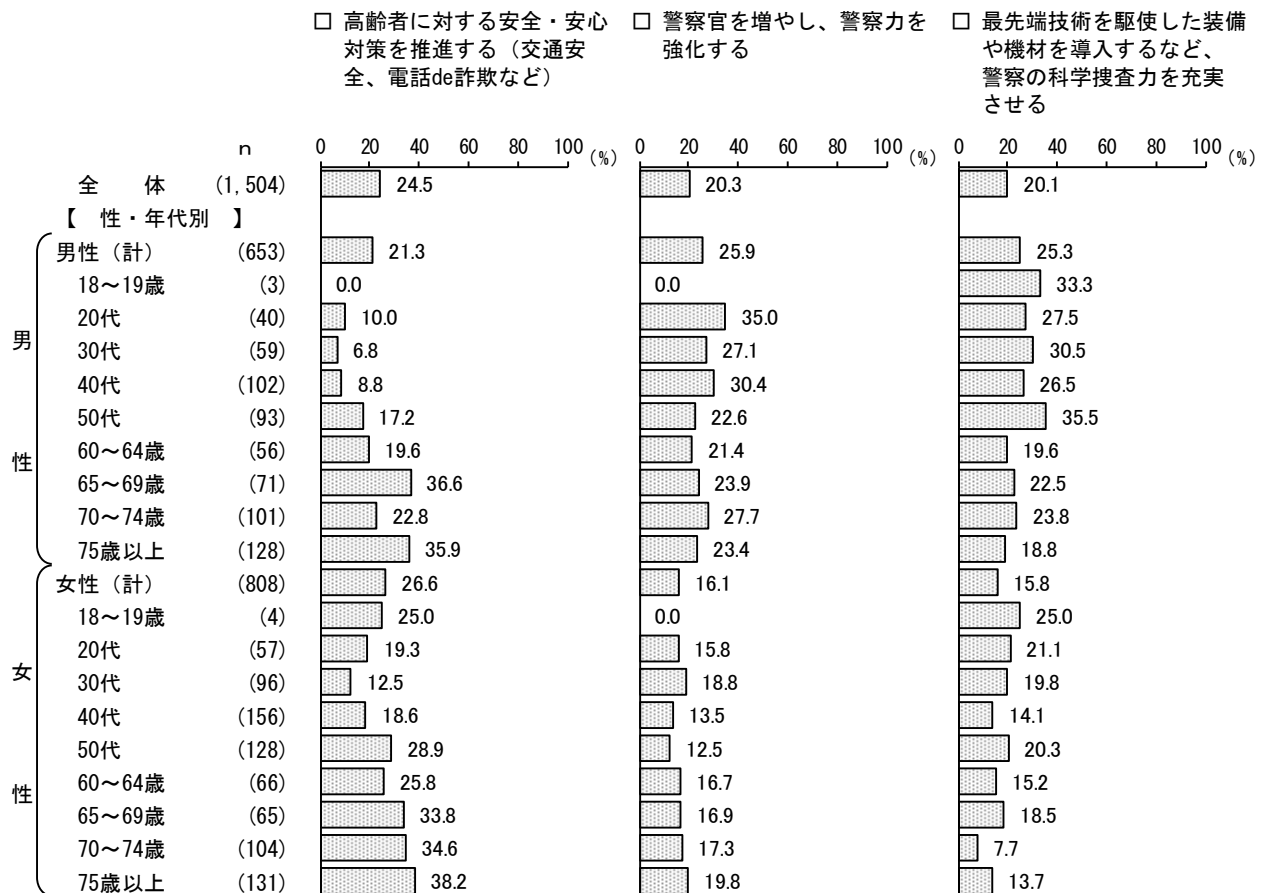
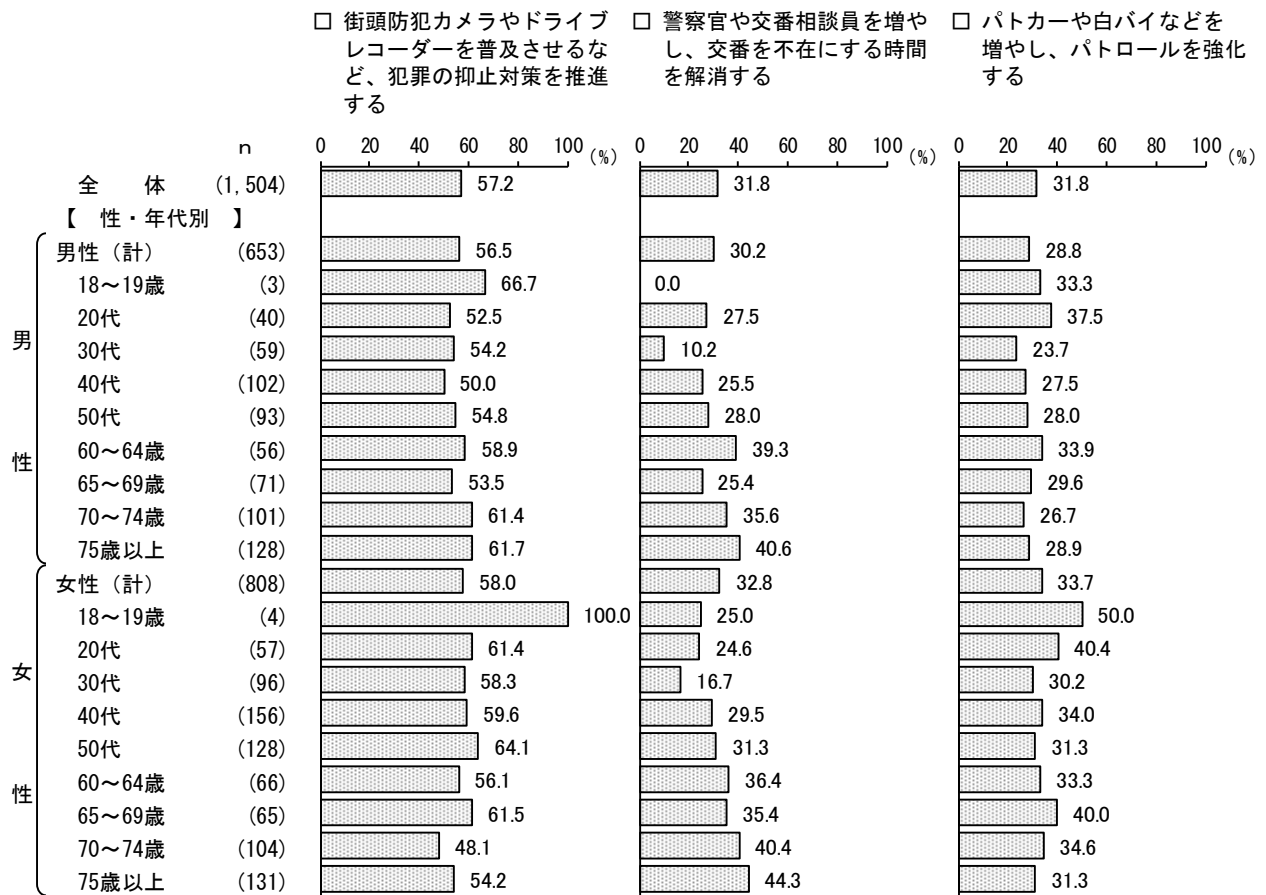
性75歳以上（44.3%）が4割台半ば、男性75歳以上（40.6%）が4割で高くなっている。

「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話de詐欺など）」は、女性75歳以上（38.2%）が約4割、男性65～69歳（36.6%）、男性75歳以上（35.9%）、女性70～74歳（34.6%）が3割台半ばで高くなっている。（図表5－8）

＜図表５－８＞安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと（３つまでの複数回答）

／地域別、性・年代別（上位６項目）





このほかにも、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」や問18～問21について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、204人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答（抜粋）

- 夜暗い道は犯罪が起こりやすいので防犯カメラを増やして欲しい。学生が夜通るような道のパトロールをして欲しい。（女性、20代、葛南地域）
- 自身が居住する地域でパトカーやバイクでパトロールしている警察官を見かけると安心できるので、昼間だけでなく夜間のパトロール頻度を増やして欲しい。（男性、70～74歳、千葉地域）
- 地域巡回をふやしてほしい。車の違反をとりしめるのも重要であるが、それ以外にもっと必要なことに人力を注いでほしい。（女性、65～69歳、千葉地域）
- 千葉で強盗が多いことに非常に不安を感じる。一方で犯人を早めに検挙していることに、警察の努力も感じる。「事件を起こさせない」ことについては、県民が努力できることだと思う。県にはその手助けをしてほしいです。（女性、40代、千葉地域）
- 治安や防犯について、不安なことがあったり不安を感じたりした時、気軽に相談できる場所や人があるといいと思う（どこに相談していいかわからない）。（女性、70～74歳、印旛地域）
- 最近目に見えて公道での暴走行為や騒音被害をたびたび見かけたり聞いたりが増えたように思います。取り締まり強化をお願いできたらと思います。（性別回答しない、40代、千葉地域）
- 自転車の交通ルール違反が目にあまる。取り締まりの強化を望む。（男性、75歳以上、葛南地域）
- 警察官が制服のままスーパーやコンビニを利用することは犯罪をしようとしている人の抑制になるので、ぜひ積極的に利用してほしいです。「仕事中にサボっている」という市民の意見が出ないよう、有効性やメリットをPRしてほしいです。（女性、30代、東葛飾地域）
- 街灯の増設、防犯カメラの設置。（男性、40代、葛南地域）
- 闇バイトによる犯罪が頻繁に報道されているので、早く対策を行なって欲しい。秘匿性の高いアプリケーションについても、何かしらの規制をしてほしい。（男性、40代、東葛飾地域）
- SNSの誹謗・中傷、ニセ情報、闇バイトの募集等に対する取締まりの強化。（男性、75歳以上、安房地域）

6 働きやすい職場環境づくりについて

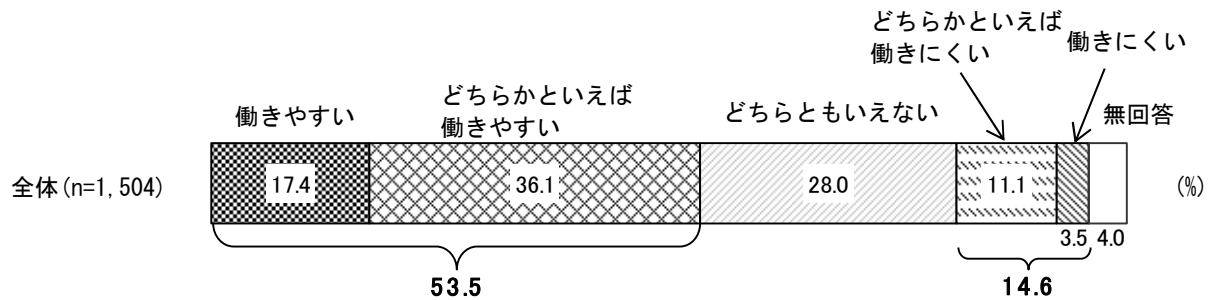
（１）職場での働きやすさ

◇『働きやすい（計）』が５割台半ば

問22 あなたの職場の「働きやすさ」について、お答えください。（○は１つ）

※ 現在、お仕事をされていない場合は、ご家族などの身近な人を想定してお答えください。

<図表 6－1> 職場での働きやすさ



職場での働きやすさについて聞いたところ、「働きやすい」（17.4％）と「どちらかといえば働きやすい」（36.1％）を合わせた『働きやすい（計）』（53.5％）が５割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば働きにくい」（11.1％）と「働きにくい」（3.5％）を合わせた『働きにくい（計）』（14.6％）が１割台半ばとなっている。（図表 6－1）

【地域別】

地域別にみると、『働きにくい（計）』は“長生地域”（26.5％）が２割台半ばで高くなっている。

（図表 6－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『働きやすい（計）』は、女性20代（78.9％）が約８割、男性60～64歳（69.6％）、男性30代（67.8％）が約７割、男性40代（66.7％）が６割台半ば、女性40代（60.9％）が６割で高くなっている。

一方、『働きにくい（計）』は男性50代（21.5％）が２割を超えて高くなっている。（図表 6－2）



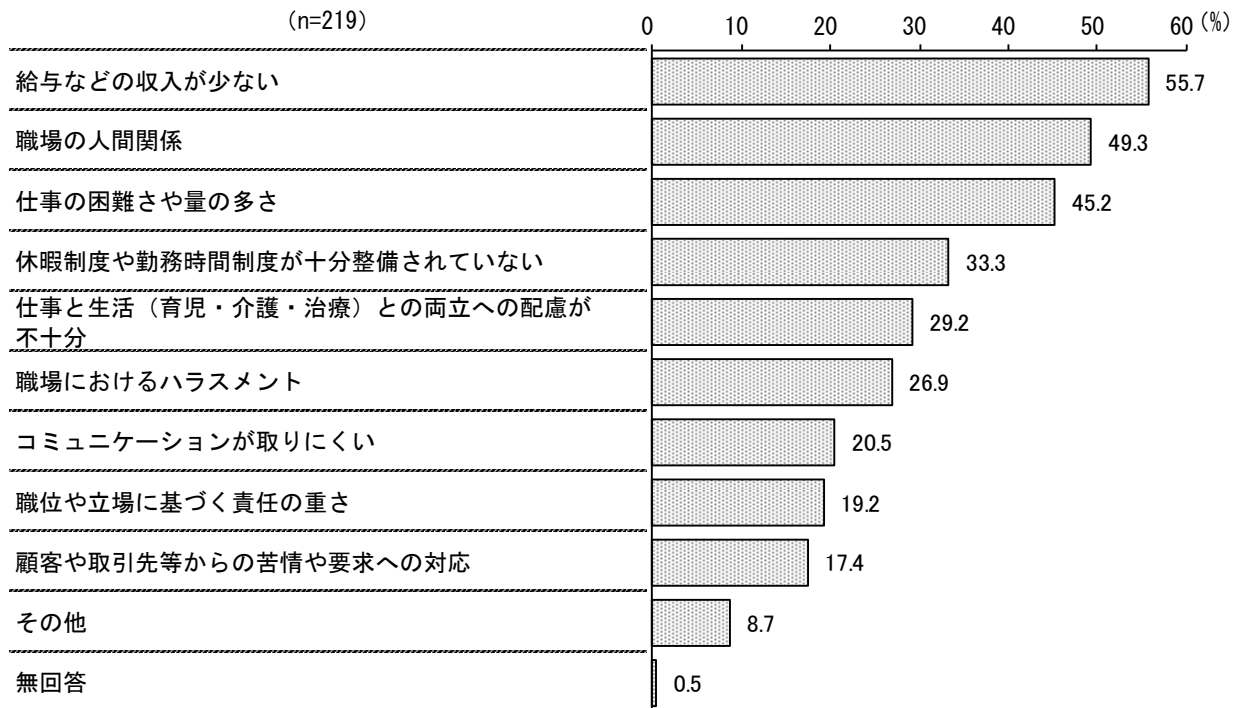
（１－１）働きにくいと感じる理由

◇「給与などの収入が少ない」が５割台半ば

（問22で「どちらかといえば働きにくい」、「働きにくい」のいずれかをお答えの方に）

問22－１ あなたの職場が働きにくいと感じられるのは、なぜですか。（○はいくつでも）

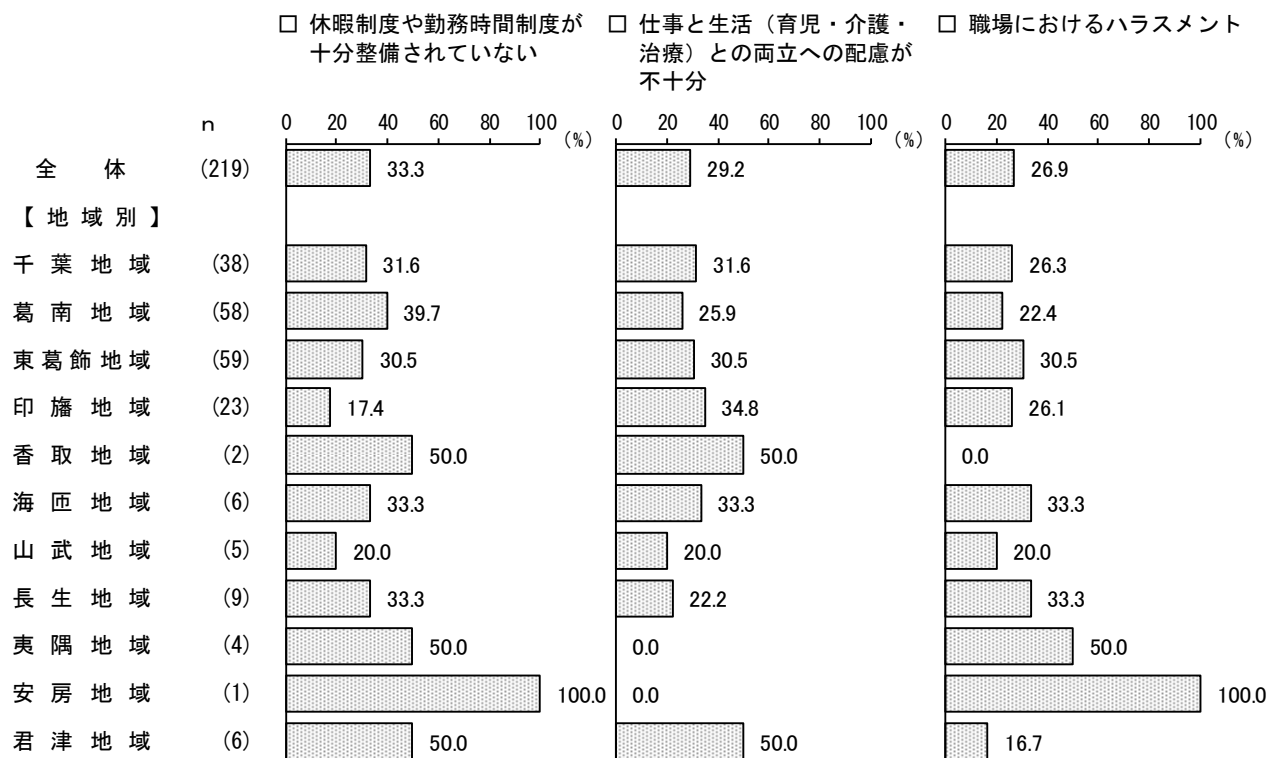
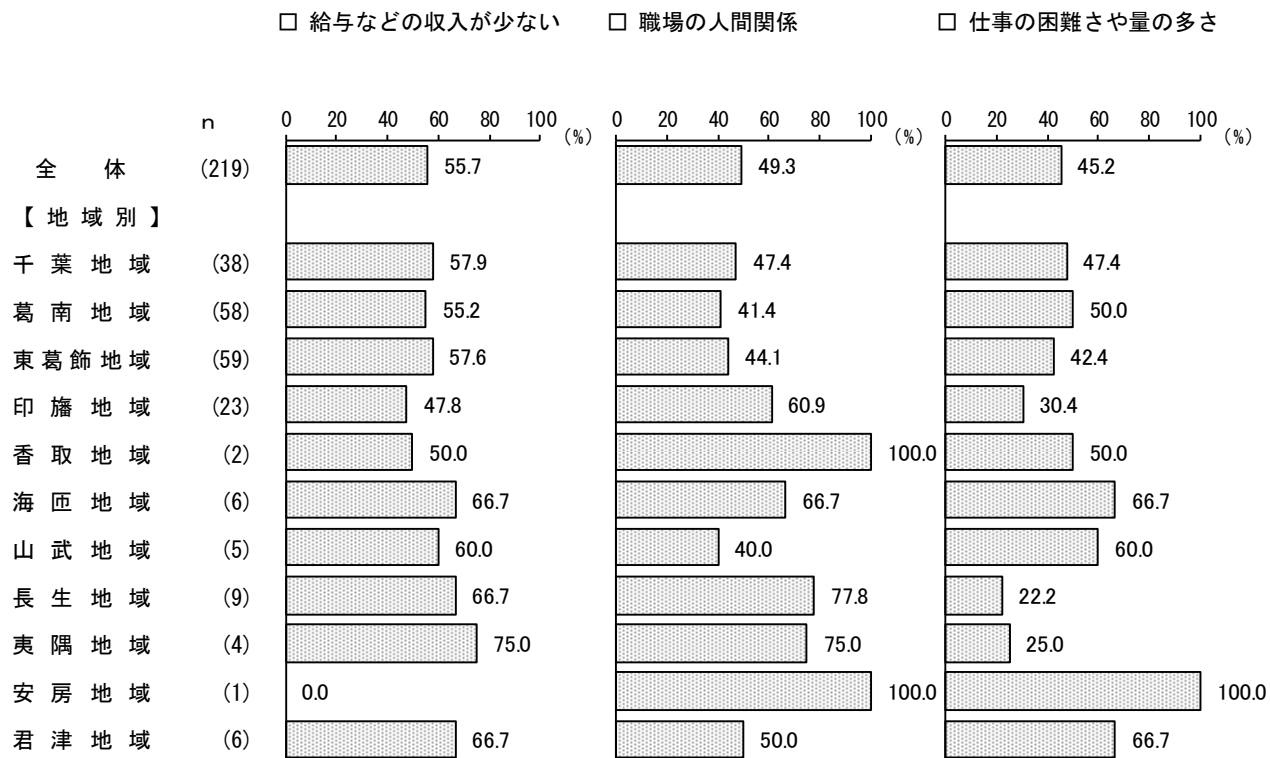
＜図表６－３＞働きにくいと感じる理由（複数回答）



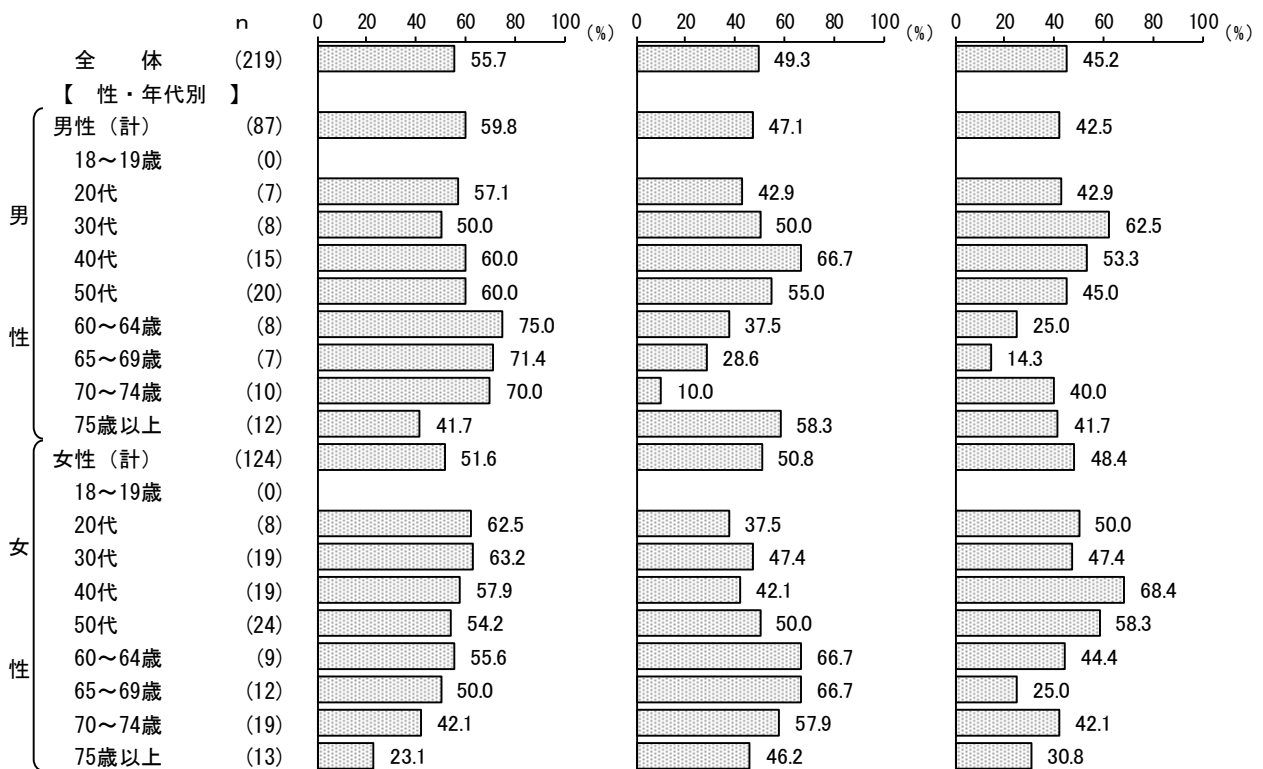
働きにくいと感じる理由を聞いたところ、「給与などの収入が少ない」（55.7%）が５割台半ばで最も高く、以下、「職場の人間関係」（49.3%）、「仕事の困難さや量の多さ」（45.2%）、「休暇制度や勤務時間制度が十分整備されていない」（33.3%）が続く。（図表６－３）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。
（9ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表６－４）

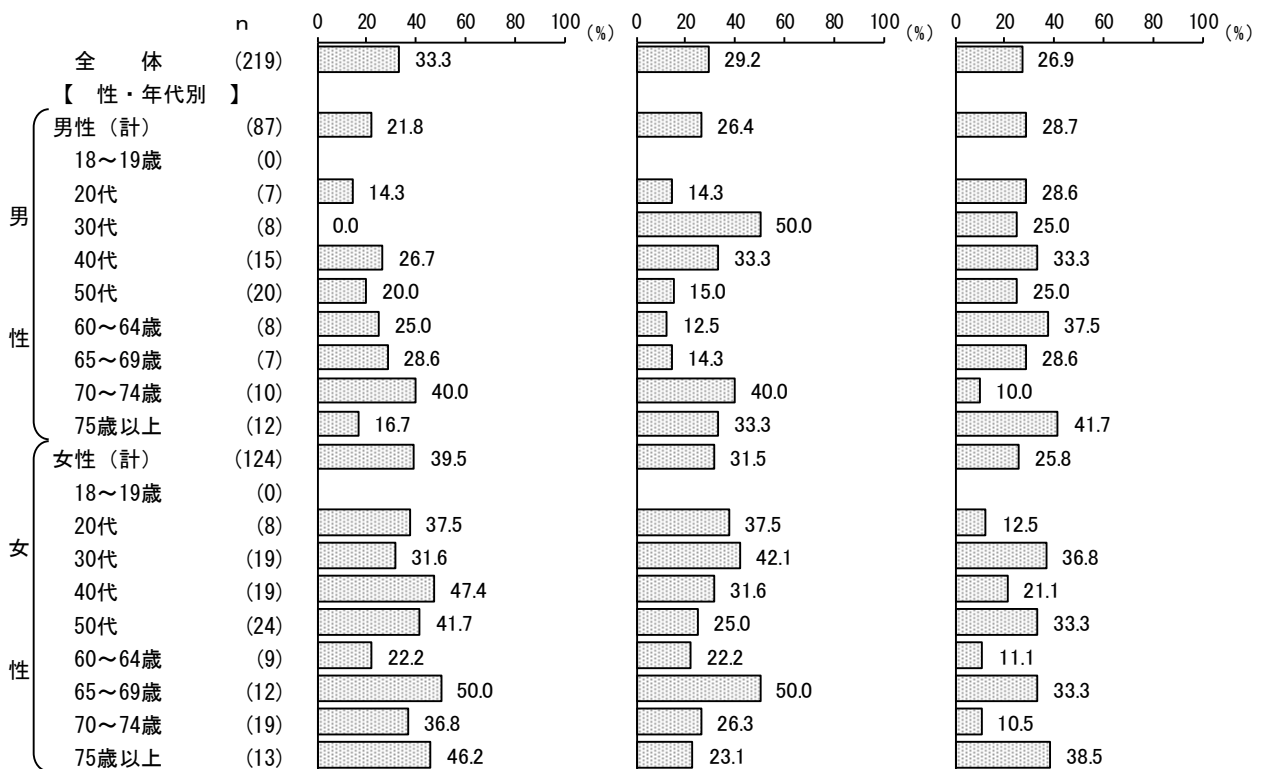
[参考] <図表 6-4> 働きにくいと感じる理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）



□ 給与などの収入が少ない □ 職場の人間関係 □ 仕事の困難さや量の多さ



□ 休暇制度や勤務時間制度が十分整備されていない □ 仕事と生活（育児・介護・治療）との両立への配慮が不十分 □ 職場におけるハラスメント

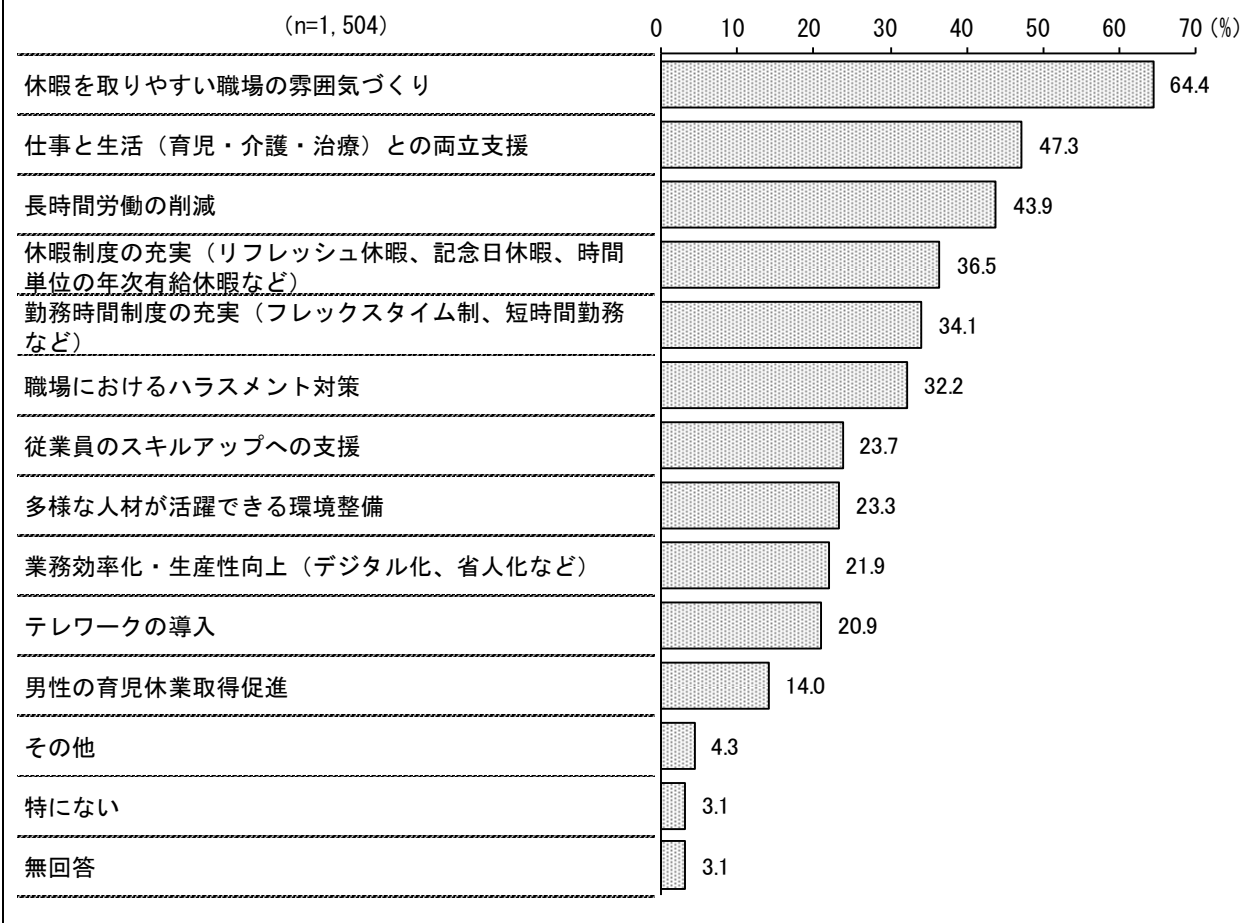


（２）事業者の取組で重要だと思うこと

◇「休暇を取りやすい職場の雰囲気づくり」が６割台半ば

問23 あなたは、働きやすい職場環境づくりに向けた事業者の取組で何が重要だと思いますか。
(○はいくつでも)

＜図表 6－5＞事業者の取組で重要だと思うこと（複数回答）



事業者の取組で重要だと思うことを聞いたところ、「休暇を取りやすい職場の雰囲気づくり」（64.4%）が６割台半ばで最も高く、以下、「仕事と生活（育児・介護・治療）との両立支援」（47.3%）、「長時間労働の削減」（43.9%）、「休暇制度の充実（リフレッシュ休暇、記念日休暇、時間単位の年次有給休暇など）」（36.5%）が続く。（図表 6－5）

【地域別】

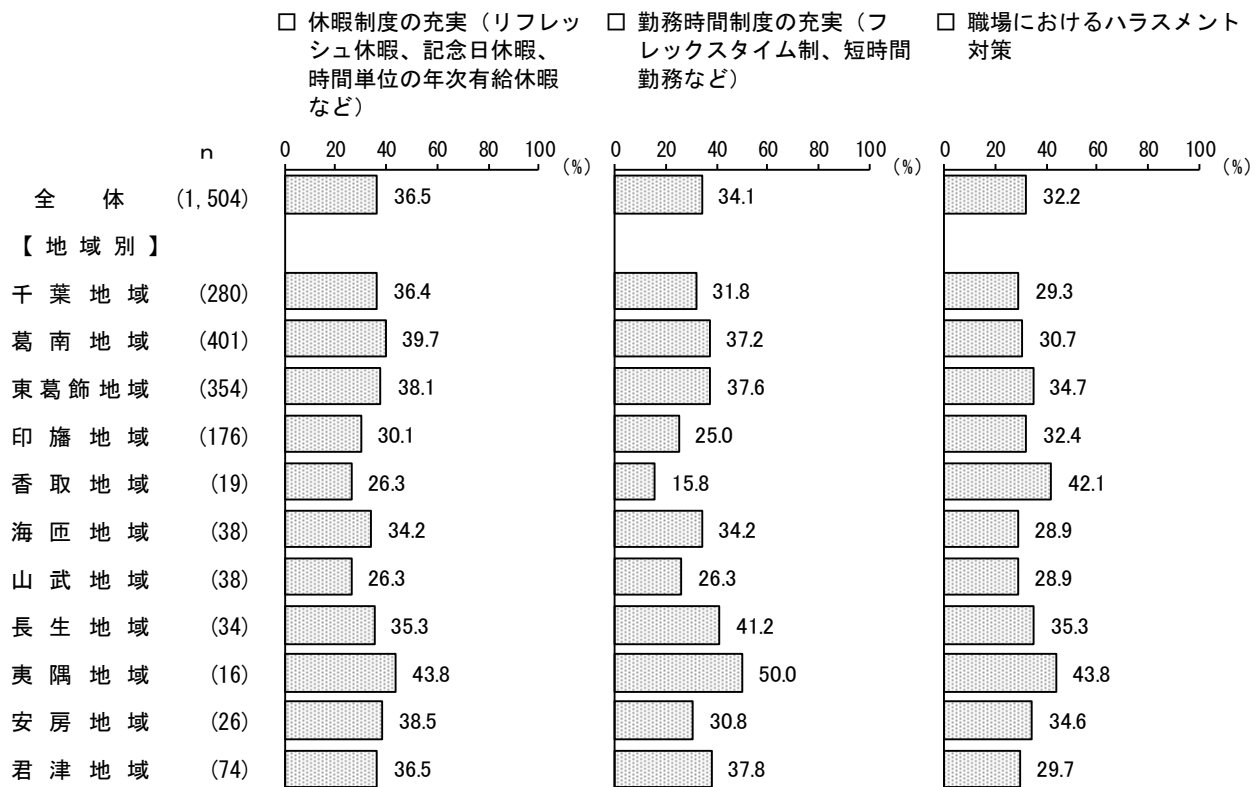
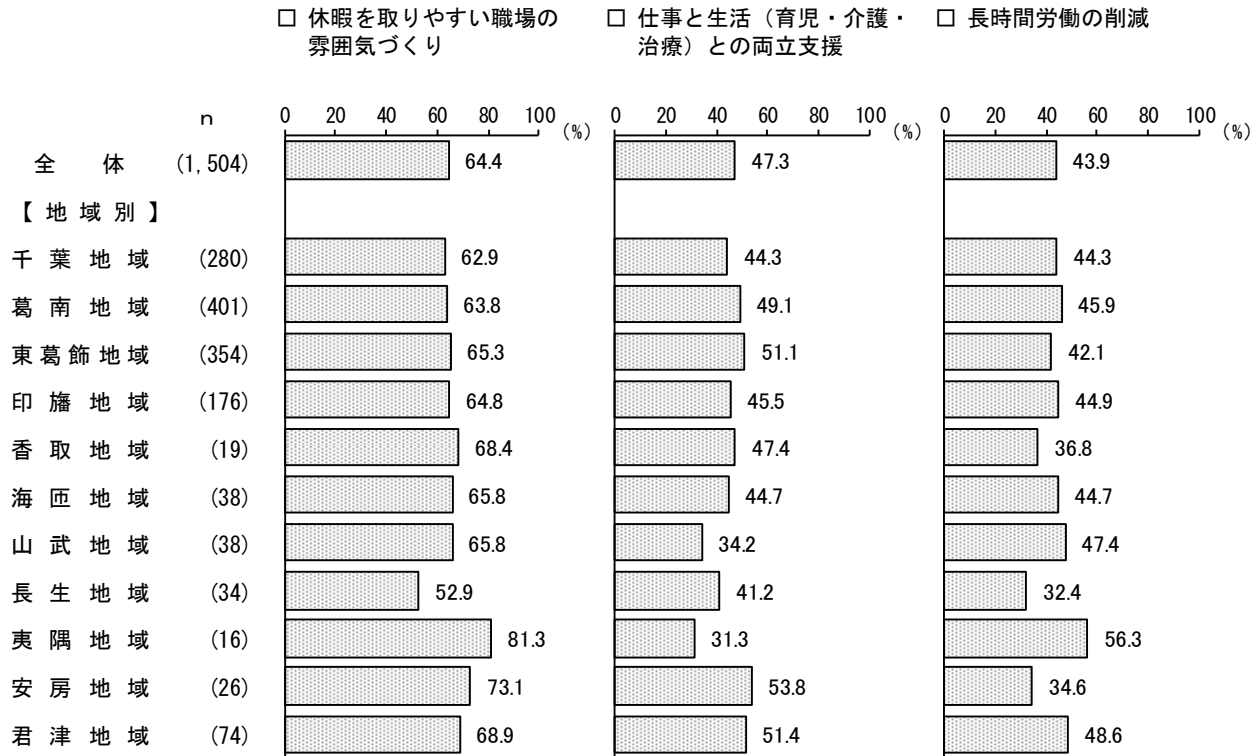
地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表 6－6）

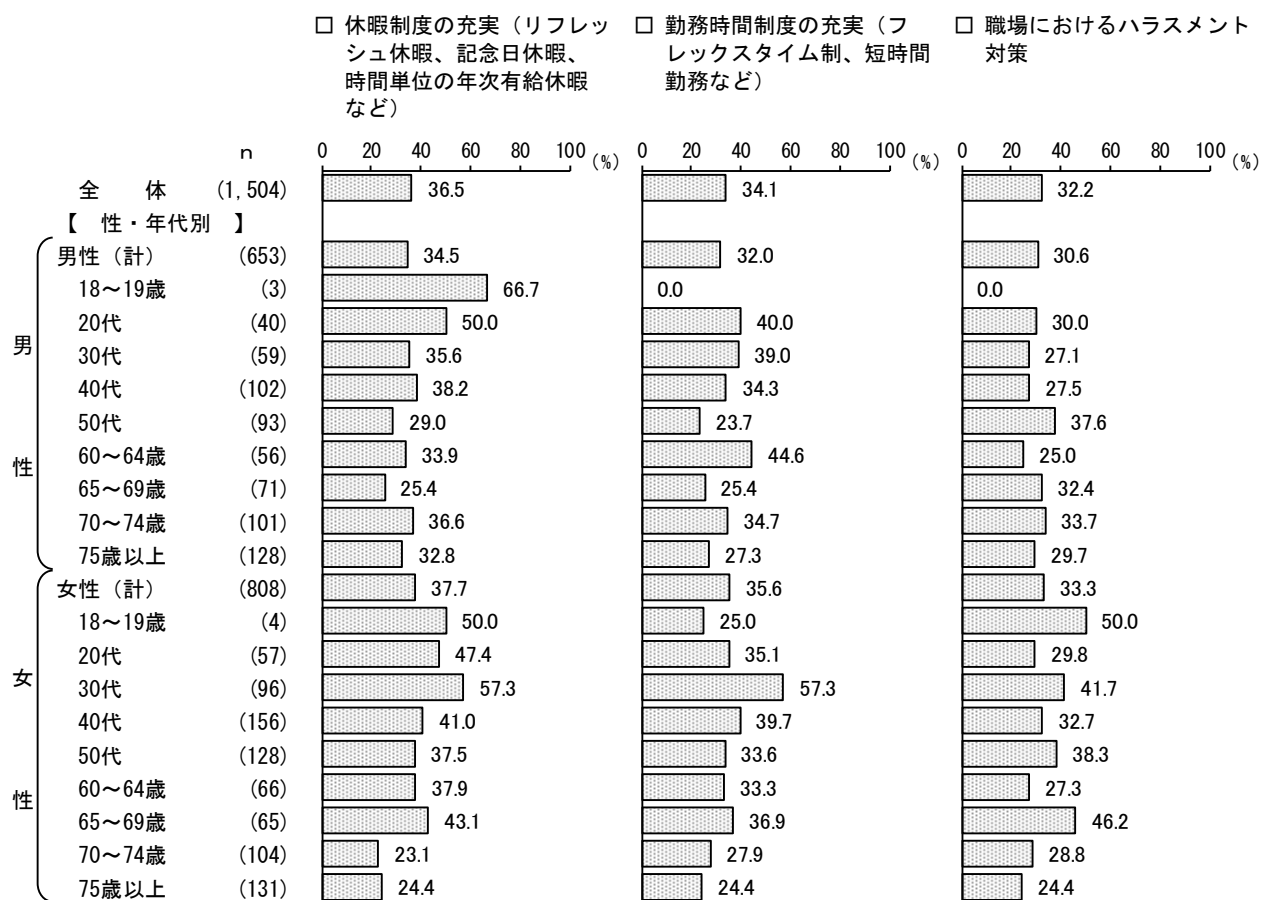
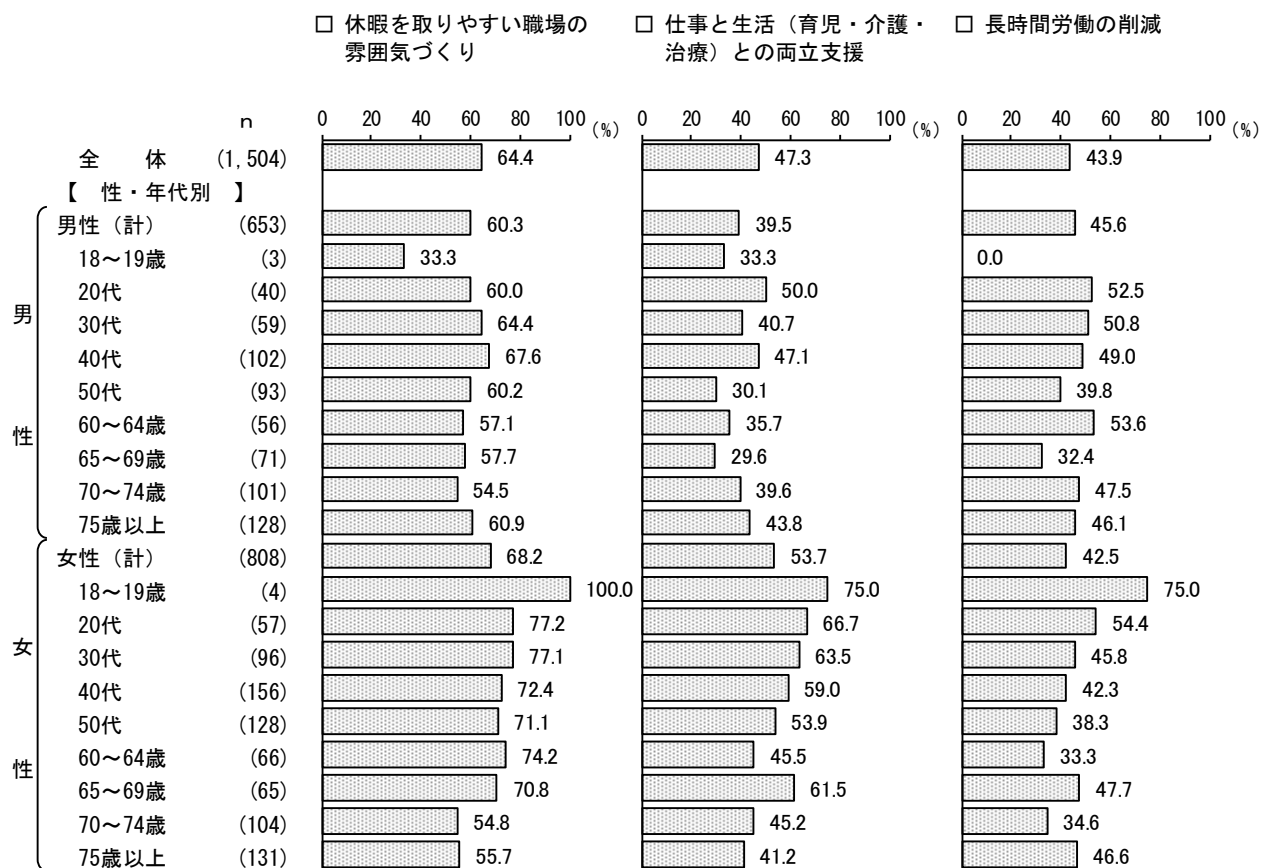
【性・年代別】

性・年代別にみると、「休暇を取りやすい職場の雰囲気づくり」は女性20代（77.2%）、女性30代（77.1%）が約８割、女性40代（72.4%）が７割を超えて高くなっている。

「仕事と生活（育児・介護・治療）との両立支援」は女性20代（66.7%）、女性30代（63.5%）が６割台半ば、女性65～69歳（61.5%）が６割を超え、女性40代（59.0%）が約６割で高くなっている。（図表 6－6）

＜図表 6－6＞事業者の取組で重要だと思うこと（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





（３）ハラスメントの認知度

◇「パワーハラスメント」、「セクシャルハラスメント」は「言葉も内容も知っている」がともに約９割

問24 あなたは、次のハラスメントの言葉の意味について知っていますか。

（○はそれぞれ１つずつ）

※（ア）セクシャルハラスメントとは、「性的な言動」に対する労働者の対応により、労働条件について不利益を受けたり、「性的な言動」により就業環境が害されたりすることです。

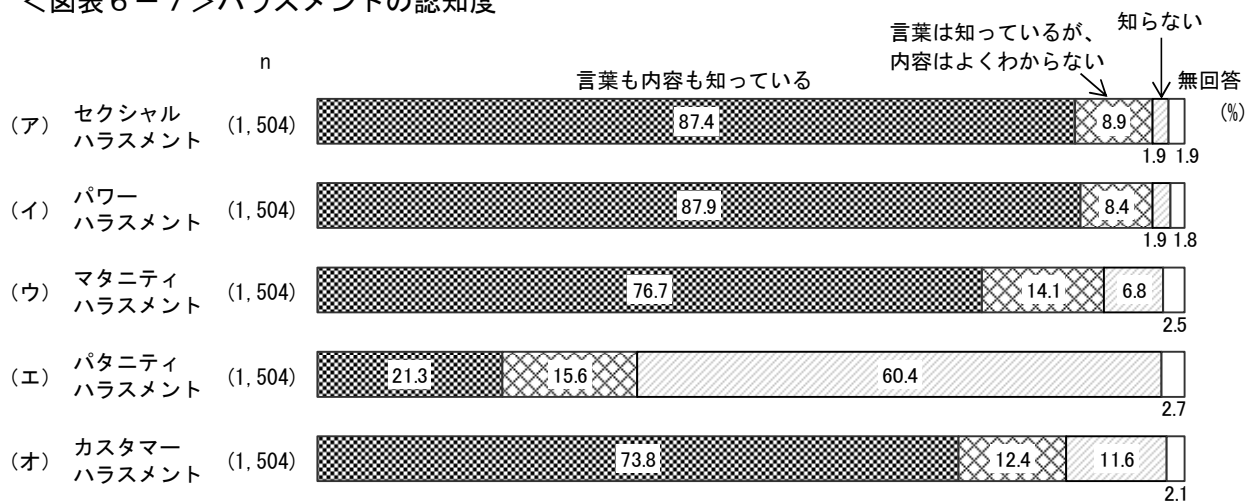
※（イ）パワーハラスメントとは、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させることです。

※（ウ）マタニティハラスメントとは、妊娠・出産・育児などを理由とする、解雇・雇止め・降格などの不利益な取扱いを行うことです。

※（エ）パタニティハラスメントとは、育児休業や、育児のための短時間勤務等を希望する男性従業員に対し、嫌がらせや不利益な取扱いを行うことです。

※（オ）カスタマーハラスメントとは、顧客や取引先から暴力や悪質なクレームなどの著しい迷惑行為を受けることです。

＜図表６－７＞ハラスメントの認知度



ハラスメントの種類別に認知度を聞いたところ、「言葉も内容も知っている」では、「(イ) パワーハラスメント」(87.9%)、「(ア) セクシャルハラスメント」(87.4%) がともに約９割で最も高く、以下、「(ウ) マタニティハラスメント」(76.7%)、「(オ) カスタマーハラスメント」(73.8%)、「(エ) パタニティハラスメント」(21.3%) が続く。(図表６－７)

【地域別】

地域別にみると、「(ア) セクシャルハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は“東葛飾地域”(90.4%) が９割で高くなっている。

「(イ) パワーハラスメント」は地域別で大きな傾向の違いはみられない。

「(ウ) マタニティハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は“君津地域”(90.5%) が９割、“東葛飾地域”(81.1%) が８割を超えて高くなっている。

「(エ) パタニティハラスメント」は地域別で大きな傾向の違いはみられない。

「(オ) カスタマーハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は“葛南地域”(77.6%) が約８割で高くなっている。

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) セクシャルハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は、女性30代（99.0%）、男性60～64歳（98.2%）が約10割、男性40代（96.1%）、男性50代（95.7%）が9割台半ば、女性50代（93.0%）、女性40代（92.9%）が9割を超えて高くなっている。

「(イ) パワーハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は、男性60～64歳（98.2%）、男性50代（97.8%）が約10割、女性30代（95.8%）、男性40代（95.1%）、女性40代（94.9%）が9割台半ばで高くなっている。

また、「(イ) パワーハラスメント」について「言葉は知っているが、内容はよくわからない」は、男性75歳以上（17.2%）が約2割で高くなっている。

「(ウ) マタニティハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は、女性30代（91.7%）が9割を超え、女性20代（89.5%）、女性40代（87.8%）、男性40代（87.3%）が約9割で高くなっている。

また、「(ウ) マタニティハラスメント」について「言葉は知っているが、内容はよくわからない」は、男性75歳以上（28.1%）が約3割で高くなっている。

「(エ) パタニティハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は、女性40代（28.2%）が約3割で高くなっている。

一方、「(エ) パタニティハラスメント」について「知らない」は、男性75歳以上（68.8%）が約7割で高くなっている。

「(オ) カスタマーハラスメント」について「言葉も内容も知っている」は、男性60～64歳（89.3%）、男性30代（88.1%）、男性40代（87.3%）が約9割、男性50代（84.9%）、女性40代（84.0%）が8割台半ばで高くなっている。

また、「(オ) カスタマーハラスメント」について「言葉は知っているが、内容はよくわからない」は、女性70～74歳（23.1%）が2割を超えて高くなっている。

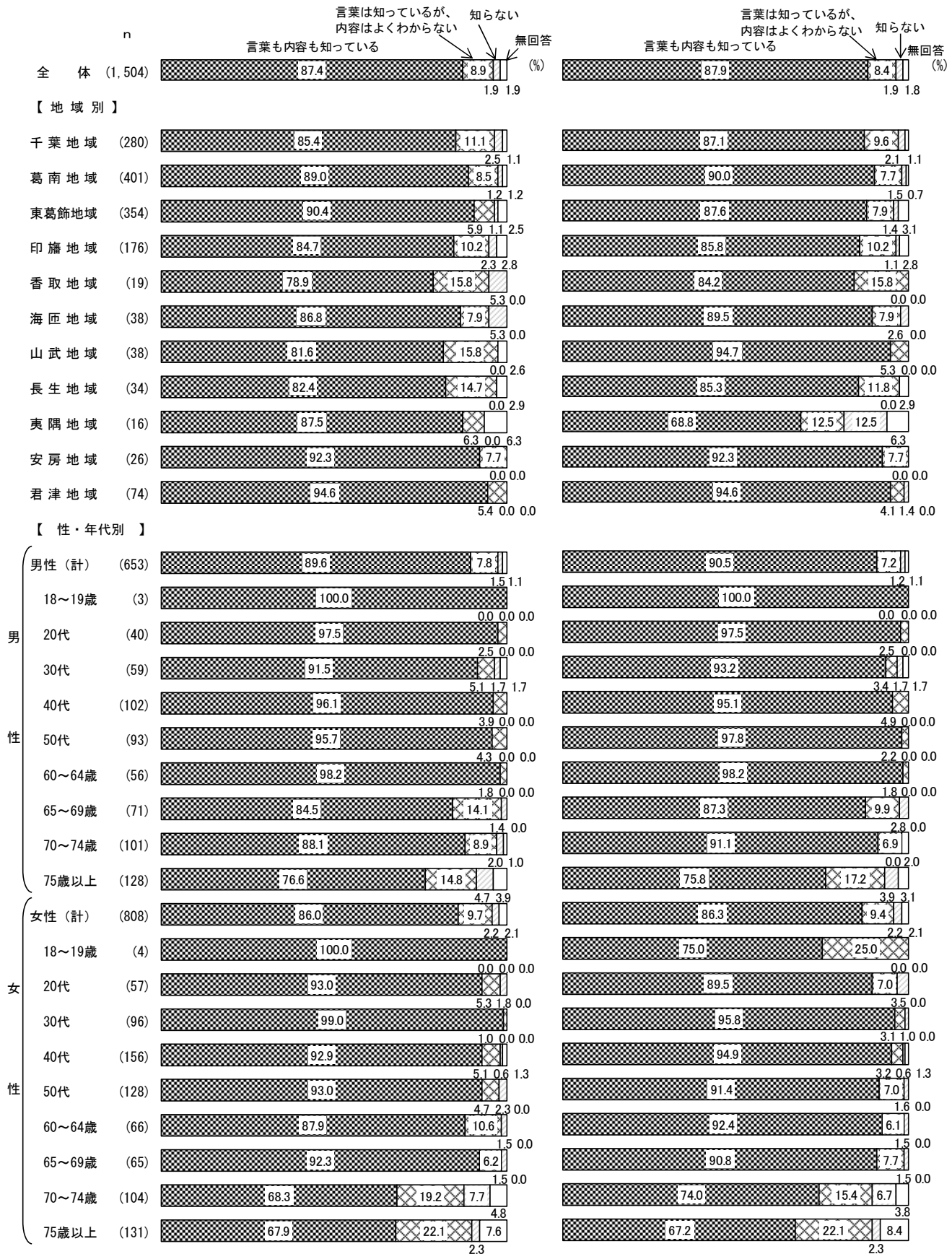
一方、「(オ) カスタマーハラスメント」について「知らない」は、女性75歳以上（22.1%）、女性70～74歳（21.2%）が2割を超え、男性75歳以上（18.0%）が約2割で高くなっている。

（図表 6－8）

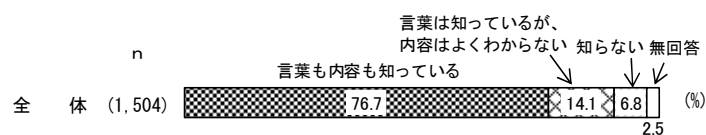
<図表 6－8> ハラスメントの認知度／地域別、性・年代別

(ア) セクシャルハラスメント

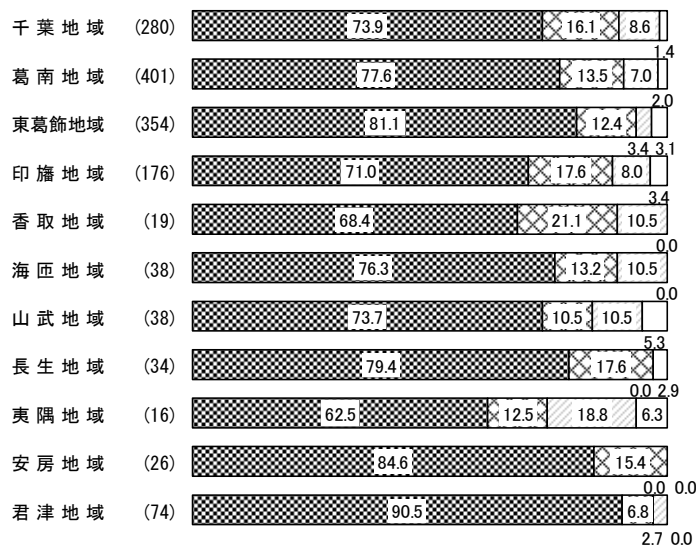
(イ) パワーハラスメント



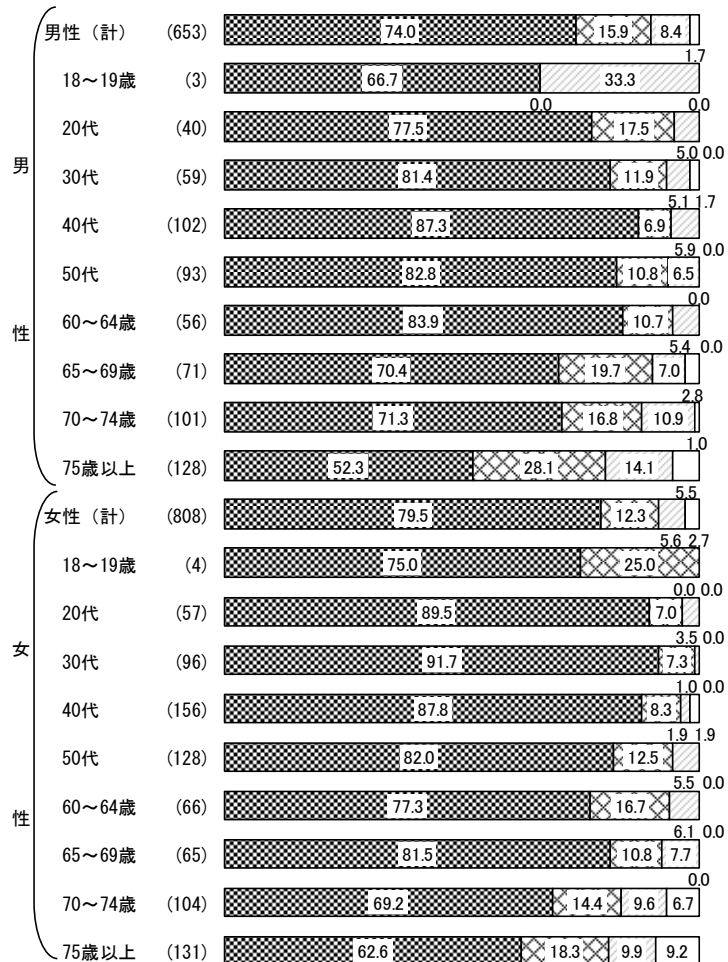
(ウ) マタニティハラスメント



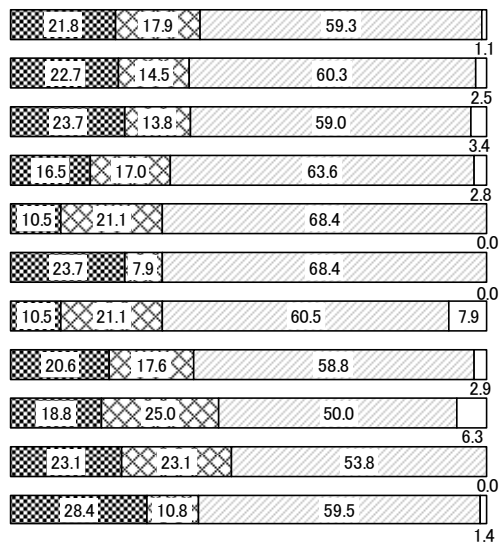
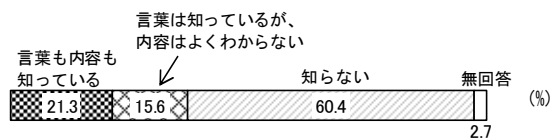
【 地域別 】



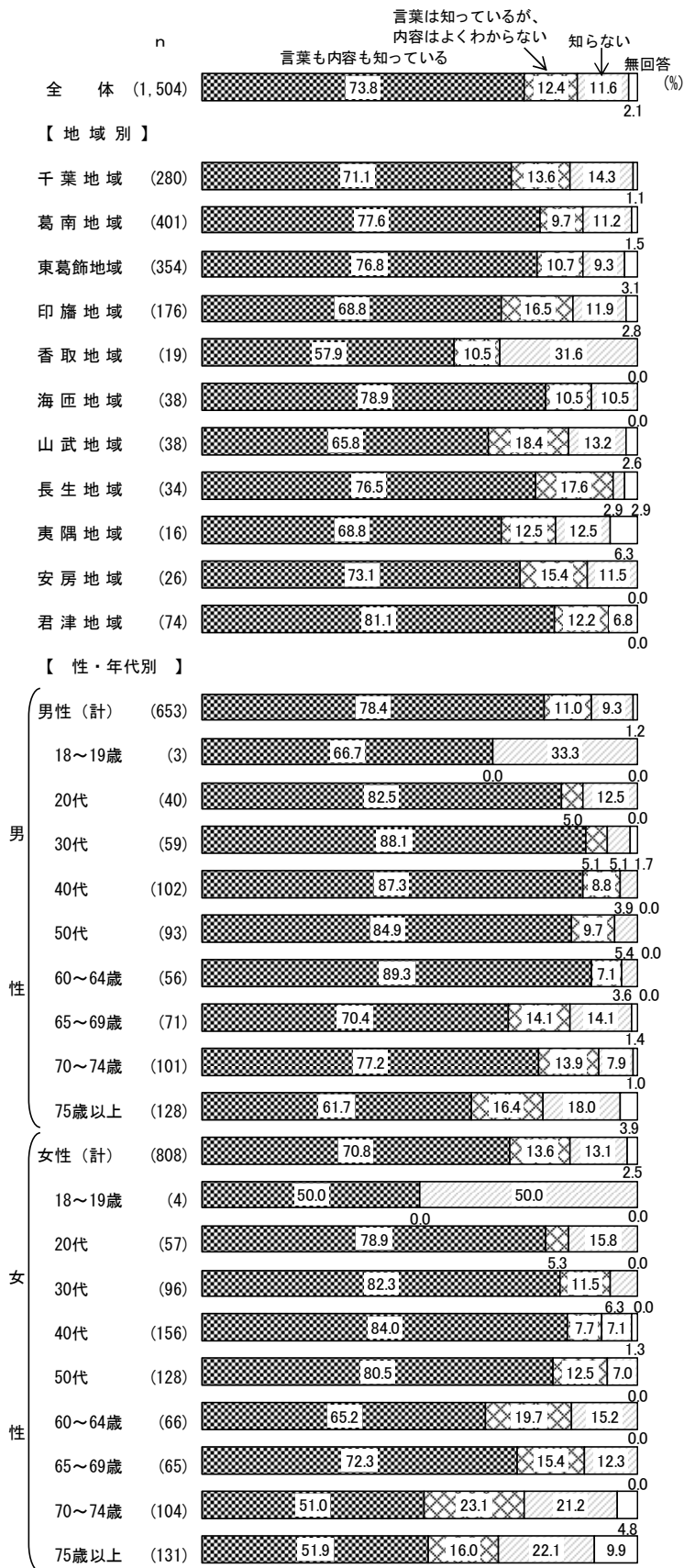
【 性・年別 】



(エ) パタニティハラスメント



(オ) カスタマーハラスメント



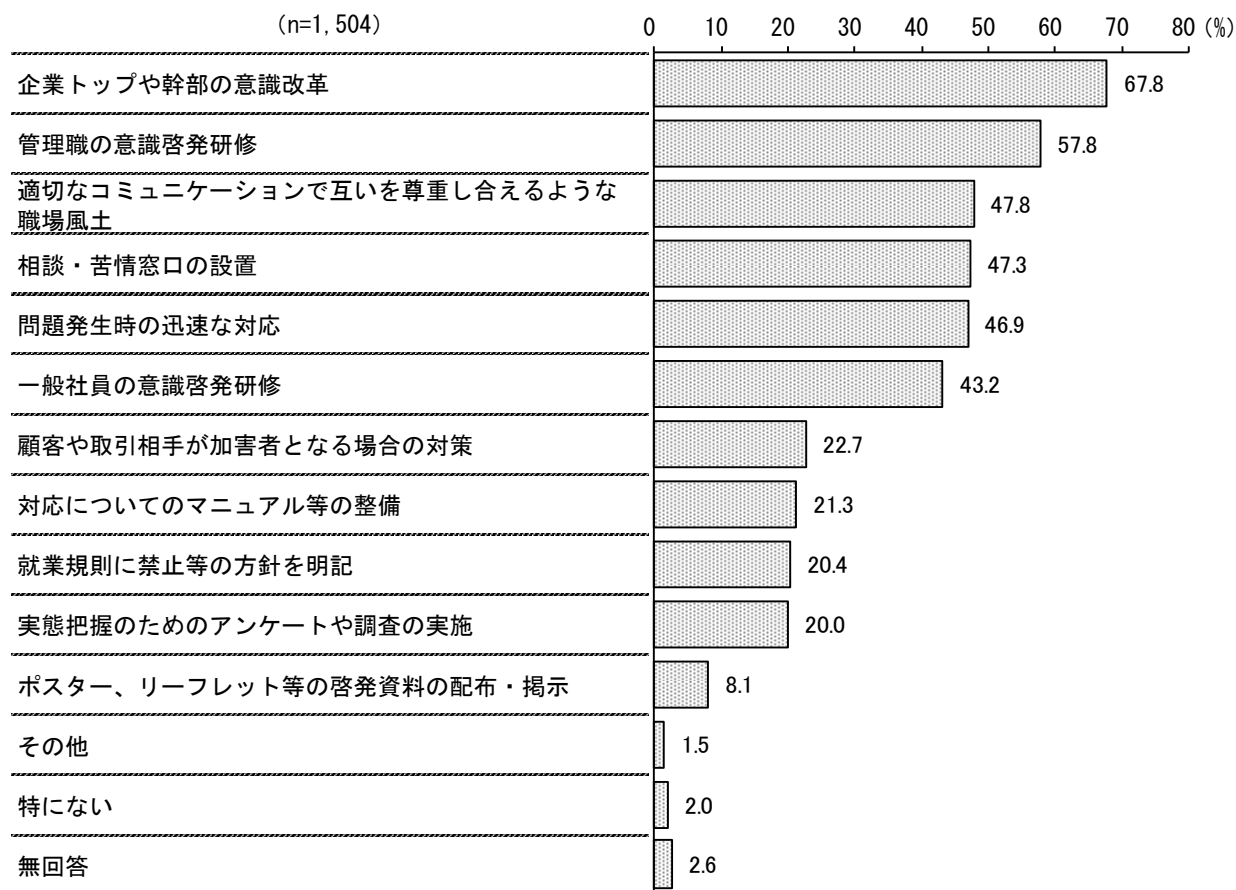
（４）ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うこと

◇「企業トップや幹部の意識改革」が約 7 割

問25 あなたは、職場のハラスメント防止に向けた取組で何が重要だと思いますか。

（○はいくつでも）

＜図表 6－9＞ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うこと（複数回答）



ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うことを聞いたところ、「企業トップや幹部の意識改革」（67.8%）が約 7 割で最も高く、以下、「管理職の意識啓発研修」（57.8%）、「適切なコミュニケーションで互いを尊重し合えるような職場風土」（47.8%）、「相談・苦情窓口の設置」（47.3%）が続く。（図表 6－9）

【地域別】

地域別にみると、「企業トップや幹部の意識改革」は“君津地域”（86.5%）が 8 割台半ばで高くなっている。（図表 6－10）

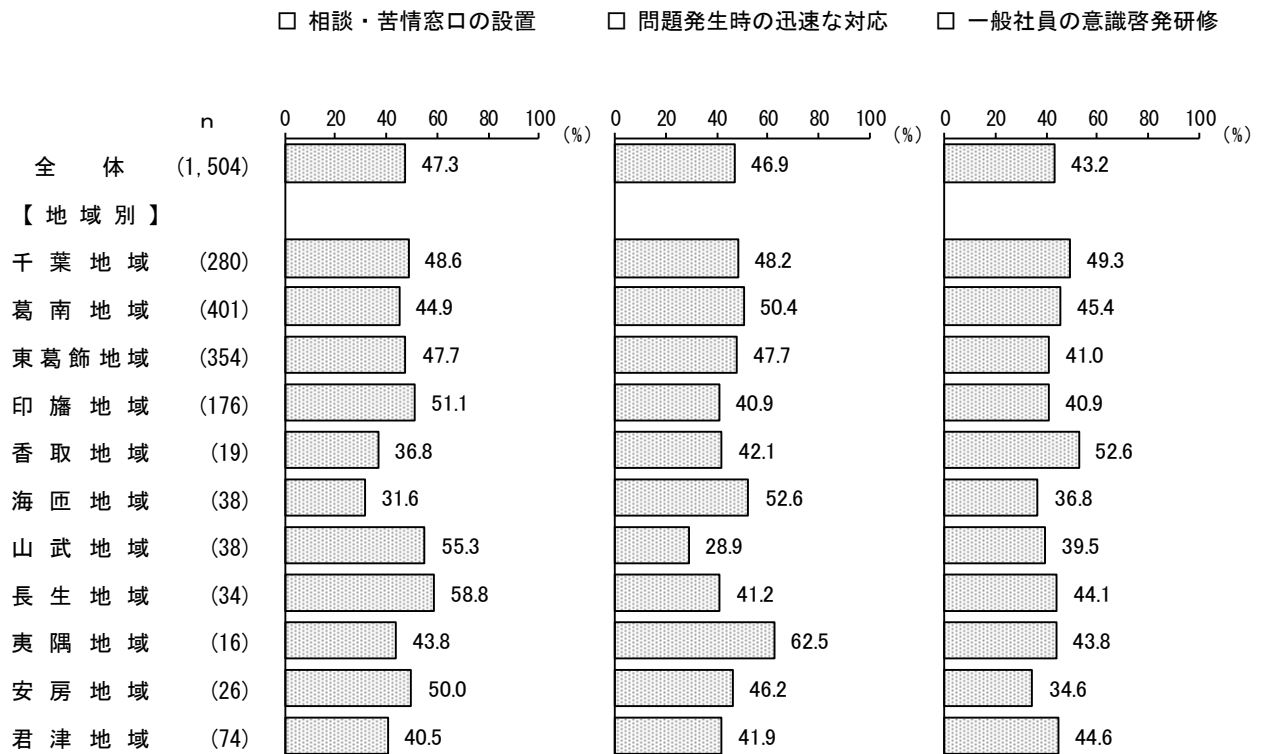
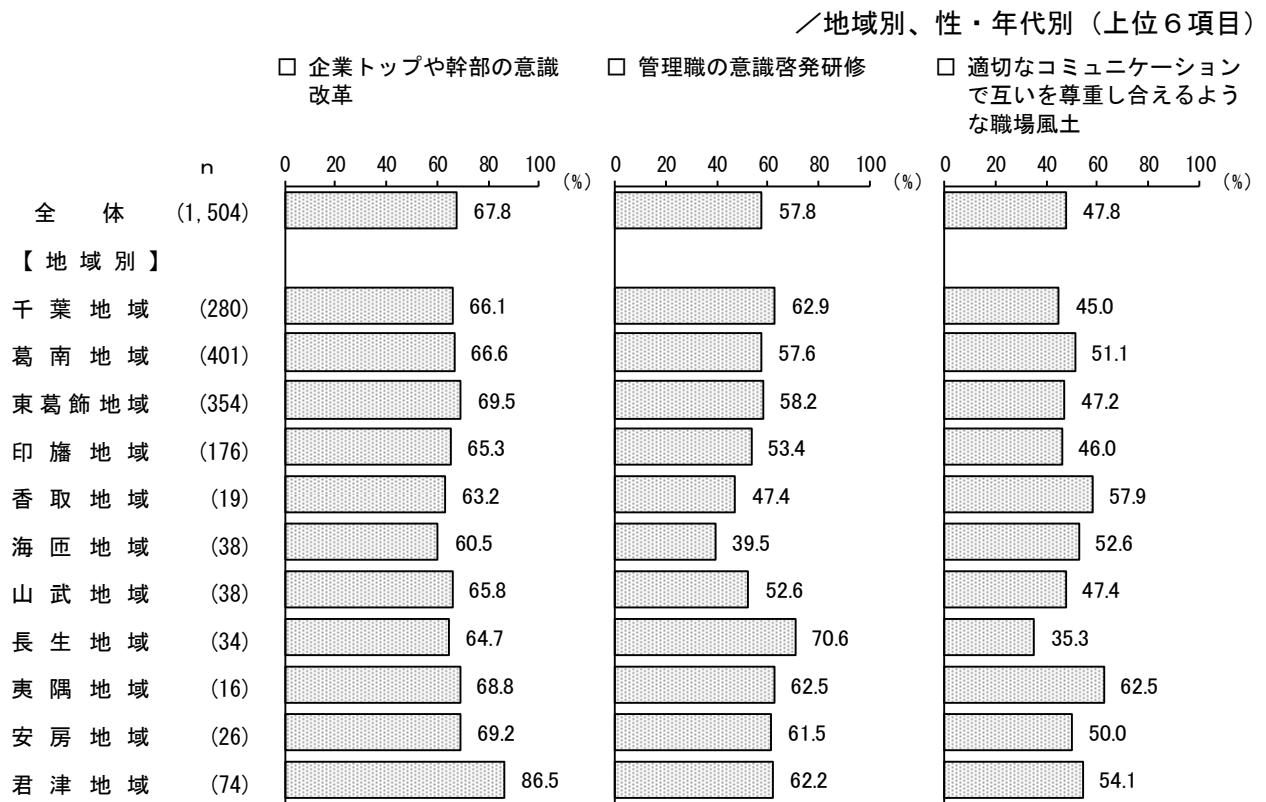
【性・年代別】

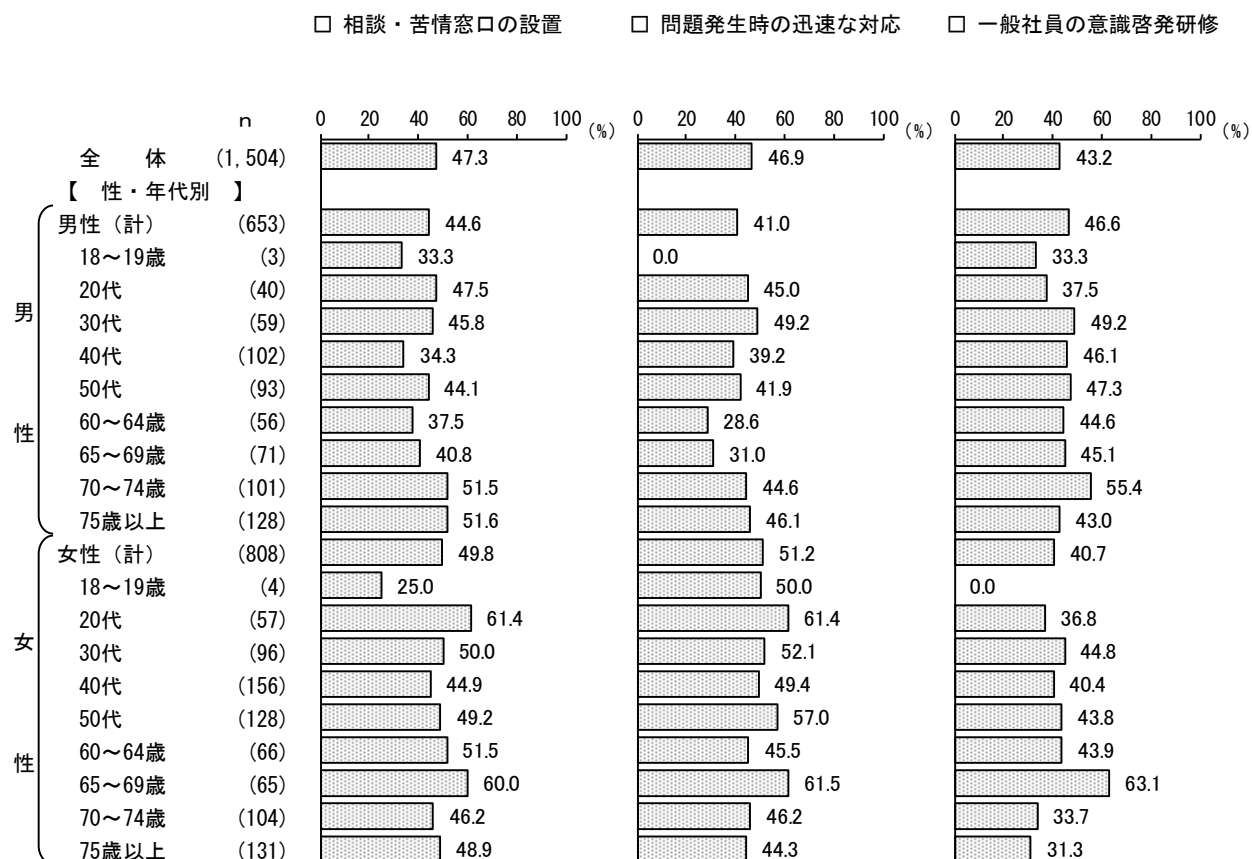
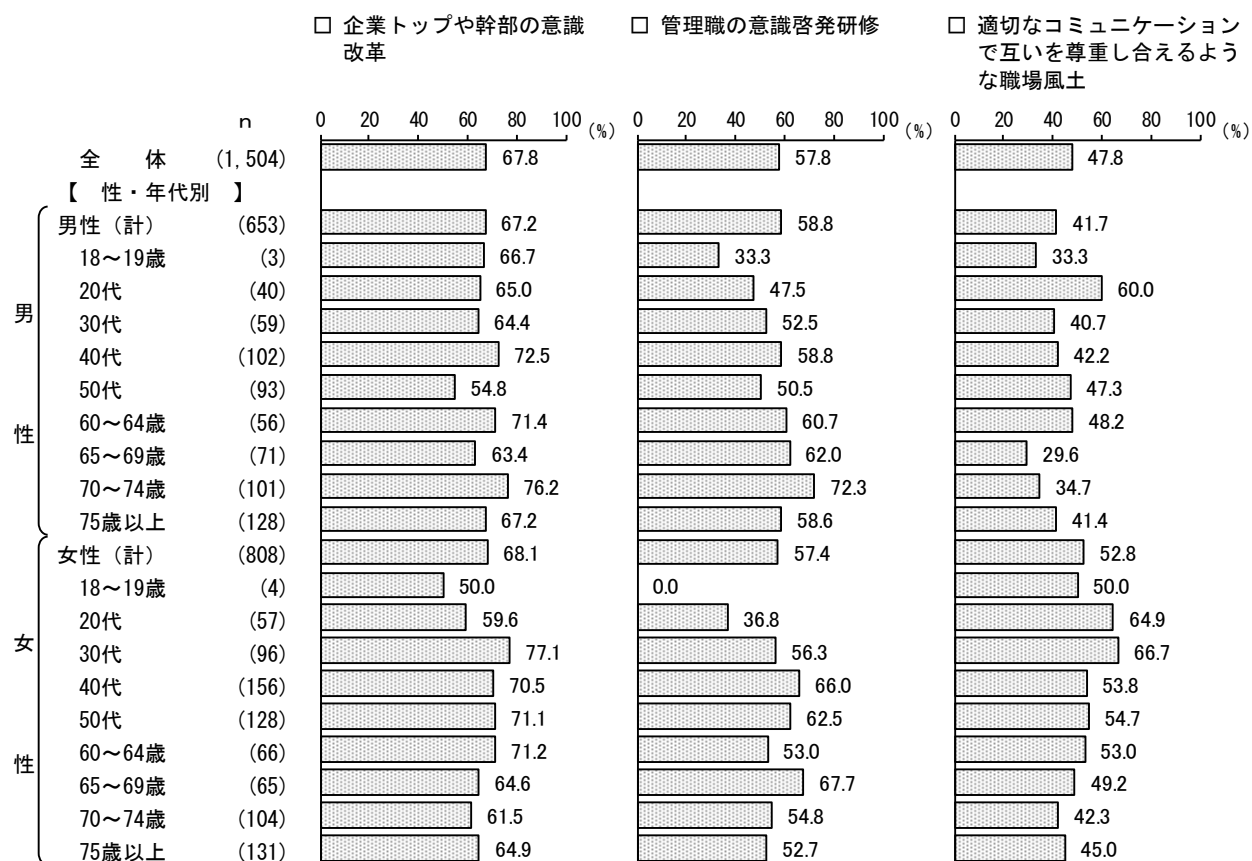
性・年代別にみると、「企業トップや幹部の意識改革」は、女性30代（77.1%）が約 8 割で高くなっている。

「管理職の意識啓発研修」は、男性70～74歳（72.3%）が 7 割を超え、女性40代（66.0%）が 6 割台半ばで高くなっている。

「適切なコミュニケーションで互いを尊重し合えるような職場風土」は、女性30代（66.7%）、女性20代（64.9%）が6割台半ばで高くなっている。（図表6－10）

＜図表6－10＞ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うこと（複数回答）





このほかにも、「働きやすい職場環境づくりについて」や問22～問25について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、115人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「働きやすい職場環境づくりについて」の自由回答（抜粋）

○保育士、介護士など、人不足の職場への賃金のサポートやシングルで子育てしている家族への配慮など、働く意欲やメリットが充実する政策をお願いします。（女性、40代、東葛飾地域）

○働き方改革で結果、労働時間の短縮になっていきますが、給与は上げなければいけない方向になっています。然るに価格転嫁をしないとなりません。更には物価上昇に繋がることになります。
（女性、75歳以上、居住地域無回答）

○働き方改革が進められていると思うが末端では、まだまだ進んでいない。特に小中学校の先生方、その中でも体育系の先生は、平日の部活の指導、土、日曜日は部活、練習試合、大会と休日などないと、見聞している。
（男性、75歳以上、君津地域）

○大企業はある程度守られていますが、小さな個人企業はハラスメントや低賃金、有給なし、ボーナスなしなど社員が守られていません。市や県、国がしっかり対策すべきです。
（女性、50代、東葛飾地域）

○職場のハラスメント防止には企業トップ、幹部、管理職の意識改革が必要であると思う。当事者自身、その行為や言葉がハラスメントだと思っていないことが多い。幹部、管理職、社員の意識啓発研修が必要、そして人間同士のコミュニケーションにおいてお互いの人格を尊重し合えること、人間同士対等であることがゆきわたることと、自分の考えや意見が言いやすい、風通しの良い職場環境が必要である。部下、上司にフラットに意見が言えない、男女格差がある職場には、発展性がないと思う。
（女性、75歳以上、葛南地域）

○職場でのハラスメントに対して一体だれに相談したら良いのかわからない場合が多いと思います。又、同じ部署の窓口相談してもそれが上司に伝わり、ハラスメントしている本人に伝わりもっと立場が悪くなることを考えると、口を閉ざしてしまう傾向があるのではと思います。
（女性、65～69歳、東葛飾地域）

○職場が「密室」になることなく、地域や社会に開かれた場所になるよう、外部の目や外部の視点が入りやすいように工夫するとよいと思う。
（男性、30代、海匝地域）

○自身の働いている会社は、働きやすいので特に困っていないが、世の中の男性がもっと育児休暇を取れるようになると良いと感じる。
（女性、20代、葛南地域）

○介護をする者が休みをとりやすい環境を整えて欲しい。
（女性、50代、東葛飾地域）

○育児休業や短時間勤務職員のフォローをする職員に対する手当や配慮が欲しいです。
（性別回答しない、30代、印旛地域）

7 困難な問題を抱える女性への支援について

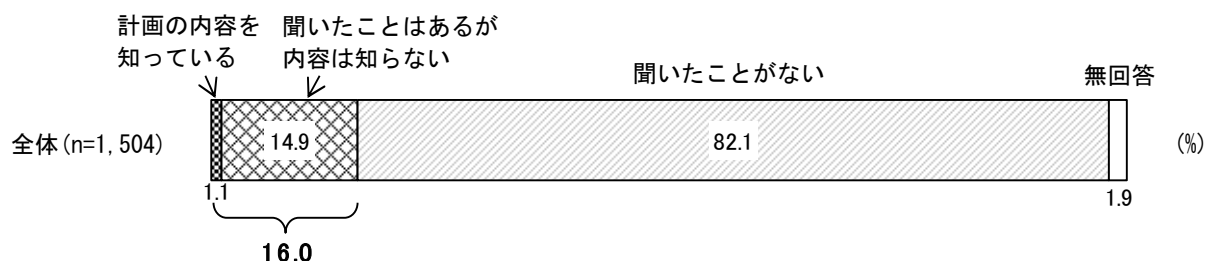
（１）「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が１割台半ば

問26 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和４年法律第５２号）に基づき、県では「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」を策定しました。あなたは、この計画を知っていますか。（○は１つ）

※ 困難な問題を抱える女性とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む。）をいいます。例えば、家族関係の破綻やＤＶ被害等で家に帰れない女性、生活困窮により住む場所のない女性等が考えられます。

＜図表 7－１＞「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度



「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度を聞いたところ、「計画の内容を知っている」（1.1％）と「聞いたことはあるが内容は知らない」（14.9％）を合わせた『聞いたことがある（計）』（16.0％）が１割台半ばとなっている。

一方、「聞いたことがない」（82.1％）が８割を超えている。（図表 7－１）

【地域別】

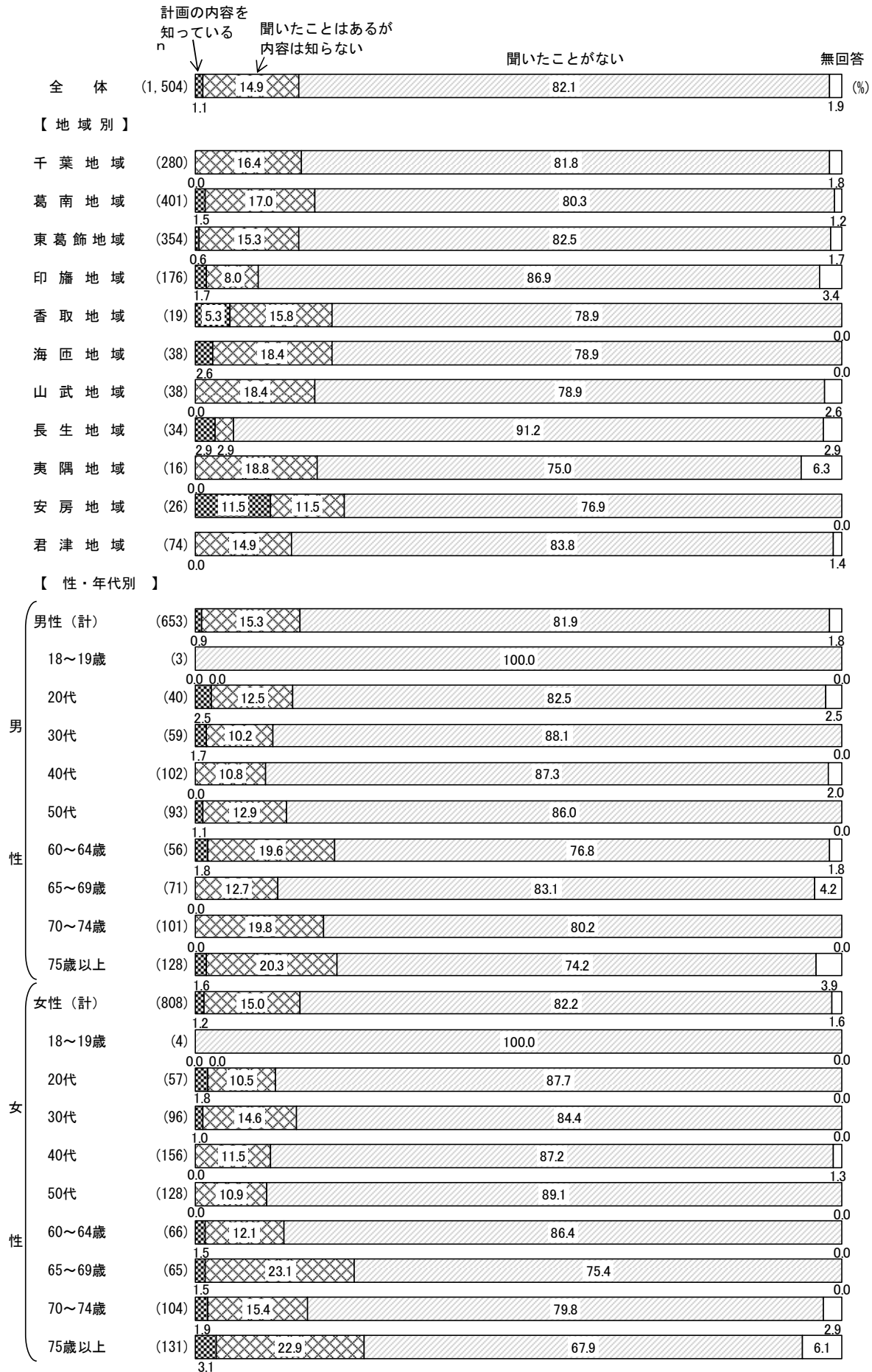
地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表 7－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は、女性75歳以上（26.0％）が２割台半ばで高くなっている。

一方、「聞いたことがない」は、女性50代（89.1％）が約９割で高くなっている。（図表 7－２）

<図表 7-2>「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度／地域別、性・年代別

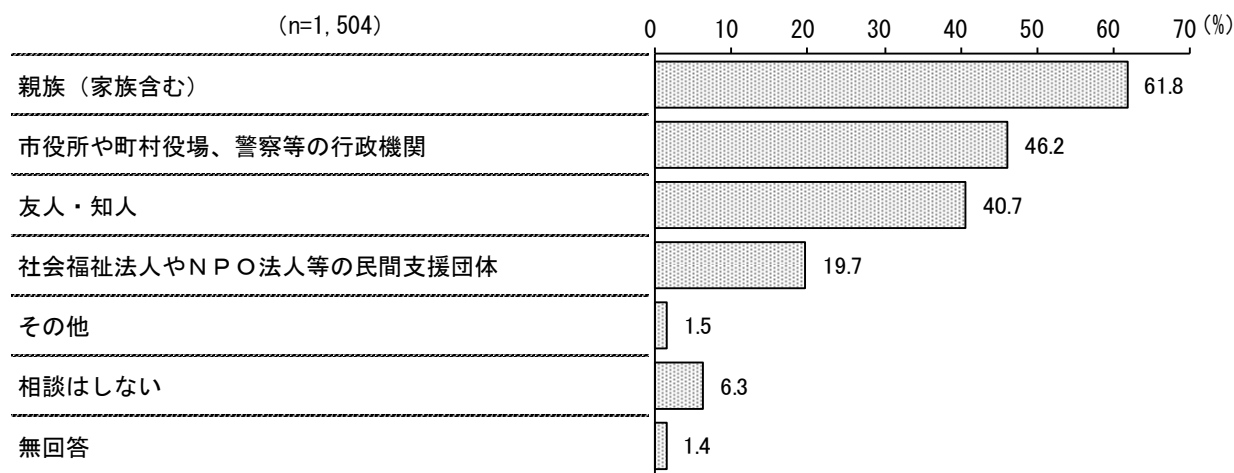


（２）困難な問題を抱えた際の相談先

◇「親族（家族含む）」が６割を超える

問27 あなたは、生活困窮、DV被害、家族関係破綻など困難な問題を抱えた際、誰に相談しますか。女性以外の方もお答えください。（○はいくつでも）

＜図表 7－3＞困難な問題を抱えた際の相談先（複数回答）



困難な問題を抱えた際の相談先を聞いたところ、「親族（家族含む）」（61.8%）が６割を超えて最も高く、以下、「市役所や町村役場、警察等の行政機関」（46.2%）、「友人・知人」（40.7%）、「社会福祉法人やNPO法人等の民間支援団体」（19.7%）が続く。（図表 7－3）

【地域別】

地域別にみると、「相談はしない」は“山武地域”（15.8%）が１割台半ばで高くなっている。

（図表 7－4）

【性・年代別】

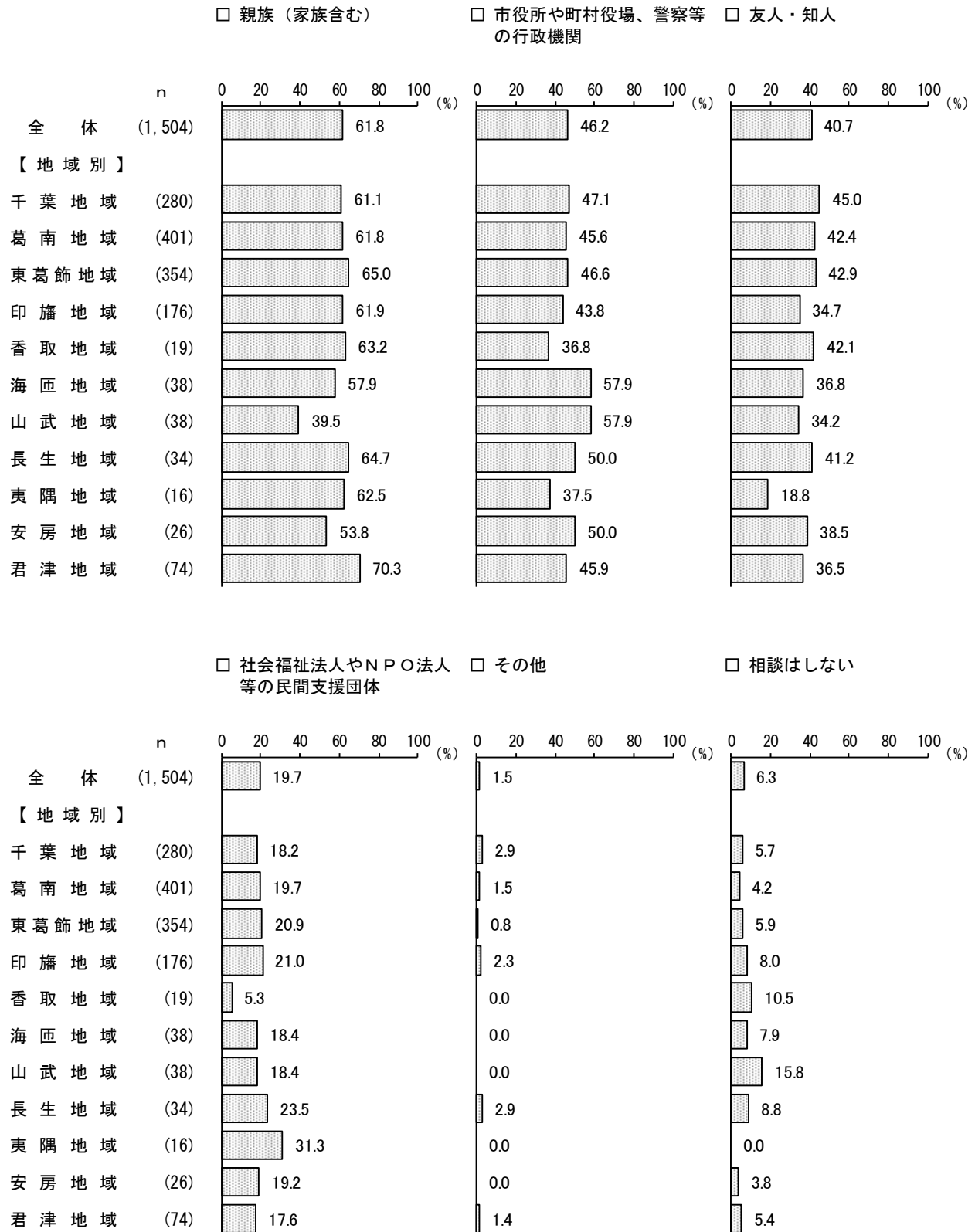
性・年代別にみると、「親族（家族含む）」は、女性30代（71.9%）が７割を超えて高くなっている。

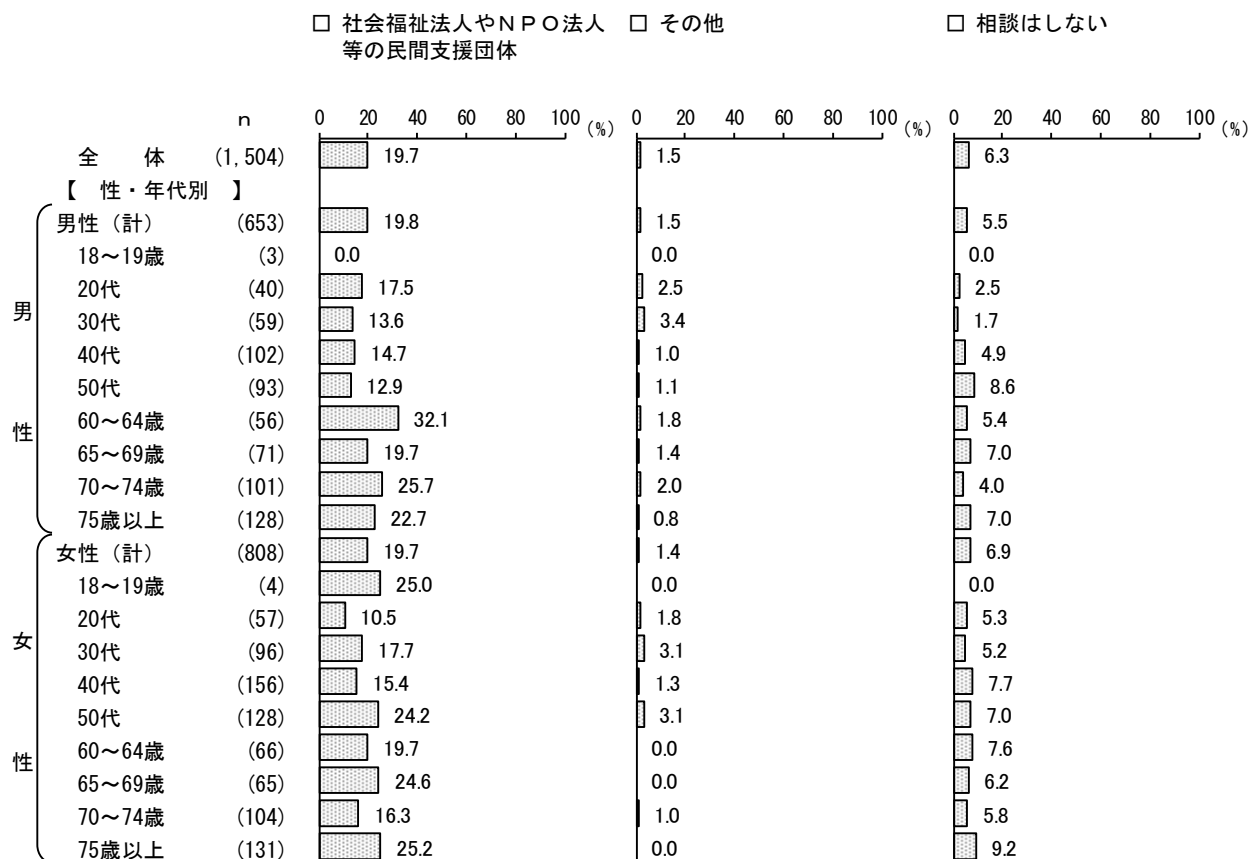
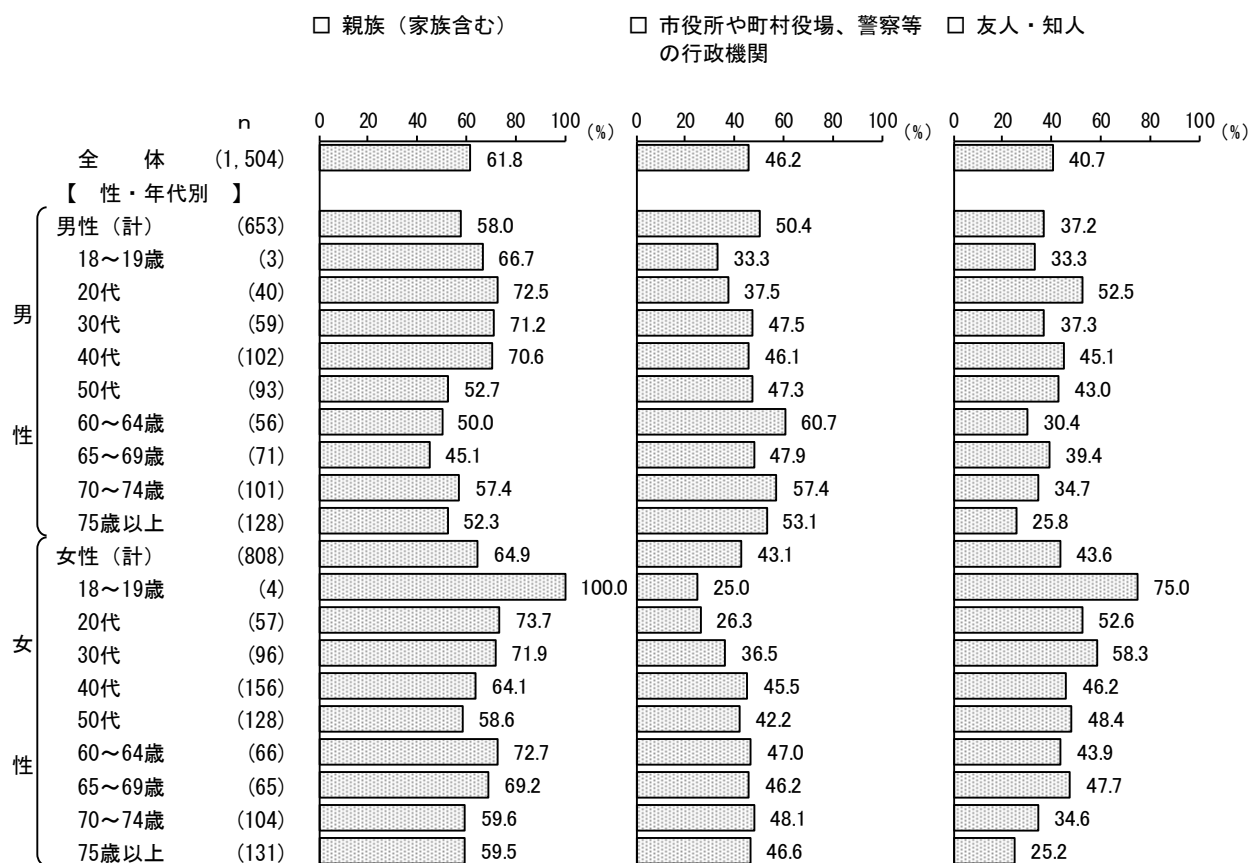
「市役所や町村役場、警察等の行政機関」は、男性60～64歳（60.7%）が６割、男性70～74歳（57.4%）が約６割で高くなっている。

「友人・知人」は、女性30代（58.3%）が約６割で高くなっている。

「社会福祉法人やNPO法人等の民間支援団体」は、男性60～64歳（32.1%）が３割を超えて高くなっている。（図表 7－4）

＜図表 7－4＞困難な問題を抱えた際の相談先（複数回答）／地域別、性・年代別





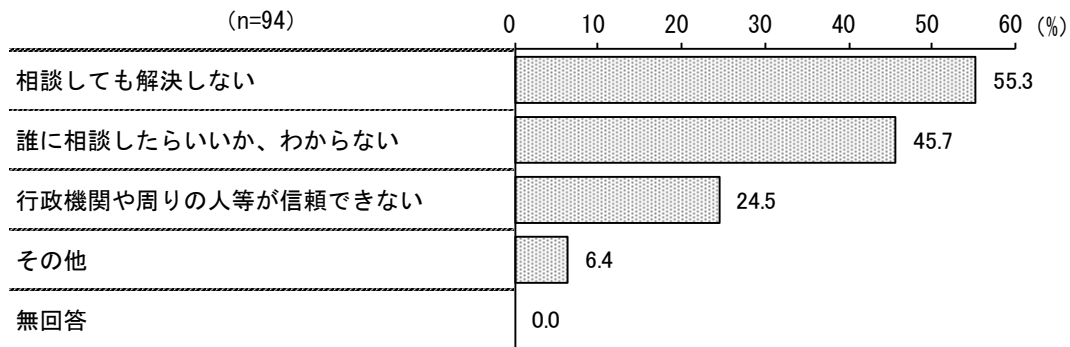
（２－１）困難な問題について相談しない理由

◇「相談しても解決しない」が５割台半ば

（問27で「相談はしない」とお答えの方に）

問27－１ あなたが、相談しない理由は何ですか。（○はいくつでも）

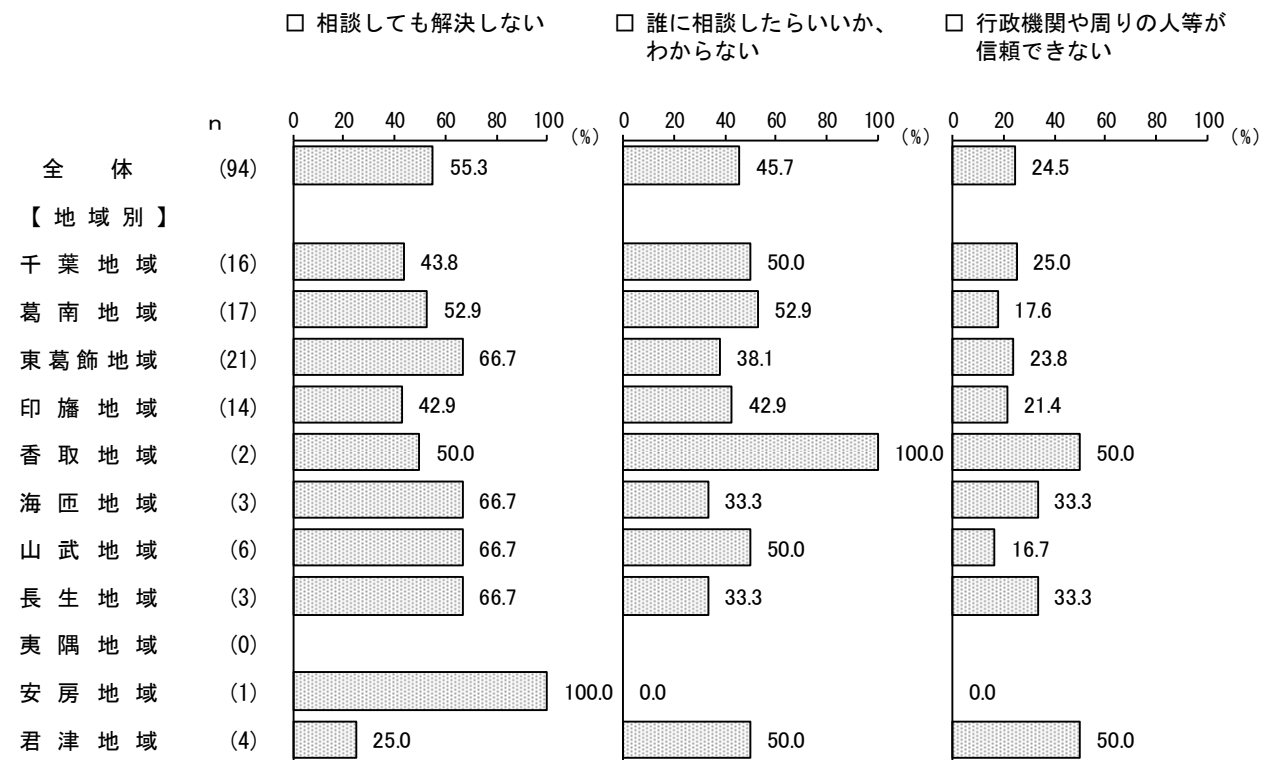
＜図表 7－5＞困難な問題について相談しない理由（複数回答）



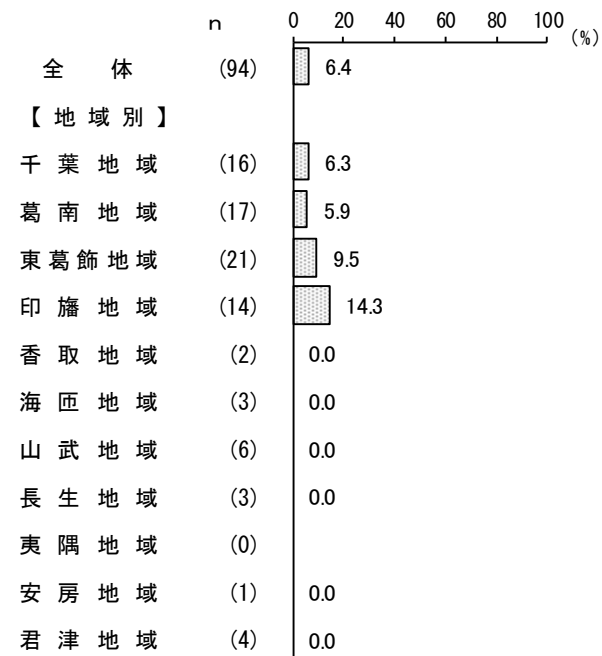
困難な問題について相談しない理由を聞いたところ、「相談しても解決しない」（55.3%）が５割台半ばで最も高く、以下、「誰に相談したらいいか、わからない」（45.7%）、「行政機関や周りの人等が信頼できない」（24.5%）が続く。（図表 7－5）

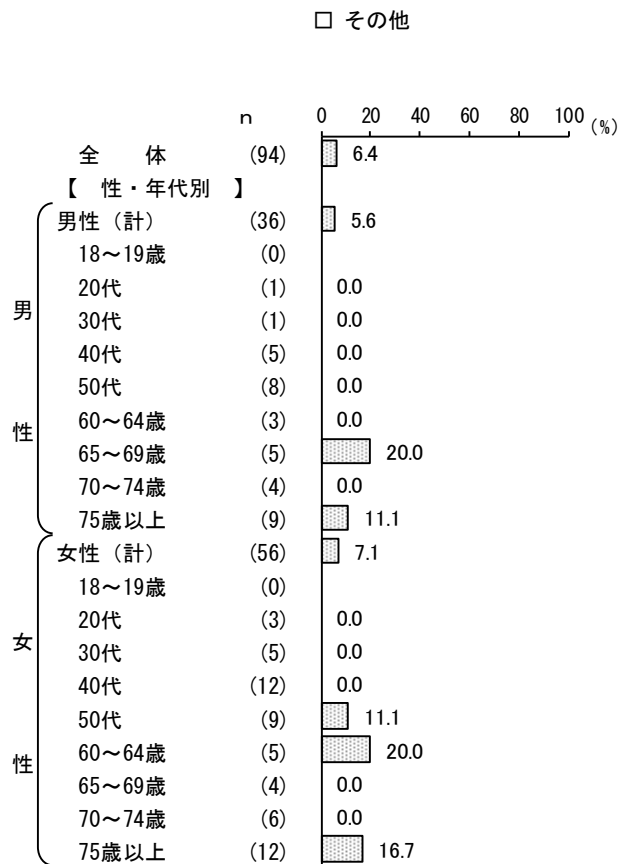
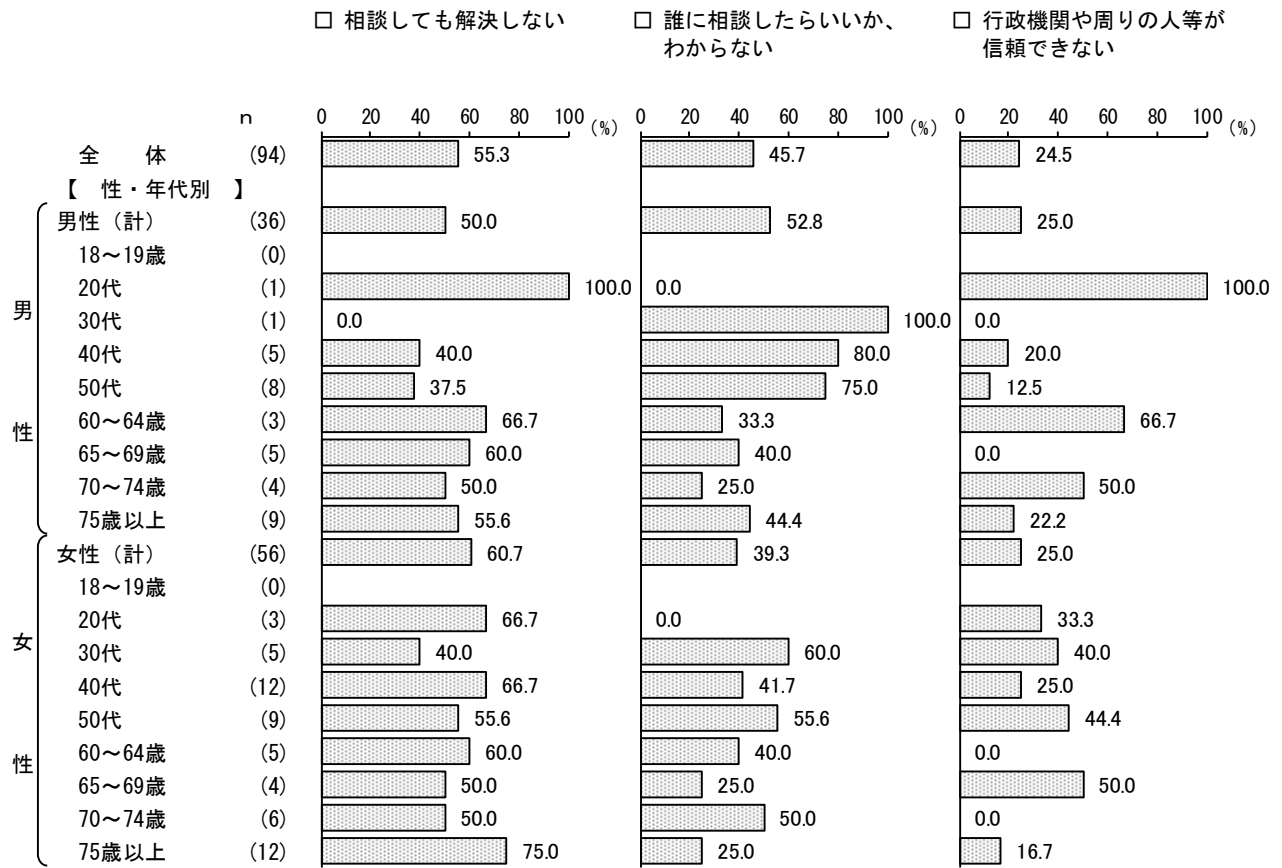
※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。
（9ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表 7－6）

[参考]＜図表 7－6＞困難な問題について相談しない理由（複数回答）／地域別、性・年代別



□ その他





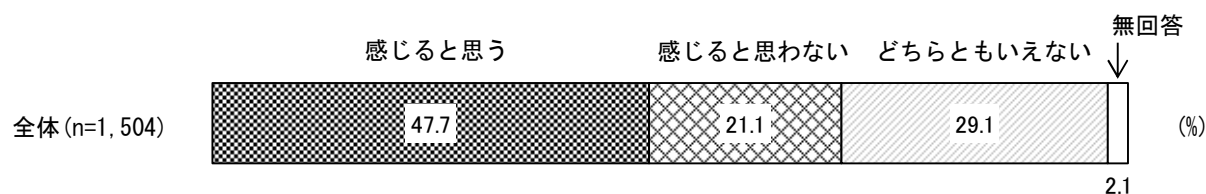
（３）ＤＶ被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無

◇「感じると思う」が約５割

問28 あなたが仮にＤＶ被害等にあった場合、シェルター※への入所にためらいを感じると思いますか。（○は１つ）

※ シェルターとは、暴力を受けた被害者等が緊急一時的に避難できる施設をいいます。その性質から、入所者に、外出の禁止や、携帯電話等の通信機器の使用制限等が課せられる場合があります。また、入所者同士が集団生活を行うシェルターもあります。女性以外の方も、シェルターに入所することを想定してお答えください。

<図表 7-7> ＤＶ被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無



ＤＶ被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無を聞いたところ、「感じると思う」（47.7％）が約５割となっている。

一方、「感じると思わない」（21.1％）が２割を超えている。

また、「どちらともいえない」（29.1％）は約３割となっている。（図表 7-7）

【地域別】

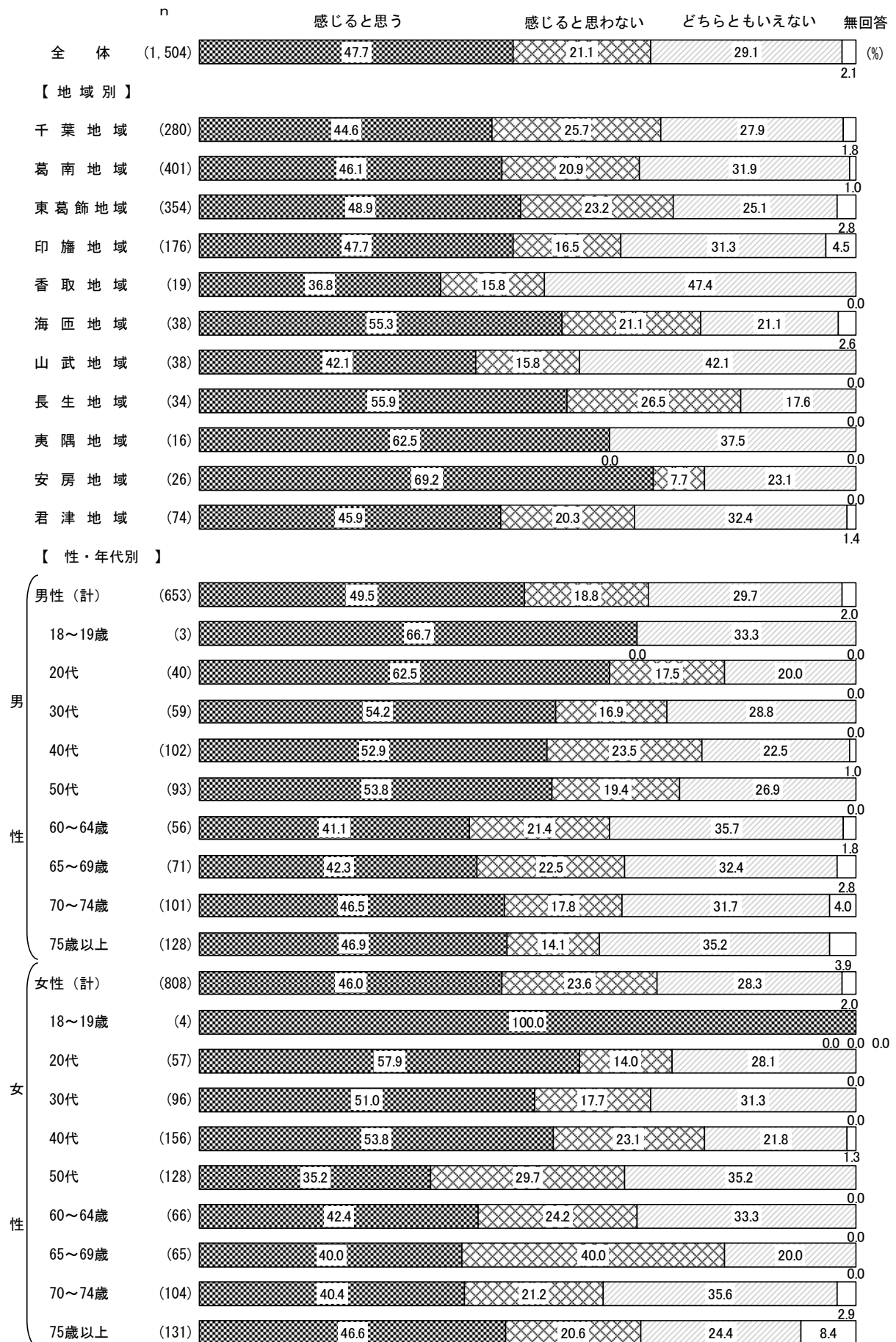
地域別にみると、「感じると思わない」は“千葉地域”（25.7％）が２割台半ばで高くなっている。

（図表 7-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「感じると思わない」は、女性65～69歳（40.0％）が４割、女性50代（29.7％）が約３割で高くなっている。（図表 7-8）

<図表 7-8> DV被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無／地域別、性・年代別

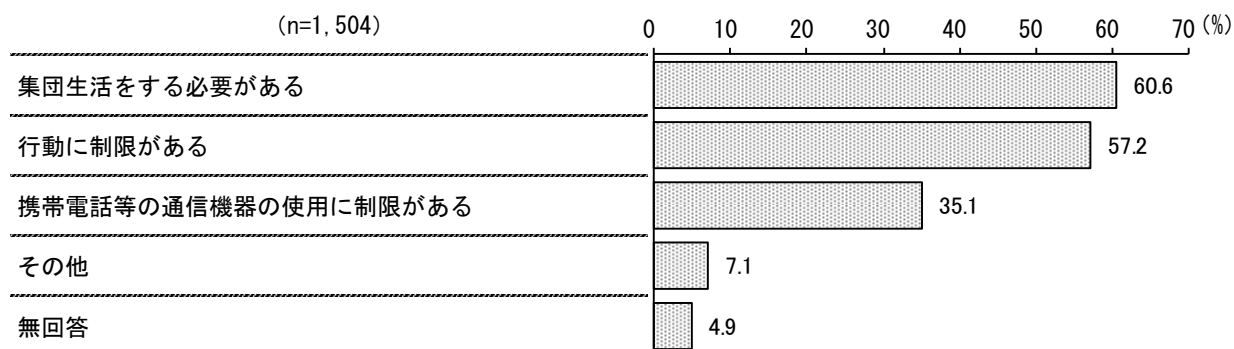


（４）シェルターに入所することをためらう理由

◇「集団生活をする必要がある」が６割

問29 DV被害等からの避難でシェルターに入所する場合、入所をためらう理由になりうるのはどれだと思いますか。（○はいくつでも）

＜図表 7－9＞シェルターに入所することをためらう理由（複数回答）



シェルターに入所することをためらう理由を聞いたところ、「集団生活をする必要がある」（60.6％）が６割で最も高く、以下、「行動に制限がある」（57.2％）、「携帯電話等の通信機器の使用に制限がある」（35.1％）が続く。（図表 7－9）

【地域別】

地域別にみると、「携帯電話等の通信機器の使用に制限がある」は“葛南地域”（39.7％）が約４割で高くなっている。（図表 7－10）

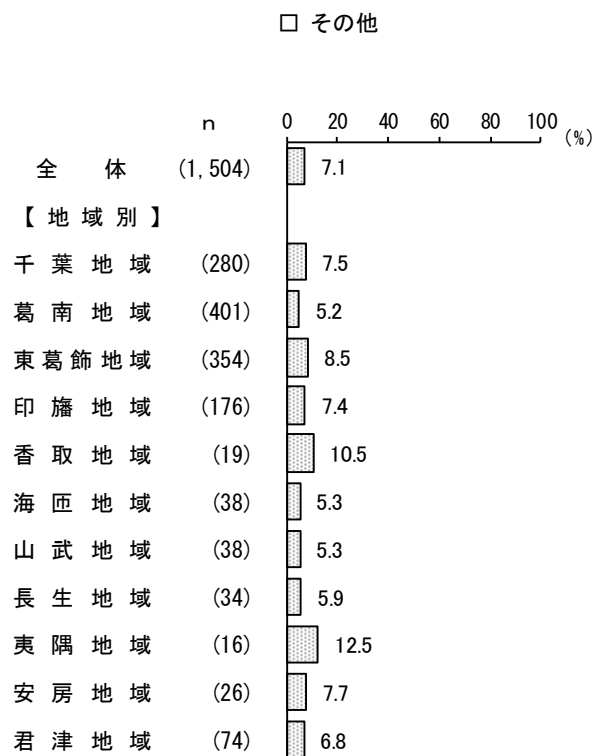
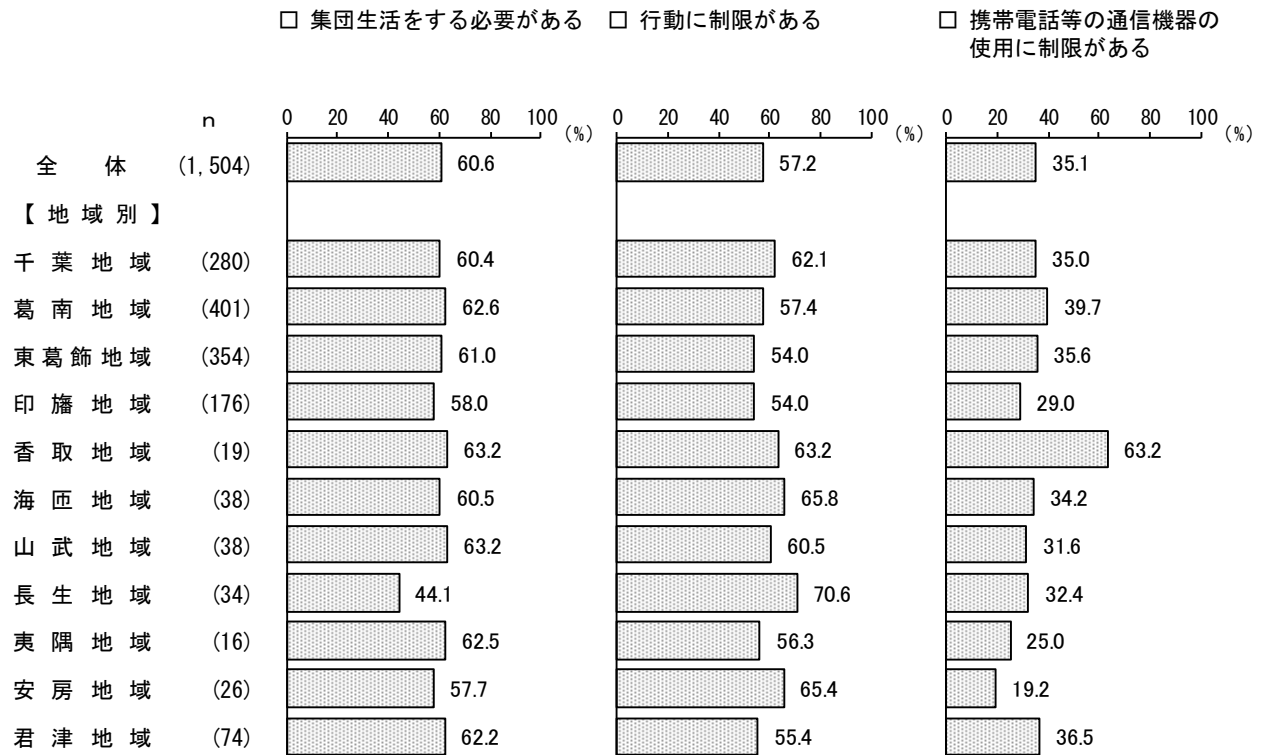
【性・年代別】

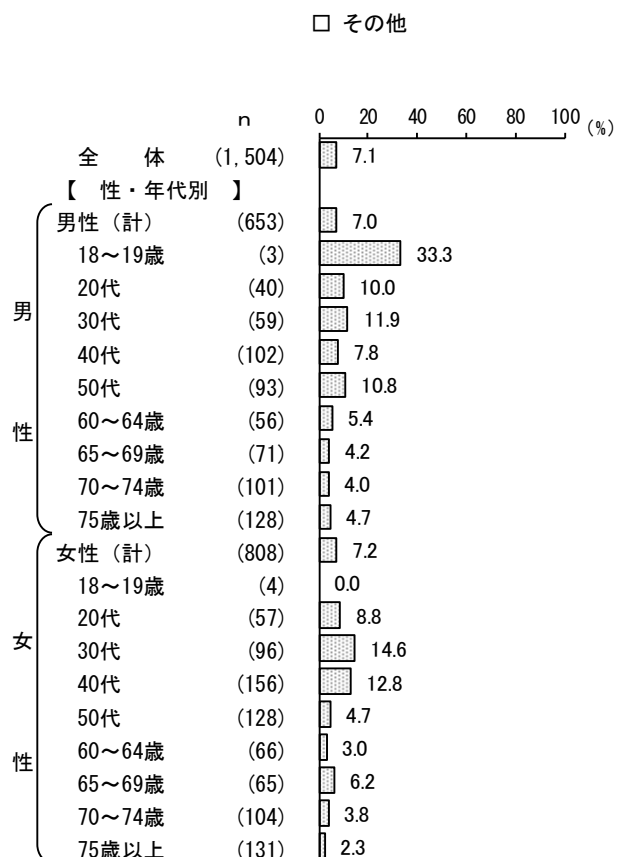
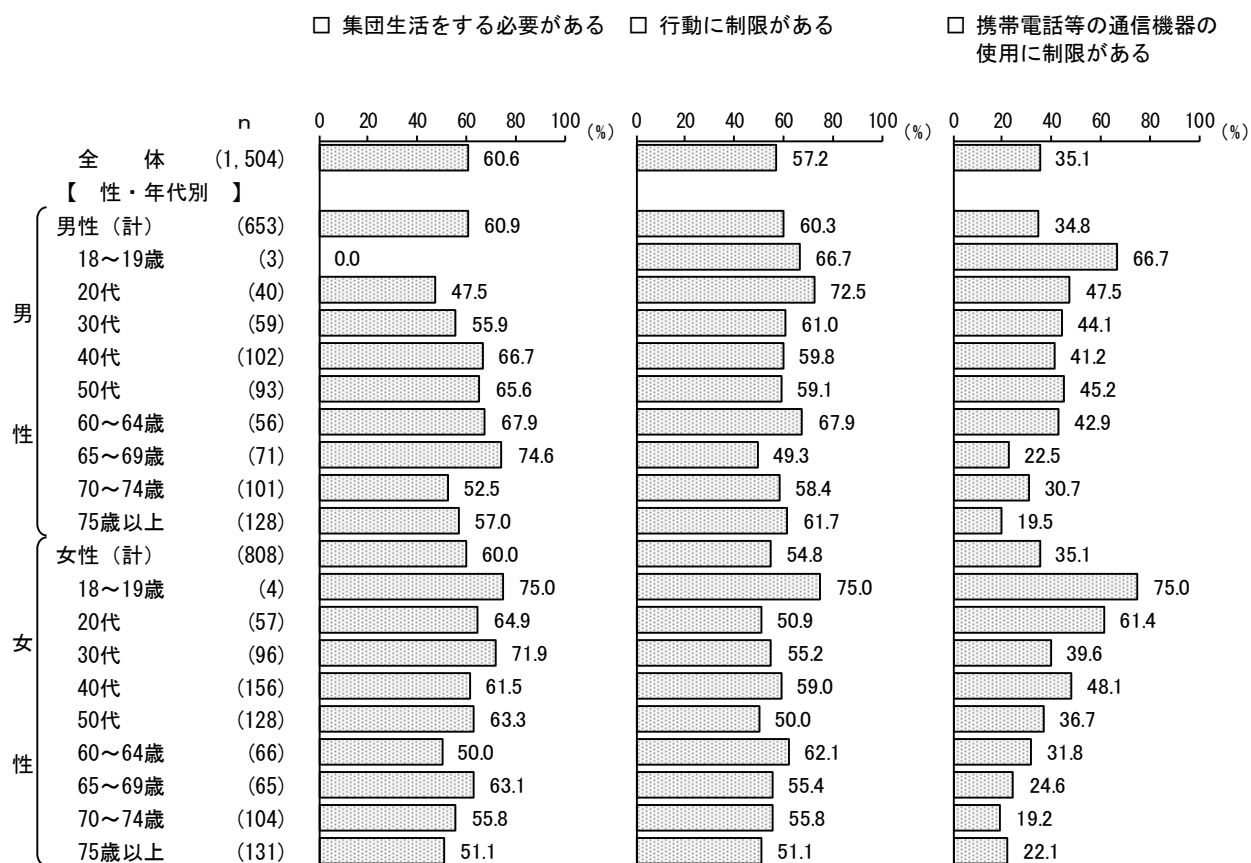
性・年代別にみると、「集団生活をする必要がある」は、男性65～69歳（74.6％）が７割台半ば、女性30代（71.9％）が７割を超えて高くなっている。

「行動に制限がある」は、男性20代（72.5％）が７割を超えて高くなっている。

「携帯電話等の通信機器の使用に制限がある」は、女性20代（61.4％）が６割を超え、女性40代（48.1％）が約５割、男性50代（45.2％）が４割台半ばで高くなっている。（図表 7－10）

＜図表7－10＞シェルターに入所することをためらう理由（複数回答）／地域別、性・年代別



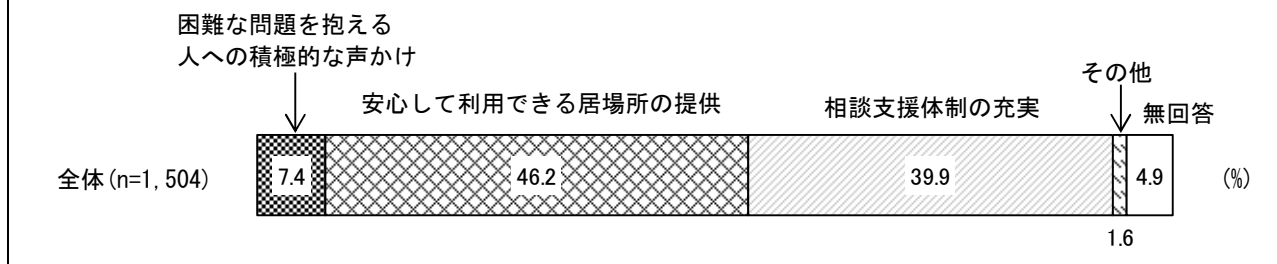


（５）困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なこと

◇「安心して利用できる居場所の提供」が４割台半ば

問30 あなたは、困難な問題を抱える女性を支援するため、行政に求められることは何だと思いますか。最もあてはまるものを１つだけお選びください。（○は１つ）

＜図表 7－11＞困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なこと



困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なことを聞いたところ、「安心して利用できる居場所の提供」（46.2％）が４割台半ばで最も高く、以下、「相談支援体制の充実」（39.9％）、「困難な問題を抱える人への積極的な声かけ」（7.4％）が続く。（図表 7－11）

【地域別】

地域別にみると、「安心して利用できる居場所の提供」は“長生地域”（64.7％）が６割台半ば、“山武地域”（63.2％）が６割を超えて高くなっている。（図表 7－12）

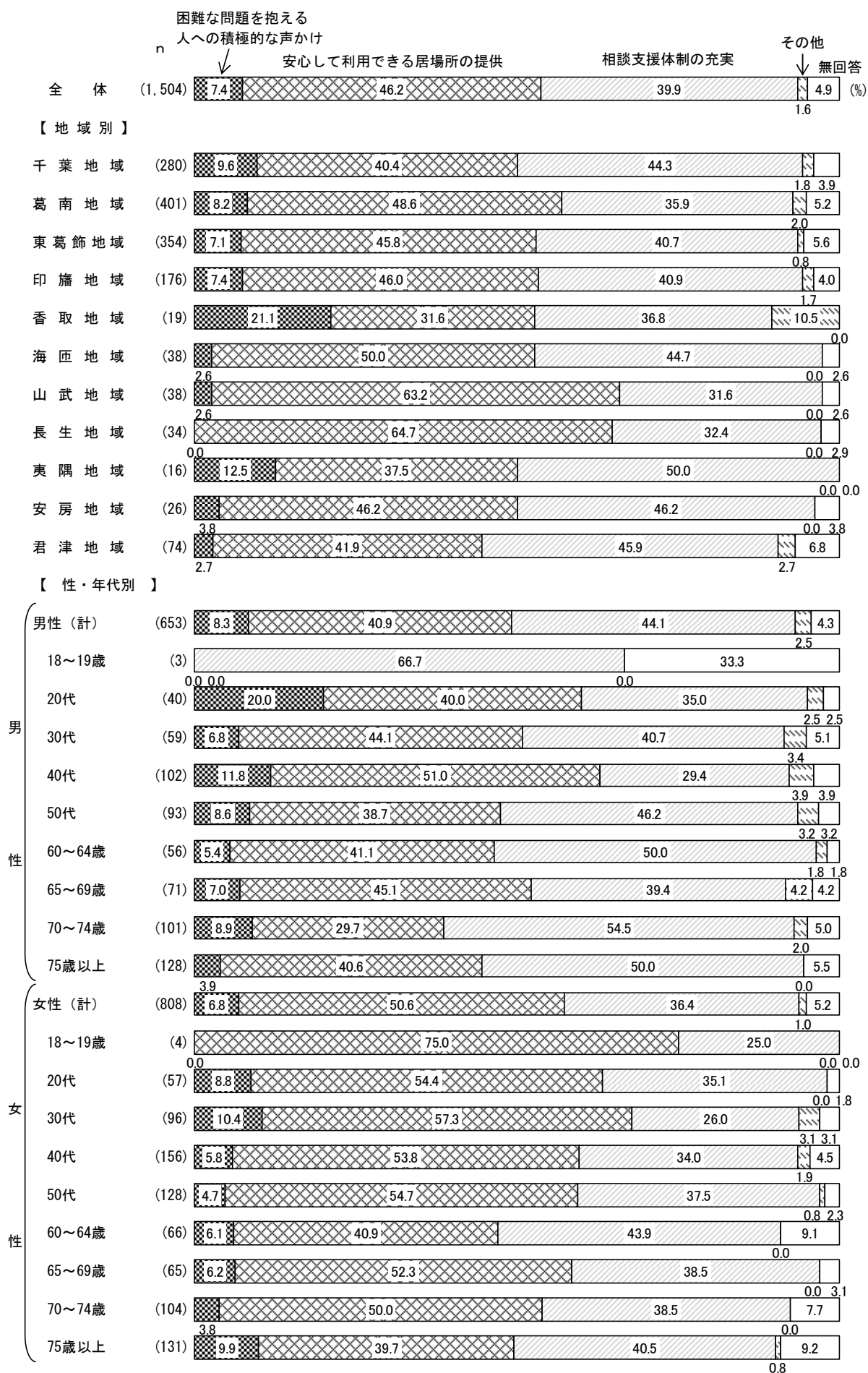
【性・年代別】

性・年代別にみると、「困難な問題を抱える人への積極的な声かけ」は、男性20代（20.0％）が２割で高くなっている。

「安心して利用できる居場所の提供」は、女性30代（57.3％）が約６割、女性50代（54.7％）、女性40代（53.8％）が５割台半ばで高くなっている。

「相談支援体制の充実」は、男性70～74歳（54.5％）が５割台半ば、男性75歳以上（50.0％）が５割で高くなっている。（図表 7－12）

＜図表 7-12＞困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なこと／地域別、性・年代別



このほかにも、「困難な問題を抱える女性への支援について」や問26～問30について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、106人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「困難な問題を抱える女性への支援について」の自由回答（抜粋）

- 行動制限があると、ためらう理由になり得る場合、病院に通わざるをえないこと等がある方もいると思います。行政、警察、病院との連携をとりながら個人が安心して居られる体制を取ることが望ましい。（男性、60～64歳、印旛地域）

- 相談して納得できる体制が必要。人に話すことによって安心できると思います。一人暮らしの方はいろいろと相談できるところがなく困っている方が多いです。（女性、65～69歳、葛南地域）

- 被害を受けた人は一生の傷を背負います。今も不安で苦しんでいる人に少しでも不安を柔らげ寄り添うことができる心を救う拠り所を増やして欲しいです。（女性、20代、君津地域）

- まずは今置かれている状況から逃げられること、安全な場所にたどりつけることが大切だと思うので、相談支援体制とそのことを広める啓蒙活動が必要。（女性、50代、東葛飾地域）

- 支援を知らないで辛い思いをしている人がいると思うので、もっと広めてほしい。小学校高学年くらいから、男女共に支援があることを学べる環境があればいいと思います。（女性、40代、葛南地域）

- 自分が過去家庭問題で悩んだ時は、親族には心配かけたくないし、他人には相談するのが恥ずかしく、長期間引きずってしまいました。何かの折にボランティアで困っている女性を支援している人と知り合い、専門の弁護士に相談でき、解決へのきっかけとなりました。自ら公的な相談窓口に行くのはかなり勇気が要ると思うので、周りが様子の変化に気付いて声をかけるのが最も支援しやすいのではないかと思います。（女性、40代、夷隅地域）

- DV被害者が制限され、加害者が自由（接近禁止命令があっても）なのは、なぜかと思う。加害者更生プログラムなどを義務づけたり、加害者が一方的な自分の言動を行使できないよう、社会的に毅然としたペナルティや制度が必要だと思います。（女性、40代、千葉地域）

- 時代的に女性だけでなく全体的に困難が多い印象。生活困窮は女性だけの問題ではない。DV、家族関係破綻等は見えづらい問題なので、広告等で関心をもってもらおう。（男性、30代、東葛飾地域）

8 地域リハビリテーションについて

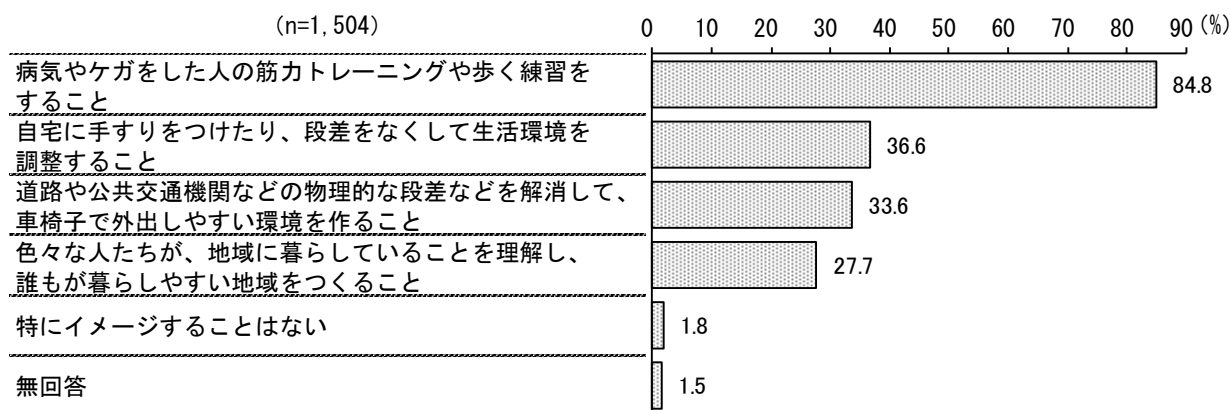
（１）「リハビリテーション」の言葉のイメージ

◇「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」が８割台半ば

問31 「リハビリテーション」を広く捉えると、以下の１～４を含んでいるといわれています。あなたが今までイメージしていた「リハビリテーション」をすべて選んでください。（○はいくつでも）

※ １～４とは、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」を指す。

＜図表８－１＞「リハビリテーション」の言葉のイメージ（複数回答）



「リハビリテーション」の言葉のイメージを聞いたところ、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」（84.8％）が８割台半ばで最も高く、以下、「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」（36.6％）、「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」（33.6％）、「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」（27.7％）が続く。（図表８－１）

【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表８－２）

【性・年代別】

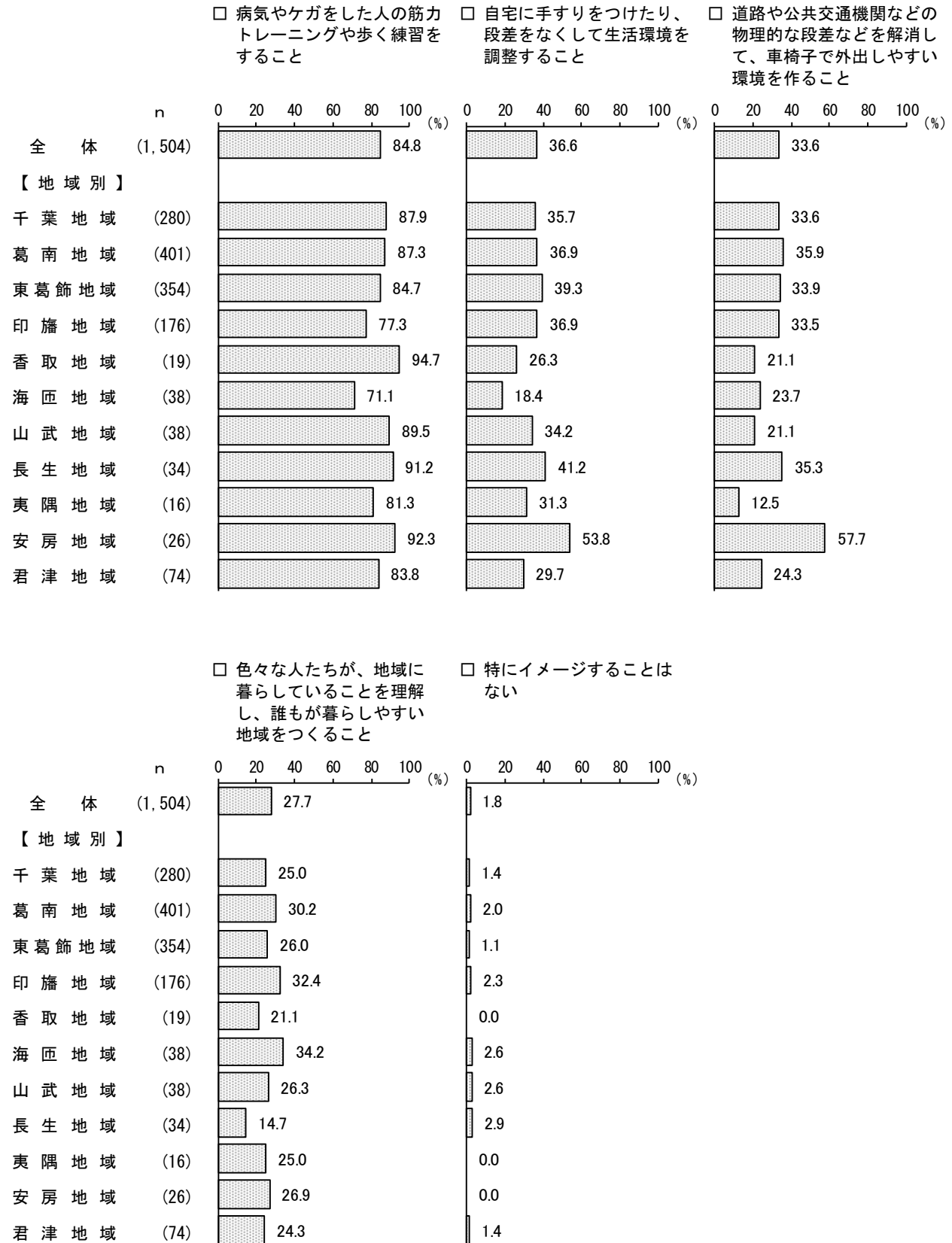
性・年代別にみると、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」は、女性30代（94.8％）、男性50代（94.6％）、男性40代（94.1％）、女性50代（93.8％）が9割台半ば、女性40代（92.9％）が9割を超えて高くなっている。

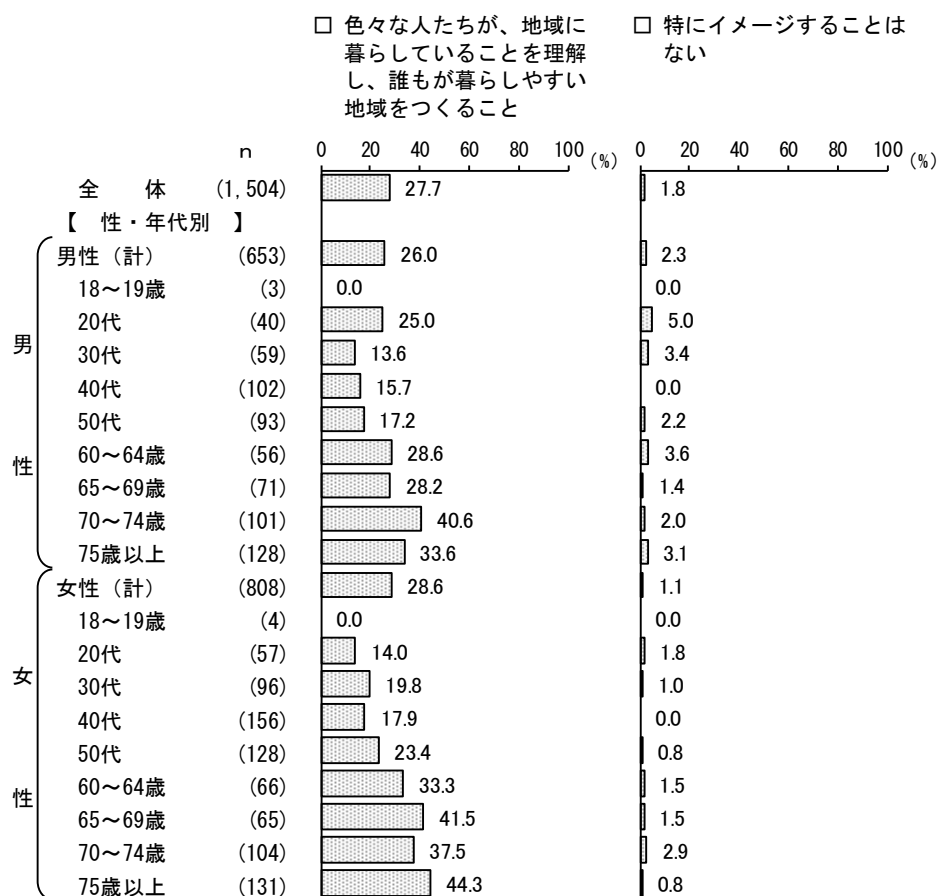
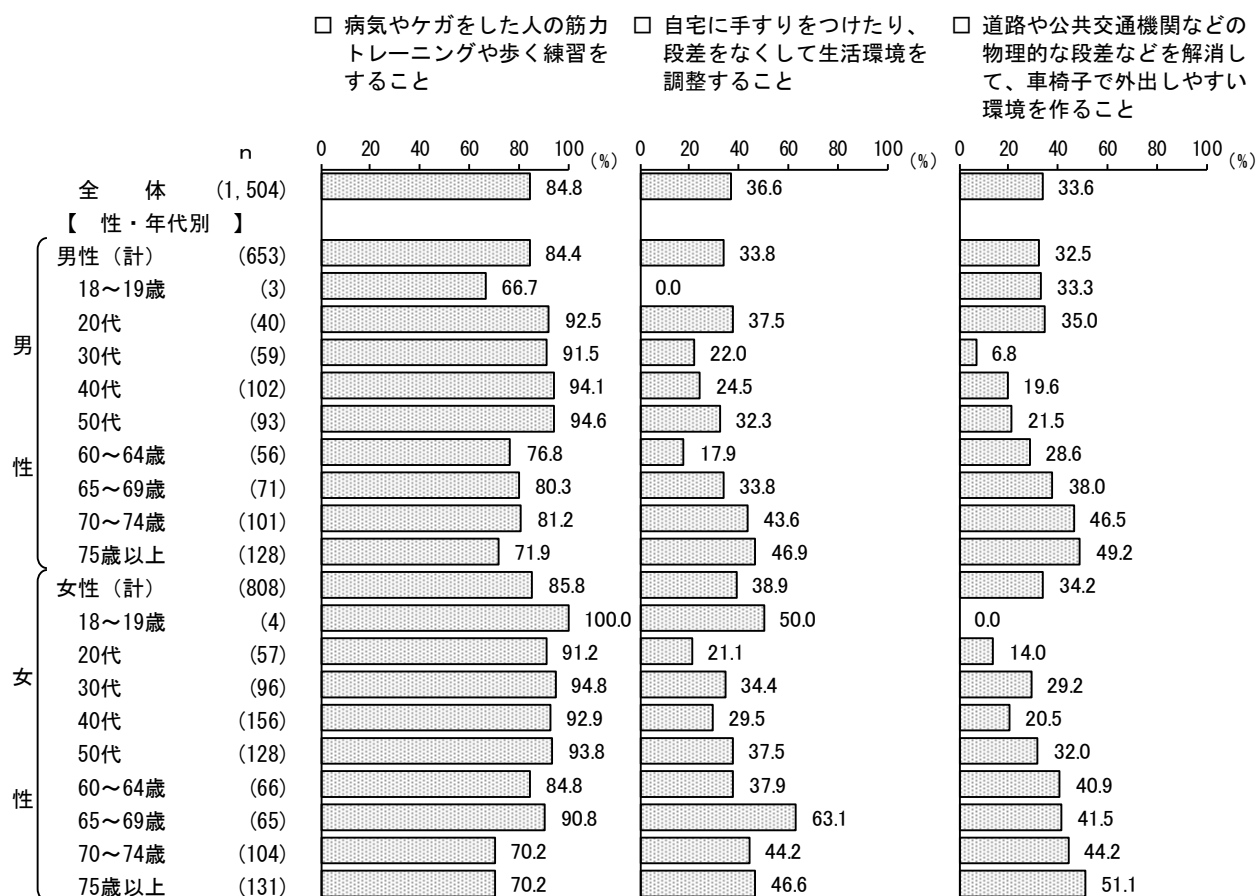
「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」は、女性65～69歳（63.1％）が6割を超え、男性75歳以上（46.9％）が4割台半ばで高くなっている。

「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」は、女性75歳以上（51.1％）が5割を超え、男性75歳以上（49.2％）が約5割、男性70～74歳（46.5％）、女性70～74歳（44.2％）が4割台半ばで高くなっている。

「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」は、女性75歳以上（44.3%）が4割台半ば、女性65～69歳（41.5%）が4割を超え、男性70～74歳（40.6%）が4割、女性70～74歳（37.5%）が約4割で高くなっている。（図表8－2）

＜図表8－2＞「リハビリテーション」の言葉のイメージ（複数回答）／地域別、性・年代別





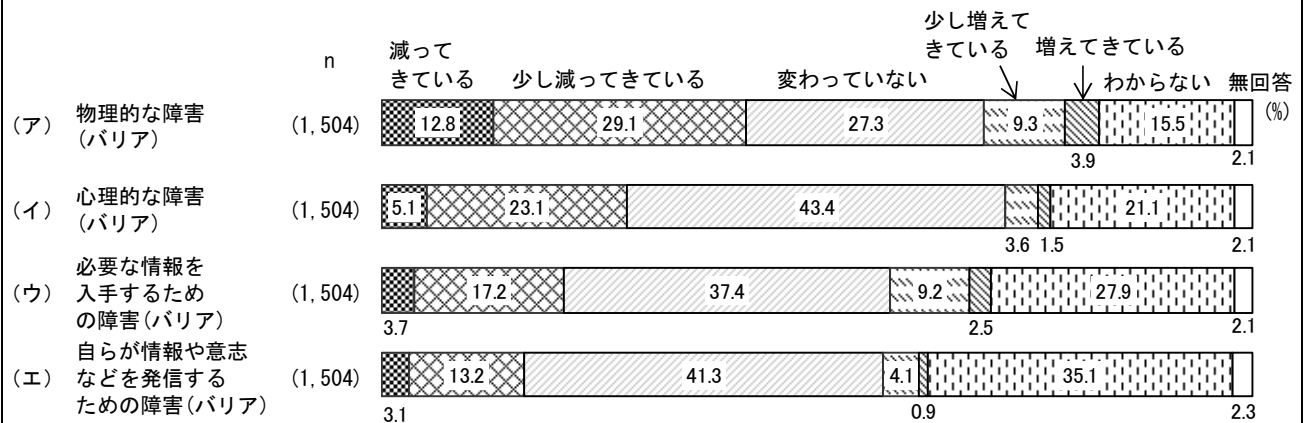
（２）「社会的な障害（バリア）」の増減

◇『減ってきている（計）』が最も高いのは「物理的な障害（バリア）」で４割を超える

問32 あなたが暮らす地域では、障害のある人や高齢者が自らの「したい暮らし」を実現するために、３年前より以下のような「社会的な障害（バリア）」※が減ってきていると思いますか。それとも増えてきていると思いますか。（○はそれぞれ１つずつ）

※ 「社会的な障害（バリア）」とは、人が生活の中で不便を感じることで、様々な活動をするときに障壁となるものを指します。

＜図表８－３＞「社会的な障害（バリア）」の増減



「社会的な障害（バリア）」の４項目について、それぞれの増減を聞いたところ、「減ってきている」と「少し減ってきている」を合わせた『減ってきている（計）』が最も高いのは、「(ア) 物理的な障害（バリア）」（41.9％）が４割を超え、以下、「(イ) 心理的な障害（バリア）」（28.2％）、「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」（20.9％）が続く。

一方、「少し増えてきている」と「増えてきている」を合わせた『増えてきている（計）』が最も高いのは、「(ア) 物理的な障害（バリア）」（13.2％）が１割を超え、以下、「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」（11.6％）、「(イ) 心理的な障害（バリア）」（5.1％）が続く。

（図表８－３）

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 物理的な障害（バリア）」について『減ってきている（計）』は“葛南地域”（48.6％）が約５割で高くなっている。

「(イ) 心理的な障害（バリア）」について地域別で大きな傾向の違いはみられない。

「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」について地域別で大きな傾向の違いはみられない。

「(エ) 自らが情報や意志などを発信するための障害（バリア）」について『増えてきている（計）』は“君津地域”（12.2％）が１割を超えて高くなっている。（図表８－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 物理的な障害（バリア）」について大きな傾向の違いはみられない。

「(イ) 心理的な障害（バリア）」について性・年代別で大きな傾向の違いはみられない。

「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」について『減ってきている（計）』は、男性20代（45.0％）が4割台半ば、男性30代（33.9％）が3割台半ばで高くなっている。

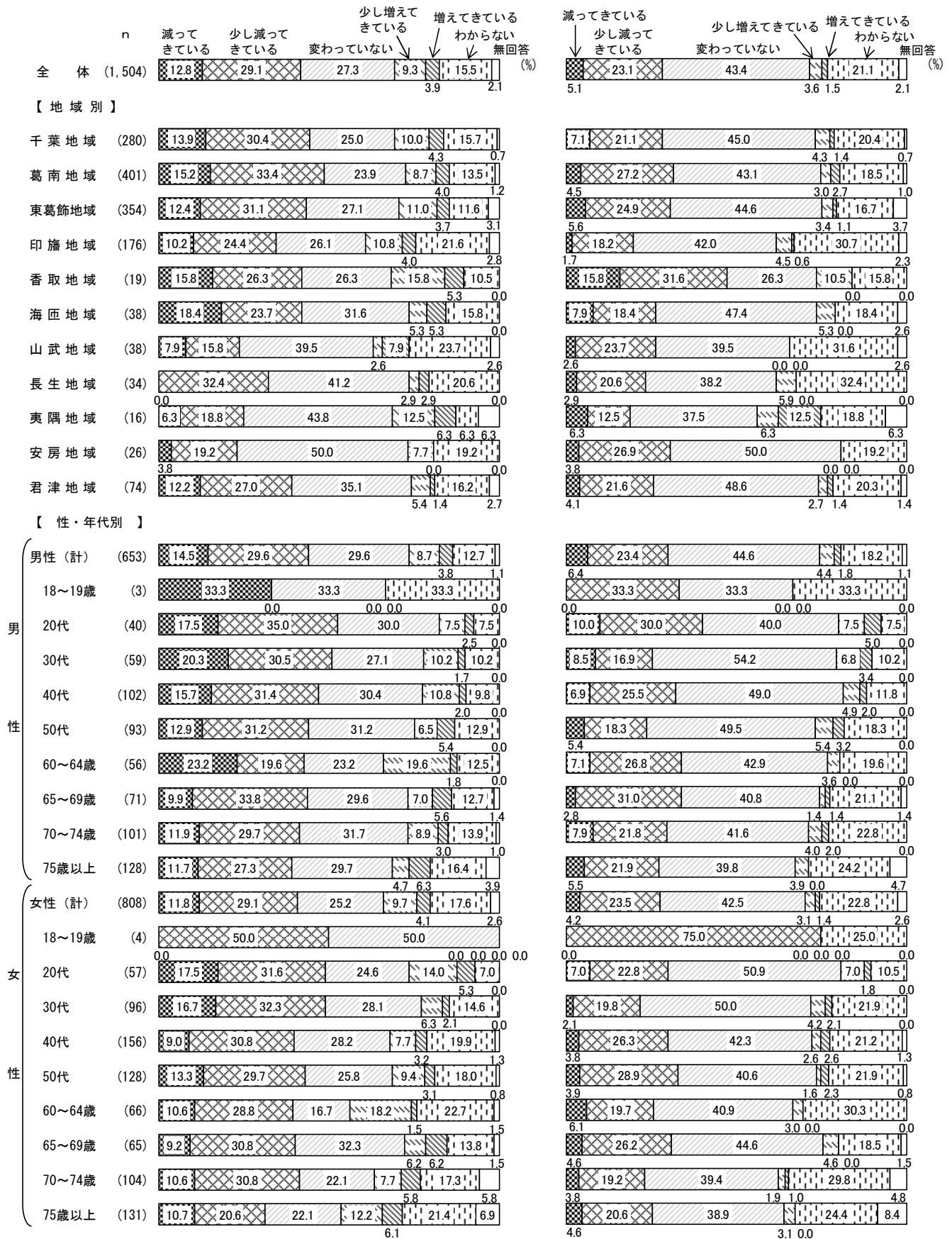
一方、「(ウ) 必要な情報を入手するための障害（バリア）」について『増えてきている（計）』は、女性20代（29.8％）が約3割、女性60～64歳（19.7％）が約2割で高くなっている。

「(エ) 自らが情報や意志などを発信するための障害（バリア）」について『減ってきている（計）』は、男性20代（45.0％）は4割台半ば、男性30代（30.5％）が3割、女性20代（26.3％）が2割台半ばで高くなっている。（図表 8－4）

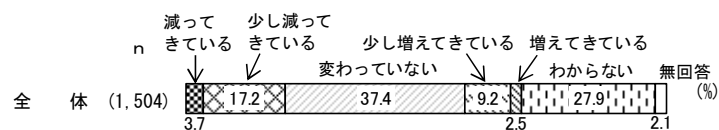
<図表 8-4> 「社会的な障害（バリア）」の増減／地域別、性・年代別

(ア) 物理的な障害（バリア）

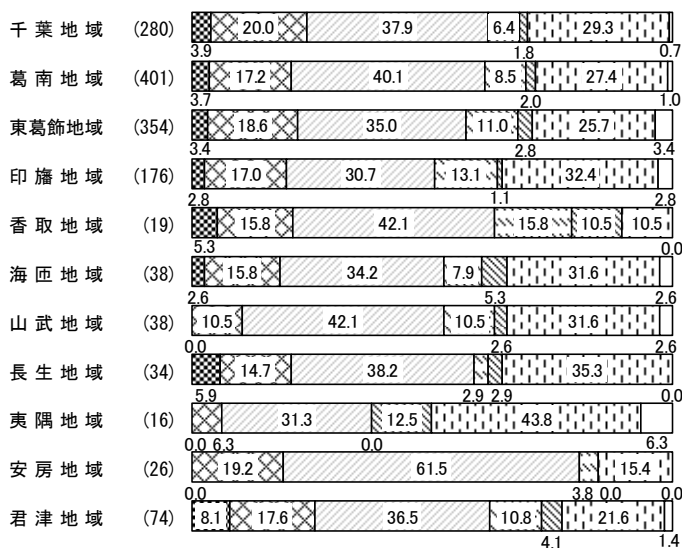
(イ) 心理的な障害（バリア）



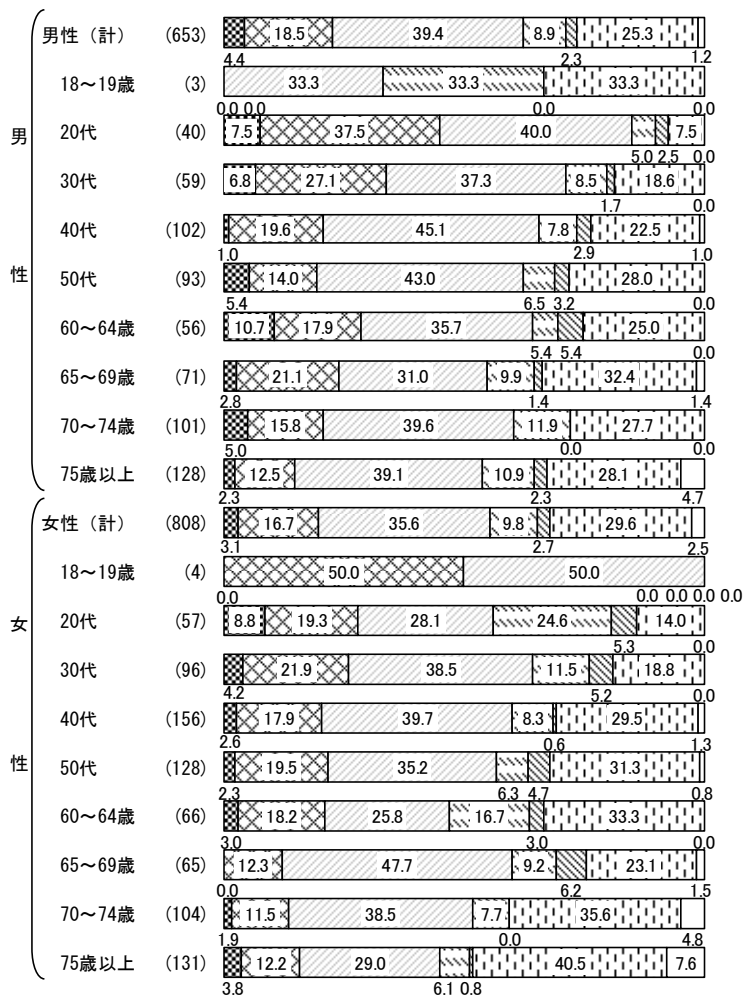
(ウ) 必要な情報入手するための障害（バリア）



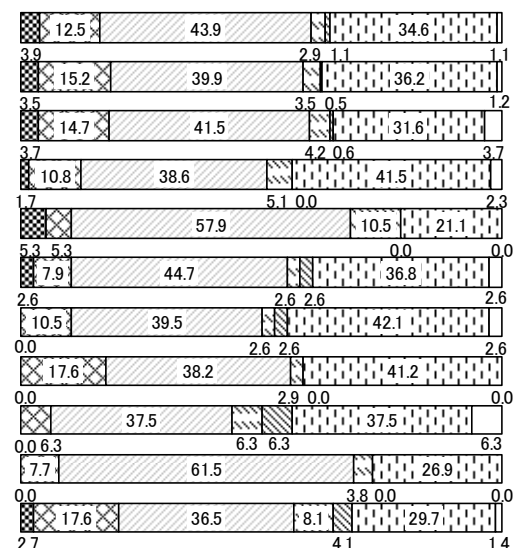
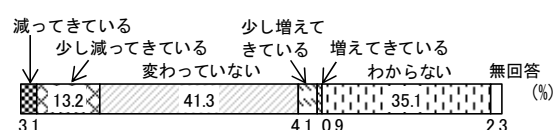
【 地 域 別 】



【 性・年代別 】



(エ) 自らが情報や意志などを発信するための障害（バリア）

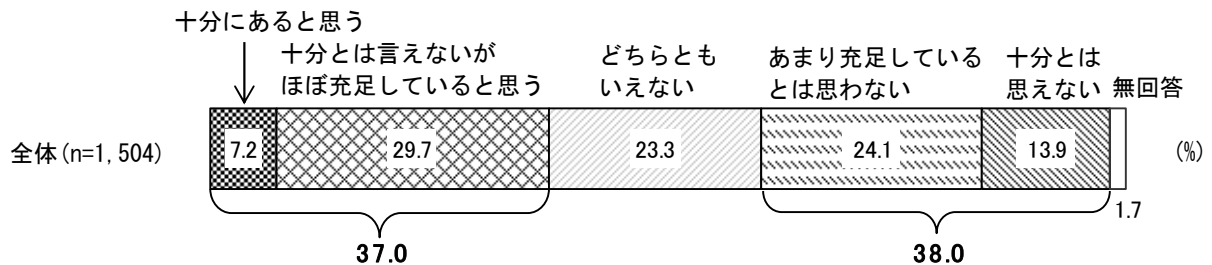


（３）ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度

◇『充足している（計）』が約４割

問33 あなたや家族がケガをしたり、病気になった時にリハビリを受けられる医療機関や施設が、あなたの暮らす地域では十分にあると思いますか。（○は１つ）

＜図表８－５＞ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度



ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度を聞いたところ、「十分にあると思う」（7.2%）と「十分とは言えないがほぼ充足していると思う」（29.7%）を合わせた『充足している（計）』（37.0%）が約４割となっている。

一方、「あまり充足しているとは思わない」（24.1%）と「十分とは思えない」（13.9%）を合わせた『充足していない（計）』（38.0%）は約４割となっている。（図表８－５）

【地域別】

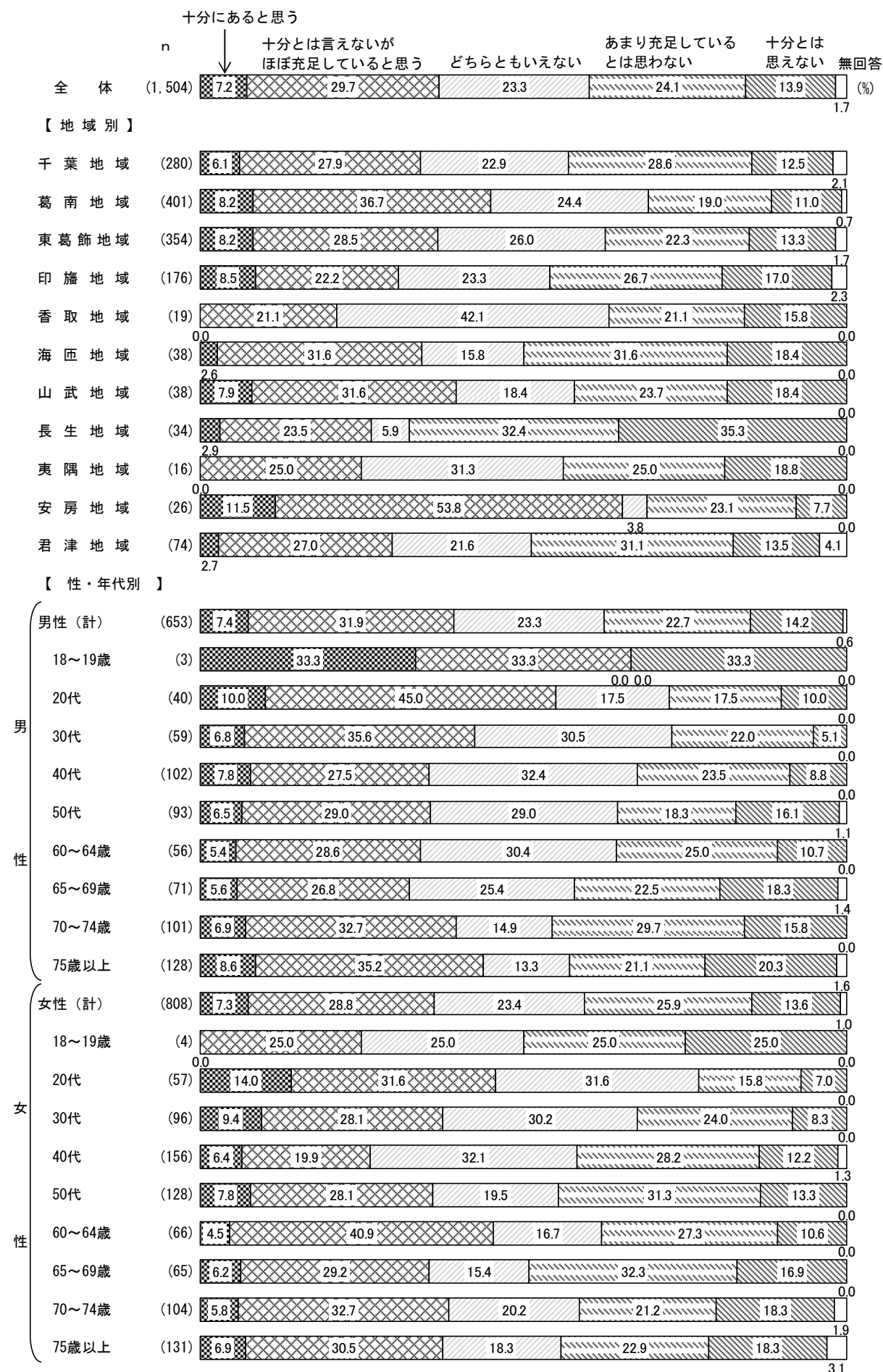
地域別にみると、『充足している（計）』は“葛南地域”（44.9%）が４割台半ばで高くなっている。一方、『充足していない（計）』は“長生地域”（67.6%）が約７割で高くなっている。

（図表８－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『充足している（計）』は、男性20代（55.0%）が５割台半ばで高くなっている。（図表８－６）

＜図表 8－6＞ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度／地域別、性・年代別

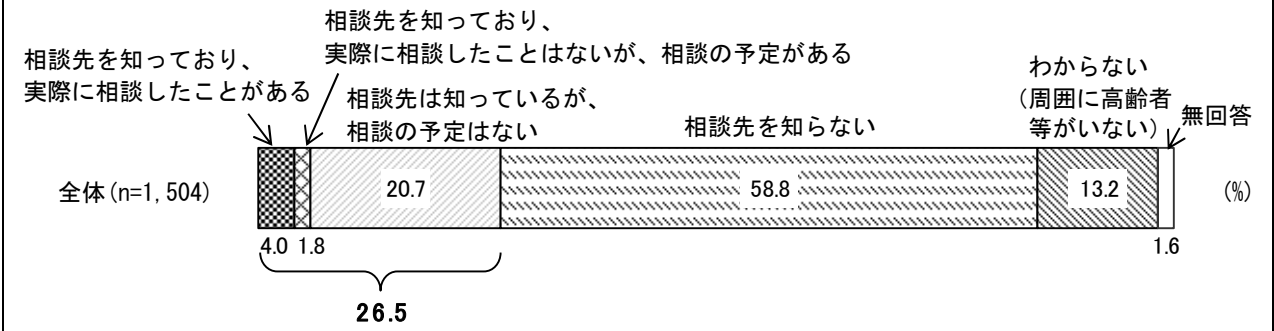


（４）障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無

◇『相談先を知っている（計）』が２割台半ば

問34 障害のある人や高齢者が、災害時に備えて事前に不安や困りごとを相談できる場所を知っていますか、また、実際に相談したことはありますか。（○は１つ）

＜図表８－７＞障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無



障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無を聞いたところ、「相談先を知っており、実際に相談したことがある」（4.0%）、「相談先を知っており、実際に相談したことはないが、相談の予定がある」（1.8%）、「相談先は知っているが、相談の予定はない」（20.7%）の３つを合わせた『相談先を知っている（計）』（26.5%）が２割台半ばとなっている。（図表８－７）

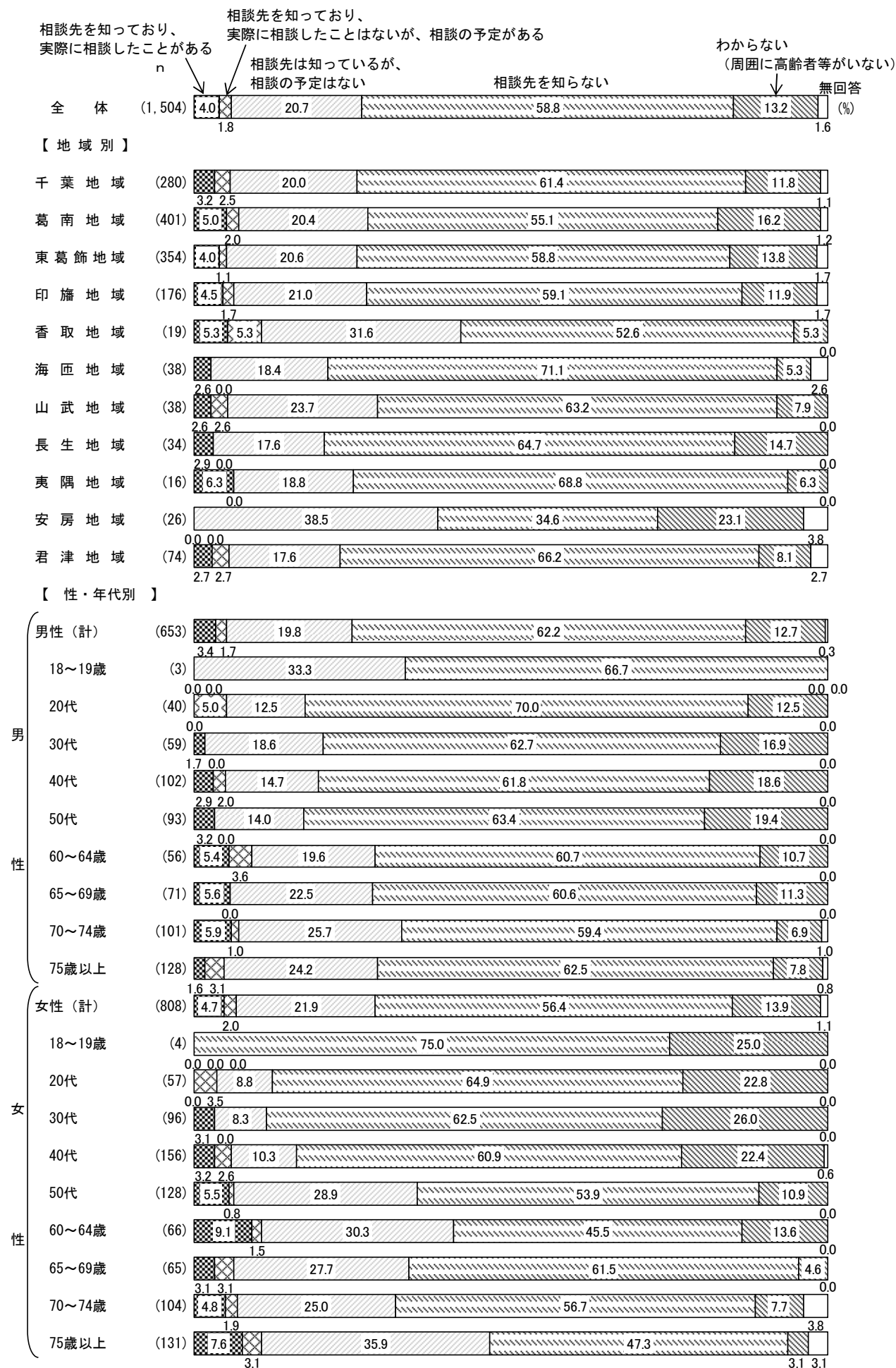
【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表８－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『相談先を知っている（計）』は、女性75歳以上（46.6%）が４割台半ば、女性60～64歳（40.9%）が４割、女性50代（35.2%）が３割台半ばで高くなっている。（図表８－８）

＜図表 8－8＞障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無／地域別、性・年代別



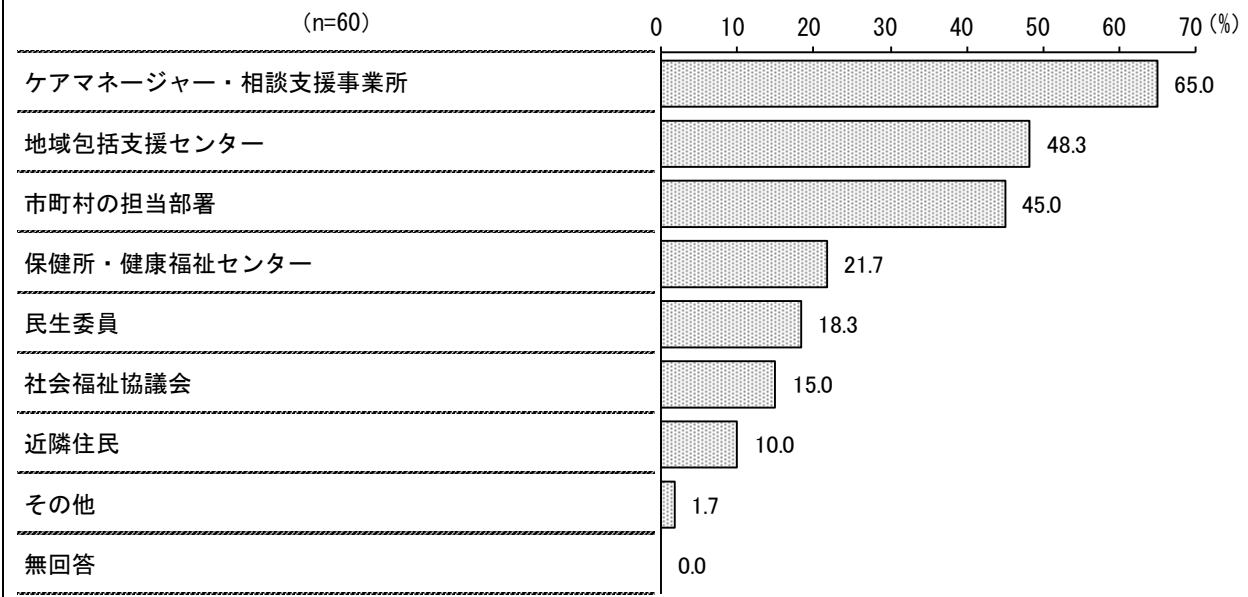
（４－１）災害時の不安や困りごとの相談先

◇「ケアマネジャー・相談支援事業所」が６割台半ば

（問34で「相談先を知っており、実際に相談したことがある」とお答えの方に）

問34－１ あなたが「災害時についての不安や困りごと」を相談したことがある場所はどちらですか。（○はいくつでも）

＜図表 8－9＞災害時の不安や困りごとの相談先（複数回答）

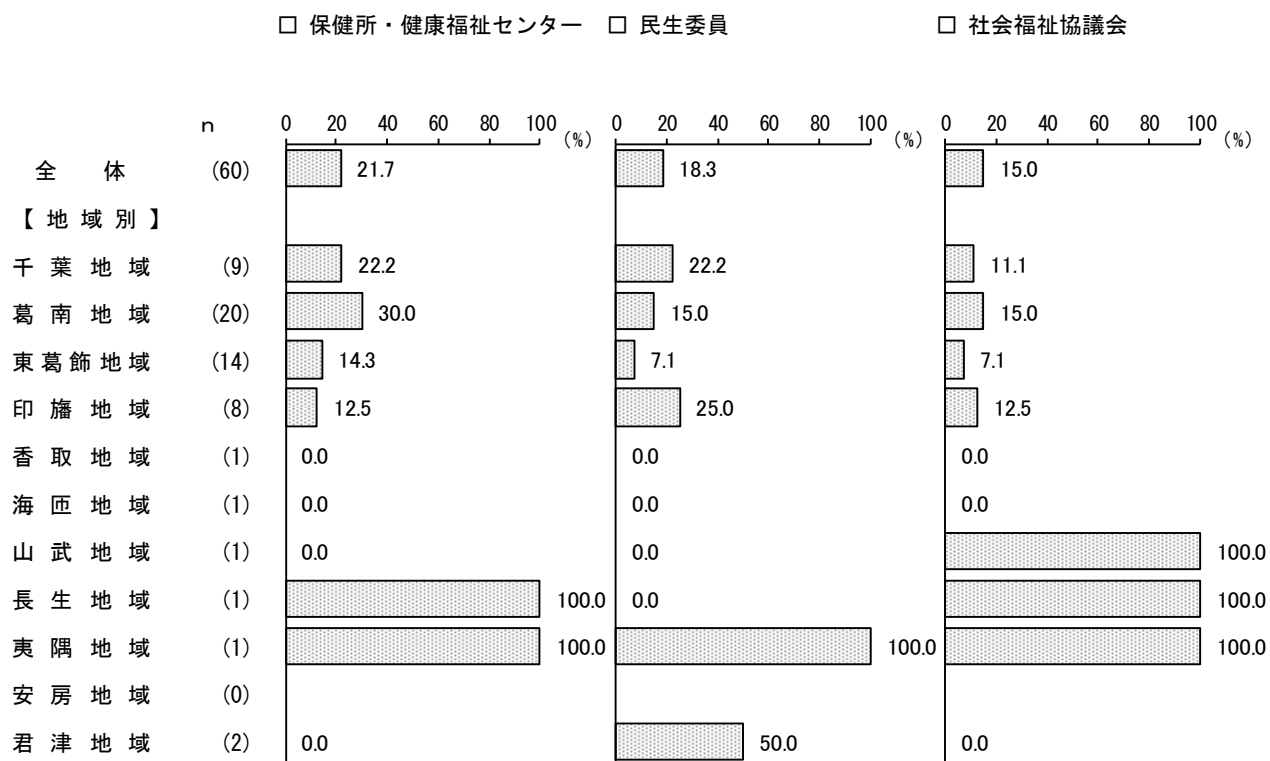
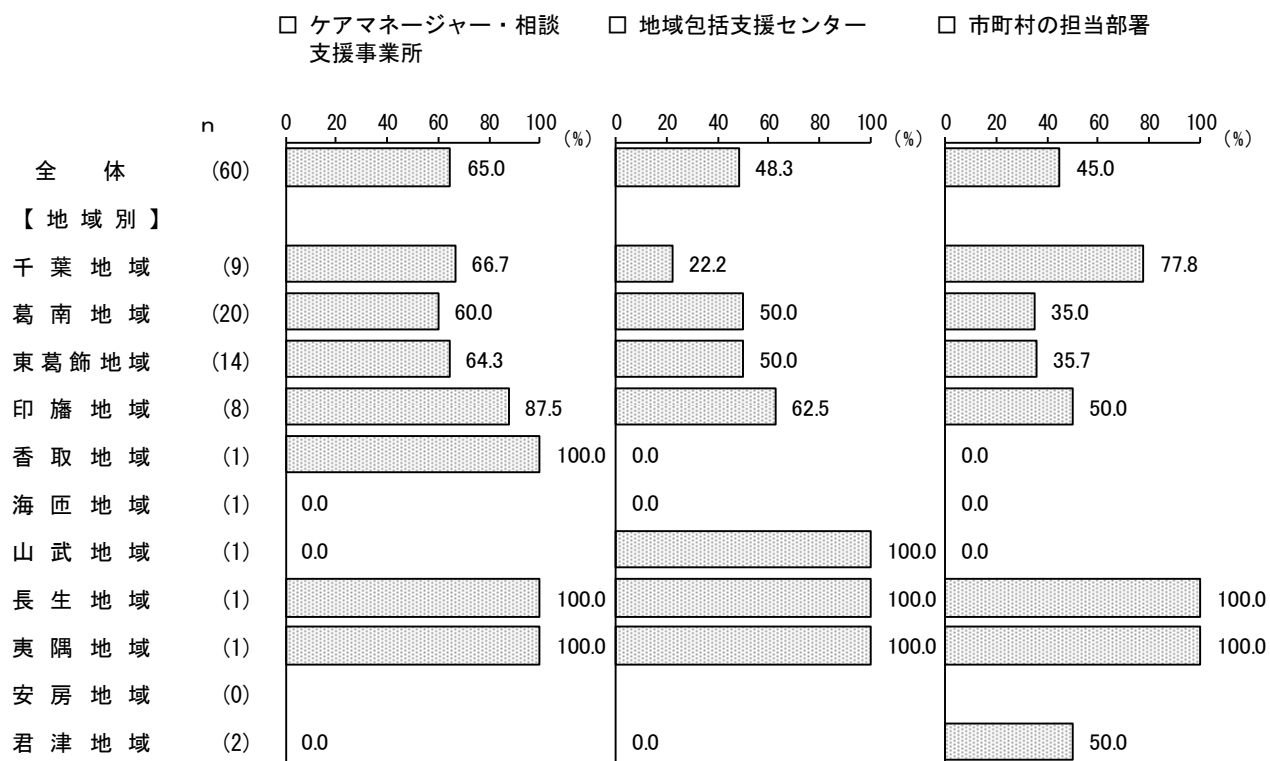


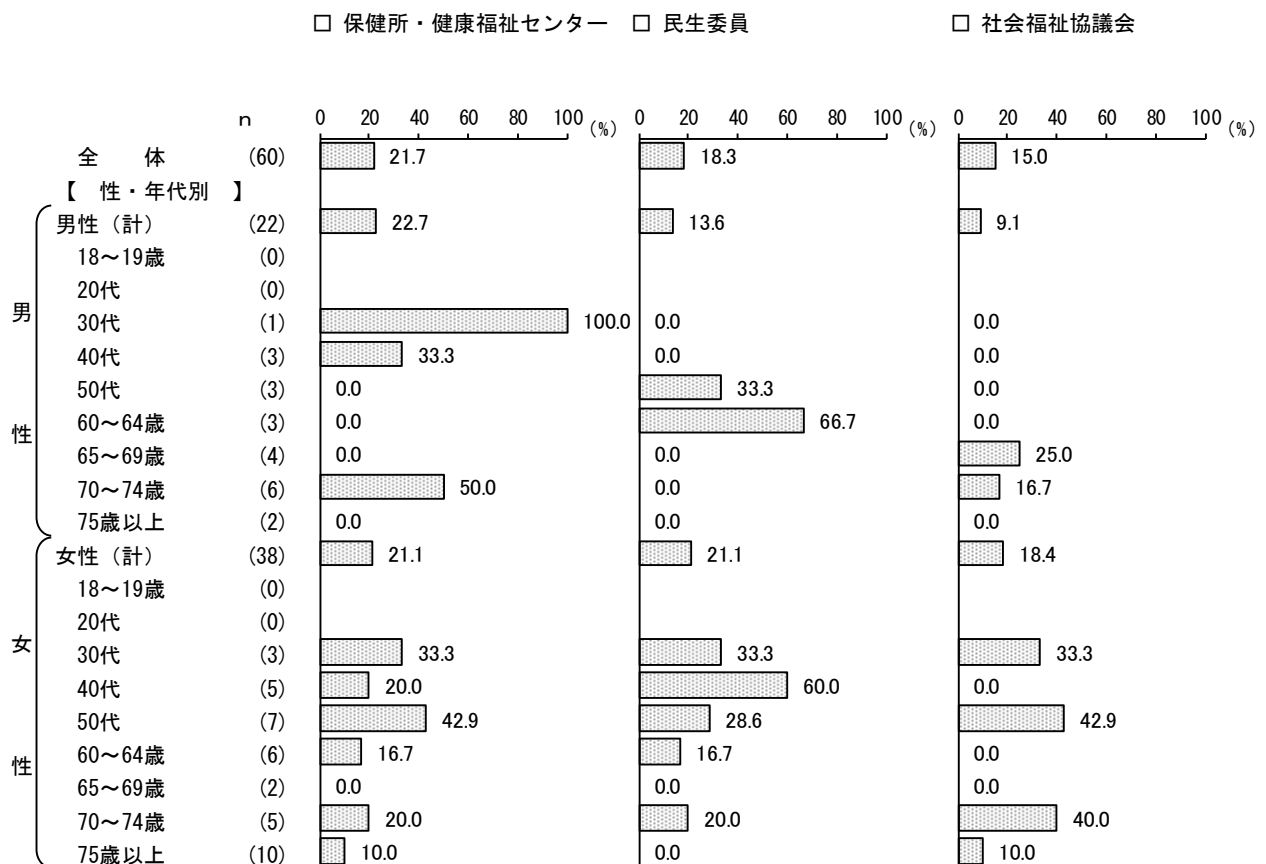
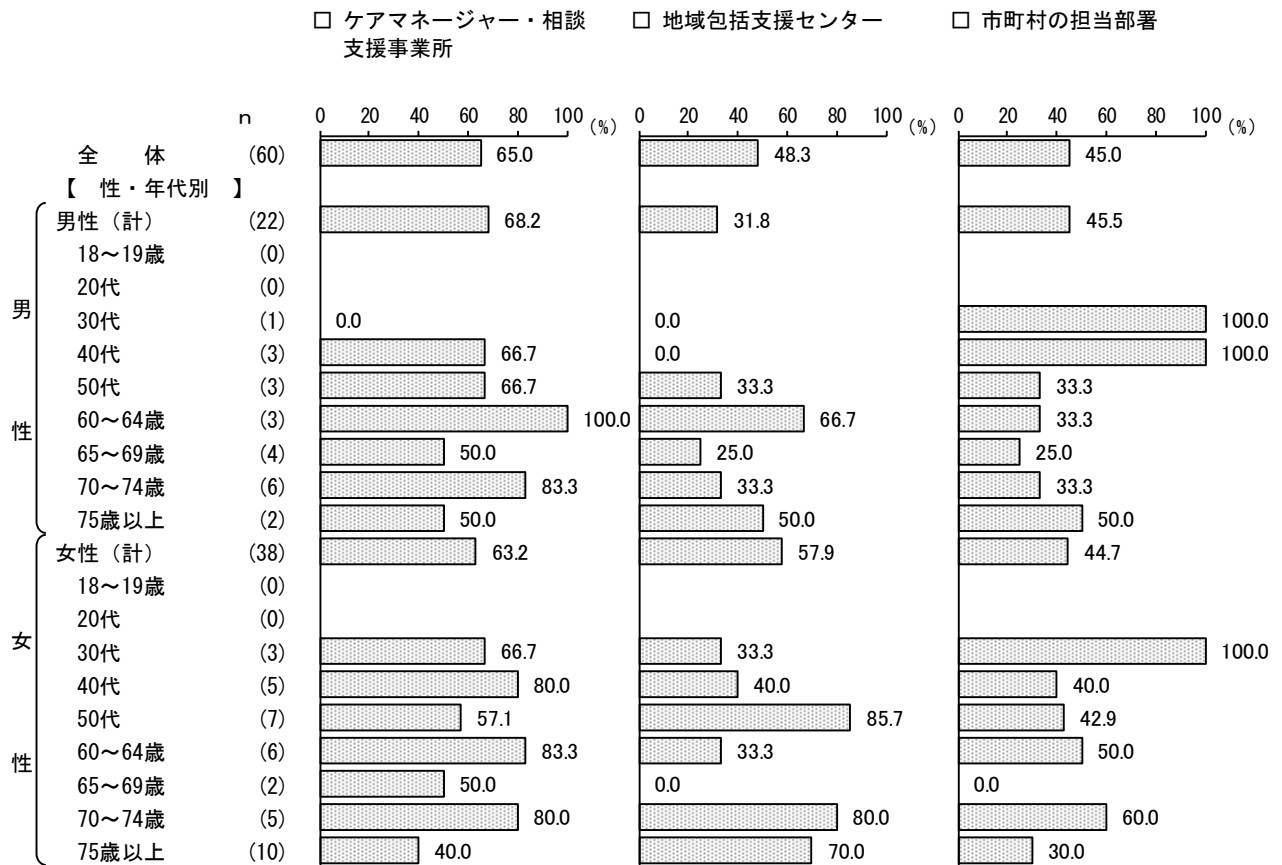
災害時の不安や困りごとの相談先を聞いたところ、「ケアマネジャー・相談支援事業所」（65.0%）が６割台半ばで最も高く、以下、「地域包括支援センター」（48.3%）、「市町村の担当部署」（45.0%）、「保健所・健康福祉センター」（21.7%）が続く。（図表 8－9）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。
（9ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表 8－10）

[参考] <図表 8-10> 災害時の不安や困りごとの相談先（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





このほかにも、「地域リハビリテーションについて」や問31～問34について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、87人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「地域リハビリテーションについて」の自由回答（抜粋）

- 必要な情報にたどり着くことが健常者にとっても困難になっていると感じるくらい制度が複雑で、凄い数の申請作業をしなくてはいけない。家族のことでやっているが、自分の時は誰がやってくれるのか。無理だなあと思う。
（男性、60～64歳、東葛飾地域）
- 地域リハビリテーションという言葉は初めて知った。高齢者なら尚更知らない人が多いと思う。まずは全世代向けの情報発信の仕方を見直してほしい。
（女性、40代、山武地域）
- 相談するには信頼が必要です。各相談場所／窓口がどのような人員が配置され、どのような相談／改善実績があるかを発信していただければありがたいと思います。
（男性、65～69歳、葛南地域）
- 情報が少ないように感じるので、ポスターや情報紙など2次元コードで知れるようにして頂きたい。社会的な障害（バリア）のどこがどのように変わったなど、減っていく姿を目で確認できると、意識が変わっていくと思う。
（女性、40代、千葉地域）
- 高齢化が進んでいるので、お年寄りの方が気軽にできるリハビリ、相談場所を増やしてほしい。又、あるのであれば広報等に掲載して頂ければ、高齢者の方々に伝わると思います。
（女性、50代、印旛地域）
- 近年都市部では都市開発によりバリアフリーは増えて行く一方、過疎化した地域で暮らす方々の環境整備の落差が激しいと思う。
（女性、20代、君津地域）
- リハビリが必要だと考えた時に、とりあえずの相談窓口を1本にして周知させ、その窓口からケース毎に振り分けるという仕組みのほうが、利用者には分かりやすいのではないのでしょうか？
（男性、60～64歳、印旛地域）
- よくわかりませんが、今の世の中は健康な人の立場で生活するようになっていると思うので、障害をもっている人と共に行動して、改善を要する所など障害者の目線で関係者が理解して欲しい。
（女性、70～74歳、葛南地域）
- バリアフリー化などの設備改善はどうしても時間や予算がかかること、利用者が極めて少ない等で改善が難しく対応する側（事業者）が困難な場合があることを広く周知してほしい。
（男性、40代、葛南地域）
- 『地域リハビリテーション』という言葉は内容が伝わりにくいと思う。
（男性、65～69歳、東葛飾地域）

9 自由回答

問 このほかにも、県へご意見がありましたらご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、県への意見については209人から延べ248件の回答が寄せられた。人数・件数には別の設問である「世論調査への意見や提案」に記入された県への意見も含む。

記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。また、紙面の都合上、すべての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目（8件以上）に関しては、意見の一部を抜粋して記載するものとする。

【県への自由回答の項目順位】

順位	項目	件数
第1位	県政全般に関する要望	61
第2位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	25
第3位	道路を整備する	19
第4位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	13
第5位	県政の情報発信について	12
第6位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	10
第7位	高齢者の福祉を充実する	9
第8位	観光を振興する	8
第9位	犯罪防止対策をすすめる	6
第10位	交通事故から県民を守る	5
〃	学校教育を充実する	5
第12位	災害から県民を守る	4
〃	中心市街地の活性化を推進する	4
〃	医療サービス体制を整備する	4
第15位	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	3
〃	雇用の場を広げる	3
第17位	青少年を健全に育てる	2
〃	廃棄物対策をすすめる	2
〃	豊かな住生活を実現する	2
〃	公園・緑地を整備する	2
〃	安心して飲める良質な水道水を供給する	2
〃	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	2
第23位	消費生活のトラブルに関する対策をすすめる	1
〃	国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	1
〃	ひとり親家庭等の福祉を充実する	1
〃	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	1
〃	生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	1
〃	芸術・文化活動を振興する	1
〃	施策実現や地域活性化のためにDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する	1
	その他	38
	その他 うち、国政への要望	4
	その他 うち、住んでいる市町村への要望	22

合 計（延べ件数） 248

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■県政全般に関する要望

○千葉県に住んでよかったと思う県政を推し進めてほしいと思っています。

（女性、70～74歳、君津地域）

○超高齢化社会が進みますが、それを支える若い世代の負担を軽減できるような対策、対応を望みます。

（男性、40代、東葛飾地域）

○子どもの減少が続くので、年収の少ない方の援助を県の方でも考えてほしい。

（女性、75歳以上、印旛地域）

○物価高がひどくなっている、生活が少しずつ大変になっている。（男性、50代、葛南地域）

○水道料金の値上げに反対です。水道はライフラインの中でも一番大切だと思います。値上げすることで困る人たちがいると思います。困っている人たちへの補助制度など、考えるべきだと思います。

（女性、30代、葛南地域）

○県民の声を大切にして頂けると幸いです。

（男性、30代、安房地域）

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○病院に行くバスが無くなり、困っています。電車の本数も少ない。（女性、40代、安房地域）

○路線バスが減ってきているので自動運転バスを取り入れてほしい。（男性、30代、千葉地域）

○これから高齢になり車が使えなくなると買い物難民になります。何か交通手段を考えて頂きたいと思います。移動スーパー等でもいいと思います。

（女性、70～74歳、山武地域）

○東葉高速鉄道の運賃削減。学生や働く世代にとって負担が大きい。（男性、30代、葛南地域）

■道路を整備する

○自転車通勤をしておりますが、路側帯を通行するのがルールなので走っていると国道、県道、市道問わず、草が生えすぎたり、段差スロープがあつてふさがれていたり、幅がせまかったりで、意外とともに自転車が走行できない所が多いです。（男性、50代、千葉地域）

○車通勤しているのですが、居住人数・車の数に対して道路の車線が少なすぎると感じます。いつも踏切付近は右折できずに後続車を詰まらせ、青信号の間に2～3台しか通過できないことがザラで困っています。

（女性、20代、葛南地域）

○片道一車線道路の右折待ちのために起こる渋滞が多いです。信号の制御ももっとうまく行ってほしいです。赤信号から青信号になり、制限速度で走っても次の信号で赤になります。信号の間隔が短いところも多々あります。

（男性、50代、東葛飾地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 収入は増えないのに物価が高く生活が大変。子どもにもお金がかかる。子育て支援を充実してほしい。（女性、30代、葛南地域）
- 少子化対策を積極的に行ってほしい。（男性、50代、山武地域）
- 不妊治療への金銭的支援が欲しい。（女性、30代、葛南地域）

■県政の情報発信について

- 子どもや高齢者に優しい千葉県であってほしいです。良いところがたくさんあるのでもっとアピールしてください。（女性、40代、葛南地域）
- 千葉の魅力についてもっと発信して欲しい。チーバくんに家族をつくってほしい。（男性、75歳以上、東葛飾地域）
- 県の特産品や活動のPRが足りないと思う。住みやすい県、千葉県のPR活動を増やすべきと思う。（男性、70～74歳、葛南地域）

■障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する

- 障害者、障害児に対しての理解が薄い。暮らしやすい環境を整えてほしいです。（女性、30代、葛南地域）
- どんな障害者でも安心して暮らせる街になればと願っています。（女性、60～64歳、東葛飾地域）
- もっと様々な障害者に対する制度を増やして欲しい。また、意見や声に耳を傾けて欲しい。（女性、30代、葛南地域）

■高齢者の福祉を充実する

- 高齢者の入居施設をなるべく今まで住みなれた地域の近くにもっと増やしてほしいです。低所得者でも差別なく安心して共同生活できるように。（女性、75歳以上、東葛飾地域）
- 高齢者が多くなっているのです、そのような（徒歩、バスなどで行けるような）憩いの場的なところがあればいいと思います。（女性、40代、印旛地域）
- 高齢者免許返納に対して、バスやタクシーなどのパスがあれば、高齢者の免許返納率が上がると思います。（女性、75歳以上、葛南地域）

■観光を振興する

- 千葉県の魅力を発信して観光客の増加、人口減少の抑制をしていただけたらと思います。人を呼び込める大型の施設なども必要ではないでしょうか。（男性、40代、君津地域）
- 県外の人遊びに来たくなるような施設を増やして欲しいです。また、それに伴い交通網も整備して欲しいです。（女性、30代、東葛飾地域）

問 世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

「世論調査」に関する意見や提案を自由に記述していただいたところ、79人から79件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「県への意見」に記入された世論調査への意見も含む。

これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■世論調査について

―《世論調査自体への意見》

○この世論調査を毎年行っており、この調査結果は公表されていますが、県政にどのように反映されているか周知されることを希望します。（男性、75歳以上、東葛飾地域）

○調査結果をできるだけ幅広く多様な意見も取り入れた形での公表を希望する。（男性、70～74歳、安房地域）

○今回のようなアンケートでは、「県や市町村がどのように対応しているのか」についての記述が欲しかった。（男性、75歳以上、印旛地域）

○SNSでの流動的な世論より、1人1人がどう思っているか、しっかり答える世論調査は今の時代にこそ必要だと思う。県政にしっかり生かして下さい。（女性、40代、千葉地域）

○日頃色々と意見もありましたが発言する機会がなかなかなく今回は選んでいただきありがとうございました。今回の調査を通して今まで知らなかったことも知ることができて良かったです。（女性、50代、葛南地域）

○世の中には自分の知らない形で色々な問題があることを改めて知りました。今後はもう少し視野を広げて見聞したいと思いました。（男性、70～74歳、長生地域）

○アンケートに回答して、社会が見えていない自分に少し気づきました。そういう意義が私にとってはありました。（女性、40代、印旛地域）

―《調査手法や謝礼への意見》

○インターネット回答ができるのが良かったです。（男性、20代、東葛飾地域）

○アンケートは葉書1枚で2次元コード読み込みくらいに経費削減してください。世論調査のやり方改めましょう。封筒で送ってくるのは時代錯誤ですよ。（男性、30代、印旛地域）

○当方は高齢者2人家族のためインターネット不可。こういう家もあるので従来からのシステムを残していただき感謝しています。こういう弱者もいることをいつの時代にも忘れないようお願いします。（女性、70～74歳、海匝地域）

○ネット回答のログイン方法が一目でわからず、戸惑った。説明をもう少しわかりやすくしてほしい。
(女性、50代、東葛飾地域)

○チーバくんのボールペンありがとうございました。この世論調査、記入するのにけっこう時間がかかったのもっと手軽に短い時間でできる物だと良いと思います。
(女性、40代、香取地域)

○回答した人にクオカード(500円)を渡すとかインセンティブを与えても良いのではないかな。
(男性、40代、東葛飾地域)

— 《設問への意見》

○質問項目が多すぎる。回答に1時間半かった。
(男性、75歳以上、千葉地域)

○ワクチンによる健康被害や外国人難民問題など、今、問題になりつつあるテーマも設問に入れてもいいのかなと思います。
(女性、50代、葛南地域)

○地域経済に活気があるか(衰退を感じないか)や予想される天災についてどのように考え行動しているかといったような設問があってもよかったのではないのでしょうか。
(男性、50代、長生地域)

○県政に関する質問の中に、子育てに関する質問がなかったのが非常に残念です。
(女性、20代、東葛飾地域)

第 68 回 千葉県政に関する世論調査 調査票

ご回答に当たってのお願い

宛名のご本人様がお答えください。(代筆による回答も可能です。)

回答方法は「郵送」又は「インターネット」のいずれかをお選びいただけます。

令和 6 年 12 月 13 日 (金) までに ご回答をお願いします。

※郵送・インターネット共通

郵送でお答えいただく場合

- この調査票に直接、黒か青のボールペン又は鉛筆でご記入ください。
- 調査票はご記入後、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手は不要です。

インターネットでお答えいただく場合

- ご回答には、右下に貼られた「利用者 ID」「パスワード」が必要になります。
- 「利用者 ID」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人は特定されません。
- インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する必要はありません。
- 詳細な手順は、別添の「インターネット回答操作案内」をご覧ください。
- スマートフォンで、右下の 2 次元コードを読み取ると回答ページに移動します。

ご回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

【調査の趣旨・内容について】

千葉県 総合企画部報道広報課 広聴室

〒260-8667

千葉市中央区市場町1番1号

電話 043-223-2246

(平日 9:00~17:00)



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

【調査票の記入方法・締切等について】

調査実施機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-45-8

ニッセイ大塚駅前ビル 5階

電話 03-6690-0086

(平日 10:00~18:00)



【県民意識調査について】

県では、県民の皆さまの意識を把握し、事業計画や施策評価等における重要な参考資料として活用しています。
今後の取組の参考とするため、皆さまの意識をお聞きいたします。

（観光について）

問1 千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいですか。 n=1,504(○は3つまで)

10.4 体験プログラム	56.8 観光地への交通アクセス
52.1 食事	27.8 観光情報・案内の充実度
32.2 お土産・特産品	8.8 Wi-Fi等の通信環境
9.1 接客サービス	30.7 観光地の公衆トイレ
3.5 観光ボランティアガイド	32.2 観光地の駐車場
11.0 バリアフリーへの対応	3.7 その他（具体的に
	0.8 無回答

問2 県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選びますか。 n=1,504(○は3つまで)

5.2 花	11.8 酒類
41.5 農産物・果物	10.9 しょうゆ・みそ
47.9 落花生・落花生加工品	3.8 乳製品
2.7 肉類	45.9 菓子・せんべい
24.3 生鮮魚介類	4.0 工芸品
33.0 海苔・水産加工品	12.8 チーバくんグッズ
5.4 漬物	1.0 その他（具体的に
	1.3 県産品を選ばない
	0.7 無回答

（障害者差別について）

問3 あなたは、現在の社会の中には、障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。 n=1,504(○は1つ)

31.3 あると思う	54.7 少しはあると思う	12.3 ないと思う	1.7 無回答
------------	---------------	------------	---------

→（問3で「1」、「2」のいずれかをお答えの方に）

問3-1 あなたは、どのような場面で障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。 n=1,294(○はいくつでも)

67.6 雇用や仕事、収入	6.8 病院など医療機関での診察
35.1 学校や職場での人間関係	51.6 交通機関の利用や建築物の構造
18.9 教育の機会	14.4 不動産の賃貸
49.7 まちなかでの人の視線	6.1 テレビやラジオ、新聞などの情報提供
14.1 店員の応対や態度	2.6 その他（具体的に
7.3 行政職員等の応対や態度	0.2 無回答

【災害ボランティア等について】

県では、令和5年度に県内外で発生した大規模災害を契機とした、ボランティア活動等に対する関心の変化を調査し、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問4 あなたは、令和5年台風第13号や令和6年能登半島地震を通じて、市民活動団体※の活動やボランティア活動への関心が高まりましたか。 n=1,504 (○は1つ)

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）です。

12.8	大いに高まった	49.4	特に変化はない	0.3	大きく低下した
35.8	やや高まった	0.1	やや低下した	1.6	無回答

問5 あなたは、令和5年台風第13号や令和6年能登半島地震において災害支援活動※を行いましたか。 n=1,504 (○は1つ)

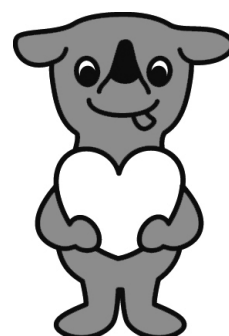
※ ここでいう「災害支援活動」とは、ボランティア活動への参加、被災した親戚・知人に対する支援、近隣被災住宅の片付け、自治体や市民活動団体への寄附、物資の提供など、広く被災者・被災地への支援を指します（以下の設問でも同様）。

13.2	これまでも災害支援活動を行ったことがあります、今回の災害においても行った
2.3	今回の災害で、初めて災害支援活動を行った
9.2	これまでは災害支援活動を行ったことがあるが、今回の災害においては行わなかった
74.0	特に災害支援活動を行わなかった
1.3	無回答

→(問5で「1」、「2」のいずれかをお答えの方に)

問5-1 災害支援活動の内容はどのようなものでしたか。 n=233 (○はいくつでも)

0.9	ボランティアセンターを通じたボランティア活動
3.0	市民活動団体等の活動に参加
68.7	自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）
30.9	市民活動団体への寄附・物資の提供
13.3	被災した親族・知人・近隣住民等に対する支援
5.6	その他（具体的に ）
0.0	無回答



(すべての方に)

問6 今後、災害が発生した際(県外での発災も含む)に災害支援活動を行いたいと思いますか。
n=1,504(○は1つ)

17.8	そう思う	5.7	どちらかといえばそう思わない
27.5	どちらかといえばそう思う	6.5	そう思わない
27.4	どちらともいえない	13.9	わからない
		1.3	無回答

(すべての方に)

このほかにも、「災害ボランティア等について」や問4～問6について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

※県では、災害ボランティアに限らず、ボランティア活動をしたい方とボランティアを募集したい団体を結ぶマッチングサイトを運営しています。

詳しくは、

- ・同封資料「ちばボランティアナビ」
- ・下記2次元コード

をご覧ください。



【HP・ちばボランティアナビ】

【消費生活について】

悪質事業者による訪問販売や、化粧品の定期購入などの消費者トラブルは依然として後を絶ちません。

そのため県では、相談窓口の充実や、消費者が正しい情報を見極める力、合理的に判断し考える力などを身に付ける消費者教育の推進に取り組んでいます。

今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問7 あなたは、消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できる場所」があると思いますか。 n=1,504 (○は1つ)

48.3	あると思う	50.3	ないと思う	1.3	無回答
------	-------	------	-------	-----	-----

問8 あなたは、消費者トラブルにあった時、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思いますか。 n=1,504 (○は1つ)

72.8	いると思う	26.6	いないと思う	0.6	無回答
------	-------	------	--------	-----	-----

以下の説明を読んでから、問9にお答えください。

以下のような違法又は不当な手段・方法により行われる販売方法を「悪質商法」といいます。

(「悪質商法」の例)

・インターネット通販トラブル

・・・健康食品や化粧品などの定期購入や身に覚えのない購入代金の請求 など

・点検商法・・・屋根や給湯器の無料点検を装い高額な工事の契約をさせられる など

・架空請求・・・大手通信事業者などを騙った未納料金の請求 など

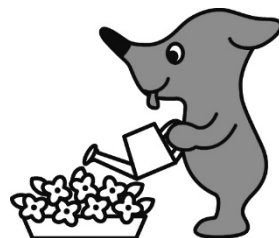
・副業や投資に関するトラブル

・・・インターネット広告やSNSなどで、簡単に収入が得られると誘いを受け、会員登録や商材を購入するが、実際は少しも儲からない など

問9 あなたは、上記のような悪質商法が減ってきたと思いますか。

n=1,504 (○は1つ)

0.6	減ってきたと思う	31.4	どちらかといえば増えてきたと思う		
1.6	どちらかといえば減ってきたと思う	48.1	増えてきたと思う		
14.4	変わらないと思う	3.6	わからない	0.3	無回答



問 10 あなた自身やあなたの周りで、令和5年4月以降に悪質商法の被害にあった方はいますか。 n=1,504 (○は1つ)

13.6	いる	62.7	いない	23.5	わからない	0.3	無回答
------	----	------	-----	------	-------	-----	-----

→(問10で「1」とお答えの方に)

問 10-1 被害にあった方の年代を次の中から選んでください。
被害にあった方が複数いる場合は、直近の被害状況についてお答えください。 n=204 (○は1つ)

7.4	20代以下	24.5	50～60代	1.0	わからない・回答しない
18.6	30～40代	47.5	70代以上	1.0	無回答

(引き続き、問10で「1」とお答えの方に)

問 10-2 どのような被害にあわれましたか。 n=204 (○は1つ)

23.5	健康食品や化粧品などの定期購入や身に覚えのない購入代金の請求などのインターネット通販トラブル
25.5	屋根や給湯器などの点検商法トラブル
13.2	大手通信事業者などを騙った未納料金や、身に覚えのない会費などの架空請求トラブル
12.7	副業や投資に関するトラブル
16.2	その他 ()
2.9	わからない・回答しない
5.9	無回答

(すべての方に)

問 11 あなたは、学校や地域、職場などにおいて、消費者トラブルを回避したり、トラブル発生時に適切な判断や行動ができる能力を育む教育(消費者教育)の機会が提供されていると思いますか。 n=1,504 (○は1つ)

2.7	提供されていると思う	42.8	あまり提供されていないと思う
12.7	どちらかといえば提供されていると思う	20.8	提供されていないと思う
20.4	どちらともいえない	0.7	無回答

問 12 あなたは、普段の生活の中で、生活必需品(米などの食品や生活雑貨など)の安定的な供給体制(消費者がいつでも購入できること)や安全性に不安を感じることがありますか。 n=1,504 (○は1つ)

18.7	不安を感じる	18.1	どちらかといえば不安を感じない		
34.3	どちらかといえば不安を感じる	10.5	不安を感じない		
17.0	どちらともいえない	1.1	わからない	0.3	無回答

以下の説明を読んでから、問 13 にお答えください。

人や社会、環境、地域に配慮した商品を選んで消費をすることを「エシカル消費」といいます。

（「エシカル消費」の具体例）

- ・ 障害のある人の支援につながる商品を選んで買い物をする
- ・ フェアトレード商品（開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指し、適正な価格で取引された商品）を選んで買い物をする
- ・ エコ商品（一般的に環境に配慮した商品）を選んで買い物をする
- ・ 被災地産品を選んで買い物をする

問 13 あなたは、買い物をする際に、上記の説明にある「エシカル消費」を意識していますか。
n = 1,504 (○は 1 つ)

5.5 いつも意識している

38.5 あまり意識していない

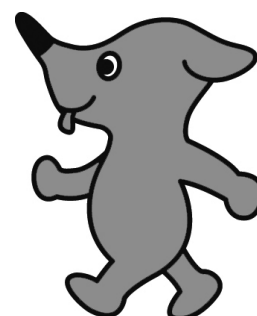
39.6 時々意識している

16.0 意識することはない

0.5 無回答

（すべての方に）

このほかにも、「消費生活について」や問 7 ～ 問 13 について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。



【有機農業について】

県では、将来にわたって農業を続けられるよう、環境への負担が少ない有機農業※を推進しています。今後の有機農業の推進方法などの参考とするため、有機農業により生産される農産物について、県民の皆さまの購入状況や意識をお聞きいたします。

※ 有機農業とは、化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと、遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、環境への負担をできるだけ小さくした生産方法で行われる農業を指します。

問14 あなたは、有機農業により生産される農産物に対して、どのようなイメージを持っていますか。
n=1,504(○はいくつでも)

63.0 環境にやさしい
79.7 身体にとって安全・安心
14.9 食べるとより健康になる
18.9 普通の農産物よりも味や栄養面で優れている
2.5 形や色が良い
10.2 普通の農産物と味や栄養は変わらない
62.2 価格が高い
7.4 形や色が悪い
2.1 その他（具体的に
3.0 わからない
0.3 無回答

問15 あなたは、どのくらいの頻度で、有機農業により生産される農産物を購入していますか。
n=1,504(○は1つ)

13.4 週に1回程度又はそれ以上
18.6 月に1回程度
12.6 年に1回程度
12.8 全く購入しない
41.7 わからない
0.9 無回答

→ (問15で「1」、「2」のいずれかをお答えの方に)

問15-1 あなたが、有機農業により生産される農産物を購入する理由は何ですか。
n=481(○はいくつでも)

31.6 環境保全に貢献したいから
82.5 身体にとって安全・安心だと思うから
44.5 健康に良さそうと思うから
18.9 普通の農産物より味や栄養面で優れていると思うから
42.6 生産者がわかることが多いから
2.3 その他（具体的に
0.4 無回答

(すべての方に)

問16 あなたは、今後、有機農業により生産される農産物を購入したいと思いますか。

n = 1,504 (○は1つ)

- 23.7 積極的に購入したい(週に1回程度)
- 42.4 ときどき購入したい(月に1回程度)
- 9.6 あまり購入したいと思わない(年に1回程度)
- 4.9 購入したいと思わない
- 18.9 わからない
- 0.5 無回答

問17 あなたは、今後、有機農業により生産される農産物について、何を期待しますか。

n = 1,504 (○はいくつでも)

- 38.1 環境保全に貢献していること
- 72.7 安全・安心であること
- 26.8 味や栄養が優れていること
- 27.8 生産者がわかること
- 62.4 価格がもっと安くなること
- 1.6 見た目(色や形)が整っていること
- 45.3 近所や買いやすい場所で販売されること
- 38.4 表示が信頼できること
- 0.9 その他(具体的に)
- 3.8 特に期待することはない
- 0.3 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「有機農業について」や問14～問17について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。



【県民の治安に対する意識と警察に求めることについて】

県では、地域の安全を守るため、県警をはじめとする各組織で、連携した取組を行っております。

今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 18 あなたは、現在お住まいの地域における最近の犯罪の発生状況について、どう感じますか。
n = 1,504 (○は 1 つ)

9.3 非常に多くなったと感じる	1.9 少なくなったと感じる
38.2 多くなったと感じる	0.8 非常に少なくなったと感じる
32.7 変わらない	16.1 わからない
	1.0 無回答

問 19 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じている犯罪はありますか。

n = 1,504 (○はいくつでも)

44.7 殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪
71.2 電話 de 詐欺や悪質商法などの詐欺
42.1 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪
41.8 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪
14.6 屋外から銅線やグレーチングなどの金属類を盗む犯罪
53.0 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪
27.5 外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪
13.9 危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪
20.7 痴漢、不同意性交等などの性的犯罪
10.5 DV（配偶者や恋人からの暴力）・ストーカー行為
30.8 子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪
7.8 歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪
13.5 非行少年、暴走族などによる犯罪
42.9 フィッシングによるインターネットバンキング不正送金やSNS型投資・ロマンス詐欺などのインターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む。）
6.6 国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為
54.3 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反
2.1 その他（具体的に
3.9 特にない
0.6 無回答

問 20 あなたが、警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪は何ですか。

n = 1,504 (○はいくつでも)

- 61.0 殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪
- 62.6 電話 de 詐欺や悪質商法などの詐欺
- 49.5 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪
- 39.2 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪
- 21.1 屋外から銅線やグレーチングなどの金属類を盗む犯罪
- 57.2 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪
- 37.5 外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪
- 26.9 危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪
- 27.1 痴漢、不同意性交等などの性的犯罪
- 20.6 DV（配偶者や恋人からの暴力）・ストーカー行為
- 43.1 子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪
- 14.6 歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪
- 23.6 非行少年、暴走族などによる犯罪
- 40.3 フィッシングによるインターネットバンキング不正送金やSNS型投資・ロマンス詐欺などのインターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む。）
- 17.4 国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為
- 61.8 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反
- 3.5 その他（具体的に)
- 1.1 特にない
- 0.8 無回答

問 21 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が必要だと思いますか。

n = 1,504 (○は3つまで)

- 20.3 警察官を増やし、警察力を強化する
- 31.8 警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する
- 31.8 パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する
- 16.7 人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所を新設する
- 57.2 街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する
- 24.5 高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話 de 詐欺など）
- 18.5 子どもや女性に対する性犯罪などの未然防止対策を推進する
- 16.5 学校等における非行防止、通学路における安全確保を推進する
- 20.1 最先端技術を駆使した装備や機材を導入するなど、警察の科学捜査力を充実させる
- 17.3 警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する
- 9.8 民間企業のセキュリティシステムに加入するなど、自己防衛力を強化する
- 10.0 ボランティア、自治会等、地域主導型の防犯組織づくりを推進する
- 3.3 その他（具体的に)
- 1.3 特にない
- 0.4 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」や問 18～問 21 について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

【働きやすい職場環境づくりについて】

県では、県民の皆さまが育児や介護などのライフステージに合わせて安心して働き続けることができることを目指し、今後の取組推進の参考とするため、皆さまの意識をお聞きいたします。

問 22 あなたの職場の「働きやすさ」について、お答えください。n=1,504 (○は1つ)

※現在、お仕事をされていない場合は、ご家族などの身近な人を想定してお答えください。

17.4 働きやすい	11.1 どちらかといえば働きにくい
36.1 どちらかといえば働きやすい	3.5 働きにくい
28.0 どちらともいえない	4.0 無回答

→(問 22 で「4」、「5」のいずれかをお答えの方に)

問22-1 あなたの職場が働きにくいと感じられるのは、なぜですか。

n=219 (○はいくつでも)

45.2 仕事の困難さや量の多さ
49.3 職場の人間関係
20.5 コミュニケーションが取りにくい
19.2 職位や立場に基づく責任の重さ
29.2 仕事と生活（育児・介護・治療）との両立への配慮が不十分
26.9 職場におけるハラスメント
17.4 顧客や取引先等からの苦情や要求への対応
33.3 休暇制度や勤務時間制度が十分整備されていない
55.7 給与などの収入が少ない
8.7 その他（具体的に
0.5 無回答



(すべての方に)

問23 あなたは、働きやすい職場環境づくりに向けた事業者の取組で何が重要だと思いますか。
n = 1,504 (○はいくつでも)

- 43.9 長時間労働の削減
64.4 休暇を取りやすい職場の雰囲気づくり
36.5 休暇制度の充実（リフレッシュ休暇、記念日休暇、時間単位の年次有給休暇など）
34.1 勤務時間制度の充実（フレックスタイム制、短時間勤務など）
20.9 テレワークの導入
23.3 多様な人材が活躍できる環境整備
47.3 仕事と生活（育児・介護・治療）との両立支援
14.0 男性の育児休業取得促進
32.2 職場におけるハラスメント対策
23.7 従業員のスキルアップへの支援
21.9 業務効率化・生産性向上（デジタル化、省人化など）
4.3 その他（具体的に）
3.1 特にない
3.1 無回答

問24 あなたは、次のハラスメントの言葉の意味について知っていますか。

n = 1,504 (○はそれぞれ1つずつ)

	言葉も内容も知っている	言葉は知っているが、内容はよくわからない	知らない	無回答
(ア) セクシャルハラスメント	87.4	8.9	1.9	1.9
(イ) パワーハラスメント	87.9	8.4	1.9	1.8
(ウ) マタニティハラスメント	76.7	14.1	6.8	2.5
(エ) パタニティハラスメント	21.3	15.6	60.4	2.7
(オ) カスタマーハラスメント	73.8	12.4	11.6	2.1

※ (ア) セクシャルハラスメントとは、「性的な言動」に対する労働者の対応により、労働条件について不利益を受けたり、「性的な言動」により就業環境が害されたりすることです。

※ (イ) パワーハラスメントとは、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させることです。

※ (ウ) マタニティハラスメントとは、妊娠・出産・育児などを理由とする、解雇・雇止め・降格などの不利益な取扱いを行うことです。

※ (エ) パタニティハラスメントとは、育児休業や、育児のための短時間勤務等を希望する男性従業員に対し、嫌がらせや不利益な取扱いを行うことです。

※ (オ) カスタマーハラスメントとは、顧客や取引先から暴力や悪質なクレームなどの著しい迷惑行為を受けることです。

問25 あなたは、職場のハラスメント防止に向けた取組で何が重要だと思いますか。
n = 1,504 (○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|---|
| 67.8 企業トップや幹部の意識改革 | |
| 57.8 管理職の意識啓発研修 | |
| 43.2 一般社員の意識啓発研修 | |
| 8.1 ポスター、リーフレット等の啓発資料の配布・掲示 | |
| 47.8 適切なコミュニケーションで互いを尊重し合えるような職場風土 | |
| 20.4 就業規則に禁止等の方針を明記 | |
| 21.3 対応についてのマニュアル等の整備 | |
| 47.3 相談・苦情窓口の設置 | |
| 46.9 問題発生時の迅速な対応 | |
| 22.7 顧客や取引相手が加害者となる場合の対策 | |
| 20.0 実態把握のためのアンケートや調査の実施 | |
| 1.5 その他（具体的に |) |
| 2.0 特にない | |
| 2.6 無回答 | |

(すべての方に)

このほかにも、「働きやすい職場環境づくりについて」や問 22～問 25 について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

【困難な問題を抱える女性への支援について】

令和6年4月1日に困難な問題を抱える女性への支援に関する法律※が施行され、県でも同法に基づき、女性支援事業を実施します。今後の県の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

女性以外の方もお答えください。

※ 困難な問題を抱える女性とは、性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む。）をいいます。例えば、家族関係の破綻やDV被害等で家に帰れない女性、生活困窮により住む場所のない女性等が考えられます。

問26 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和4年法律第52号）に基づき、県では「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」を策定しました。あなたは、この計画を知っていますか。 n=1,504（○は1つ）

- 1.1 計画の内容を知っている
- 14.9 聞いたことはあるが内容は知らない
- 82.1 聞いたことがない
- 1.9 無回答

問27 あなたは、生活困窮、DV被害、家族関係破綻など困難な問題を抱えた際、誰に相談しますか。女性以外の方もお答えください。 n=1,504（○はいくつでも）

- 46.2 市役所や町村役場、警察等の行政機関
- 19.7 社会福祉法人やNPO法人等の民間支援団体
- 61.8 親族（家族含む）
- 40.7 友人・知人
- 1.5 その他（具体的に
- 6.3 相談はしない
- 1.4 無回答

→（問27で「6」とお答えの方に）

問27-1 あなたが、相談しない理由は何ですか。 n=94（○はいくつでも）

- 55.3 相談しても解決しない
- 24.5 行政機関や周りの人等が信頼できない
- 45.7 誰に相談したらいいか、わからない
- 6.4 その他（具体的に
- 0.0 無回答

(すべての方に)

問28 あなたが仮にDV被害等にあった場合、シェルター※への入所にためらいを感じ
ると思いますか。 n=1,504(○は1つ)

※ シェルターとは、暴力を受けた被害者等が緊急一時的に避難できる施設をいいます。
その性質から、入所者に、外出の禁止や、携帯電話等の通信機器の使用制限等が課せら
れる場合があります。また、入所者同士が集団生活を行うシェルターもあります。女性
以外の方も、シェルターに入所することを想定してお答えください。

- 47.7 感じると思う
- 21.1 感じると思わない
- 29.1 どちらともいえない
- 2.1 無回答

問29 DV被害等からの避難でシェルターに入所する場合、入所をためらう理由になり
うるのはどれだと思いますか。 n=1,504(○はいくつでも)

- 57.2 行動に制限がある
- 35.1 携帯電話等の通信機器の使用に制限がある
- 60.6 集団生活をする必要がある
- 7.1 その他(具体的に)
- 4.9 無回答

問30 あなたは、困難な問題を抱える女性を支援するため、行政に求められることは何
だと思いますか。最もあてはまるものを1つだけお選びください。 n=1,504(○は1つ)

- 7.4 困難な問題を抱える人への積極的な声かけ
- 46.2 安心して利用できる居場所の提供
- 39.9 相談支援体制の充実
- 1.6 その他(具体的に)
- 4.9 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「困難な問題を抱える女性への支援について」や問26～問30について、
ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

【地域リハビリテーションについて】

千葉県では地域リハビリテーション※の推進・充実に取り組んでおり、そのためには、保健・医療・福祉に関わる専門家だけでなく、地域で暮らす方々の協力が不可欠です。今後の県の取組の参考とするため、県民の皆さまが「リハビリテーション」についてどのように認識し、考えているのかをお聞きいたします。

※ 地域リハビリテーションとは、障害のある子どもや成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活に関わるあらゆる人々や機関がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてをいいます。

問31 「リハビリテーション」を広く捉えると、以下の1～4を含んでいるといわれています。あなたが今までイメージしていた「リハビリテーション」をすべて選んでください。
n=1,504(○はいくつでも)

- | | |
|------|---|
| 84.8 | 病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること |
| 36.6 | 自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること |
| 33.6 | 道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること |
| 27.7 | 色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること |
| 1.8 | 特にイメージすることはない |
| 1.5 | 無回答 |

問32 あなたが暮らす地域では、障害のある人や高齢者が自らの「したい暮らし」を実現するために、3年前より以下のような「社会的な障害（バリア）」※が減ってきていると思いますか。それとも増えてきていると思いますか。

n=1,504 (○はそれぞれ1つずつ)

※ 「社会的な障害(バリア)」とは、人が生活の中で不便を感じることで、様々な活動をするときに障壁となるものを指します。

	減 つて きて いる	少 し 減 つて いて いる	変 わ つて いて ない	少 し 増 え て いて いる	増 え て きて いる	わ か ら な い	無 回 答
(ア) 物理的な障害(バリア) 例)駅のホームと電車の隙間、高い位置にあるボタン	12.8	29.1	27.3	9.3	3.9	15.5	2.1
(イ) 心理的な障害(バリア) 例)障害や病気を理由に偏見を持つ、関わりを避ける	5.1	23.1	43.4	3.6	1.5	21.1	2.1
(ウ) 必要な情報を入手するための障害(バリア) 例)点字・手話通訳のない講演会、音声のみのアナウンス	3.7	17.2	37.4	9.2	2.5	27.9	2.1
(エ) 自らが情報や意志などを発信するための障害(バリア) 例)筆談等の環境がなく、言語障害を持つ人が意見を伝えられない	3.1	13.2	41.3	4.1	0.9	35.1	2.3

問33 あなたや家族がケガをしたり、病気になった時にリハビリを受けられる医療機関や施設が、あなたの暮らす地域では十分にあると思いますか。

n = 1,504 (○は1つ)

7.2 十分にあると思う	24.1 あまり充足しているとは思わない
29.7 十分とは言えないがほぼ充足していると思う	13.9 十分とは思えない
23.3 どちらともいえない	1.7 無回答

問34 障害のある人や高齢者が、災害時に備えて事前に不安や困りごとを相談できる場所を知っていますか、また、実際に相談したことはありますか。

n = 1,504 (○は1つ)

4.0 相談先を知っており、実際に相談したことがある
1.8 相談先を知っており、実際に相談したことはないが、相談の予定がある
20.7 相談先は知っているが、相談の予定はない
58.8 相談先を知らない
13.2 わからない（周囲に高齢者等がいない）
1.6 無回答

→ (問34で「1」とお答えの方に)

問34-1 あなたが「災害時についての不安や困りごと」を相談したことがある場所はどちらですか。

n = 60 (○はいくつでも)

45.0 市町村の担当部署	65.0 ケアマネージャー・相談支援事業所
21.7 保健所・健康福祉センター	18.3 民生委員
48.3 地域包括支援センター	10.0 近隣住民
15.0 社会福祉協議会	1.7 その他()
	0.0 無回答

(すべての方に)

このほかにも、「地域リハビリテーションについて」や問31～問34について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことがらをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。 n=1,504 (○は1つ)

43.4	男性	53.7	女性	0.1	その他	1.6	回答しない	1.2	無回答
------	----	------	----	-----	-----	-----	-------	-----	-----

F 2 あなたは満何歳ですか。 n=1,504 (○は1つ)

0.5	18～19 歳	17.7	40～49 歳	9.2	65～69 歳
6.6	20～29 歳	14.8	50～59 歳	13.8	70～74 歳
10.6	30～39 歳	8.2	60～64 歳	17.4	75 歳以上
				1.2	無回答

F 3 あなたのご職業は何ですか。 n=1,504 (○は1つ)

7.1	自営業者	14.2	主婦・主夫	20.6	無職
30.5	正規社員・職員	1.7	学生	2.3	その他 ()
22.3	パート・アルバイト・契約社員	1.3	無回答		

F 4 あなたは、結婚していっていますか。 n=1,504 (○は1つ)

20.8	未婚	2.0	その他
63.8	既婚 (配偶者あり)	2.1	回答しない
10.0	既婚 (配偶者離死別)	1.3	無回答

F 5 あなたのお宅の住居形態は何ですか。 n=1,504 (○は1つ)

66.3	一戸建住宅 (持ち家)
2.1	一戸建住宅 (借家)
12.4	集合住宅 (持ち家)
17.8	集合住宅 (賃貸のマンションやアパート、寮、シェアハウスなど)
1.4	無回答

F 6 あなたはお子さんが何人いらっしゃいますか。同居、別居は問いません。
※お孫さんは含まれません。 n=1,504 (○は1つ)

15.1	1 人	12.6	3 人	0.4	5 人以上
38.0	2 人	1.3	4 人	30.9	子どもはいない
				1.7	無回答

F 7 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。

n = 1,504 (○は1つ)

12.4 千葉市	3.5 佐倉市	0.6 匝瑳市	0.6 勝浦市
6.2 市原市	2.3 四街道市	0.9 東金市	0.5 いすみ市
10.5 船橋市	0.4 八街市	0.3 山武市	0.0 夷隅郡大多喜町
6.6 市川市	1.5 印西市	0.9 大網白里市	0.0 夷隅郡御宿町
3.1 習志野市	0.9 白井市	0.4 山武郡九十九里町	0.4 館山市
4.3 八千代市	0.3 富里市	0.0 山武郡芝山町	0.5 鴨川市
2.2 浦安市	0.9 印旛郡酒々井町	0.0 山武郡横芝光町	0.5 南房総市
6.4 松戸市	0.5 印旛郡栄町	1.7 茂原市	0.4 安房郡鋸南町
3.5 野田市	0.7 香取市	0.0 長生郡一宮町	2.6 木更津市
7.0 柏市	0.0 香取郡神崎町	0.0 長生郡睦沢町	1.0 君津市
3.0 流山市	0.0 香取郡多古町	0.5 長生郡長生村	0.3 富津市
2.3 我孫子市	0.5 香取郡東庄町	0.0 長生郡白子町	1.1 袖ヶ浦市
1.3 鎌ヶ谷市	1.3 銚子市	0.0 長生郡長柄町	3.2 無回答
1.5 成田市	0.6 旭市	0.0 長生郡長南町	

以上で質問はすべて終わりです。

このほかにも、県へご意見がありましたらご自由にお書きください。

世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。



最後までご協力いただき、ありがとうございました。

この調査票を3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、
12月13日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。

なお、返信用封筒へのお名前やご住所の記入、切手は不要です。

（インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する必要はありません。）

令和 6 年度

(第68回)

県 政 に 関 す る 世 論 調 査

令和 7 年 5 月 発行

(令和 6 年11月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町 1 番 1 号

(広聴室) 電話 0 4 3 - 2 2 3 - 2 4 6 9
